

令和2年度

# 植物防疫事業年報

令和3年(2021年)3月

滋賀県病害虫防除所

# 目次

第1	病害虫防除所事務分掌表	1
第2	病害虫発生予察事業	
1	事業の目的	2
2	事業対象作物および病害虫	2
3	気象概況	5
4	普通作物病害虫発生予察事業	
(1)	イネ	6
(2)	ムギ	3 2
(3)	ジャガイモ	3 5
(4)	ダイズ	3 6
5	野菜（露地）病害虫発生予察事業	3 9
6	果樹等病害虫発生予察事業	
(1)	果樹	5 4
(2)	チャ	6 2
(3)	花き（キク）	7 1
7	病害虫防除推進員	7 2
8	滋賀県病害虫防除所ホームページ	7 3
9	本年度新たに発生が確認された病害虫	7 4
10	病害虫の診断および生態調査	7 6
第3	重要病害虫の特別防除等推進事業	
1	チチュウカイミバエの侵入警戒調査	8 6
2	ウメ輪紋ウイルスの発生状況調査	8 6
3	キウイフルーツかいよう病（Psa3系統）の発生状況調査	8 6
4	その他病害虫の侵入警戒調査	8 6
5	ツマジロクサヨトウの発生状況調査	8 7
第4	農薬安全使用等総合推進事業	
1	農薬安全使用対策	8 8
2	農薬販売者の届出状況	8 8
3	農薬取扱者への巡回点検・指導の結果	8 8
第5	病害虫発生予察情報発表内容	
1	予報	8 9
2	注意報および警報	9 9
3	特殊報	1 0 3
4	防除情報	1 0 6
5	事務連絡	1 1 2
第6	試験成績	1 1 4

注：本文中の「平年値」とは、特に記載のない限り平成22年から令和元年の平均値を指す。  
表中の「－」は、データの欠測または該当なしを示す。

# 第 1 病虫害防除所事務分掌表

所 長 鳥 塚 智  
次 長 小久保 信義

分 掌 事 務	主 任	副 主 任
1. 所事務の総括に関する事 2. 関係機関および団体との連絡調整に関する事	小久保 次 長	金 子 主 幹 廣 田 主 事
3. 植物防疫事業に関する事 4. 予察情報作成会議に関する事		近 藤 主 査
1. 公印の管理に関する事 2. その他庶務に関する事		山 本 主 事
1. 予算の執行および決算に関する事 2. 諸給与・その他経理に関する事 3. 文書の收受編さんに関する事		山 本 主 事 植 田 主 事
1. 病虫害発生予察の計画および情報作成に関する事 2. 病虫害防除推進員に関する事	近 藤 主 査	金 子 主 幹 小 幡 技 師
1. 農薬取締法に関する事 2. 作物の発生予察に関する事	金 子 主 幹	近 藤 主 査 塚 本 主任技師 柴 田 主任技師
1. 地域発生予察の取りまとめに関する事 2. 薬剤抵抗性害虫検定および虫害の診断に関する事 3. 野菜・花の発生予察に関する事	近 藤 主 査	塚 本 主任技師 北 野 技 師
1. いもち病発生予察システムに関する事 2. 病害の診断に関する事 3. 薬剤耐性菌検定に関する事	柴 田 主任技師	金 子 主 幹 小 幡 技 師
1. 病虫害発生量の調査報告に関する事 2. 総合的病虫害管理(IPM)の推進に関する事 3. 予察調査手法の検討事業に関する事	塚 本 主任技師	近 藤 主 査 柴 田 主任技師
1. 予察灯およびトラップ調査等に関する事 2. ホームページ等による情報提供に関する事	北 野 技 師	塚 本 主任技師 柴 田 主任技師
1. 果樹の発生予察事業および防除に関する事	三 溝 主任技師	塚 本 主任技師
1. 茶の発生予察事業および防除に関する事	松 本 技 師	近 藤 主 査
1. 県南部地域における発生予察事業に関する事	近 藤 主 査	金 子 主 幹 北 野 技 師
1. 大津・南部地域の病虫害発生情報収集および防除指導に関する事 2. 甲賀地域の病虫害発生情報収集および防除指導に関する事 3. 東近江地域の病虫害発生情報収集および防除指導に関する事	山 田 技 師 小 椋 技 師 尾 賀 副主幹	近 藤 主 査 北 野 技 師
1. 県北部地域における発生予察事業に関する事	小 幡 技 師	塚 本 主任技師 柴 田 主任技師
1. 湖東地域の病虫害発生情報収集および防除指導に関する事 2. 湖北地域の病虫害発生情報収集および防除指導に関する事 3. 高島地域の病虫害発生情報収集および防除指導に関する事	橋 本 副主幹 辻 村 技 師 井 田 主 査	柴 田 主任技師 小 幡 技 師

## 第2 病害虫発生予察事業

### 1 事業の目的

農作物の生産安定と品質の向上を図ると同時に環境に優しい病害虫防除を推進するためには、病害虫の防除を適時かつ効率的に行う必要がある。

このため、発生予察事業は広域に発生し、急激にまん延して農作物に重大な被害を与える病害虫について、その発生動向等を調査し、防除を要する病害虫や防除対策に関する情報を農業者等に提供することにより、病害虫の防除を効果的かつ効率的に適期に行い、その被害を防止して農業生産の安定と助長を図ることを目的とする。

### 2 事業の実施概要

#### (1) 事業対象作物および病害虫（指定有害動植物は交付金の対象）

作物	対象作物	指定	有害動植物名	
		指定外	病害	虫害
普通作物	イネ	指定	いもち病、紋枯病、稲こうじ病、もみ枯細菌病（苗腐敗病）、ばか苗病、縞葉枯病	イネミズゾウムシ、ニカメイガ、ヒメトビウシカ、セジロウンカ、トビイロウンカ、ツマグロヨコバイ、斑点米カメムシ類（ホソハリカメムシ、トゲシラホシカメムシ、クモヘリカメムシ、アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、イネカメムシ、コバネヒョウタンナガカメムシ）、コブノメイガ、フタオビコヤガ
		指定外	白葉枯病、黄萎病、ごま葉枯病	イネドロオイムシ、イチモンジセセリ、コバネイナゴ、イネクロカメムシ
	ムギ	指定	うどんこ病、赤かび病	-
		指定外	さび病類、黒節病、縞萎縮病	-
	ダイズ	指定	-	アブラムシ類（モモアカアブラムシ、ワタアブラムシ、ダイコンアブラムシ、ニセダイコンアブラムシ、ジャガイモヒゲナガアブラムシ）、吸実性カメムシ類（ホソヘリカメムシ、イチモンジカメムシ、アオクサカメムシ）、ハスモンヨトウ※、オオタバコガ※
		指定外	べと病、葉焼病	フタスジヒメハムシ、ハダニ類
野菜	トマト	指定	灰色かび病、疫病、葉かび病	アブラムシ類（モモアカアブラムシ）、ハスモンヨトウ※、コナジラミ類（タバココナジラミ、オンシツコナジラミ）、オオタバコガ※
		指定外	-	タバコガ類（オオタバコガを除く）
	ナス	指定	うどんこ病、灰色かび病	アブラムシ類（モモアカアブラムシ、ワタアブラムシ）、ハスモンヨトウ※、ハダニ類（カンザワハダニ、ナミハダニ）、アザミウマ類（ミナミキイロアザミウマ）、オオタバコガ※
		指定外	-	ニジュウヤホシテントウ類、タバコガ類（オオタバコガを除く）
	ばれいしょ	指定	疫病	アブラムシ類（ワタアブラムシ、ジャガイモヒゲナガアブラムシ）、ハスモンヨトウ※
		指定外	-	ニジュウヤホシテントウ類
キュウリ	指定	うどんこ病、灰色かび病、べと病、褐斑病	アブラムシ類（モモアカアブラムシ、ワタアブラムシ、ジャガイモヒゲナガアブラムシ）、アザミウマ類（ミナミキイロアザミウマ、ネギアザミウマ）、コナジラミ類（タバココナジラミ、オンシツコナジラミ）	
	指定外	-	ハダニ類	

作物	対象作物	指定	有害動植物名	
		指定外	病害	虫害
野菜	キャベツ	指定	黒腐病、菌核病	アブラムシ類（モモアカアブラムシ、ダイコンアブラムシ）、ハスモンヨトウ※、オオタバコガ※、ヨトウガ※、コナガ※
		指定外	軟腐病	タバコガ類（オオタバコガを除く）、カブラヤガ（ネキリムシ類）、モンシロチョウ、ハイマダラノメイガ
	はくさい	指定	-	-
		指定外	軟腐病	タバコガ類（オオタバコガを除く）、モンシロチョウ
	だいこん	指定	-	アブラムシ類（モモアカアブラムシ、ニセダイコンアブラムシ）
		指定外	-	ハイマダラノメイガ
	ブロッコリー	指定	-	ハスモンヨトウ※、ヨトウガ※、コナガ※
		指定外	黒腐病	-
	ねぎ	指定	さび病、黒斑病、べと病	アブラムシ類（ネギアブラムシ）、ハスモンヨトウ※、アザミウマ類（ネギアザミウマ）、シロイチモジヨトウ※
		指定外	-	-
	たまねぎ	指定	べと病、白色疫病	アザミウマ類（ネギアザミウマ）
		指定外	さび病	-
サトイモ	指定	-	ハスモンヨトウ※	
	指定外	-	ハダニ類	
花き	キク	指定	白さび病	アブラムシ類（ワタアブラムシ、キクヒメヒゲナガアブラムシ）、アザミウマ類（ヒラズハナアザミウマ、ネギアザミウマ）
		指定外	-	-
果樹	ナシ	指定	黒星病	果樹カメムシ類※（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）、シンクイムシ類（ナシヒメシンクイ、モモシンクイガ）、ハマキムシ類（チャノコカクモンハマキ、チャハマキ）、ハダニ類（カンザワハダニ、ナミハダニ）、アブラムシ類（ナシアブラムシ、ナシミドリアブラムシ）
		指定外	うどんこ病、赤星病	-
	ブドウ	指定	べと病、灰色かび病、晩腐病	果樹カメムシ類※（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）
		指定外	うどんこ病	カイガラムシ類（クワコナカイガラムシ）、フタテンヒメヨコバイ、コガネムシ類、アザミウマ類（チャノキイロアザミウマ）
	カキ	指定	炭疽病	果樹カメムシ類※（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）、カキノヘタムシガ、ハマキムシ類（チャノコカクモンハマキ、チャハマキ）、アザミウマ類（カキクダアザミウマ、チャノキイロアザミウマ）、カイガラムシ類（フジコナカイガラムシ）
		指定外	円星落葉病、角斑落葉病、うどんこ病	マイマイガ
茶樹	チャ	指定	炭疽病	ハマキムシ類（チャノコカクモンハマキ、チャハマキ）、ハダニ類（カンザワハダニ）、チャノホソガ
		指定外	もち病、新梢枯死症、輪斑病	チャノミドリヒメヨコバイ、アザミウマ類（チャノキイロアザミウマ）、カメムシ類（ツマグロアオカスミカメ）、クワシロカイガラムシ、チャトゲコナジラミ

※ 作物共通の指定有害動植物については、本県での対象作物ごとに示した。

## (2) 調査ほ場の設置状況

作物	対象作物	調査地点数		設置場所	
		区分	地点数		
普通作物	イネ	定点	1	近江八幡市	
		巡回	35	大津市(2)、草津市、守山市、栗東市、野洲市、湖南市、甲賀市(3)、近江八幡市、日野町、竜王町、東近江市(6)、彦根市、愛荘町、甲良町、多賀町、米原市(3)、長浜市(5)、高島市(4)	
	ムギ	定点	1	近江八幡市	
		巡回	38	大津市、草津市、守山市(2)、栗東市、野洲市(3)、湖南市、甲賀市(2)、近江八幡市(3)、日野町、竜王町(2)、東近江市(6)、彦根市(2)、愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町、米原市(3)、長浜市(4)、高島市(2)	
	ダイズ	定点	1	近江八幡市	
		巡回	25	大津市、草津市、守山市(2)、栗東市、野洲市(2)、湖南市、甲賀市、近江八幡市(2)、日野町、竜王町、東近江市(3)、彦根市、愛荘町、豊郷町、甲良町、米原市、長浜市(3)、高島市	
	野菜類	-	定点	0	-
			巡回	8	草津市、野洲市、湖南市、近江八幡市、彦根市、甲良町、米原市、高島市
	花き	キク	定点	0	-
			巡回	8	草津市、野洲市、湖南市、近江八幡市、彦根市、甲良町、米原市、高島市
	果樹	ナシ	定点	1	栗東市
			巡回	2	東近江市、彦根市
ブドウ		定点	1	栗東市	
		巡回	2	東近江市、長浜市	
カキ		定点	1	栗東市	
		巡回	2	東近江市、米原市	
茶樹	チャ	定点	1	甲賀市水口町	
		巡回	7	甲賀市土山町(3)、甲賀市信楽町(3)、日野町	

## (3) 予察灯およびフェロモントラップの設置

設置場所	種類	対象害虫名
大津市 里	乾式日別予察灯	ガ類、ウンカ・ヨコバイ類、カメムシ類、イネミズゾウムシ
守山市 矢島町	乾式日別予察灯	ガ類、ウンカ・ヨコバイ類、カメムシ類、イネミズゾウムシ
栗東市 荒張	高圧水銀灯	果樹カメムシ類
	フェロモントラップ	果樹カメムシ類、ナシヒメシンクイ、チャハマキ、チャノコカクモンハマキ
甲賀市 水口町水口	予察灯(水盤)	チャノコカクモンハマキ、チャハマキ、チャノホソガ
	フェロモントラップ	チャノコカクモンハマキ、チャハマキ、チャノホソガ
近江八幡市 安土町大中	乾式日別予察灯	ガ類、ウンカ・ヨコバイ類、カメムシ類、イネミズゾウムシ
	フェロモントラップ	ニカメイガ、コナガ、カブラヤガ、タバコガ、オオタバコガ、ヨトウガ、ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ
	黄色水盤	アブラムシ類
長浜市 難波町	乾式日別予察灯	ガ類、ウンカ・ヨコバイ類、カメムシ類、イネミズゾウムシ
	フェロモントラップ	ニカメイガ、ハスモンヨトウ
高島市 今津町日置前	乾式日別予察灯	ガ類、ウンカ・ヨコバイ類、カメムシ類、イネミズゾウムシ
	フェロモントラップ	ニカメイガ、ハスモンヨトウ

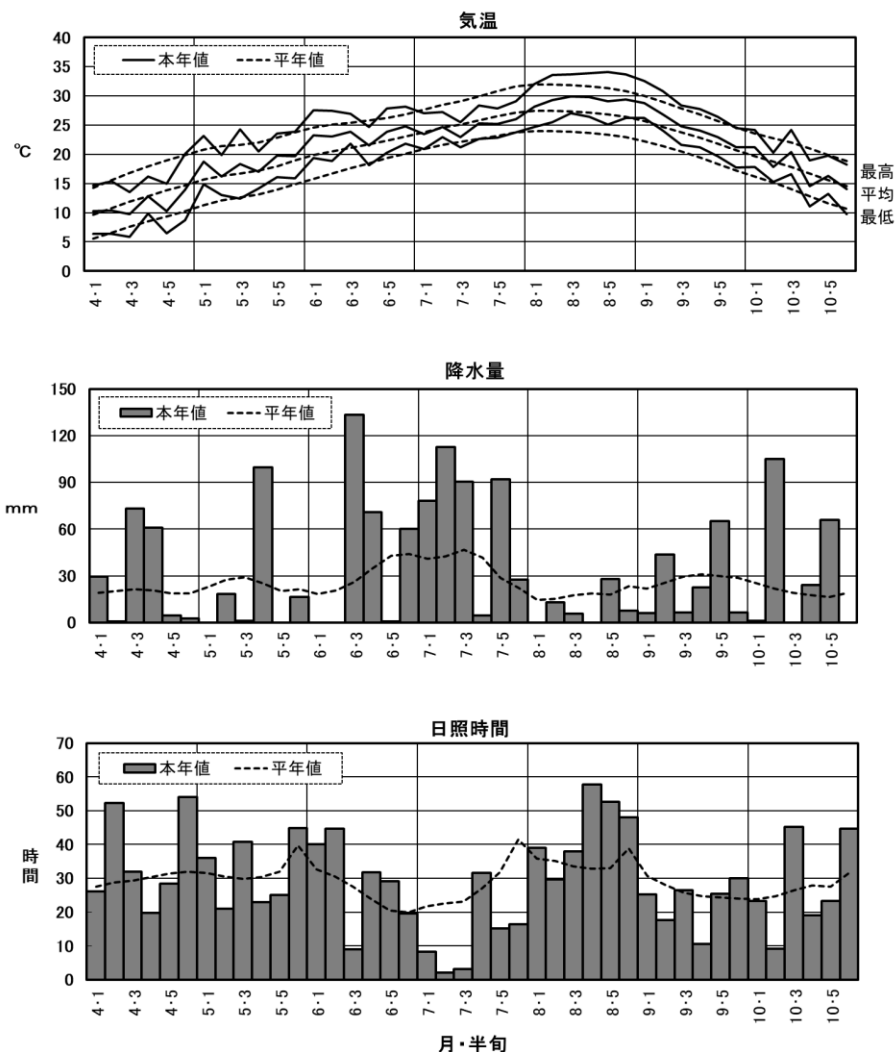
### 3 気象概況

#### (1) 年間の概況〔彦根アメダス観測値〕

- ・平均気温：15.8℃（平年値14.7℃※、R1年15.8℃） ※平年値は1981年～2010年の平均
- ・日照時間：平年比104%
- ・降水量：平年比119%
- ・年平均気温は、全般に平年より高かった。6月および8～9月の気温が平年よりかなり高く推移した一方で、7月の気温は平年よりも低く推移した。また、降水量は全般に平年より多く、特に、梅雨期間であった6月中旬～7月の降水量が平年よりもかなり多かった。

#### (2) 稲作期間(4月～10月)の概況〔彦根アメダス観測値〕

- ・平均気温：21.3℃（平年値20.6℃※、R1年21.6℃） ※平年値は1981年～2010年の平均
- ・日照時間：平年比100%
- ・降水量：平年比129%
- ・水稻の生育に影響を及ぼした特筆すべき気象としては、7月の気温は低く推移したのに対して、8月～9月前半の気温がかなり高く推移したこと、7月の日照時間が少なかった一方で、8月後半には多照となったことが挙げられる。
- ・梅雨入り：6月10日ごろ（平年値6月7日）、梅雨明け：8月1日ごろ（平年値7月21日）
- ・台風：本県の風雨について影響のあった台風は、台風14号（10月10日最接近）であった。



## 4 普通作物病害虫発生予察事業

イネ、ムギおよびダイズを対象として、主要病害虫を重点的に調査した。その結果に基づき病害虫発生予察情報として、発生予報9回、注意報2回（斑点米カメムシ類、ハスモンヨトウ）、防除情報7回（葉いもち1回、穂いもち1回、斑点米カメムシ類2回、コブノメイガ1回、トビイロウンカ1回、スクミリンゴガイ1回）を発表した。

### （1）イネ

#### ア 生育概況

農林水産省が公表する滋賀県の2020年12月9日現在における水稻の作況指数は「98」で、作柄の良否は「やや不良」となった。これは、5月中下旬の寡照（日照不足）、7月の低温・寡照、8月中下旬の異常高温・多照等の気温が水稻の生育に強く影響したためと考えられた。

#### a 農業技術振興センターにおける作況調査の結果

5月中下旬と6月中旬の寡照の影響を受け、生育初期から分けつ期の茎数の増加は緩慢となった。最高分けつ期頃の茎数は「みずかがみ」「コシヒカリ」とともに直近7年間で最も少なくなった。

7月の低温、寡照により、出穂期は「みずかがみ」で平年より2日遅く、「コシヒカリ」で3日遅くなった。

出穂期以降は高温に経過し、登熟期間は「みずかがみ」「コシヒカリ」とともに平年並となった。両品種とも稈長が平年より長くなり、「コシヒカリ」では倒伏程度が平年より大きくなった。

「みずかがみ」は、穂数は少なかったものの（平年比95%）、一穂粒数は多くなり（同比108%）、 $m^2$ あたり粒数は平年並となった（同比102%）。また、8月上旬は高温、多照に経過したことから、登熟歩合はやや高くなった（同比104%）。千粒重は平年並で（同比99%）、精玄米重は多くなった（同比107%）。

「コシヒカリ」は、穂数は少なかったものの（平年比96%）、一穂粒数は多くなり（同比106%）、 $m^2$ あたり粒数は平年並となった（同比101%）。また、登熟歩合は高くなったが（同比107%）、千粒重は平年並（同比97%）となり、精玄米重は多くなった（同比108%）。

玄米の外観品質は、8月中下旬が高温・多照であったが、「みずかがみ」は、白未熟粒が少なく、外観品質はやや良となった。「コシヒカリ」の白未熟粒は平年並となったが、胴割粒がやや多く、外観品質は平年並となった。登熟期の高温や倒伏が胴割粒の発生を助長したと考えられた。

※) 今回用いた農業技術振興センターの作況調査データでは、過去7年の値の平均を基準としており、本生育概況では、それらを平年値とした。

#### b 県内の生育概況

5月中下旬と6月中旬の低温、寡照の影響により、全般的に茎数が少なく推移した。7月に梅雨前線の停滞により、いもち病の感染に好適な条件が断続的に出現したことから、一部ほ場で葉いもちが多発生し、穂いもちの被害も見られた。

8月中旬から9月上旬の高温の影響で、中生品種の登熟が早まり、台風の影響はなかったものの、稈長が長くなった水稻では、倒伏が多くみられた。



## イ 発生状況

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
葉いもち	平年並	平年並	ほ場での初発確認は6月24日で、発生時期は平年並であった。また、7月中旬の調査では発生圃場率23%と平年並の発生であった。	6月3半旬に県内全域で感染好適日が確認され、初発地域での感染に繋がったと考えられる。また、7月2～3半旬にかけて感染好適日が断続的に確認され、二次伝染が成立した一部ほ場において感染が拡大した。一方で、育苗箱施薬剤の普及により、7月中旬までの発生は平年並にとどまった。	移植時の育苗箱施薬が普及している。6月下旬の発生圃場率がやや高く、その後の天候による感染拡大が見込まれたため、7月7日に防除情報を発表した。葉いもちが発生したほ場においては追加防除が実施されている。
穂いもち	平年並	平年並	ほ場での初発確認は8月3日で、発生時期は平年並であった。また、発生圃場率は平年と比較して、やや多く、県内全域で穂いもちの発生が認められたが、発病程度は平年並であった。	水稻早生品種の出穂時期は平年並であり、穂いもちの初発時期も平年並となった。7月末まで梅雨が続く、水稻早生品種の出穂期と重なったため、県内全域での穂いもちの発生に繋がったと考えられる。特に、葉いもちの多発生ほ場においては、一部穂いもちの多発生に繋がった。一方で、8月は平年と比較して降水量が少なく、気温は高くなり、いもち病の感染に好適でなくなったため、発病程度は平年並となった。	出穂期前後に、地上一斉防除や無人ヘリなどによる防除の実施。ドリフト対策として、粒剤による防除が普及している。早生品種の出穂期に感染に好適な気象条件が見込まれたため、7月17日に防除情報を発表した。その後、適切な防除が実施された。
紋枯病	平年並	平年並	ほ場での初発確認は6月17日で、発生時期は平年並であった。7月中旬の発生量はやや少～平年並であったが、収穫直前の調査では全県的に発生が認められ、平年並の発生量となった。	5月下旬～6月上旬の降水量は少なく、株間湿度が低かったため、初期の発生は緩やかであった。その後、6月中旬～7月下旬の降水量が多く、水平伝染が進展した。また、8月の気温は高く推移したため、垂直進展が助長され、発生量は平年並となった。	移植時の箱粒剤による防除及び本田防除が常発地を中心に導入されている。
白葉枯病	平年並	少	ほ場での初発確認は8月4日で、発生時期は平年並であった。発生は常発地に限定されていたため発生量は少なくなった。	影響を受ける台風の襲来がなかったこと、前年の発生量が少なく、残存する細菌密度も低かったことから、発生量は少なくなった。	本病に効果のある育苗箱施薬剤が一部地域で導入。
ばか苗病	—	—	ほ場での初発確認は6月3日であった。一部の常発地を中心に発生が認められた。	温湯消毒を中心に生物農薬、化学農薬による種子消毒が普及しているため、発生は一部常発地にとどまった。	種子消毒による防除の実施。
もみ枯細菌病	—	—	一部ほ場にて発生が認められた。	前年に発病が見られなかったことから、罹病率が少なく、影響を受ける台風の襲来がなかったことから、発病が少なかった。	種子消毒、移植時の箱粒剤による防除の実施。
ごま葉枯病	平年並	やや多	ほ場での初発確認は8月19日と平年並であった。県南部の一部地域で発生が、やや多く認められたが、穂枯れに至るほ場は確認されず、被害は認められなかった。	8月の高温のために肥切れする時期が早くなり、平年より発生がやや多くなったが、発生時期は収穫直前と遅かったため病勢は進展せず、発病程度は低かった。	穂いもちの防除時に同時防除の実施。
縞葉枯病	やや早	やや少	ほ場での初発確認は7月1日で、発生時期は、やや早く、発生量は、やや少なかった。なお、刈株再生芽は全域で見られた。	ヒメトビウンカの越冬世代の発生量は、やや少なく、イネ縞葉枯病ウイルス (RSV) 保虫率は低かった。そのことから7月上旬以降、本種の発生量は、やや少なくなった。	移植時の箱粒剤および出穂期以降の防除、秋季の耕起の徹底によりヒメトビウンカの発生は抑制されている。
黄萎病	—	少	立毛中および刈株再生芽での発生は認められなかった。	近年、本病の発生はほとんど見られず、また、媒介虫であるツマグロヨコバイの発生量は、やや少なく、箱粒剤や共同防除により防除が実施されている。	移植時の箱粒剤および出穂期以降の防除でツマグロヨコバイの発生は抑制されている。
稲こうじ病	やや早	平年並	ほ場での初発確認は8月17日で、発生時期はやや早かった。発生は一部常発地に限られた。	前年の発生が、やや少なかったため、土壌に残存する菌密度が低かったが、7月下旬の穂ばらみ期にかけて降水量が多く、気温が低く推移したことから発生量は平年並となった。	穂いもちの防除時に同時防除の実施。

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
ニカメイガ 第1世代	やや遅	やや少	越冬世代成虫の発最盛期およびフェロモントラップでの誘殺時期は平年並であった。ほ場での発生時期は、やや遅く、発生量は、やや少なかった。	前年の第2世代幼虫の発生量は、やや少なかった。越冬世代成虫のフェロモントラップへの初飛来は4月第6半旬で、やや遅く、発最盛期は5月第5～6半旬で、地域によって前後にばらついた。5月の気温が高く、発生量の増加に好適な条件であったが、本種に効果の高い育苗箱薬剤の導入が進んでおり、発生量は、やや少なくなった。	移植時の育苗箱薬剤が普及している。
ニカメイガ 第2世代	やや遅	少	ほ場での初発確認は7月28日で、発生時期は、やや遅く、発生量は少なかった。	第1世代幼虫の発生時期は、やや遅く、第1世代成虫の発最盛期も5月第5～6半旬と、やや遅かった。第1世代成虫の発生量が、やや少なかったことから、第2世代幼虫の発生は少なかった。	第1世代幼虫が多発したほ場では、主に粒剤を用いた防除がされている。近年、被害ほ場は減少しており、防除面積も減少している。
トビロウ ウンカ	早	多	予察灯での初発確認は7月26日で、発生時期は平年より早く、予察灯への飛来は8月～9月にかけて県内全域で確認された。なお、本種による評価れ症状も県内各地で確認された。	梅雨前線が日本付近に長期にわたり停滞したことから、海外からの飛来時期が早く、飛来量も多かった。なお、県内全域の中生または晩生品種栽培ほ場で、9月以降、評価れ症状の発生が確認された。	出穂期の防除により、斑点米カメムシ類と併せて防除されることが多い。今年が多発が懸念されたため、防除情報を2回発信した結果、中生または晩生品種を中心に追加防除が実施された。
セジロ ウンカ	平年並	平年並	予察灯への初飛来は6月20日で平年並であり、飛来数も平年並であった。また、ほ場での発生量も、8月下旬以降の成熟期調査で平年並となった。	JPP-Netウンカ飛来予測・解析に基づく海外からの本県への飛来は、6月に複数回確認され、予察灯でも断続的に確認された。早生品種の栽培期間中、ほ場での発生量は平年並となった。	育苗箱薬剤の利用により発生が抑制。また、出穂期の防除により、斑点米カメムシ類と併せて防除されることが多い。
ヒメトビ ウンカ	やや早	やや少	予察灯への初飛来は4月4日で、やや早かった。越冬世代の発生量は、やや少なく、ほ場での7月上旬の発生量は平年並、8月下旬は、やや少なくなった。	越冬量は、やや少なかったが、予察灯への初飛来時期は、やや早かった。5月～6月中旬は気温が平年より高く推移し増殖に好適な条件となったが、本県に侵入する7月の気温が低く、ほ場内での増殖は抑制されたため、発生量は、やや少なくなった。	育苗箱薬剤の利用により発生が抑制。また、出穂期の防除により、斑点米カメムシ類と併せて防除されることが多い。
ツماغロ ヨコバイ	平年並	やや少	予察灯への初飛来は4月6日で平年並であった。越冬世代の発生量は、やや少なく、ほ場での7月上旬の発生量は、やや少なく、8月下旬の発生量も同様に推移した。	昨年の発生量は、やや少なく、越冬量も、やや少なかった。地域・ほ場間差は、育苗箱薬剤の使用および出穂期防除の有無によるところが大きい。	育苗箱薬剤の利用により発生が抑制される。また、出穂期の防除により、斑点米カメムシ類と併せて防除されることが多い。
イチモンジ セセリ	やや遅	やや少	ほ場での初発確認は6月16日で、発生時期は、やや遅く、発生量は、やや少なかった。	前年の発生量が少なく、ニカメイガに効果の高い育苗箱薬剤の導入が進んだため、同時に防除され、発生量が抑制されている。	ニカメイガに効果の高い育苗箱薬剤が使用されているほ場では、同時防除されている。
フタオビ コヤガ	平年並	平年並	ほ場での初発確認は6月29日で、発生時期は平年並、発生量は平年並であった。	昨年の発生量は少なく、ニカメイガに効果の高い育苗箱薬剤が導入されているほ場では、同時に防除され、発生量が抑制されている。	ニカメイガに効果の高い育苗箱薬剤が使用されているほ場では、同時防除されている。
コブノ メイガ	平年早	多	ほ場での初発確認は7月7日で、発生時期は早く、県内全域で発生が見られた。7月上旬の発生量は平年より多くなり、中生・晩生品種の収穫期まで発生量は多く推移した。一部ほ場では全面で発生が確認された。	ほ場での初発確認が早く、発生量も平年より多かったことから、梅雨前線が停滞した影響で海外からの初飛来時期が早く、飛来量も多かったと推測される。8月の気温が高く推移したことで、中生、晩生品種を中心に被害が確認された。	多発が懸念されたため、防除情報を発信し、注意喚起を図った。一部発生が目立つほ場では追加防除が実施された。
イネミズ ゾウムシ	やや遅	やや少	本田への飛び込み時期は、やや遅かった。5月下旬の食害程度は少なかったが、6月上旬には、一部のほ場で多発生ほ場も見られるなど、ほ場間差が大きかった。	田植と同時に本田に侵入する。育苗箱薬剤の施用有無により、被害のほ場間差が顕著であった。多発生ほ場では、効果のある育苗箱薬剤が使用されていない。	育苗箱薬剤による防除が実施されている。
イネドロ オウムシ	平年並	平年並	ほ場での初発確認は6月3日で発生時期は平年並であった。6月下旬の食害程度は平年並であったが、中山間地域など、一部で多発生ほ場も見られた。	前年の発生量は平年並、成虫の本田への侵入時期も平年並であった。梅雨明けが遅く、7月は本種の増殖に好適な曇りや雨の日が多く、幼虫の発生が長引き、中山間地では食害が目立つほ場が見られた。	育苗箱薬剤による防除が実施されている。発生が多いほ場では本田施用の粒剤による防除が実施されている。
斑点米 カメムシ類	やや早	やや多	越冬世代成虫の発生時期は、やや早かった。6月下旬～7月上旬にかけて、ホンハリカメムシやクモヘリカメムシなど大型カメムシの畦畔での発生が目立った。本田での発生量は、7月上旬に大型カメムシを中心に多発生となったが、7月下旬～8月上旬にかけて出穂期防除が実施されたほ場では、発生量は、やや多くなった。	5月の気温が高く、発生時期は、やや早くなった。7月上旬に畦畔イネ科雑草への生息数が多くなり、出穂期以降に本田への飛び込みが増大した。薬剤防除は実施されたが、大型カメムシを中心に残存するカメムシが、やや多くなった。	畦畔のイネ科雑草が出穂しないよう、多くのほ場で適正に除草作業が実施され、本田への侵入抑制が図られている。また、出穂後に一斉防除がされている。使用薬剤は液剤や粉剤が主であるが、ドリフト対策として粒剤が使用されている地域もある。しかしながら、ほ場内が適切に除草されていない場合、カメムシ類が本田に侵入し、被害が甚大となる。なお、6月下旬および7月上旬に畦畔での発生量が多く、防除情報を2回発表した。また出穂期防除以降も本田内で発生がみられたため、注意報を発信した。
コバネ イナゴ	やや遅	やや少	ほ場での初発確認は5月28日で、発生時期は、やや遅かった。ほ場での発生量は、やや少なかった。	前年の発生量は平年並であり、出穂期防除により発生量が抑制された。	斑点米カメムシ類と併せて防除されることが多い。

ウ 定点における調査  
 (ア) いもち病発生予察システム  
 a 判定結果(JPP-NET版BLASTAMの判定結果)

令和2年(2020年)		BLASTAM 結果								
		今津	長浜	米原	南小松	彦根	東近江	大津	信楽	土山
6月1日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月2日	火	-	-	?	○1	-	-	-	-	-
6月3日	水	-	-	?	-	-	-	-	-	-
6月4日	木	-	-	?	-	-	-	-	-	-
6月5日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月6日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月7日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月8日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月9日	火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月10日	水	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月11日	木	●	-	-	-	-	-	-	-	-
6月12日	金	●	●	●	●	●	-	-	●	-
6月13日	土	-	●	-	-	-	●	●	●	●
6月14日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月15日	月	-	-	-	●	-	-	-	●	●
6月16日	火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月17日	水	-	?	-	-	-	-	●	-	-
6月18日	木	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月19日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月20日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	●
6月21日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月22日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月23日	火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月24日	水	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月25日	木	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月26日	金	●	●	-	-	-	-	-	-	-
6月27日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月28日	日	-	-	-	-	-	○2	○2	●	-
6月29日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月30日	火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月1日	水	●	●	-	-	-	-	-	●	●
7月2日	木	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月3日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月4日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月5日	日	-	●	-	-	-	●	-	●	●
7月6日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月7日	火	●	-	-	-	-	-	-	-	-
7月8日	水	-	-	-	-	-	-	●	●	●
7月9日	木	-	●	-	●	-	-	-	●	●
7月10日	金	●	-	-	●	●	-	●	●	-
7月11日	土	●	-	-	-	●	●	●	●	-
7月12日	日	-	-	-	●	-	●	-	●	●
7月13日	月	-	-	-	●	-	-	-	-	-
7月14日	火	-	-	-	-	-	●	●	●	-
7月15日	水	-	●	○4	-	-	-	-	-	-
7月16日	木	-	-	●	-	-	-	-	-	-
7月17日	金	-	-	-	-	-	●	-	●	●
7月18日	土	●	●	-	●	●	●	●	●	-
7月19日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月20日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-

[判定結果の指標]

●=感染好適条件

湿潤時間中の平均気温が15~25℃であり、湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間を満たし、当日を含めた前5日間の日平均気温の平均値が20~25℃の範囲にある

○=準好適条件

- 1：湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が20℃未満
- 2：湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が25℃以上
- 3：湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤時間中の平均気温が15℃~25℃以外
- 4：湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間数より短い
- ：好適条件なし
- ?：判定不能

b 情報提供

病害虫防除所のホームページ上にて、感染好適条件の出現状況（上記）を随時公開した。

(イ) 予察灯による調査  
ニカメイガ発生型一覧

事項		大津市里			守山市矢島町			近江八幡市安土町大中		
		本年	平年	差	本年	平年	差	本年	平年	差
越冬世代	初飛来日 (月日)	5/19	5/13	+6	5/9	5/6	+3	5/2	4/30	+2
	最盛日 (月日)	5/17	5/22	-5	6/1	5/31	+1	5/24	5/26	-2
	50%誘殺日 (月日)	5/19	5/23	-4	5/30	5/30	±0	5/23	5/25	-2
	終息日 (月日)	5/31	6/14	-14	6/20	6/28	-8	6/24	6/26	-2
	誘殺日数 (日)	2	5	-3	28	31	-3	16	20	-4
	誘殺数 (頭)	2	5	-3	130	176	-46	41	49	-8
	性比 (♂/♀, %)	100	150	-50	76	99	-23	58	84	-26
第1世代	初飛来日 (月日)	7/19	7/20	-1	7/14	7/14	±0	7/7	7/13	-6
	最盛日 (月日)	9/5	7/30	+36	7/24	7/26	-2	7/22	7/26	-4
	50%誘殺日 (月日)	9/7	7/31	+38	8/2	7/29	+4	8/5	7/29	+7
	終息日 (月日)	9/7	8/21	+17	9/12	9/7	+5	9/12	9/6	+6
	誘殺日数 (日)	2	6	-4	45	27	+18	50	23	+27
	誘殺数 (頭)	3	7	-4	184	110	+74	142	56	+86
	性比 (♂/♀, %)	200	59	+141	223	126	+97	145	86	+59
総誘殺日数 (日)		4	11	-7	73	58	+15	66	43	+23
総誘殺数 (頭)		5	13	-8	314	286	+28	183	105	+78
性比 (♂/♀, %)		150	87	+63	140	109	+31	118	86	+32
第1世代/越冬世代 (%)		150	182	-32	142	82	+60	346	142	+204

事項		長浜市難波町			高島市今津町日置前		
		本年	平年	差	本年	平年	差
越冬世代	初飛来日 (月日)	5/16	5/11	+5	4/29	5/11	-12
	最盛日 (月日)	6/3	5/27	+7	5/14	5/26	-12
	50%誘殺日 (月日)	6/3	5/28	+6	5/15	5/26	-11
	終息日 (月日)	6/5	6/16	-11	7/1	6/24	+7
	誘殺日数 (日)	6	15	-9	14	23	-9
	誘殺数 (頭)	13	54	-41	40	137	-97
	性比 (♂/♀, %)	63	95	-33	135	150	-15
第1世代	初飛来日 (月日)	7/24	7/16	+8	7/18	7/15	+3
	最盛日 (月日)	8/6	7/27	+10	8/7	7/31	+7
	50%誘殺日 (月日)	8/5	7/28	+8	8/7	7/31	+7
	終息日 (月日)	8/13	8/19	-6	9/7	9/10	-3
	誘殺日数 (日)	11	16	-5	30	29	+1
	誘殺数 (頭)	29	72	-43	151	160	-9
	性比 (♂/♀, %)	21	99	-78	94	75	+19
総誘殺日数 (日)		17	31	-14	44	52	-8
総誘殺数 (頭)		42	126	-84	191	297	-106
性比 (♂/♀, %)		31	85	-54	101	95	+6
第1世代/越冬世代 (%)		223	163	+60	378	178	+200

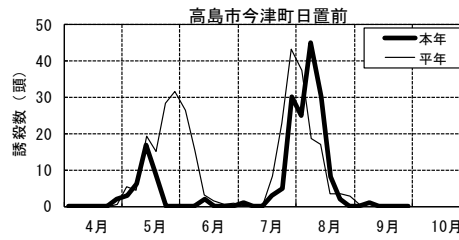
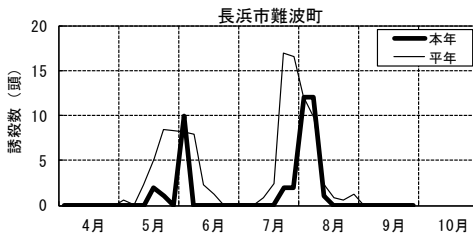
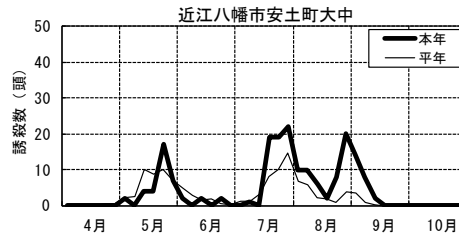
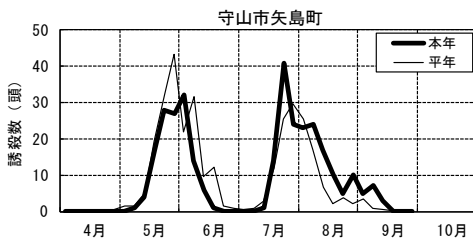
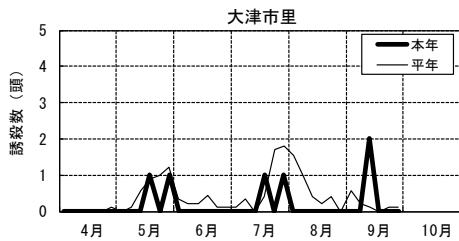
大津市里、守山市矢島町、近江八幡市安土町大中、長浜市難波町の平年値は10年間 (H22~R1) の平均値。  
高島市今津町日置前の平年値は8年間 (H24~R1) の平均値。

# ニカメイガ半旬別誘殺状況（予察灯）

月 半旬		大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
		本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.6	0.6	0	0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	0.1	0.1	0	0	0.4	0.4	0	0	0.6	1.2	0	0	0	0	2	2	0.5	0.5
5	1	0	0	0.1	0.1	0	0	1.6	2.0	2	2	2.2	3.4	0	0	0.6	0.6	3	5	5.5	6.0
	2	0	0	0.3	0.3	1	1	1.5	3.5	0	2	2.6	6.0	0	0	0.1	0.7	6	11	4.5	10.5
	3	0	0	0.6	0.8	4	5	5.0	8.5	4	6	10.0	16.0	0	0	2.3	3.0	17	28	19.3	29.8
	4	1	1	0.9	1.7	17	22	19.4	27.9	4	10	8.7	24.7	2	2	5.2	8.2	9	37	15.0	44.8
	5	0	1	1.0	2.7	28	50	32.4	60.3	17	27	10.0	34.7	1	3	8.5	16.7	0	37	28.4	73.2
	6	1	2	1.2	3.9	27	77	43.3	103.6	7	34	7.1	41.8	0	3	8.3	25.0	0	37	31.4	104.6
6	1	0	2	0.3	4.3	32	109	22.0	125.6	2	36	4.9	46.7	10	13	8.2	33.2	0	37	26.3	130.9
	2	0	2	0.2	4.5	14	123	31.5	157.1	0	36	2.7	49.4	0	13	7.9	41.1	0	37	15.5	146.4
	3	0	2	0.2	4.7	6	129	9.6	166.7	2	38	1.6	51.0	0	13	2.3	43.4	2	39	3.1	149.6
	4	0	2	0.4	5.1	1	130	12.3	179.0	0	38	1.8	52.8	0	13	1.2	44.7	0	39	1.6	151.2
	5	0	2	0.5	5.3	0	130	1.6	180.6	2	40	0.6	53.4	0	13	0.1	44.8	0	39	0.5	151.7
	6	0	2	0.1	5.4	0	130	0.8	181.4	0	40	0.1	53.5	0	13	0.2	45.0	0	39	0.8	152.4
7	1	0	2	0.1	5.5	0	130	0.6	182.0	0	40	1.1	54.6	0	13	0.2	45.2	1	40	0.3	152.7
	2	0	0	0.3	0.3	0	0	0.9	0.9	1	1	1.0	1.0	0	0	0.1	0.1	0	0	0.1	0.1
	3	0	0	0	0.3	1	1	2.7	3.6	0	1	3.1	4.1	0	0	0.8	0.9	0	0	0.4	0.5
	4	1	1	0.4	0.7	14	15	11.7	15.3	19	20	8.2	12.3	0	0	2.4	3.3	3	3	8.4	8.9
	5	0	1	1.7	2.4	41	56	25.4	40.7	19	39	10.1	22.4	2	2	17.0	20.3	5	8	22.9	31.8
	6	1	2	1.8	4.2	24	80	29.8	70.5	22	61	14.6	37.0	2	4	16.6	36.9	30	38	43.4	75.1
8	1	0	2	1.6	5.8	23	103	25.6	96.1	10	71	6.6	43.6	12	16	12.1	49.0	25	63	37.4	112.5
	2	0	2	1.0	6.8	24	127	17.1	113.2	10	81	5.8	49.4	12	28	9.8	58.8	45	108	18.8	131.3
	3	0	2	0.4	7.2	17	144	6.7	119.9	6	87	2.3	51.7	1	29	2.4	61.2	30	138	17.0	148.3
	4	0	2	0.2	7.4	10	154	2.2	122.1	2	89	1.7	53.4	0	29	0.8	62.0	8	146	3.3	151.5
	5	0	2	0.4	7.8	5	159	3.6	125.7	8	97	0.8	54.2	0	29	0.6	62.6	2	148	3.3	154.8
	6	0	2	0	7.8	10	169	2.1	127.8	20	117	3.8	58.0	0	29	1.2	63.8	0	148	2.8	157.5
9	1	0	2	0.6	8.3	5	174	3.5	131.3	14	131	3.6	61.6	0	29	0.1	63.9	0	148	0.6	158.1
	2	0	2	0.2	8.6	7	181	0.7	132.0	8	139	0.8	62.4	0	29	0	63.9	1	149	0.9	159.0
	3	2	4	0	8.7	3	184	0.6	132.6	2	141	0.2	62.6	0	29	0	63.9	0	149	0.3	159.3
	4	0	4	0	8.7	0	184	0.1	132.7	0	141	0	62.6	0	29	0	63.9	0	149	0.1	159.4
	5	0	4	0	8.8	0	184	0	132.7	0	141	0.1	62.7	0	29	0	63.9	0	149	0	159.4
	6	0	4	0.1	8.9	0	184	0.1	132.8	0	141	0	62.7	0	29	0	63.9	0	149	0	159.4
10	1	/				/				0	141	0	62.7	/							
	2	/				/				0	141	0	62.7	/							
	3	/				/				0	141	0	62.7	/							
	4	/				/				0	141	0	62.7	/							
	5	/				/				0	141	0	62.7	/							
	6	/				/				0	141	0	62.7	/							

越冬世代

第1世代

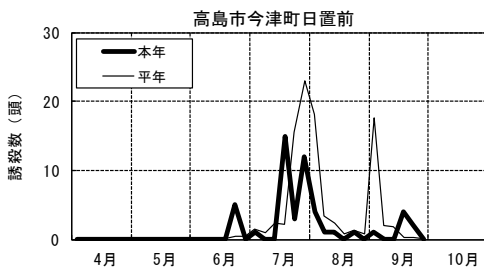
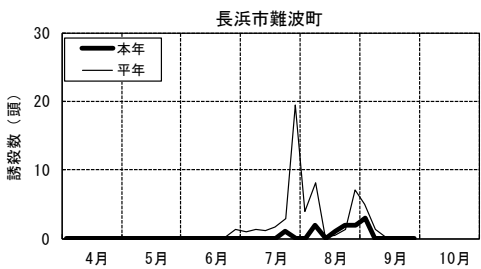
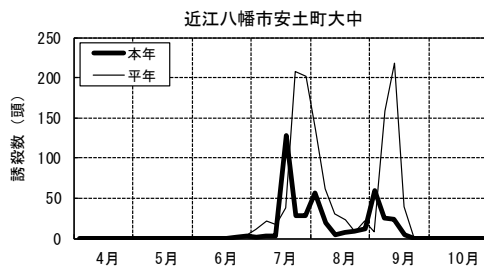
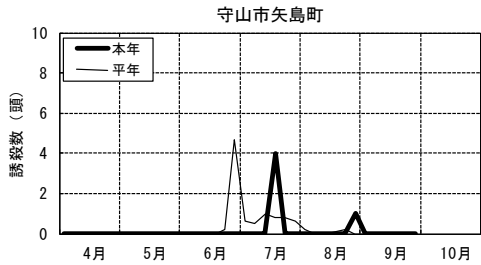
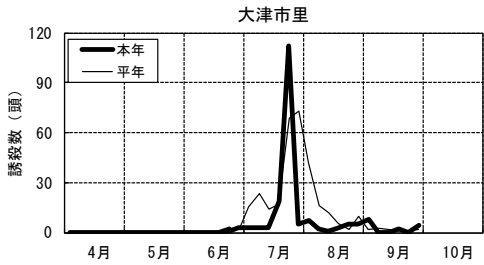


○表中の累積誘殺頭数は、越冬世代と第1世代を区別するため、4月第1半旬～7月第1半旬を越冬世代、7月第2半旬～調査終了時を第1世代として積算している。

○平年値は基本的に過去10年間（H22～R1）の平均値であるが、高島市の予察灯では、移設により10年分のデータがなく、算出方法については以下のとおりにした。  
・高島市今津町日置前の平年値はH24～R1の8年間の平均値

ツマグロヨコバイ半旬別誘殺状況（予察灯）

月 半旬		大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
		本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	5	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0	0	0
4	6	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0	0	0
5	1	0	0	0.6	0.8	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0.1	0.1	0	0	0
5	2	0	0	0	0.8	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.2	0	0	0.1	0.1	0	0	0
5	3	0	0	0.1	0.9	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0	0	0	0.1	0	0	0	0
5	4	0	0	0.2	1.1	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0	0	0	0.1	0	0	0	0
5	5	0	0	0.1	1.2	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0	0	0	0.1	0	0	0	0
5	6	0	0	0	1.2	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0	0	0	0.1	0	0	0	0
6	1	0	0	0	1.2	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0	0	0	0.1	0	0	0.2	0.2
6	2	0	0	0	1.2	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.3	0	0	0.1	0	0	0	0.2
6	3	0	0	0	1.2	0	0	0	0	0	0	0	1.1	1.4	0	0	0.2	0.3	0	0	0.2
6	4	0	0	0.3	1.5	0	0	0	0	0	0	0	0.5	1.9	0	0	0.2	0.5	0	0	0.3
6	5	1	1	2.4	4.0	0	0	0.2	0.2	1	1	2.6	4.5	0	0	0.3	0.8	5	5	0.4	0.7
6	6	3	4	2.1	6.1	0	0	4.7	4.9	3	4	3.4	7.9	0	0	1.3	2.1	0	5	0.4	1.2
7	1	3	7	15.1	21.2	0	0	0.6	5.5	1	5	10.9	18.8	0	0	1.0	3.1	1	6	1.4	2.6
7	2	3	10	23.4	44.6	0	0	0.5	6.0	3	8	21.0	39.8	0	0	1.3	4.4	0	6	1.0	3.6
7	3	3	13	14.1	58.7	0	0	1.0	7.0	3	11	17.1	56.9	0	0	1.2	5.6	0	6	2.3	5.9
7	4	19	32	17.0	75.7	4	4	0.8	7.8	128	139	38.0	94.9	0	0	1.7	7.3	15	21	2.1	8.0
7	5	112	144	68.8	144.5	0	4	0.8	8.6	28	167	207.2	302.1	1	1	2.9	10.2	3	24	15.6	23.6
7	6	5	149	72.8	217.3	0	4	0.6	9.2	29	196	201.0	503.1	0	1	19.5	29.7	12	36	23.0	46.6
8	1	7	156	42.2	259.6	0	4	0.2	9.4	57	253	134.5	637.6	0	1	4.0	33.7	4	40	18.1	64.7
8	2	2	158	15.9	275.5	0	4	0	9.4	20	273	61.6	699.2	2	3	8.1	41.8	1	41	3.4	68.2
8	3	1	159	12.0	287.5	0	4	0	9.4	5	278	30.1	729.3	0	3	0.3	42.1	1	42	2.3	70.5
8	4	3	162	5.3	292.8	0	4	0.1	9.5	8	286	22.7	752.0	1	4	0.4	42.5	0	42	0.9	71.3
8	5	5	167	1.9	294.7	0	4	0.2	9.7	9	295	7.8	759.8	2	6	1.3	43.8	1	43	1.3	72.6
8	6	5	172	9.7	304.4	1	5	0	9.7	12	307	21.6	781.4	2	8	7.1	50.9	0	43	0.9	73.5
9	1	8	180	1.7	306.0	0	5	0	9.7	60	367	8.8	790.2	3	11	5.0	55.9	1	44	17.6	91.0
9	2	0	180	2.7	308.7	0	5	0	9.7	26	393	158.3	948.5	0	11	1.3	57.2	0	44	2.0	93.0
9	3	0	180	2.1	310.8	0	5	0	9.7	24	417	217.6	1166.1	0	11	0.2	57.5	0	44	1.9	94.9
9	4	2	182	1.0	311.8	0	5	0	9.7	4	421	39.5	1205.6	0	11	0.1	57.6	4	48	0.3	95.2
9	5	0	182	0.8	312.6	0	5	0	9.7	0	421	1.8	1207.4	0	11	0	57.6	2	50	0.3	95.5
9	6	4	186	1.4	314.0	0	5	0	9.7	0	421	0.6	1208.0	0	11	0.1	57.7	0	50	0.1	95.6
10	1	/	/	/	/	/	/	/	/	0	421	0.2	1208.2	/	/	/	/	/	/	/	/
10	2	/	/	/	/	/	/	/	/	0	421	0	1208.5	/	/	/	/	/	/	/	/
10	3	/	/	/	/	/	/	/	/	0	421	0	1208.5	/	/	/	/	/	/	/	/
10	4	/	/	/	/	/	/	/	/	0	421	0.1	1208.6	/	/	/	/	/	/	/	/
10	5	/	/	/	/	/	/	/	/	0	421	0.1	1208.7	/	/	/	/	/	/	/	/
10	6	/	/	/	/	/	/	/	/	0	421	0	1208.7	/	/	/	/	/	/	/	/

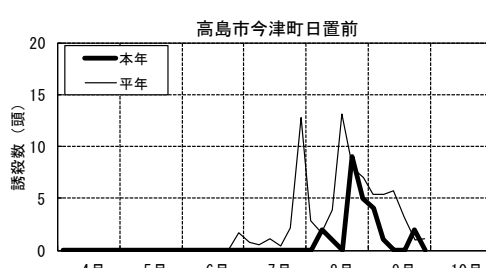
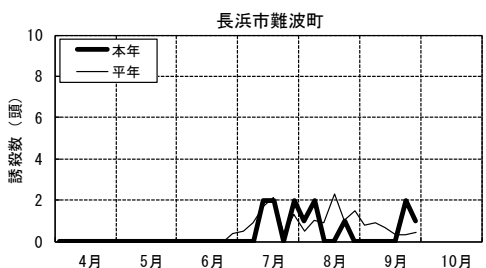
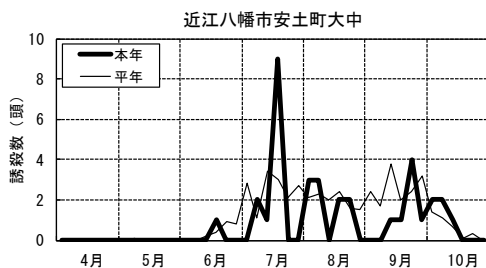
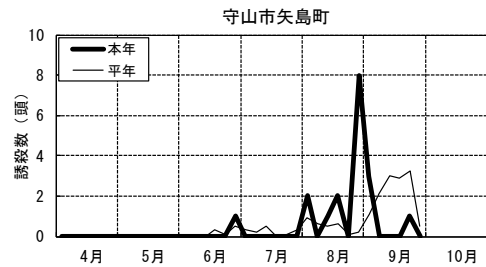
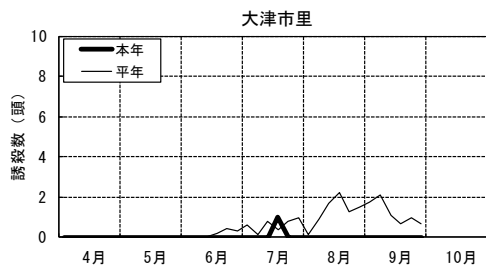


○平年値は基本的に過去10年間（H22～R1）の平均値であるが、高島市の予察灯では、移設により10年分のデータがなく、算出方法については以下のとおりにした。

・高島市今津町日置前の平年値はH24～R1の8年間の平均値

# セジロウカ半旬別誘殺状況（予察灯）

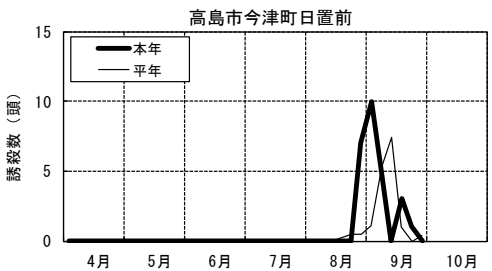
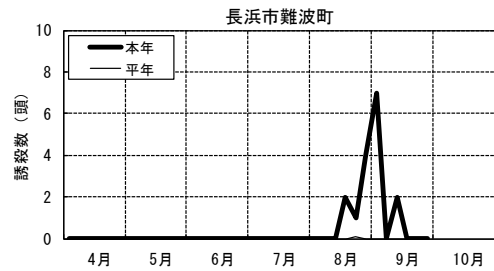
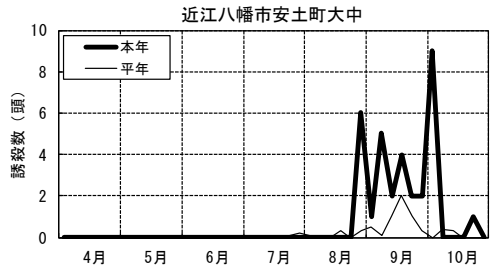
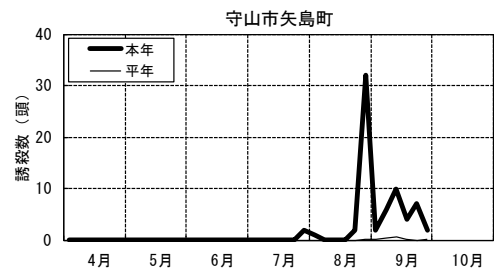
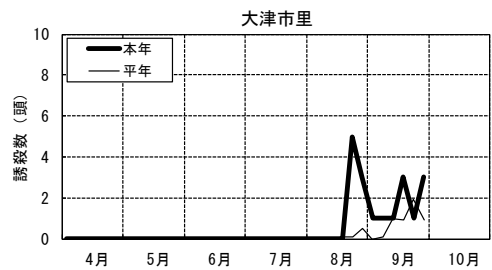
月 半旬		大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
		本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0
5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1	0	0	0.1	0.1	0	0	0
5	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1	0	0	0.1	0.1	0	0	0
5	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1	0	0	0.1	0.1	0	0	0
5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1	0	0	0.1	0.1	0	0	0
5	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1	0	0	0.1	0.1	0	0	0
6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1	0	0	0.1	0.1	0	0	0
6	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1	0	0	0.1	0.1	0	0	0
6	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0.3	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0
6	4	0	0	0.2	0.2	0	0	0.3	0.3	1	1	0.4	0.7	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0
6	5	0	0	0.4	0.7	0	0	0.1	0.4	0	1	0.9	1.6	0	0	0	0.1	0.1	0	0	0
6	6	0	0	0.3	1.0	1	1	0.5	0.9	0	1	0.8	2.4	0	0	0.4	0.5	0	0	1.6	1.6
7	1	0	0	0.6	1.6	0	1	0.3	1.2	0	1	2.8	5.2	0	0	0.5	1.0	0	0	0.8	2.4
7	2	0	0	0.1	1.7	0	1	0.2	1.4	2	3	1.1	6.3	0	0	0.9	1.9	0	0	0.5	2.9
7	3	0	0	0.8	2.5	0	1	0.5	1.9	1	4	3.4	9.7	2	2	1.7	3.6	0	0	1.1	4.0
7	4	1	1	0.4	2.9	0	1	0.0	1.9	9	13	3.0	12.7	2	4	2.1	5.7	0	0	0.4	4.4
7	5	0	1	0.8	3.7	0	1	0.1	2.0	0	13	2.1	14.8	0	4	0.3	6.0	0	0	2.1	6.5
7	6	0	1	1.0	4.7	0	1	0.3	2.3	0	13	2.7	17.5	2	6	1.3	7.3	0	0	12.8	19.3
8	1	0	1	0.1	4.8	2	3	0.9	3.2	3	16	2.1	19.6	1	7	0.5	7.8	0	0	2.9	22.1
8	2	0	1	0.9	5.7	0	3	0.6	3.8	3	19	2.3	21.9	2	9	1.0	8.8	2	2	1.6	23.8
8	3	0	1	1.7	7.4	1	4	0.5	4.3	0	19	2.0	23.9	0	9	0.9	9.7	1	3	3.9	27.6
8	4	0	1	2.2	9.6	2	6	0.6	4.9	2	21	2.4	26.3	0	9	2.3	12.0	0	3	13.1	40.8
8	5	0	1	1.3	10.9	0	6	0.1	5.0	2	23	1.6	27.9	1	10	1.0	13.0	9	12	7.9	48.6
8	6	0	1	1.5	12.4	8	14	0.2	5.2	0	23	1.5	29.4	0	10	1.5	14.5	5	17	7.0	55.6
9	1	0	1	1.8	14.2	3	17	1.1	6.3	0	23	2.4	31.8	0	10	0.8	15.3	4	21	5.4	61.0
9	2	0	1	2.1	16.3	0	17	2.1	8.4	0	23	1.7	33.5	0	10	0.9	16.2	1	22	5.4	66.4
9	3	0	1	1.1	17.4	0	17	3.0	11.4	1	24	3.8	37.3	0	10	0.7	16.8	0	22	5.8	72.1
9	4	0	1	0.7	18.1	0	17	2.9	14.3	1	25	2.0	39.3	0	10	0.3	17.2	0	22	3.1	75.3
9	5	0	1	1.0	19.1	1	18	3.2	17.5	4	29	2.4	41.7	2	12	0.3	17.5	2	24	1.0	76.3
9	6	0	1	0.7	19.8	0	18	0.5	18.0	1	30	3.2	44.9	1	13	0.4	17.9	0	24	1.1	77.4
10	1									2	32	1.4	46.3								
10	2									2	34	1.1	47.4								
10	3									1	35	0.7	48.1								
10	4									0	35	0.1	48.2								
10	5									0	35	0.3	48.5								
10	6									0	35	0	48.5								



○平年値は基本的に過去10年間（H22～R1）の平均値であるが、高島市の予察灯では、移設により10年分のデータがなく、算出方法については以下のとおりにした。  
 ・高島市今津町日置前の平年値はH24～R1の8年間の平均値

トビイロウカ半旬別誘殺状況（予察灯）

月 半旬		(頭)																			
		大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
		本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	6	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0
8	1	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0.1	0.4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	2	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0.4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	3	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0.4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	4	0	0	0.1	0.1	0	3	0	0	0	0.3	0.7	2	2	0	0	0	0	0.3	0.3	0.3
8	5	5	5	0.1	0.2	2	5	0	0	0	0.7	1	3	0.1	0.1	0	0	0.5	0.8	0.5	0.8
8	6	3	8	0.5	0.7	32	37	0.1	0.1	6	6	0.3	1.0	4	7	0.1	7	7	0.5	1.3	1.3
9	1	1	9	0	0.7	2	39	0.1	0.2	1	7	0.5	1.5	7	14	0	0.1	10	17	1.1	2.4
9	2	1	10	0.1	0.8	6	45	0.3	0.5	5	12	0.1	1.6	0	14	0	0.1	5	22	5.4	7.8
9	3	1	11	1.0	1.8	10	55	0.7	1.2	2	14	1.0	2.6	2	16	0	0.1	0	22	7.4	15.1
9	4	3	14	0.9	2.7	4	59	0.2	1.4	4	18	2.0	4.6	0	16	0	0.1	3	25	1.0	16.1
9	5	1	15	1.9	4.6	7	66	0	1.4	2	20	1.0	5.6	0	16	0	0.1	1	26	0	16.1
9	6	3	18	0.9	5.5	2	68	0.1	1.5	2	22	0.3	5.9	0	16	0	0.1	0	26	0.4	16.5
10	1									9	31	0	5.9								
10	2									0	31	0.4	6.3								
10	3									0	31	0.3	6.6								
10	4									0	31	0	6.6								
10	5									1	32	0	6.6								
10	6									0	32	0	6.6								



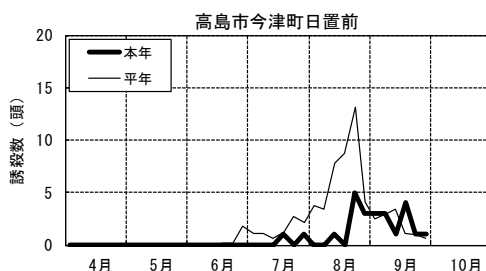
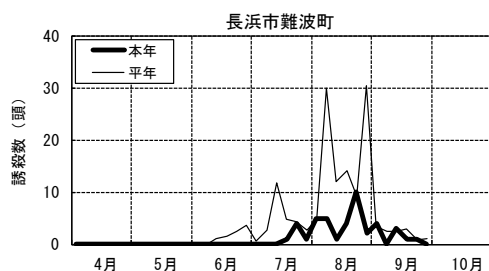
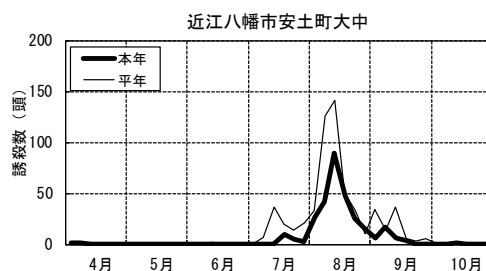
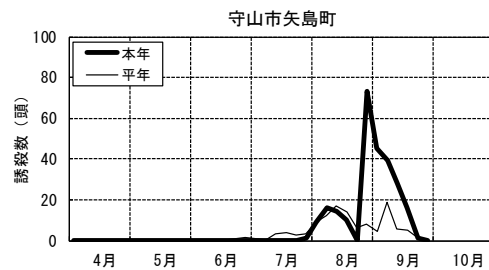
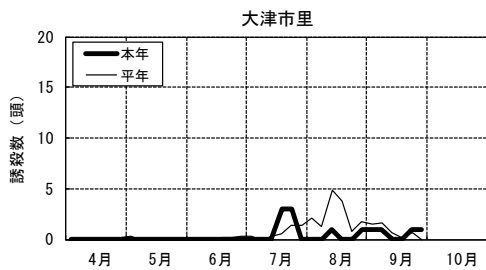
○平年値は基本的に過去10年間（H22～R1）の平均値であるが、高島市の予察灯では、移設により10年分のデータがなく、算出方法については以下のとおりにした。  
 ・高島市今津町日置前の平年値はH24～R1の8年間の平均値



# ヒメトビウンカ半旬別誘殺状況（予察灯）

(頭)

月 半旬	大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前				
	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	
4	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.7	0.7	0	0	0	0	0	0	0	0	
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.4	1.1	0	0	0	0	0	0	0	0	
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.1	1.2	0	0	0	0	0	0	0	0	
6	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0	0	2	0	1.2	0	0	0	0	0	0	0	0	
5	1	0	0	0.3	0.4	0	0	0	0	2	0.2	1.4	0	0	0	0	0	0	0	0	
2	0	0	0	0.4	0	0	0	0	0	2	0.1	1.5	0	0	0	0	0	0	0	0	
3	0	0	0	0.4	0	0	0	0	0	2	0	1.5	0	0	0	0	0	0	0	0	
4	0	0	0	0.4	0	0	0	0	0	2	0	1.5	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0	
5	0	0	0	0.4	0	0	0	0	0	2	0	1.5	0	0	0	0.1	0	0	0	0	
6	0	0	0	0.4	0	0	0.1	0.1	0	2	0	1.5	0	0	0	0.1	0	0	0	0	
6	1	0	0	0.4	0	0	0.1	0.1	0	2	0.2	1.7	0	0	0	0.1	0.2	0	0	0	
2	0	0	0	0.4	0	0	0.4	0.5	0	2	0.2	1.9	0	0	0	0.2	0	0	0	0	
3	0	0	0	0.4	0	0	0.5	1.0	0	2	1.2	3.1	0	0	1.1	1.3	0	0	0	0	
4	0	0	0.2	0.6	0	0	0.4	1.4	0	2	1.1	4.2	0	0	1.6	2.9	0	0	0.1	0.1	
5	0	0	0.2	0.8	0	0	0.7	2.1	0	2	0.7	4.9	0	0	2.4	5.3	0	0	0.1	0.3	
6	0	0	0.3	1.2	0	0	1.4	3.5	0	2	1.1	6.0	0	0	3.7	9.0	0	0	1.8	2.0	
7	1	0	0	0.3	1.5	0	0	0.8	4.3	0	2	0.7	6.7	0	0	0.6	9.6	0	0	1.1	3.1
2	0	0	0	1.5	0	0	0.5	4.8	0	2	6.8	13.5	0	0	2.7	12.3	0	0	1.1	4.3	
3	0	0	0.3	1.8	0	0	3.1	7.9	0	2	35.8	49.3	0	0	11.8	24.1	0	0	0.6	4.9	
4	3	3	0.5	2.3	0	0	3.6	11.5	9	11	19.4	68.7	1	1	4.7	28.8	1	1	1.3	6.1	
5	3	6	1.4	3.7	0	0	2.9	14.4	5	16	13.5	82.2	4	5	4.2	33.0	0	1	2.8	8.9	
6	0	0	1.4	5.1	1	1	3.4	17.8	2	18	21.0	103.2	1	6	2.7	35.7	1	2	2.1	11.0	
8	1	0	6	2.1	7.2	9	10	9.4	27.2	26	44	33.3	136.5	5	11	4.8	40.5	0	2	3.8	14.8
2	0	6	1.3	8.5	16	26	12.1	39.3	42	86	125.8	262.3	5	16	30.0	70.5	0	2	3.4	18.1	
3	1	7	4.9	13.4	14	40	17.2	56.5	89	175	140.5	402.8	1	17	12.0	82.5	1	3	7.8	25.9	
4	0	7	3.8	17.2	10	50	14.2	70.7	48	223	50.7	453.5	4	21	14.1	96.6	0	3	8.8	34.6	
5	0	7	0.8	18.0	0	50	6.0	76.7	25	248	32.4	485.9	10	31	9.2	105.8	5	8	13.1	47.8	
6	1	8	1.7	19.7	73	123	8.3	85.0	14	262	10.1	496.0	2	33	30.4	136.2	3	11	4.1	51.9	
9	1	9	1.4	21.1	45	168	4.2	89.2	6	268	34.1	530.1	4	37	3.3	139.6	3	14	2.5	54.4	
2	1	10	1.7	22.8	39	207	18.7	107.9	17	285	13.6	543.7	0	37	2.6	142.1	3	17	3.0	57.4	
3	0	10	0.7	23.5	28	235	5.8	113.7	6	291	36.1	579.8	3	40	2.3	144.5	1	18	3.4	60.8	
4	0	10	0.2	23.7	16	251	4.8	118.5	3	294	5.1	584.9	1	41	3.0	147.5	4	22	1.1	61.9	
5	1	11	0.7	24.4	1	252	1.3	119.8	0	294	3.3	588.2	1	42	0.9	148.4	1	23	1.0	62.9	
6	1	12	0	24.4	0	252	0.4	120.2	0	294	5.3	593.5	0	42	1.0	149.4	1	24	0.6	63.5	
10	1								0	294	0.7	594.2									
2									0	294	0.4	594.6									
3									1	295	0.3	594.9									
4									0	295	0.2	595.1									
5									0	295	1.0	596.1									
6									0	295	1.4	597.5									

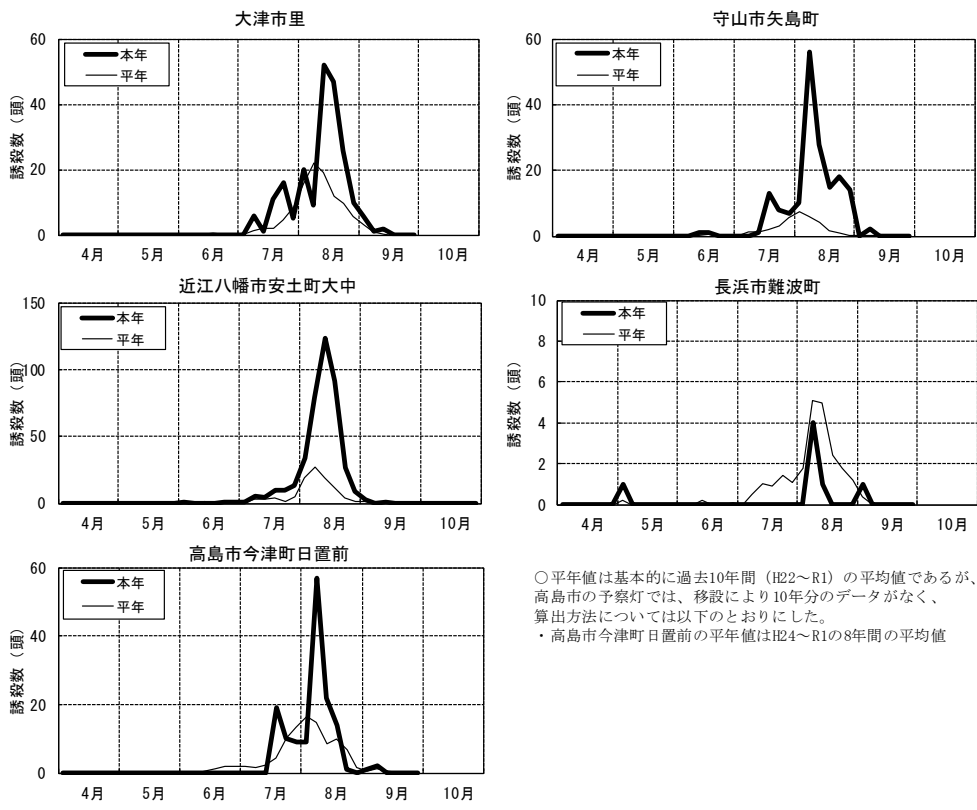


○平年値は基本的に過去10年間（H22～R1）の平均値であるが、高島市の予察灯では、移設により10年分のデータがなく、算出方法については以下のとおりにした。  
 ・高島市今津町日置前の平年値はH24～R1の8年間の平均値

# フタオビコヤガ半旬別誘殺状況（予察灯）

(頭)

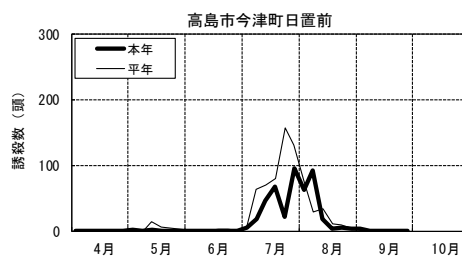
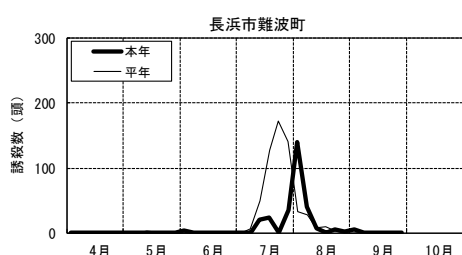
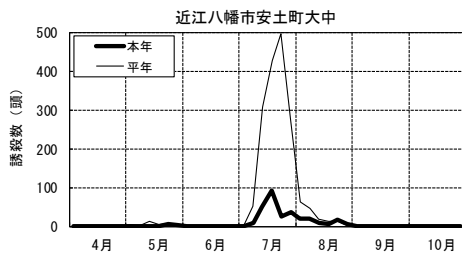
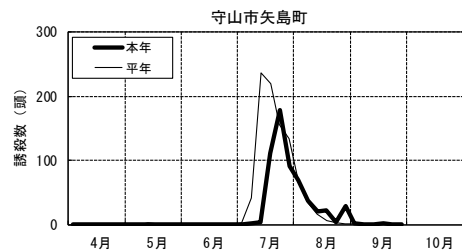
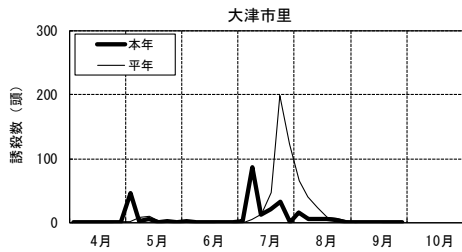
月 半旬	大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0.2	0.2	0	0	0	0
5 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1	0	1	1	0	0.2	0	0	0.2	0.2
5 3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0	1	1	0	0.2	0	0	0	0.2
5 4	0	0	0.2	0.2	0	0	0	0	0	0	0.1	0	1	1	0	0.2	0	0	0	0.2
5 5	0	0	0	0.2	0	0	0	0	0	0.1	0.2	0	1	1	0	0.2	0	0	0.1	0.3
5 6	0	0	0	0.2	0	0	0	0	0	0	0.2	0	1	1	0	0.2	0	0	0.1	0.5
6 1	0	0	0	0.2	0	0	0.3	0.3	1	1	0	0.2	0	1	1	0	0.2	0	0	0.5
6 2	0	0	0	0.2	0	0	0.3	0.6	0	1	0.4	0.6	0	1	1	0	0.2	0	0	0.5
6 3	0	0	0.2	0.4	1	1	0.1	0.7	0	1	0.9	1.5	0	1	1	0.2	0.4	0	0	1.0
6 4	0	0	0.6	1.0	1	2	0.4	1.1	0	1	0.3	1.8	0	1	1	0	0.4	0	0	1.1
6 5	0	0	0.3	1.4	0	2	0	1.1	1	2	0.6	2.4	0	1	1	0	0.4	0	0	1.8
6 6	0	0	0.1	1.5	0	2	0.2	1.3	1	3	0.3	2.7	0	1	1	0.1	0.5	0	0	1.8
7 1	0	0	0.2	1.7	0	2	0.3	1.6	1	4	0.8	3.5	0	1	1	0	0.5	0	0	1.8
7 2	6	6	1.3	3.0	0	2	1.4	3.0	5	9	2.8	6.3	0	1	1	0.5	1.0	0	0	1.6
7 3	1	7	2.0	5.0	1	3	1.4	4.4	4	13	3.4	9.7	0	1	1	1.0	2.0	0	0	2.4
7 4	11	18	2.1	7.1	13	16	1.9	6.3	10	23	3.6	13.3	0	1	1	0.9	2.9	19	19	4.3
7 5	16	34	4.7	11.8	8	24	3.2	9.5	10	33	1.4	14.7	0	1	1	1.4	4.3	10	29	10.4
7 6	5	39	8.6	20.4	7	31	5.5	15.0	13	46	4.9	19.6	0	1	1	1.1	5.4	9	38	13.5
8 1	20	59	15.3	35.8	10	41	7.5	22.5	34	80	19.0	38.6	0	1	1	1.8	7.2	9	47	16.4
8 2	9	68	22.1	57.9	56	97	5.9	28.4	79	159	27.3	65.9	4	5	5	5.1	12.3	57	104	14.8
8 3	52	120	19.1	77.0	28	125	4.0	32.4	123	282	19.2	85.1	1	6	6	5.0	17.3	22	126	8.6
8 4	47	167	12.0	89.0	15	140	1.7	34.1	91	373	11.5	96.6	0	6	6	2.4	19.7	14	140	9.9
8 5	26	193	9.7	98.7	18	158	0.8	34.9	27	400	3.9	100.5	0	6	6	1.8	21.5	1	141	6.9
8 6	10	203	5.7	104.4	14	172	0.2	35.1	9	409	1.6	102.1	0	6	6	1.2	22.7	0	141	1.5
9 1	6	209	3.2	107.6	0	172	0.2	35.3	3	412	1.1	103.2	1	7	7	0.4	23.1	1	142	0.5
9 2	1	210	0.8	108.4	2	174	0.3	35.6	0	412	0.4	103.6	0	7	7	0	23.1	2	144	1.4
9 3	2	212	0.3	108.7	0	174	0.1	35.7	1	413	0.1	103.7	0	7	7	0	23.1	0	144	0.5
9 4	0	212	0	108.7	0	174	0	35.7	0	413	0.2	103.9	0	7	7	0	23.1	0	144	0.1
9 5	0	212	0.1	108.8	0	174	0	35.7	0	413	0	103.9	0	7	7	0	23.1	0	144	0
9 6	0	212	0	108.8	0	174	0	35.7	0	413	0	103.9	0	7	7	0	23.1	0	144	0.1
10 1									0	413	0	103.9								0
10 2									0	413	0	103.9								0
10 3									0	413	0	103.9								0
10 4									0	413	0	103.9								0
10 5									0	413	0	103.9								0
10 6									0	413	0	103.9								0



# イネミズゾウムシ半旬別誘殺状況（予察灯）

(頭)

月 半旬	大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 2	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 3	0	0	0	0	0	0	0.2	0.3	0	0	0.2	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0
4 4	0	0	0	0	0	0	0	0.3	0	0	0	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0
4 5	0	0	0	0	0	0	0	0.3	0	0	0	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0.3
4 6	0	0	1.6	1.6	0	0	0	0.3	0	0	0.3	0.5	0	0	0	0	0	0	0	0.5
5 1	46	46	2.0	3.6	0	0	0	0.3	1	1	4.3	4.8	1	1	0.8	0.8	2	2	0	0.8
5 2	3	49	8.2	11.8	0	0	0.1	0.4	0	1	1.3	6.1	1	2	0.1	0.9	0	2	0.3	1.2
5 3	6	55	10.4	22.3	0	0	3.4	3.8	0	1	14.3	20.4	2	2	2.6	3.5	2	4	14.1	15.3
5 4	1	56	3.0	25.3	0	0	0.7	4.5	0	1	4.3	24.7	0	2	2.1	5.6	0	4	6.9	22.2
5 5	2	58	1.9	27.2	0	0	0.3	4.8	6	7	7.2	31.9	0	2	0.6	6.2	0	4	3.7	25.9
5 6	0	58	0.9	28.1	0	0	0	4.8	5	12	4.3	36.2	1	3	0.2	6.4	0	4	2.1	28.0
6 1	2	60	1.6	29.6	0	0	0	4.8	0	12	3.7	39.9	4	7	0.3	6.7	0	4	0.7	28.7
6 2	0	60	0.3	30.0	1	1	0.1	4.9	0	12	0.3	40.2	0	7	0.6	7.3	0	4	1.3	30.0
6 3	0	60	0.2	30.2	0	1	0	4.9	0	12	1.1	41.3	0	7	0.2	7.6	1	5	1.1	31.1
6 4	0	60	0.3	30.5	0	1	0.1	5.0	0	12	0.1	41.4	0	7	0	7.6	0	5	2.1	33.2
6 5	0	60	1.4	32.0	0	1	0	5.0	1	13	0.6	42.0	0	7	0.1	7.7	0	5	2.5	35.7
6 6	0	60	0.3	32.3	0	1	0.4	5.4	0	13	0.7	42.7	0	7	0.3	8.0	0	5	1.0	36.7
7 1	3	63	0.5	32.8	0	1	2.6	8.0	0	13	0.6	43.3	0	7	0	8.0	5	10	5.1	41.9
7 2	86	149	5.0	37.8	2	3	42.2	50.2	10	23	51.3	94.6	0	7	7.2	15.2	19	29	63.3	105.1
7 3	13	162	13.4	51.2	4	7	236.1	286.3	52	75	307.0	401.6	20	27	49.1	64.3	47	76	70.6	175.7
7 4	21	183	47.3	98.5	112	119	219.8	506.1	94	169	428.8	830.4	24	51	127.5	191.8	68	144	80.6	256.4
7 5	33	216	198.1	296.6	179	298	155.8	661.9	27	196	496.8	1327.2	1	52	172.0	363.8	22	166	158.1	414.5
7 6	1	217	123.3	419.9	92	390	133.3	795.2	37	233	275.1	1602.3	36	88	141.5	505.3	96	262	130.3	544.7
8 1	16	233	64.8	484.7	69	459	64.6	859.8	21	254	62.4	1664.7	140	228	32.5	537.8	63	325	78.9	623.6
8 2	6	239	40.1	524.8	37	496	34.3	894.1	20	274	45.7	1710.4	40	268	28.0	565.8	92	417	28.5	652.1
8 3	5	244	23.8	548.6	20	516	16.3	910.4	9	283	18.4	1728.8	7	275	8.7	574.5	18	435	34.5	686.6
8 4	5	249	7.4	556.0	22	538	7.0	917.4	6	289	13.3	1742.1	1	276	10.1	584.6	4	439	11.5	698.1
8 5	4	253	6.4	562.4	4	542	3.5	920.9	17	306	12.7	1754.8	6	282	3.0	587.6	5	444	10.1	708.2
8 6	0	253	3.3	565.7	29	571	1.8	922.7	7	313	3.2	1758.0	2	284	0.3	587.9	4	448	5.0	713.2
9 1	0	253	0.6	566.2	3	574	0.8	923.5	1	314	2.3	1760.3	5	289	0.6	588.4	4	452	2.0	715.2
9 2	0	253	0.8	567.0	1	575	0.4	923.9	1	315	1.6	1761.9	0	289	0.9	589.3	0	452	1.0	716.2
9 3	0	253	1.0	568.0	0	575	1.1	925.0	1	316	1.3	1763.2	0	289	0.1	589.4	1	453	0.3	716.5
9 4	0	253	0.2	568.2	2	577	0.9	925.9	0	316	0.4	1763.6	0	289	0.2	589.7	0	453	0.4	716.9
9 5	1	254	0.2	568.4	0	577	0	925.9	0	316	0.6	1764.2	1	290	0.1	589.8	0	453	0.5	717.4
9 6	0	254	0.4	568.9	0	577	0	925.9	0	316	1.1	1765.3	0	290	0	589.8	0	453	0.6	718.0
10 1									0	316	1.1	1766.4								
10 2									0	316	0.9	1767.3								
10 3									0	316	0.2	1767.5								
10 4									0	316	0.1	1767.6								
10 5									0	316	0.5	1768.1								
10 6									0	316	0	1768.1								



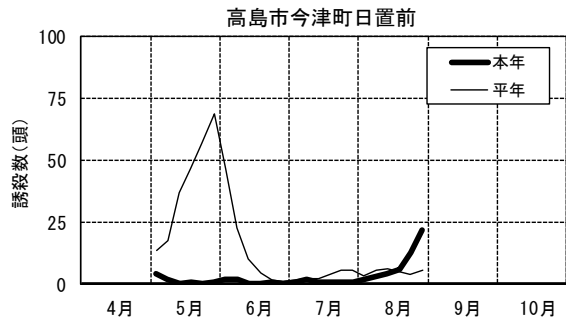
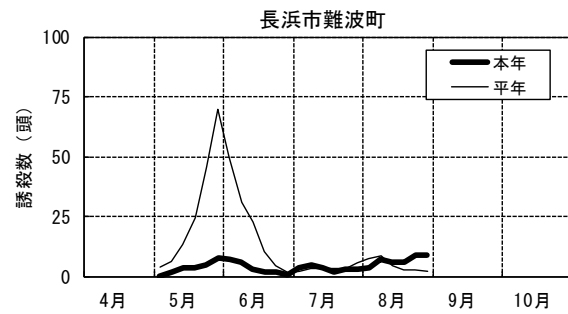
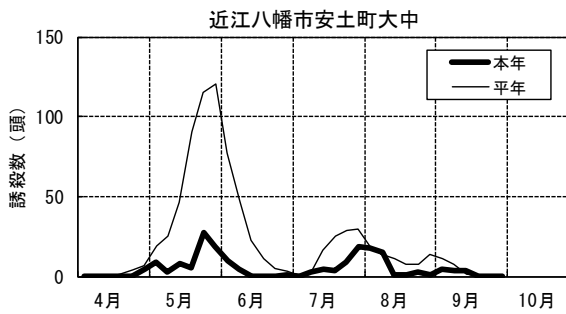
○平年値は基本的に過去10年間（H22～R1）の平均値であるが、高島市の予察灯では、移設により10年分のデータがなく、算出方法については以下のとおりにした。  
・高島市今津町日置前の平年値はH24～R1の8年間の平均値

(ウ) フェロモントラップによる調査  
ニカメイガ半旬別誘殺状況 (フェロモントラップ)

月	半旬	近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
		本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4	1	0	0	0.1	0.1	/	/	/	/	/	/	/	/
	2	0	0	0	0.1								
	3	0	0	0.2	0.3								
	4	0	0	1.3	1.6								
	5	0	0	4.3	5.9								
	6	5	5	7.2	13.1								
5	1	9	14	19.1	32.2	0	0	3.9	3.9	4	4	13.9	13.9
	2	3	17	25.6	57.8	2	2	6.1	10.0	2	6	17.7	31.6
	3	8	25	46.7	104.5	4	6	13.3	23.3	0	6	37.0	68.6
	4	6	31	90.8	195.3	4	10	24.6	47.9	1	7	46.4	115.0
	5	28	59	115.6	310.9	5	15	45.6	93.5	0	7	56.8	171.8
	6	19	78	120.8	431.7	8	23	69.9	163.4	1	8	68.9	240.6
6	1	10	88	77.6	509.3	7	30	49.7	213.1	2	10	46.5	287.1
	2	5	93	47.0	556.3	6	36	31.0	244.1	2	12	22.9	310.0
	3	0	93	22.8	579.1	3	39	23.0	267.1	0	12	10.4	320.4
	4	0	93	11.3	590.4	2	41	10.6	277.6	0	12	4.8	325.1
	5	0	93	5.2	595.6	2	43	4.3	282.0	1	13	1.8	326.9
	6	1	94	3.7	599.3	1	44	1.9	283.9	0	13	0.9	327.8
7	1	0	94	1.0	600.3	4	48	2.0	285.9	1	14	1.6	329.4
	2	3	3	3.2	3.2	5	5	3.7	3.7	2	2	2.1	2.1
	3	5	8	16.6	19.8	4	9	3.4	7.1	1	3	2.5	4.6
	4	4	12	25.7	45.5	2	11	3.4	10.5	1	4	3.9	8.5
	5	9	21	28.7	74.2	3	14	3.5	14.0	1	5	5.9	14.4
	6	19	40	29.4	103.6	3	17	5.9	19.9	1	6	5.9	20.3
8	1	18	58	18.6	122.2	4	21	7.3	27.2	2	8	3.6	23.9
	2	15	73	13.7	135.9	7	28	8.7	35.9	3	11	5.9	29.8
	3	1	74	11.4	147.3	6	34	4.8	40.7	4	15	6.3	36.0
	4	1	75	7.9	155.2	6	40	2.8	43.5	6	21	4.9	40.9
	5	3	78	7.6	162.8	9	49	2.7	46.2	13	34	3.8	44.6
	6	1	79	13.9	176.7	9	58	2.5	48.7	22	56	5.5	50.1
9	1	5	84	11.5	188.2	/	/	/	/	/	/	/	/
	2	4	88	7.7	195.9	/	/	/	/	/	/	/	/
	3	4	92	1.8	197.7	/	/	/	/	/	/	/	/
	4	0	92	1.0	198.7	/	/	/	/	/	/	/	/
	5	0	92	1.1	199.8	/	/	/	/	/	/	/	/
	6	0	92	1.0	200.8	/	/	/	/	/	/	/	/

越冬世代

第1世代



- ・表中の累積誘殺頭数は、越冬世代と第1世代を区別するため、4月第1半旬～7月第1半旬を越冬世代、7月第2半旬～調査終了時を第1世代として積算している。
- ・近江八幡市安土町大中、長浜市難波町の平年値はH22～R1の10年間の平均値。
- ・高島市今津町日置前の平年値はH24～R1の8年間の平均値。

エ 一般ほ場における調査

(ア) すくい取りおよび払い落とし調査

a ツマグロヨコバイ、ヒメトビウンカ (越冬量調査)

(頭)

調査地点名	害虫名 月日	ツマグロヨコバイ			ヒメトビウンカ		
		成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計
		4/6~7					
大津市	里	8	0	8	0	0	0
	和邇南浜	0	0	0	0	0	0
草津市	下寺町	0	0	0	2	0	2
守山市	幸津川町	0	2	2	0	1	1
栗東市	下戸山	1	0	1	2	0	2
野洲市	安治	0	0	0	0	0	0
湖南市	岩根	0	0	0	0	0	0
甲賀市	水口町山	0	0	0	0	0	0
	甲賀町鳥居野	0	0	0	0	0	0
	信楽町牧	1	0	1	3	1	4
近江八幡市	野村町	0	1	1	2	1	3
	安土町大中	8	0	8	1	0	1
日野町	木津	0	0	0	0	0	0
竜王町	小口	0	0	0	0	0	0
東近江市	大森町	0	0	0	1	0	1
	川合町	0	0	0	1	0	1
	山上町	0	0	0	0	0	0
	五個荘平阪町	0	0	0	1	0	1
	栗見出在家町	0	0	0	0	0	0
	妹町	0	0	0	0	0	0
彦根市	普光寺町	1	2	3	1	0	1
愛荘町	東円堂	0	0	0	0	0	0
甲良町	北落	0	0	0	0	0	0
多賀町	月之木	0	0	0	14	1	15
米原市	本市場	0	0	0	0	0	0
	入江	0	0	0	0	0	0
	西円寺	0	0	0	1	0	1
長浜市	永久寺町	0	0	0	0	0	0
	湯次町	0	0	0	0	0	0
	早崎町	0	0	0	1	0	1
	高月町柳野中	0	0	0	0	0	0
	余呉町下余呉	0	0	0	0	0	0
高島市	マキノ町知内	0	0	0	0	0	0
	今津町上弘部	0	0	0	2	0	2
	安曇川町北船木	0	0	0	0	0	0
	新旭町北畑	0	0	0	0	0	0

すくい取り：1地点 50回振 合計虫数

b セジロウンカ、トビイロウンカ、ヒメトビウンカ、ツマグロヨコバイ、フタオビコヤガ

(頭)

調査地点名	害虫名 調査方法 調査月日	セジロウンカ			トビイロウンカ			ヒメトビウンカ		ツマグロヨコバイ		フタオビコヤガ
		すくい取り		払落	すくい取り		払落	すくい取り		すくい取り		払落
		7/8~9	8/17~26	8/17~19	7/8~9	8/17~26	8/17~19	7/8~9	8/17~26	7/8~9	8/17~26	6/29~7/1
大津市	関津	98	0	0	0	0	0	77	0	3	0	1
	和邇南浜	0	23	10	0	0	0	0	73	0	63	0
草津市	下笠町	10	6	0	0	0	0	37	140	2	178	0
守山市	赤野井町	1	0	26	0	0	0	5	0	0	0	0
栗東市	上砥山	7	4	1	0	0	0	103	134	0	0	0
野洲市	北	0	6	0	0	0	0	11	682	2	1	0
湖南市	岩根	0	8	0	0	0	0	3	248	0	0	0
甲賀市	水口町山	0	0	0	0	0	0	9	19	0	0	0
	甲賀町滝	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0
	信楽町黄瀬	3	8	0	0	0	0	9	92	0	0	0
近江八幡市	野村町	1	18	0	0	0	0	3	175	0	0	0
	安土町大中	0	11	4	0	0	0	2	260	0	71	0
日野町	日田	0	2	3	0	0	0	3	43	0	0	0
竜王町	小口	0	0	0	0	0	0	1	84	0	0	0
東近江市	林田町	0	2	0	0	0	0	4	831	1	0	0
	川合町	1	2	0	0	1	0	1	1308	0	0	0
	石谷町	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0
	五個荘平阪町	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	栗見新田町	0	0	1	0	0	0	1	290	1	0	0
	鯉江町	0	3	0	0	0	0	16	801	2	4	0
彦根市	新海町	0	0	0	0	0	0	33	0	0	0	
愛荘町	東円堂	0	35	10	0	0	0	5	440	0	95	0
甲良町	法養寺	0	1	0	0	0	0	2	103	0	0	0
多賀町	土田	0	0	0	0	0	0	0	77	0	0	0
米原市	本市場	0	0	0	0	0	0	10	81	0	0	0
	入江	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	西円寺	0	5	0	0	0	0	3	108	0	29	0
長浜市	永久寺町	0	0	0	0	0	0	8	43	0	8	0
	湯次町	1	0	0	0	0	0	0	36	0	0	0
	早崎町	0	6	2	0	0	0	2	31	1	26	0
	高月町柳野中	1	2	3	0	0	0	0	38	0	1	0
	余呉町坂口	0	26	1	0	0	0	6	37	0	0	0
高島市	マキノ町知内	0	7	0	0	0	0	3	77	0	3	0
	今津町上弘部	0	1	0	0	0	0	1	46	0	0	0
	安曇川町北船木	0	6	0	0	0	0	0	81	0	2	0
	新旭町北畑	0	6	0	0	0	0	0	84	2	700	0

すくい取り：1地点 1筆10回 5筆50回振 合計虫数（成幼合計）

払い落とし：1地点 1筆5株 5筆25株 合計虫数（成幼合計）

c 斑点米カメムシ類（7月11日基準調査）

(頭)

調査月日 調査場所		7/8~9											
		本田						畦畔					
		ホソハリ カメムシ	クモヘリ カメムシ	トゲシラホシ カメムシ	アカスジ カスミカメ	アカヒゲホソミ ドリカスミカメ	その他 斑点米 カメムシ類	ホソハリ カメムシ	クモヘリ カメムシ	トゲシラホシ カメムシ	アカスジ カスミカメ	アカヒゲホソミ ドリカスミカメ	その他 斑点米 カメムシ類
調査地点名	害虫名												
大津市	開津	1	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0
	和邇南浜	0	1	0	0	0	0	3	0	4	45	7	5
草津市	下笠町	0	0	0	0	0	0	2	0	0	62	0	3
守山市	赤野井町	0	0	0	0	0	0	0	1	2	15	2	2
栗東市	上砥山	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1	3
野洲市	北	2	1	0	0	0	0	3	0	1	2	0	0
湖南市	岩根	1	0	0	0	0	0	2	1	0	14	1	1
甲賀市	水口町山	0	1	0	0	0	0	1	11	0	40	0	9
	甲賀町滝	0	8	0	0	0	0	4	40	0	11	0	1
	信楽町黄瀬	0	5	0	0	0	0	4	1	0	0	0	1
近江八幡市	野村町	0	1	0	0	0	0	8	8	0	21	2	2
	安土町大中	0	0	0	0	1	1	4	0	0	1	0	0
日野町	日田	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0
竜王町	小口	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	8	0
東近江市	林田町	0	0	0	0	0	0	2	9	0	30	0	3
	川合町	0	0	0	1	0	0	1	1	0	58	3	2
	石谷町	0	0	0	0	0	1	2	16	0	27	0	2
	五個荘平阪町	0	0	0	0	0	0	0	3	0	56	0	6
	栗見新田町	0	0	0	0	0	0	6	15	0	30	0	0
	鯉江町	1	0	0	0	0	0	1	0	0	51	1	3
彦根市	新海町	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1
愛荘町	東円堂	0	0	0	0	0	0	4	0	0	145	2	7
甲良町	法養寺	0	0	0	0	0	0	3	3	3	44	19	3
多賀町	土田	0	0	0	0	0	0	2	0	0	68	27	2
米原市	本市場	0	0	0	0	0	0	8	20	1	40	2	11
	入江	1	0	0	2	0	0	10	8	1	6	0	6
	西円寺	0	0	0	0	0	0	11	0	0	53	5	0
長浜市	永久寺町	0	0	0	0	0	0	13	0	0	177	3	0
	湯次町	1	0	0	0	0	0	49	0	11	169	1	0
	早崎町	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	7
	高月町柳野中	0	0	0	0	0	0	15	0	1	0	0	0
	余呉町坂口	0	0	0	0	0	0	20	42	11	201	0	36
高島市	マキノ町知内	0	0	0	0	0	0	7	50	0	3	6	2
	今津町上弘部	0	2	0	0	0	0	8	7	0	43	5	5
	安曇川町北船木	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24	0	5
	新旭町北畑	0	0	0	0	0	1	10	0	2	59	3	4

すくい取り：1地点 1筆10回 5筆50回振 合計虫数

d 斑点米カメムシ類（糊熟期調査）

(頭)

調査月日 イネの生育ステージ		8/17～8/26					
		糊熟期					
		調査地点名	害虫名	ホソハリ カメムシ	クモヘリ カメムシ	トゲシラホシ カメムシ	アカスジ カスミカメ
大津市	関津	0	0	0	0	0	0
	和邇南浜	2	1	0	3	0	1
草津市	下笠町	2	0	0	0	0	15
守山市	赤野井町	0	0	0	0	0	0
栗東市	上砥山	0	2	0	0	0	0
野洲市	北	1	1	0	0	0	1
湖南市	岩根	0	2	0	1	0	0
甲賀市	水口町山	1	0	0	0	0	1
	甲賀町滝	1	6	0	0	0	2
	信楽町黄瀬	0	3	0	0	0	3
近江八幡市	野村町	9	0	0	3	0	2
	安土町大中	0	1	0	3	2	0
日野町	日田	0	0	0	0	0	0
竜王町	小口	0	0	0	0	0	0
東近江市	林田町	0	0	0	0	0	0
	川合町	0	0	0	0	0	0
	石谷町	1	2	0	1	0	0
	五個荘平阪町	0	0	0	0	0	0
	栗見新田町	0	0	0	0	0	0
	鯉江町	5	3	0	26	0	5
彦根市	新海町	0	0	0	0	0	0
愛荘町	東円堂	3	0	0	15	0	0
甲良町	法養寺	0	0	0	0	0	0
多賀町	土田	0	0	0	0	0	0
米原市	本市場	0	0	0	4	0	0
	入江	0	0	0	0	0	0
	西円寺	1	0	0	0	0	0
長浜市	永久寺町	1	0	0	10	0	0
	湯次町	0	0	0	0	0	0
	早崎町	0	0	0	1	0	0
	高月町柳野中	0	0	0	0	1	0
	余呉町坂口	0	0	0	0	0	0
高島市	マキノ町知内	0	0	0	0	0	0
	今津町上弘部	0	1	0	0	0	0
	安曇川町北船木	0	0	0	0	0	0
	新旭町北畑	1	0	0	17	0	0

すくい取り：1地点 1筆10回 5筆50回振 合計虫数



e コバネイナゴ、クサキリ、ササキリ

(頭)

調査地点名	調査月日 調査場所	7/8~9						8/17~26
		本田			畦畔			本田
		コバネイナゴ	クサキリ	ササキリ	コバネイナゴ	クサキリ	ササキリ	コバネイナゴ
大津市	関津	1	0	0	1	0	1	0
	和邇南浜	0	0	1	11	0	1	0
草津市	下笠町	17	0	1	0	0	0	6
守山市	赤野井町	1	0	0	0	1	0	1
栗東市	上砥山	5	0	0	0	0	0	0
野洲市	北	4	0	3	0	0	2	0
湖南市	岩根	5	0	0	0	0	0	1
甲賀市	水口町山	6	0	1	0	0	0	0
	甲賀町滝	49	0	2	0	0	3	9
	信楽町黄瀬	4	0	0	0	0	8	0
近江八幡市	野村町	2	0	0	0	0	0	0
	安土町大中	0	0	1	0	0	0	0
日野町	日田	1	0	0	0	0	0	0
竜王町	小口	1	0	2	1	0	1	0
東近江市	林田町	0	0	0	0	0	0	0
	川合町	1	0	1	0	0	0	2
	石谷町	19	0	1	0	0	2	8
	五個荘平阪町	1	0	0	1	0	3	2
	栗見新田町	0	0	1	0	0	1	0
	鯉江町	5	0	0	0	0	0	9
彦根市	新海町	0	0	0	2	0	0	0
愛荘町	東円堂	0	0	0	0	0	1	3
甲良町	法養寺	1	0	3	2	0	4	0
多賀町	土田	3	0	0	0	0	4	1
米原市	本市場	1	0	1	0	0	0	0
	入江	0	0	1	0	0	0	0
	西円寺	7	0	0	3	0	3	3
長浜市	永久寺町	0	0	1	7	0	4	1
	湯次町	7	0	5	141	0	11	0
	早崎町	6	0	2	0	0	0	0
	高月町柳野中	56	0	0	0	0	0	2
	余呉町坂口	26	0	0	4	0	1	1
高島市	マキノ町知内	3	0	0	1	0	7	1
	今津町上弘部	10	0	4	1	0	2	0
	安曇川町北船木	0	0	0	1	0	0	2
	新旭町北畑	2	0	0	3	0	2	2

1地点 1筆10回 5筆50回振 合計虫数 (成幼虫数)

(イ) 発生量調査

a 地点別調査結果

病害虫名 調査地点名		葉いもち		穂いもち		紋 枯 病		もみ枯細菌病		白葉枯病	
		発 生 ほ場率	平 均 発病度	発 生 ほ場率	平均発 病穂率	発 生 ほ場率	平 均 発病度	発 生 ほ場率	平均発 病株率	発 生 ほ場率	平 均 発病度
大 津 市	関 津	0	0	40	0.11	100	6.4	0	0	0	0
	和 邇 南 浜	60	0.6	100	0.26	100	5.2	0	0	0	0
草 津 市	下 笠 町	0	0	100	1.25	100	5.4	0	0	0	0
守 山 市	赤 野 井 町	0	0	60	0.11	100	13.2	0	0	0	0
栗 東 市	上 砥 山	0	0	60	0.15	100	6.2	0	0	0	0
野 洲 市	北	60	8.0	100	0.21	100	12.0	0	0	20	0.1
湖 南 市	岩 根	40	0.4	60	0.11	100	8.4	0	0	0	0
甲 賀 市	水 口 町 山	0	0	80	0.23	100	2.2	0	0	0	0
	甲 賀 町 滝	0	0	100	1.57	100	1.4	0	0	20	0.1
	信 楽 町 黄 瀬	20	0.2	100	0.20	100	4.2	0	0	0	0
近 江 八 幡 市	野 村 町	20	0.2	100	5.63	100	21.6	0	0	0	0
	安 土 町 大 中	0	0	40	0.25	80	4.8	0	0	0	0
日 野 町	日 田	20	0.2	80	0.90	100	7.4	0	0	0	0
竜 王 町	小 口	20	0.2	80	0.23	100	18.8	0	0	0	0
東 近 江 市	林 田 町	0	0	60	0.12	100	8.0	0	0	0	0
	川 合 町	20	0.2	40	0.07	100	12.8	0	0	0	0
	石 谷 町	0	0	40	0.20	80	1.0	0	0	0	0
	五 個 荘 平 阪 町	0	0	40	0.25	100	2.8	0	0	0	0
	栗 見 新 田 町	100	12.8	100	0.37	100	7.4	0	0	0	0
	鯉 江 町	40	6.6	80	0.99	100	2.8	0	0	0	0
彦 根 市	新 海 町	20	0.2	60	0.12	100	18.0	0	0	0	0
愛 荘 町	東 円 堂	40	0.4	100	0.23	100	20.2	0	0	0	0
甲 良 町	法 養 寺	100	1.6	60	0.12	100	27.2	0	0	0	0
多 賀 町	土 田	0	0	20	0.04	100	11.6	0	0	0	0
米 原 市	本 市 場	20	0.2	40	0.08	60	0.6	0	0	0	0
	入 江	0	0	0	0	60	1.2	0	0	0	0
	西 円 寺	0	0	20	0.05	100	5.4	0	0	0	0
長 浜 市	永 久 寺 町	20	0.2	40	0.08	60	7.4	0	0	0	0
	湯 次 町	0	0	100	0.23	100	1.4	0	0	0	0
	早 崎 町	100	15.4	100	0.40	100	25.6	0	0	0	0
	高 月 町 柳 野 中	0	0	80	0.16	100	28.4	0	0	0	0
	余 呉 町 坂 口	0	0	80	0.16	100	3.8	0	0	0	0
高 島 市	マキノ町知内	40	0.4	100	0.29	100	7.0	0	0	0	0
	今津町上弘部	0	0	40	0.14	100	3.6	0	0	0	0
	安曇川町北船木	60	0.6	100	0.43	100	10.8	0	0	0	0
	新旭町北畑	40	0.4	100	0.28	100	3.0	0	0	0	0

1 地点 5 筆調査。発生ほ場率 (%) は、5 筆中に対象病害が発生した筆数より算出。

平均発病度は、1 筆あたり25株の発病度を調査し、5 筆の平均を算出したもの。

平均発病穂 (株) 率 (%) は、1 筆あたり25株を調査して発病穂 (株) 率を求め、5 筆の平均を算出したもの。

発病度の算出は、発生予察事業の調査実施基準 (平成28年農林水産省生産局植物防疫課) に従った。

地点別調査結果（つづき）

調査地点名		ごま葉枯病		稲こうじ病		ばか苗病		黄萎病（立毛中）		黄萎病（再生芽）	
		発生 ほ場率	平均 発病度	発生 ほ場率	平均発 病株率	発生 ほ場率	平均発 病株率	発生 ほ場率	平均発 病株率	発生 ほ場率	平均発 病株率
大津市	関津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	和邇南浜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
草津市	下笠町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
守山市	赤野井町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
栗東市	上砥山	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
野洲市	北	60	0.6	0	0	0	0	0	0	0	0
湖南市	岩根	20	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0
甲賀市	水口町山	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	甲賀町滝	20	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0
	信楽町黄瀬	80	2.4	0	0	0	0	0	0	0	0
近江八幡市	野村町	0	0	20	0.8	0	0	0	0	0	0
	安土町大中	20	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0
日野町	日田	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
竜王町	小口	60	0.6	0	0	0	0	0	0	0	0
東近江市	林田町	20	0.2	20	0.8	0	0	0	0	0	0
	川合町	60	0.6	0	0	0	0	0	0	0	0
	石谷町	60	0.6	0	0	0	0	0	0	0	0
	五個荘平阪町	20	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0
	栗見新田町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総江町	80	0.8	60	2.4	0	0	0	0	0	0	
彦根市	新海町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
愛荘町	東円堂	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
甲良町	法養寺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
多賀町	土田	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
米原市	本市場	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入江	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	西円寺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
長浜市	永久寺町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	湯次町	0	0	0	0	40	0.4	0	0	0	0
	早崎町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	高月町柳野中	0	0	40	0.8	0	0	0	0	0	0
	余呉町坂口	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高島市	マキノ町知内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	今津町上弘部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	安曇川町北船木	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	新旭町北畑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

1地点5筆調査。発生ほ場率（％）は、5筆中に対象病害が発生した筆数より算出。

平均発病度は、1筆あたり25株の発病度を調査し、5筆の平均を算出したもの。

平均発病株率（％）は、1筆あたり稲こうじ病で50株、ばか苗病で100株、黄萎病（立毛中）で25株、黄萎病（再生芽）で400株を調査して発病株率を求め、5筆の平均を算出したもの。

発病度の算出は、発生予察事業の調査実施基準（平成28年農林水産省生産局植物防疫課）に従った。

地点別調査結果（つづき）

調査地点名		病害虫名		縞葉枯病(立毛中)		縞葉枯病(再生芽)		イネミズゾウムシ		イネドロオイムシ	
		発生ほ場率	平均発病株率	発生ほ場率	平均発病株率	発生ほ場率	平均被害度	発生ほ場率	平均被害度		
大津市	関津	80	3.2	60	0.3	60	0.8	0	0		
	和邇南浜	0	0	20	0.1	100	3.8	100	2.0		
草津市	下笠町	20	0.8	80	1.5	100	5.2	0	0		
守山市	赤野井町	100	4.0	0	0	80	16.0	0	0		
栗東市	上砥山	100	4.0	100	2.3	80	1.2	40	0.4		
野洲市	北	100	6.4	100	9.4	60	1.8	0	0		
湖南市	岩根	100	7.2	80	1.4	40	0.6	0	0		
甲賀市	水口町山	60	2.4	80	0.6	100	1.6	100	2.6		
	甲賀町滝	40	1.6	20	0.1	80	12.4	20	0.2		
	信楽町黄瀬	100	5.6	80	0.2	20	0.2	100	2.0		
近江八幡市	野村町	100	4.0	100	0.7	60	1.0	0	0		
	安土町大中	100	7.2	100	1.2	60	1.4	0	0		
日野町	日田	100	4.0	20	0.1	80	9.0	0	0		
竜王町	小口	100	10.4	100	5.1	20	0.2	0	0		
東近江市	林田町	100	4.0	60	0.2	20	0.2	0	0		
	川合町	100	8.8	40	0.1	20	0.4	0	0		
	石谷町	80	3.2	20	0.1	80	1.0	0	0		
	五個荘平阪町	100	5.6	40	0.1	80	4.2	0	0		
	栗見新田町	80	3.2	100	1.5	100	10.2	0	0		
	鯉江町	100	4.8	40	0.1	100	11.4	0	0		
彦根市	新海町	40	1.6	100	0.5	100	5.2	0	0		
愛荘町	東円堂	40	1.6	100	0.3	40	0.6	0	0		
甲良町	法養寺	60	2.4	100	0.3	100	7.0	20	0.2		
多賀町	土田	0	0	100	0.3	100	6.4	0	0		
米原市	本市場	40	1.6	40	0.1	100	1.6	0	0		
	入江	0	0	0	0	0	0	0	0		
	西円寺	0	0	80	0.2	100	13.6	100	1.0		
長浜市	永久寺町	0	0	100	0.3	100	3.6	0	0		
	湯次町	0	0	100	0.3	100	2.2	0	0		
	早崎町	20	0.8	100	0.3	100	3.2	0	0		
	高月町柳野中	0	0	60	0.2	100	1.6	0	0		
	余呉町坂口	0	0	0	0	80	2.0	40	0.4		
	マキノ町知内	0	0	0	0	100	19.8	0	0		
高島市	今津町上弘部	0	0	0	0	100	13.4	20	0.6		
	安曇川町北船木	0	0	100	0.3	100	2.4	0	0		
	新旭町北畑	0	0	0	0	100	9.2	0	0		

1地点5筆調査。発生ほ場率(%)は、5筆中に対象病害虫が発生した筆数より算出。

平均発病株率(%)は、1筆あたり縞葉枯病(立毛中)で25株、縞葉枯病(再生芽)で400株を調査して発病株率を求め、5筆の平均を算出したもの。

平均被害度は、1筆あたり25株の被害度を調査し、5筆の平均を算出したもの。

被害度の算出は、発生予察事業の調査実施基準(平成28年農林水産省生産局植物防疫課)に従った。

地点別調査結果（つづき）

調査地点名		病害虫名		ニカメイガ(1)		ニカメイガ(2)		イチモンジセセリ	コブノメイガ		イネクロカメムシ
		発生ほ場率	平均被害株率	発生ほ場率	平均被害株率	発生ほ場率	発生ほ場率	平均被害株率	発生ほ場率		
大津市	関津	100	4.0	40	1.6	20	80	3.2	0		
	和邇南浜	100	4.0	100	5.6	0	100	5.6	0		
草津市	下笠町	100	4.0	40	1.6	20	100	4.0	0		
守山市	赤野井町	100	4.8	60	2.4	20	100	5.6	0		
栗東市	上砥山	80	3.2	0	0	0	40	1.6	0		
野洲市	北	100	4.8	80	3.2	0	100	4.0	0		
湖南市	岩根	20	0.8	40	1.6	0	100	5.6	0		
甲賀市	水口町山	80	3.2	20	0.8	0	40	1.6	20		
	甲賀町滝	100	4.0	40	1.6	0	20	0.8	0		
	信楽町黄瀬	60	2.4	40	1.6	20	100	4.0	0		
近江八幡市	野村町	80	3.2	0	0	0	60	2.4	0		
	安土町大中	20	0.8	40	1.6	0	80	3.2	0		
日野町	日田	100	4.0	20	0.8	0	80	3.2	0		
竜王町	小口	80	4.8	40	1.6	20	100	4.8	0		
東近江市	林田町	40	1.6	20	0.8	0	80	3.2	0		
	川合町	60	2.4	40	1.6	0	100	4.8	0		
	石谷町	80	3.2	60	2.4	0	40	1.6	0		
	五個荘平阪町	80	3.2	0	0	0	60	2.4	0		
	栗見新田町	100	4.8	60	2.4	0	100	6.4	0		
	鯉江町	60	2.4	20	0.8	40	40	1.6	0		
彦根市	新海町	40	1.6	60	2.4	0	100	4.0	0		
愛荘町	東円堂	80	3.2	60	2.4	0	100	6.4	0		
甲良町	法養寺	100	5.6	0	0	0	100	4.0	0		
多賀町	土田	40	1.6	80	3.2	0	100	4.0	0		
米原市	本市場	100	4.0	100	4.0	0	100	4.0	0		
	入江	0	0	100	4.0	0	100	4.0	0		
	西円寺	100	4.0	40	1.6	0	100	5.6	0		
長浜市	永久寺町	100	4.0	40	1.6	0	100	4.0	0		
	湯次町	100	4.0	80	3.2	0	100	4.0	0		
	早崎町	100	4.0	100	4.0	0	100	17.6	0		
	高月町柳野中	100	4.0	100	4.0	0	100	6.4	0		
	余呉町坂口	40	1.6	40	2.4	0	80	4.8	0		
高島市	マキノ町知内	100	4.0	100	4.0	0	100	13.6	0		
	今津町上弘部	60	2.4	80	3.2	0	100	4.0	0		
	安曇川町北船木	100	4.0	80	3.2	0	100	8.0	0		
	新旭町北畑	40	1.6	60	2.4	0	60	2.4	0		

1 地点5筆調査。発生ほ場率（％）は、5筆中に対象害虫が発生した筆数より算出。

平均被害株率（％）は、1筆あたり25株を調査して被害株率を求め、5筆の平均を算出したもの。

b 地域別集計表

病害虫名	葉いもち				穂いもち				紋枯病			
	発病度		ほ場率(%)		発病率(%)		ほ場率(%)		発病度		ほ場率(%)	
	本	平	本	平	本	平	本	平	本	平	本	平
大津南部	1.4	2.2	20.0	38.6	0.3	0.3	76.7	50.9	8.1	13.3	100	87.8
甲賀	0.2	1.6	15.0	27.1	0.5	0.9	85.0	50.7	4.1	6.5	100	74.6
東近江	2.0	1.1	22.0	24.8	0.9	0.6	66.0	55.8	8.7	14.5	96.0	89.4
湖東	0.6	0.6	40.0	8.2	0.1	0.2	60.0	43.4	19.3	8.5	100	70.8
湖北	2.0	0.4	17.5	9.8	0.1	0.3	57.5	39.3	9.2	5.3	85.0	65.0
高島	0.4	1.1	35.0	20.0	0.3	0.6	80.0	63.5	6.1	6.7	100	68.5
全県	1.4	1.1	23.3	21.6	0.4	0.5	69.4	50.1	9.1	9.7	95.6	77.4

病害虫名	もみ枯細菌病				白葉枯病				ごま葉枯病			
	発病株率(%)		ほ場率(%)		発病度		ほ場率(%)		発病度		ほ場率(%)	
	本	平	本	平	本	平	本	平	本	平	本	平
大津南部	0	-	0	-	0.0	0.4	3.3	16.0	0.1	0.1	10.0	5.2
甲賀	0	-	0	-	0.0	2.9	5.0	24.9	0.7	0.3	30.0	9.7
東近江	0	-	0	-	0	0.5	0	17.8	0.3	0.3	32.0	7.8
湖東	0	-	0	-	0	0.0	0	1.6	0	0.0	0	1.2
湖北	0	-	0	-	0	0.0	0	0.9	0	0.0	0	2.0
高島	0	-	0	-	0	0.0	0	2.5	0	0.3	0	5.0
全県	0	-	0	-	0.0	0.4	1.1	11.0	0.2	0.2	13.9	5.2

病害虫名	稲こうじ病				ばか苗病				黄萎病(立毛中)			
	発病株率(%)		ほ場率(%)		発病株率(%)		ほ場率(%)		発病株率(%)		ほ場率(%)	
	本	平	本	平	本	平	本	平	本	平	本	平
大津南部	0	0.0	0	0.6	0	-	0	-	0	0	0	0
甲賀	0	0.1	0	1.2	0	-	0	-	0	0	0	0
東近江	0.4	0.1	10.0	2.8	0	-	0	-	0	0	0	0
湖東	0	0.0	0	0.4	0	-	0	-	0	0	0	0
湖北	0.1	0.4	5.0	5.4	0.1	-	5.0	-	0	0	0	0
高島	0	0.1	0	1.0	0	-	0	-	0	0	0	0
全県	0.1	0.1	3.9	2.3	0.0	-	1.1	-	0	0	0	0

病害虫名	黄萎病(再生芽)				縞葉枯病(立毛中)				縞葉枯病(再生芽)			
	発病株率(%)		ほ場率(%)		発病株率(%)		ほ場率(%)		発病株率(%)		ほ場率(%)	
	本	平	本	平	本	平	本	平	本	平	本	平
大津南部	0	0	0	0	1.3	-	30.0	-	2.2	3.0	60.0	63.4
甲賀	0	0.0	0	1.6	0.5	-	10.0	-	0.6	0.8	65.0	52.9
東近江	0	0.0	0	1.2	0.4	-	10.0	-	0.9	1.5	62.0	61.2
湖東	0	0	0	0	0.6	-	15.0	-	0.3	0.4	100	54.5
湖北	0	0.0	0	0.9	0.9	-	22.5	-	0.2	0.5	60.0	41.0
高島	0	0.0	0	1.0	0	-	0	-	0.1	0.1	25.0	18.0
全県	0	0.0	0	0.8	0.7	-	15.6	-	0.8	1.2	61.7	50.8

病害虫名	イネミズゾウムシ				イネドロオイムシ				ニカメイガ第1世代			
	被害度		ほ場率(%)		被害度		ほ場率(%)		被害株率(%)		ほ場率(%)	
	本	平	本	平	本	平	本	平	本	平	本	平
大津南部	4.8	12.7	80.0	82.6	0.4	0.2	23.3	8.0	4.1	13.3	96.7	76.4
甲賀	3.7	12.8	60.0	74.8	1.2	0.7	55.0	24.7	2.6	8.1	65.0	55.3
東近江	3.9	15.2	62.0	77.4	0	0.1	0	4.0	3.0	12.0	70.0	80.0
湖東	4.8	4.8	85.0	72.4	0.1	0.0	5.0	0.4	3.0	12.9	65.0	73.1
湖北	3.5	13.5	85.0	69.7	0.2	0.2	17.5	8.5	3.2	10.3	80.0	62.8
高島	11.2	33.8	100	96.5	0.2	0.3	5.0	12.0	3.0	5.6	75.0	51.5
全県	4.8	14.7	76.7	77.6	0.3	0.2	15.0	8.5	3.2	10.8	76.1	68.8

病害虫名	ニカメイガ第2世代				イチモンジセセリ		コブノメイガ				イネクロカメムシ	
	被害株率(%)		ほ場率(%)		ほ場率(%)		被害株率(%)		ほ場率(%)		ほ場率(%)	
	本	平	本	平	本	平	本	平	本	平	本	平
大津南部	2.4	8.2	53.3	66.9	10.0	14.0	4.0	3.8	86.7	16.8	0	2.3
甲賀	1.4	5.8	35.0	60.4	5.0	9.3	3.0	4.1	65.0	16.4	5.0	0
東近江	1.2	9.1	30.0	80.4	6.0	14.0	3.4	2.2	74.0	14.4	0	3.2
湖東	2.0	5.4	50.0	82.3	0	10.0	4.6	0.7	100	16.2	0	0
湖北	3.1	4.6	75.0	79.3	0	16.3	6.3	2.2	97.5	30.8	0	0.2
高島	3.2	3.3	80.0	72.0	0	12.5	7.0	6.6	90.0	42.0	0	0
全県	2.2	6.5	52.2	74.8	3.9	12.9	4.6	3.0	85.0	21.8	0.6	1.1

発病度および被害度の算出は、発生子察事業の調査実施基準(平成28年農林水産省生産局植物防疫課)に従った。  
もみ枯細菌病、ばか苗病、縞葉枯病(立毛中)は平成28年度から調査開始のため平年値なし。

c 精密調査ほ調査結果

調査地点名	害虫名	斑点米カメムシ類(頭)		斑点米被害率(%)				
		畦畔発生量	本田発生量	標準斑点米	黒触粒	尻黒粒	基部加害型	合計
		6/29~7/1	8/3~5	収穫後				
大津市	関津	-	0	0.19	0	0.04	0.07	0.30
	和邇南浜	68	11	0.08	0.01	0.07	0	0.16
草津市	下笠町	17	1	0.05	0	0	0	0.05
守山市	赤野井町	-	-	0.01	0	0	0	0.01
栗東市	上砥山	-	0	0.02	0	0	0	0.02
野洲市	北	1	28	0.08	0	0.06	0	0.14
湖南市	岩根	6	-	0.09	0.01	0.13	0	0.23
甲賀市	水口町山	-	7	0.02	0	0	0	0.02
	甲賀町滝	0	6	0.04	0	0.01	0	0.06
	信楽町黄瀬	6	27	0	0	0.03	0	0.03
近江八幡市	野村町	6	3	0.13	0	0	0	0.13
	安土町大中	-	-	0.01	0.01	0.05	0	0.07
日野町	日田	6	0	0	0	0	0	0
竜王町	小口	0	0	0.02	0	0	0	0.02
東近江市	林田町	-	3	0.01	0	0	0	0.01
	川合町	33	2	0	0.02	0.02	0	0.04
	石谷町	8	-	0.17	0	0.03	0	0.20
	五個荘平阪町	11	0	0.08	0	0.01	0	0.09
	栗見新田町	22	0	0.04	0	0.01	0	0.04
	鯉江町	14	4	0.06	0.05	0.01	0	0.11
彦根市	新海町	-	6	0.01	0	0.04	0	0.06
愛荘町	東円堂	97	1	0.05	0	0.01	0.01	0.08
甲良町	法養寺	18	24	0	0	0	0	0
多賀町	土田	28	0	0.32	0.05	0.04	0	0.41
米原市	本市場	50	4	0.22	0.03	0.04	0	0.29
	入江	26	-	0.01	0.01	0.06	0	0.08
	西円寺	3	12	0.44	0	0.11	0	0.56
長浜市	永久寺町	26	4	0.53	0.03	0.11	0	0.68
	湯次町	35	2	0.02	0	0.01	0	0.03
	早崎町	-	4	0.08	0	0	0	0.08
	高月町柳野中	-	11	0.11	0	0.05	0	0.16
	余呉町坂口	1	46	0	0	0.02	0	0.02
高島市	マキノ町知内	-	1	0.10	0	0	0	0.10
	今津町上弘部	8	1	0.55	0	0.01	0	0.56
	安曇川町北船木	8	0	0	0	0	0	0
	新旭町北畑	33	27	0.08	0	0.08	0	0.16

畦畔の斑点米カメムシ類発生量は捕虫網10回振り調査、-は畦畔除草されていたことを示す。  
 本田の斑点米カメムシ類発生量は捕虫網50回振り調査、-は出穂していなかったことを示す。  
 斑点米被害率はランダムにサンプリングした100穂の全粒から求めた値。なお各斑点米被害率の値は四捨五入をしているため、それらの合計が、合計欄の値と合致しない場合がある。

d 水稻病虫害発生量調査定点配置図（36か所）





## オ 初発見月日と初発見場所

病害名	初発見月日	初発見場所
葉いもち(置苗)	6/2	近江八幡市島町
葉いもち	6/24	近江八幡市島町
穂いもち	8/3	東近江市五個荘平阪町
紋 枯 病	6/17	東近江市五個荘平阪町
白 葉 枯 病	8/4	東近江市きぬがさ町
ば か 苗 病	6/3	東近江市布施町
もみ 枯 細菌 病	9/1	大津市大石富川町
ごま 葉 枯 病	8/19	竜王町小口
縞 葉 枯 病	7/1	野洲市北
黄 萎 病	-	-
稲 こう じ 病	8/17	東近江市鯉江町

害虫名	初発見月日	初発見場所
ニ カ メ イ ガ	4/29	高島市今津町日置前 (A予察灯)
	6/3	多賀町土田 (L)
セ ジ ロ ウ ン カ	6/20	近江八幡市安土町大中 (A予察灯)
ト ビ イ ロ ウ ン カ	7/26	守山市矢島町 (A予察灯)
ヒ メ ト ビ ウ ン カ	4/6	近江八幡市野村町 (Aすくい取り)
ツ マ グ ロ ヨ コ バ イ	4/6	彦根市普光寺町 (Aすくい取り)
イ ネ ド ロ オ イ ム シ	6/3	長浜市鳥羽上町 (L)
イ ネ ク ロ カ メ ム シ	6/10	近江八幡市安土町下豊浦 (A)
ホ ソ ハ リ カ メ ム シ	6/3	長浜市難波町 (A予察灯)
ク モ ヘ リ カ メ ム シ	6/29	大津市和邇南浜 (Aすくい取り)
ト ゲ シ ラ ホ シ カ メ ム シ	6/29	湖南市岩根 (Aすくい取り)
ア カ ス ジ カ ス ミ カ メ	5/19	大津市里 (A予察灯)
ア カ ヒ ゲ ホ ソ ミ ド リ カ ス ミ カ メ	6/4	近江八幡市安土町大中 (A予察灯)
イ ネ カ メ ム シ	6/28	大津市里 (A予察灯)
コ バ ネ ヒ ヨ ウ タ ン ナ ガ カ メ ム シ	-	-
イ チ モ ン ジ セ リ	6/16	草津市下笠町 (L)
フ タ オ ビ コ ヤ ガ	5/1	長浜市難波町 (A予察灯)
コ ブ ノ メ イ ガ	7/7	近江八幡市安土町大中 (L)
イ ネ ミ ズ ゾ ウ ム シ	5/1	高島市今津町日置前 (A予察灯)
コ バ ネ イ ナ ゴ	5/25	東近江市五個荘平阪町 (L)
ス ク ミ リ ン ゴ ガ イ	5/12	野洲市小南 (A)

注：初発見場所（ ）内 A：成虫、L：幼虫

## カ 程度別発生面積と防除面積

作物名	栽培面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)					発生面積率 (%)	被害面積率 (%)	防除面積 (ha)	
			甚	多	中	少	計			実防除	延防除
イ ネ	32,400	葉いもち	0	0	700	7000	7700	23.8	2.2	14000	14000
		穂いもち	2	10	388	22000	22400	69.1	1.2	8000	8500
		紋 枯 病	0	700	3000	27500	31200	96.3	11.4	2400	2400
		白 葉 枯 病	0	0	0	400	400	1.2	0.0	6000	6000
		ば か 苗 病	0	0	0	800	800	2.5	0.0	7500	7500
		もみ 枯 細菌 病	0	0	0	2	2	0.0	0.0	1000	1000
		ごま 葉 枯 病	0	0	0	2000	2000	6.2	0.0	1000	1000
		縞 葉 枯 病	0	0	0	5000	5000	15.4	0.0	22000	23000
		黄 萎 病	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0	0
		稲 こう じ 病	0	0	0	1000	1000	3.1	0.0	1000	1000
		ニ カ メ イ ガ I	0	50	500	12000	12550	38.7	1.7	13000	13000
		ニ カ メ イ ガ II	0	0	300	10000	10300	31.8	0.9	7000	7000
		セ ジ ロ ウ ン カ	0	0	100	15000	15100	46.6	0.3	22000	23000
		ト ビ イ ロ ウ ン カ	10	0	50	7000	7060	21.8	0.2	22000	23000
		ヒ メ ト ビ ウ ン カ	0	50	100	13000	13150	40.6	0.5	22000	23000
		ツ マ グ ロ ヨ コ バ イ	0	0	50	13000	13050	40.3	0.2	22000	23000
イ ネ ド ロ オ イ ム シ	0	0	200	8000	8200	25.3	0.6	14000	14000		
斑点米カメムシ類	0	50	1000	15000	16050	49.5	3.2	22000	23000		
イ ネ ク ロ カ メ ム シ	0	0	0	700	700	2.2	0.0	4000	4000		
イ チ モ ン ジ セ リ	0	0	0	1000	1000	3.1	0.0	3000	3000		
フ タ オ ビ コ ヤ ガ	0	0	0	3000	3000	9.3	0.0	9000	9000		
コ ブ ノ メ イ ガ	50	300	1500	25000	26850	82.9	5.7	500	500		
イ ネ ミ ズ ゾ ウ ム シ	0	100	300	22500	22900	70.7	1.2	14000	14000		
コ バ ネ イ ナ ゴ	0	0	10	26000	26010	80.3	0.0	6000	6000		
ス ク ミ リ ン ゴ ガ イ	0	10	10	15	35	0.1	0.1	19	19		

ニカメイガ I、IIは第1世代、第2世代を指す

被害面積率 = 甚～中発生面積 / 栽培面積 × 100

## (2) ムギ（令和元年秋播き）

### ア 生育概況

10月中旬～下旬にまとまった降雨があり、早播きされたほ場は少なかった。11月に入ってから降水量が少なく、ほ場準備や播種作業は順調に進み、出芽・苗立ちは良好であった。11月上旬～3月にかけて気温が高く推移したことから、全般的に生育は進み、草丈は高く、茎数はかなり多く推移した。3月中旬の低温により、一部で凍霜害による不稔の被害が見られた。出穂期は平年より早くなった。4月の平均気温が低かったことから開花までの日数は4～9日長くなり、開花期は平年より3～7日早まった。成熟期は、生育の早い大麦で平年より6日程度早く、小麦では2日程度早くなった。小麦では、穂数が平年に比べ多かったことから収量は平年並～やや多かったが、品質は登熟期が寡照であったことや収穫期の降雨により、平年並～やや劣った。凍霜害の被害や倒伏を受けたほ場では一部減収したところもあった。大麦では、収量、品質ともにやや良となった。早播きによる茎数過多や凍霜害を受けた一部ほ場では、黒節病の発生が見られた。

### イ 発生状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
コムギ	うどんこ病	遅	平年並	ほ場での初発確認は5月26日で、発生時期は遅く、発生地域も一部に限られた。	県内で作付される品種の中には、うどんこ病への耐病性が、やや弱い品種もあるが、発生はほとんど認められなかった。赤かび病防除の薬剤にうどんこ病への防除効果があるため、発生が抑制されていると考えられる。	赤かび病の防除時に同時防除の実施。
	赤かび病	平年並	平年並	ほ場での初発確認は5月12日で、発生時期は平年並であった。全県的に発生が見られ、発生量は平年並となった。	開花始めの4月中旬の降水量が多く、発生の助長が懸念されたが、4月下旬～5月上旬の降水量が少なく推移し、発生量は平年並となった。	開花期頃から1～2回の薬剤防除。暖冬の影響により開花期が早まることが予想され、防除適期も早まることから、3月17日に防除情報を発表した。
	黒節病	早	やや多	ほ場での初発確認は2月26日で、発生時期は早かった。全県的に発生が認められ、発生量は、やや多くなった。	前年の10月中旬～下旬の降水が多かったため、早播きされたほ場は少なかった。一方で、11月から3月の気温が高く、生育が旺盛となったため、発病が助長され、発生時期は早く、発生量は、やや多くなった。	排水対策の徹底や適期播種などによる耕種的防除。
オオムギ	うどんこ病	-	少	ほ場での発生は見られなかった。	赤かび病防除の薬剤にうどんこ病への防除効果があるため、発生が抑制されていると考えられる。	赤かび病の防除時に同時防除の実施。
	赤かび病	平年並	平年並	ほ場での初発確認は5月11日で、発生時期は平年並であった。全県的に発生が見られ、発生量は平年並となった。	開花始めの4月中旬の降水量が多く、発生の助長が懸念されたが、開花期後1週間にあたる4月下旬～5月上旬の降水量は少なく推移し、発生量は平年並となった。	開花期頃から2回の薬剤防除。暖冬の影響により開花期が早まることが予想され、防除適期も早まることから、3月17日に防除情報を発表した。
	黒節病	早	やや多	ほ場での初発確認は2月25日で、発生時期は早かった。発生ほ場率は高く、全県的に発生が認められ、発生量は、やや多くなった。	前年の10月中旬～下旬の降水が多かったため、早播きされたほ場は少なかった。一方で、11月から3月の気温が高く、生育が旺盛となったため、発生時期は早く、発生量は、やや多くなった。	排水対策の徹底や適期播種などによる耕種的防除。

## ウ 発生量調査

### (ア) オオムギ

調査地点名	小さび病		うどんこ病		赤かび病		黒節病		縞萎縮病
	発生 ほ場率(%)	発生 面積率(%)	発生 ほ場率(%)	発生 面積率(%)	発生 ほ場率(%)	平均 発病度	発生 ほ場率(%)	平均発病 茎率(%)	発病 面積率(%)
大津市 関津	0	0	0	0	40	0.3	40	0.4	0
近江八幡市 長田町	0	0	0	0	0	0	100	6.4	0
竜王町 岡屋	0	0	0	0	60	0.4	100	2.8	0
東近江市 芝原町	0	0	0	0	20	0.1	100	1.2	0
長浜市 高月町柳野中	0	0	0	0	20	0.1	100	2	0
長浜市 湖北町山本	0	0	0	0	20	0.1	80	1	0
長浜市 口分田町	0	0	0	0	0	0	100	2.2	0
高島市 今津町上弘部	0	0	0	0	100	0.7	100	1.6	0
高島市 新旭町薬園	0	0	0	0	0	0	100	3	0
全 県 平 均	0	0	0	0	28.9	0.2	91.1	2.4	0

※調査品種

大津市関津、竜王町岡屋、東近江市芝原町、長浜市高月町柳野中、長浜市湖北町山本、長浜市口分田町、高島市今津町上弘部、高島市新旭町薬園は「ファイバースノウ」  
近江八幡市長田町は「サチホゴールド」

### (イ) コムギ

調査地点名	小さび病		うどんこ病		赤かび病		黒節病		縞萎縮病
	発生 ほ場率(%)	発生 面積率(%)	発生 ほ場率(%)	発生 面積率(%)	発生 ほ場率(%)	平均 発病度	発生 ほ場率(%)	平均発病 茎率(%)	発病 面積率(%)
草津市 下笠町	60	0.1	0	0	20	0.1	40	0.6	0
守山市 木浜町	100	17.7	0	0	0	0	40	0.4	1
守山市 矢島町	100	9.7	0	0	0	0	40	0.4	0
栗東市 上砥山	60	0.3	0	0	0	0	40	0.4	10
野洲市 北	100	4.7	0	0	0	0	100	1.4	0
野洲市 上屋	60	0.3	0	0	0	0	100	1.2	1
野洲市 木部	100	6.3	0	0	20	0.1	40	0.4	0
湖南市 岩根	20	0.0	0	0	20	0.1	20	0.2	0
甲賀市 水口町酒人	100	0.7	0	0	20	0.1	100	2.4	20
甲賀市 甲南町新治	40	0.1	0	0	20	0.1	20	0.2	0
近江八幡市 野村町	0	0	0	0	100	0.7	0	0	0
近江八幡市 安土町上豊浦	40	0.2	0	0	20	0.1	100	1.4	10
近江八幡市 御所内町	20	0.1	20	0.0	40	0.3	100	4.2	0
日野町 十禅師	60	0.7	0	0	0	0	100	18.2	0
竜王町 小口	20	0.0	0	0	20	0.1	80	1.2	0
東近江市 横山町	40	0.1	0	0	0	0	100	1.0	0
東近江市 上羽田町	40	0.4	0	0	0	0	100	1.8	25
東近江市 福堂町	0	0	0	0	0	0	0	0	50
東近江市 市原野町	100	5.5	0	0	0	0	100	7.0	25
東近江市 横溝町	60	0.6	0	0	0	0	100	18.0	0
彦根市 甘呂町	0	0	0	0	40	0.3	100	4.4	0
彦根市 普光寺	0	0	0	0	60	0.4	100	6.0	0
愛荘町 東円堂	0	0	0	0	40	0.3	100	2.6	0
豊郷町 八町	0	0	0	0	20	0.1	100	2.6	0
甲良町 法養寺	0	0	0	0	20	0.1	100	4.2	0
多賀町 敏満寺	0	0	0	0	40	0.3	100	10.4	0
米原市 世継	0	0	0	0	0	0	100	4.2	30
米原市 本市場	0	0	0	0	0	0	60	0.6	0
米原市 上多良	0	0	0	0	0	0	100	4.2	0
長浜市 本庄町	0	0	0	0	0	0	100	1.6	0
全 県 平 均	37.3	1.6	1	0.0	16.7	0.1	76.0	3.4	5.7

※調査品種

守山市矢島町は「シロガネコムギ」  
近江八幡市野村町は「ゆめちから」  
近江八幡市御所内町は「びわほなみ」  
東近江市横山町、彦根市甘呂町、彦根市普光寺、愛荘町東円堂、豊郷町八町、  
甲良町法養寺、多賀町敏満寺は「ふくさやか」  
その他の地点は全て「農林61号」

## エ 発生状況一覧表

病害虫名	オオムギ		コムギ	
	初発見月日	初発見場所	初発見月日	初発見場所
さび病類	—	—	5/11	東近江市市原野町
うどんこ病	—	—	5/26	近江八幡市御所内町
赤かび病	5/11	高島市今津町下弘部	5/12	愛荘町東円堂
黒節病	2/25	長浜市口分田町	2/26	竜王町小口
株腐病	2/26	近江八幡市安土町西老蘇	2/26	東近江市上羽田町
縞萎縮病	—	—	2/21	東近江市新宮町
アブラムシ類	2/26	竜王町岡屋	1/29	近江八幡市安土町大中
ハモグリバエ類	4/23	近江八幡市安土町西老蘇	4/23	近江八幡市馬淵町
ムギダニ	3/9	高島市新旭町藁園	—	—

## オ 発生および被害面積

作物名	栽培面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)					発生面積率 (%)	被害面積率 (%)	防除面積 (ha)	
			甚	多	中	少	計			実防除	延防除
オオムギ	1510	さび病類	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		うどんこ病	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		赤かび病	0	0	0	440	440	29.1	0	1510	2500
		黒節病	0	0	100	1200	1300	86.1	6.6	0	0
コムギ	6160	さび病類	0	0	0	2300	2300	37.3	0	3000	3500
		うどんこ病	0	0	0	40	40	0	0	6160	8500
		赤かび病	0	0	0	1000	1000	16.2	0	6160	8500
		黒節病	0	400	600	3700	4700	76.3	16.2	0	0

被害面積率 = (程度別発生面積の甚～中の和) / (栽培面積)

### (3) ジャガイモ

#### ア 発生状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
ジャガイモ	疫病	-	-	ほ場での発生は見られなかった。	5月の降水量は少なく、発病に好適でなかったため、発病が認められなかった。また、前年の発生が少なかったことから、残存菌密度が少なくなっていると考えられる。	発生初期に防除の実施。
	アブラムシ類	平年並	やや少	ほ場での初発確認は5月12日で、発生時期は平年並であった。フェロモントラップでは5月第1～2半旬にかけて誘殺数のピークをむかえたが、それ以後は低く推移し、ほ場での発生量も、やや少なくなった。	4月下旬から5月上旬にかけて気温が高かったことで、発生時期が早まり、黄色水盤での誘殺数は5月第1～2半旬に急増した。6月以降、発生量は低く推移し、8月の高温の影響で増殖は抑制された。	定植時の粒剤施用など、多くは発生初期の防除。

#### イ 発生量

ジャガイモ	病害虫名		疫病	アブラムシ類
			発病度	寄生度
	調査地点		6/16～17	6/16～17
	草津市	下笠町	0	0
	野洲市	小南	0	0
	湖南市	菩提寺	0	0
	近江八幡市	安土町	0	0
	彦根市	松原町	0	0
	甲良町	下之郷	0	0
	米原市	世継	0	1
	高島市	今津町	0	0

#### ウ 発生状況一覧表

作物名	病害虫名	初発見月日	初発見場所
ジャガイモ	疫病	-	-
	アブラムシ類	5月12日	野洲市小南

#### エ 発生および被害面積

作物名	栽培面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)					発生面積率 (%)	被害面積率 (%)	防除面積 (ha)	
			甚	多	中	少	計			実防除	延防除
ジャガイモ	27	疫病	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		アブラムシ類	0	0	0	2	2	7.4	0	1	1

※被害面積率＝(程度別発生面積甚～中の和) / (栽培面積)

## (4) ダイズ

### ア 生育概況

6月10日の梅雨入り後、6月第3～4半旬に断続的な降雨があり、播種（定植）作業は昨年より遅く6月第5半旬から始まった。しかし、6月第6半旬から再び降雨が続き、梅雨明けが平年より11日遅い8月1日となり、多くのほ場で播種作業が8月上旬に遅れた。

6月に播種されたほ場では、梅雨期間の降雨による出芽不良や7月の低温寡照による生育の遅れが見られ、中耕培土の不十分なほ場が目立った。8月上旬～中旬の開花期には少雨となり、一部のほ場で干ばつによる落花、落莢が発生した。播種が遅れたほ場では、主茎長が短く、生育量が小さく、播種時期により生育の差が大きくなった。

8月第4～6半旬は日照時間が多く、周期的に降雨があり、播種が遅れたほ場の開花、着莢は良好であった。台風の接近がなく生育は順調に進んだが、8月下旬ごろから雑草が多いほ場が散見された。9月の気温は全般的に平年並であったが、日照時間、降水量が少なく、子実の肥大は緩慢であった。病害虫の発生では、ハスモンヨトウによる被害が多発し、子実肥大を阻害する原因となった。また、一部のほ場でカメムシ類やべと病の発生が見られた。

10月中旬から葉の黄化が始まり、着莢が少ないほ場では青立ちの発生が見られた。作柄は、播種の遅れに加え、7月の低温寡照、8月の少雨により着莢数が少なく、小粒傾向となり、また、病害虫による被害も見られ、収量は平年を下回った。

### イ 発生状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
	べと病	やや早	やや少	ほ場での初発確認は7月30日で、発生時期は、やや早く、発生量は、やや少なかった。	7月の降水量が多かったことから、発生が助長され、初発生が早まった。その後、8月は降水が少なく、気温が高かったため、病原菌の活動が抑制され、発生量は、やや少なかった。	本病への薬剤防除は未実施。
	葉焼病	やや遅	少	ほ場での初発確認は8月19日で、発生時期は、やや遅く、発生量は少なかった。	影響を受ける台風の襲来がなかったことと、前年の発生量が少なく、残存する細菌密度も低かったことから、発生量は少なかった。	本病への薬剤防除は未実施。
	ハスモンヨトウ	遅	多	フェロモントラップへの誘殺数は7月第1半旬に急増し、それ以降も断続的な飛来がみられ、9月第1～2半旬にかけて再び飛来数が急増した。ほ場での初発確認は8月13日で、発生時期は遅かったが、断続的な飛来の影響もあり8月～9月の発生量は多くなった。	8月が高温で推移したことで、本種の増殖に好適な条件となったため多発した。	8月下旬以降、1～2回の薬剤防除が実施されている。常発地では3～4回防除されることもある。本年は、多発生が懸念されたため、9月15日付で注意報を発信した。
ダイズ	タバコガ類	遅	やや少	オオタバコガのフェロモントラップへの誘殺数は、7月、8月は平年並みで推移したが、9月第1～2半旬にかけて急増した。ほ場でのタバコガ類の初発確認は8月17日で、発生時期は遅く、発生量は、やや少なかった。	8月が高温で推移し、本種の増殖に好適な条件となったが、ほ場においては大きな被害は確認されなかった。	ハスモンヨトウと同防除されることが多い。
	フタスジヒメハムシ	早	やや少	ほ場での初発確認は6月26日で、発生時期は早く、発生量は、やや少なかった。	播種時期の早いほ場では、発生時期が早かった。種子塗抹処理剤の利用が進んでおり、初期の発生が抑制された。	種子塗抹処理剤により初期防除されている。近年、この剤の残効が切れてからの被害が一部地域で発生していることから、結莢期にも防除が実施されている。
	カメムシ類	早	やや少	ほ場での初発確認は7月28日で、発生時期は早く、発生量は、やや多くなった。	8月以降の気温が高く推移したことから、カメムシの増殖に好適となり、発生量が、やや多くなった。	通常、開花期以降に薬剤散布により防除されるが、近年、ハスモンヨトウの発生量が多く、鱗翅目害虫に対する防除を実施した場合、カメムシの防除が省略される場合がある。
	アブラムシ類	早	やや多	ほ場での初発確認は8月25日で、発生時期は遅く、発生量は少なかった。	黄色水盤での誘殺数は、8月以降は、少なく推移した。また、8月から9月中旬にかけて気温が高く推移したことで、増殖が抑制され、発生量は少なかった。	種子塗抹処理剤による初期防除。
	ハダニ類	遅	やや少	ほ場での初発確認は8月25日で、発生時期は遅く、発生量は、やや少なかった。	梅雨明けが遅く、7月の降水量が多く推移したことで、ハダニの発生が抑制された。	通常、防除は実施されない。

## ウ 発生量調査

(8月20～25日調査、開花期)

病害虫名	べと病		葉焼病		カメムシ類	フタスジヒメハムシ	ハダニ類	ハスモンヨトウ
	発生ほ場率 (%)	発生ほ場率 (%)	虫数 (頭/a)	虫数 (頭/株)	発生株率 (%)	発生ほ場率 (%)		
大津市 牧	0	0	0	0.2	0	50		
草津市 下笠町	0	0	0	0.5	0	50		
守山市 木浜町	0	0	0	1.3	0	100		
守山市 矢島町	50	0	0	0.6	0	100		
栗東市 上砥山	0	0	0	1.1	0	100		
野洲市 上屋	0	0	0	0.6	0	100		
野洲市 木部	100	0	0	0	0	100		
湖南市 菩提寺	0	0	0.5	0.7	0	0		
甲賀市 水口町北脇	0	0	0	0	0	0		
近江八幡市 上田町	50	0	0	0	0	100		
近江八幡市 白王町	0	0	0.5	1.5	0	0		
近江八幡市 安土町大中	100	0	0	0.1	0	50		
日野町 十禅師	0	0	0	0.6	0	0		
竜王町 岡屋	0	100	0	0.9	0	100		
東近江市 市原野町	0	0	0	0	0	0		
東近江市 川合町	0	0	1.0	0.6	0	0		
東近江市 福堂町	0	0	0	0	0	100		
彦根市 甘呂町	50	0	0	0.1	0	0		
愛荘町 東円堂	0	0	0	0.1	0	100		
豊郷町 八町	0	0	0	0.1	0	100		
甲良町 法養寺	0	0	0	0.3	0	0		
米原市 世継	0	0	0	0	0	0		
長浜市 口分田町	0	0	0	0.5	0	0		
長浜市 高月町東阿閉	0	0	0	0	0	100		
長浜市 湖北町山本	0	0	0	0	0	0		
高島市 マキノ町知内	100	0	0.0	0.2	0	0		

(9月20日調査、若莢期)

病害虫名	べと病		葉焼病		カメムシ類	ハスモンヨトウ
	発生ほ場率 (%)	平均発病度	発生ほ場率 (%)	平均発病度	虫数 (頭/a)	白変か所数 (か所/a)
大津市 牧	0	0	0	0	5.5	4.0
草津市 下笠町	100	5.0	0	0	0.5	0.5
守山市 木浜町	100	7.0	0	0	0	4.5
守山市 赤野井町	100	1.0	50	0.5	0.5	4.0
栗東市 上砥山	100	7.0	0	0	1.0	1.5
野洲市 上屋	100	6.5	0	0	0	2.5
野洲市 木部	100	3.0	0	0	1.0	1.0
湖南市 菩提寺	100	4.0	0	0	0	2.0
甲賀市 水口町北脇	100	7.0	0	0	2.5	5.0
近江八幡市 野田町	100	4.0	50	0.5	2.0	0
近江八幡市 白王町	50	1	50	1.0	0.5	1.5
近江八幡市 安土町大中	100	4.5	0	0	0.5	0.5
日野町 猫田	50	0.5	0	0	2.0	3.5
竜王町 岡屋	0	0.0	100	1.0	0	1.5
東近江市 市原野町	50	0.5	0	0	0	4.0
東近江市 南菩提寺町	100	6.0	0	0	0	1.0
東近江市 福堂町	100	12	100	8.5	0.5	2.5
彦根市 新海町	100	9.5	100	14.0	0	0
愛荘町 東円堂	100	6.0	100	6.0	0	0
豊郷町 八町	50	9.0	100	4.0	0	3.5
甲良町 法養寺	0	0	100	3.0	0	2.0
米原市 世継	100	17	100	2.5	0.5	3.5
長浜市 口分田町	0	0	100	17.5	0	4.0
長浜市 高月町東阿閉	100	23	100	6.0	0	2.0
長浜市 湖北町山本	0	0.0	100	17.0	0	10.0
高島市 マキノ町知内	0	0	0	0	0.5	3.0

## エ 発生状況一覧表

病虫害名	初発見月日	初発見場所
べと病	7月30日	近江八幡市西生来町
葉焼病	8月19日	竜王町岡屋
茎疫病	8月19日	東近江市川合町
白絹病	9月23日	湖南市菩提寺

病虫害名	初発見月日	初発見場所
アブラムシ類	8月25日	高島市マキノ町知内
ハダニ類	8月25日	近江八幡市西生来町
ハスモンヨトウ	8月13日	近江八幡市安土町大中
タバコガ類	8月17日	東近江市市原野町
カメムシ類	7月28日	愛荘町東円堂
フタスジヒメハムシ	6月26日	高島市マキノ町知内
コガネムシ類	7月28日	竜王町岡屋
サヤムシガ類	7月15日	愛荘町東円堂

## オ 発生および被害面積

作物名	栽培面積 (ha)	病虫害名	程度別発生面積 (ha)					発生 面積率 (%)	被害 面積率 (%)	防除面積(ha)	
			甚	多	中	少	計			実防除	延防除
ダイズ	6,690	べと病	0	0	0	1,500	1,500	22.4	0	0	0
		葉焼病	0	0	0	1,000	1,000	14.9	0	0	0
		アブラムシ類	0	0	0	20	20	0.3	0	3,500	3,500
		ハスモンヨトウ	100	100	200	5,000	5,400	80.7	6.0	3,000	4,000
		食葉性鱗翅目幼虫	0	0	10	3,500	3,500	52.3	0.1	1,000	1,000
		ハダニ類	0	0	0	500	500	7.5	0	10	10
		カメムシ類	0	0	20	1,300	1,320	19.7	0.3	1,500	2,000
		フタスジヒメハムシ	0	0	100	3,800	3,900	58.3	1.5	3,500	3,700

被害面積率 = (程度別発生面積・甚～中の和) / (栽培面積)



## 5 野菜（露地）病害虫発生予察事業

ナス科、ウリ科およびアブラナ科を中心として、露地野菜全般における主要病害虫を調査した。その結果に基づく病害虫発生予察情報として、予報9回および注意報1回（ハスモンヨトウ）、防除情報1回（べと病）特殊報1回（ツマジロクサヨトウ）を提供した。

### (1) 野菜

#### ア 発生状況

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
野菜全般	うどんこ病 (夏秋ナス、 夏秋キュウリ)	平年並	平年並	ほ場での初発確認は6月2日で、発生時期は平年並、発生量も平年並となった。	5月下旬から6月上旬の降水量が少なく、6月中旬の発生量は、やや多くなったが、6月中旬以降の降水量が多く推移したことや適期防除が実施されたことにより、発生量は平年並となった。	発生初期に防除の実施。
	灰色かび病 (夏秋ナス、 夏秋トマト、 夏秋キュウリ)	-	少	ほ場での発生は認められなかった。	5月の降水量は少なく、発病に好適でなかったため、発病は認められなかった。	発生初期に防除の実施。
	ハスモンヨトウ	遅	やや多	フェロモントラップへの誘殺数は7月第1半旬に急増し、それ以降も断続的な飛来がみられ、9月第1～2半旬にかけて再び飛来数が急増した。ほ場での初発確認は8月18日で発生時期は遅く、発生量は、やや多かった。	8月は高温で推移し、本種の増殖に好適な条件となり、9月にかけて断続的に飛来がみられたことから、ほ場での発生量は、やや多くなった。	主産地では定期的な薬剤防除がされている。アブラナ科野菜では、育苗時のセルトレイ灌注や、定植時の粒剤施用が実施されている。本年は、多発生が懸念されたため、9月15日付で注意報を発信した。
	オオタバコガ	遅	平年並	オオタバコガのフェロモントラップへの誘殺数は、7月、8月は平年並みで推移したが、9月第1～2半旬にかけて急増した。タバコガは平年並で推移した。ほ場での初発確認は7月3日で、発生時期は遅く、発生量は平年並であった。	オオタバコガとタバコガの7月までのフェロモントラップでの誘殺数は平年並であった。両種とも7月の集中的な降雨により、密度抑制された。	ハスモンヨトウと同時防除されることが多い。
	ヨトウガ	平年並	やや少	フェロモントラップへの誘殺数は平年並で推移したが、ほ場では発生を確認していない。	フェロモントラップでの誘殺数は平年並であり、期間をあけてわずかな虫数が確認された。発生密度が低いいため、ほ場で確認できなかった。	主産地では定期的な薬剤防除が実施されている。また、アブラナ科野菜では、育苗時のセルトレイ灌注や、定植時の粒剤施用による防除が実施されている。
	アザミウマ類	早	やや多	ほ場での初発は3月9日で、発生時期は平年より早かった。タマネギおよび夏秋ナス、夏秋キュウリの一部で発生の多いほ場があったが、8月以降密度は低下した。	2～3月にかけて気温が高く推移したことから、初発が早まった。その後、5月の気温が高かったことから増殖に好適となり急増した。7月以降は多雨により、密度抑制された。	発生に応じ初期の薬剤防除が実施されている。
	コナジラミ類 (夏秋トマト、 夏秋キュウリ)	平年並	やや少	ほ場での初発確認は6月16日で発生時期は平年並、発生量は、やや少なかった。	通常露地野菜では、問題になることが少なく、施設果菜類や、廃棄場所のトマト等からの飛来により発生する。	発生に応じ薬剤防除がされるが、微小害虫であることから発見・防除に遅れが生じることがある。
	アブラムシ類	平年並	やや少	ほ場での初発確認は2月26日で、発生時期は早かった。フェロモントラップでは5月第1～2半旬にかけて誘殺数のピークをむかえたが、それ以後は低く推移し、ほ場での発生量も、やや少なくなった。	4月下旬から5月上旬にかけて気温が高かったことで、発生時期が早まり、黄色水盤での誘殺数は5月第1～2半旬に急増した。6月以降、発生量は低く推移し、8月の高温の影響で増殖は抑制された。	定植時の粒剤施用など、多くは発生初期の防除。
	ハダニ類	遅	平年並	ほ場での初発確認は6月16日で、発生時期は、遅く、発生量は平年並であった。	6～7月にかけて降水量が多く推移したことから、ハダニの増殖に不適となり、密度抑制された。	発生に応じ薬剤防除がされるが、微小害虫であることから発見・防除に遅れが生じやすい。なお、一部地域では薬剤感受性の低下が認められている。
	ナス科野菜	疫病 (夏秋トマト)	-	少	ほ場での発生は見られなかった。	5月の降水量は少なく、発病に好適でなかったため、発病が認められなかった。また、前年の発生が少なかったことから、残存菌密度が少なくなっていると考えられる。
葉かび病 (夏秋トマト)		-	-	ほ場での発生は見られなかった。	前年に発生が確認されず、残存菌密度が少なくなっていると考えられる。	発生初期に防除の実施。
ニジュウヤ ホシテントウ類		平年並	平年並	ほ場での初発確認は5月12日で、発生時期、発生量ともに平年並であった。	前年の発生量は平年並で、越冬量も平年並であった。	食害が顕著になった場合のみ防除されている。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
アブラナ科 野菜	軟腐病	-	少	ほ場での発生は認められなかった。	8月中旬の定植以降、台風などの襲来がなかったため、発病が起らなかった。	発生初期に防除の実施。
	黒腐病 (冬キャベツ)	-	少	ほ場での発生は認められなかった。	8月中旬の定植以降、台風などの襲来がなかったこと、抵抗性品種の普及が進んだことから、発病が起らなかったと考えられる。	発生初期に防除の実施。
	菌核病 (冬キャベツ)	-	少	ほ場での発生は認められなかった。	前年の発生は少なく、9月の気温は高く推移したことから、発病が抑制された。	発生初期に防除の実施。
	ネキリムシ類	早	やや少	フェロモントラップでの誘殺時期は早く、発生量は、やや少なかった。	6月～7月にかけて降水量が多く推移したことにより、増殖が抑制された。	播種または定植時の粒剤等の防除。
	ハイマダラメイガ	遅	平年並	ほ場での初発確認は9月23日と遅く、発生時期は遅く、発生量は平年並であった。	定植前にセルトレイ灌注や粒剤施用されている場合も多く、無防除のほ場との被害の差は顕著となる。	育苗時のセルトレイ灌注や、定植時の粒剤施用の実施。
	コナガ	やや遅	やや少	ほ場での初発確認は5月12日で、発生時期は、やや遅く、発生量は、やや少なかった。また、フェロモントラップでの誘殺数は少なく推移した。	近年発生量が増加傾向にあるが、春の発生量が、やや少なく、9月以降の発生も、やや少なかった。	育苗時のセルトレイ灌注や、定植時の粒剤施用の実施。植付け後は発生初期の防除。なお、一部地域では薬剤感受性の低下が認められている。
	モンシロチョウ	平年並	平年並	ほ場での初発確認は5月12日で、発生時期は平年並、発生量は平年並であった。	定植前にセルトレイ灌注や粒剤施用されている場合も多く、無防除のほ場との被害の差は顕著となる。	育苗時のセルトレイ灌注や、定植時の粒剤施用の実施。植付け後は発生初期の防除。
キュウリ	べと病	平年並	平年並	ほ場での初発確認は6月2日で、発生時期は平年並、発生量は平年並となった。	5月から6月上旬にかけて、降水日数が少なかったことから、6月中旬までの発生圃場率は、やや少なかったが、6月中旬以降の降水量は多く、発生量は平年並となった。	発生初期に防除の実施。
	褐斑病	-	-	ほ場での発生は認められなかった。	前年に発生は認められず、5月から6月上旬にかけて降水日数が少なかったことから、発病が抑制された。	発生初期に防除の実施。
タマネギ	さび病	-	少	ほ場での発生は認められなかった。	前年に発生は認められず、5月から6月上旬にかけて降水日数が少なかったことから、発病が抑制された。	発生初期に防除の実施。
	べと病	-	-	ほ場での初発確認は2月25日となった。その後、二次感染により全域で発生が認められた。	暖冬の影響により、越冬罹病株の発病が早く認められた。また、3月中旬の発生量は、やや多かったが、3月中旬から4月上旬の降水量が少なく推移したため、感染は拡大しなかった。	3月の予防防除と発生初期に防除されている。暖冬の影響により、越冬罹病株の発生が早く、その後の二次感染による発生拡大が懸念されたことから、2月27日に防除情報を発表した。
	白色疫病	-	-	ほ場での初発確認は2月26日で、一部地域で発生が認められた。	前年に発生は認められず、2月～3月の降水量は平年並で推移したため、発生は一部に留まった。	発生初期に防除の実施。
ネギ	さび病	平年並	少	ほ場での初発確認は4月15日で平年並、一部地域で発生が認められたが、発生量は少なかった。	前年の発生量は少なく、4月下旬～5月中旬までの降水量は少なかったため、発生量は少なくなった。	発生初期に防除の実施。
	黒斑病	-	-	ほ場での発生は認められなかった。	前年の発生量は少なく、9月の降水量が少なく推移したため、発生が抑制された。	発生初期に防除の実施。
	べと病	-	-	ほ場での発生は認められなかった。	前年の発生が少なかったことによる菌密度の低下と、予防的な薬剤散布により発病が抑制された。	発生初期に防除の実施。
	シロイチモジヨトウ	-	やや少	ほ場での発生を認めなかった。	フェロモントラップには誘殺されるが、本県でのほ場での発生は通常ほば見られない。さらに、ハスモンヨトウなど他害虫の防除の際に同時防除されている。	発生時の薬剤散布。

# イ 予察灯、フェロモントラップ、黄色水盤による調査

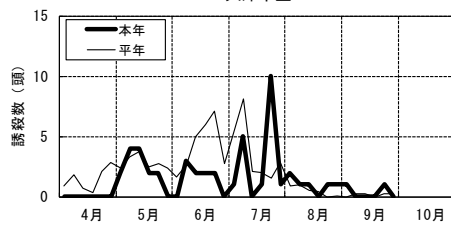
## (ア) 予察灯による調査

### コナガ半旬別誘殺状況（予察灯）

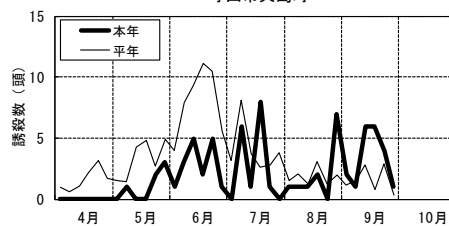
(頭)

月 半旬	大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4 1	0	0	0.9	0.9	0	0	1.0	1.0	0	0	1.8	1.8	0	0	0	0	0	0	0	0
4 2	0	0	1.8	2.7	0	0	0.6	1.6	0	0	2.5	4.3	0	0	0.2	0.2	0	0	0.2	0.2
4 3	0	0	0.8	3.4	0	0	1.1	2.7	0	0	2.6	6.9	0	0	0.2	0.4	0	0	0.2	0.3
4 4	0	0	0.4	3.8	0	0	2.2	4.9	4	4	3.1	10.0	0	0	0.5	0.9	0	0	1.0	1.3
4 5	0	0	2.1	5.9	0	0	3.2	8.1	3	7	3.2	13.2	0	0	0.8	1.7	2	2	2.0	3.3
4 6	0	0	2.9	8.8	0	0	1.7	9.8	3	10	5.0	18.2	0	0	0.1	1.8	0	0	2.5	3.8
5 1	2	2	2.3	11.1	0	0	1.5	11.3	6	16	4.0	22.2	0	0	0.4	2.2	4	6	0.8	4.7
5 2	4	6	3.3	14.5	1	1	1.4	12.7	8	24	6.1	28.3	0	0	0.4	2.6	0	6	0.7	5.3
5 3	4	10	3.8	18.2	0	1	4.3	17.0	8	32	8.2	36.5	0	0	0.5	3.1	0	6	3.0	8.3
5 4	2	12	2.4	20.7	0	1	4.8	21.8	5	37	4.9	41.4	0	0	0.8	3.9	3	9	1.3	9.6
5 5	2	14	2.8	23.5	2	3	2.7	24.5	13	50	4.9	46.3	0	0	1.2	5.1	0	9	2.0	11.6
5 6	0	14	2.3	25.8	3	6	4.9	29.4	7	57	5.1	51.4	0	0	0.6	5.7	0	9	1.6	13.2
6 1	0	14	1.7	27.5	1	7	4.0	33.4	5	62	3.8	55.2	0	0	0.3	6.0	0	9	0.9	14.0
6 2	3	17	2.7	30.1	3	10	7.9	41.3	2	64	4.8	60.0	0	0	0.9	6.9	0	9	1.3	15.3
6 3	2	19	5.0	35.1	5	15	9.3	50.6	7	71	7.4	67.4	0	0	1.0	7.9	6	15	1.8	17.0
6 4	2	21	6.0	41.1	2	17	11.1	61.7	9	80	10.5	77.9	0	0	1.7	9.5	5	20	3.4	20.4
6 5	2	23	7.1	48.2	5	22	10.5	72.2	9	89	18.5	96.4	0	0	1.7	11.2	7	27	4.6	25.0
6 6	0	23	2.8	51.0	1	23	5.6	77.8	15	104	16.2	112.6	0	0	1.4	12.6	6	33	5.4	30.4
7 1	1	24	5.2	56.2	0	23	3.2	81.0	8	112	15.1	127.7	0	0	1.5	14.1	6	39	2.9	33.3
7 2	5	29	8.1	64.3	6	29	8.1	89.1	3	115	20.5	148.2	1	1	1.4	15.5	0	39	3.3	36.5
7 3	0	29	2.1	66.5	1	30	3.7	92.8	4	119	9.4	157.6	0	1	0.2	15.7	0	39	1.3	37.8
7 4	1	30	2.0	68.5	8	38	2.6	95.4	17	136	7.7	165.3	0	1	0.6	16.3	2	41	2.8	40.5
7 5	10	40	1.5	70.0	1	39	2.8	98.2	54	190	8.4	173.7	0	1	0.3	16.6	3	44	2.1	42.7
7 6	1	41	2.8	72.8	0	39	3.8	102.0	0	190	8.1	181.8	0	1	0.8	17.4	0	44	1.5	44.2
8 1	2	43	0.9	73.6	1	40	1.5	103.5	17	207	4.3	186.1	2	3	0	17.4	4	48	0.9	45.0
8 2	1	44	1.0	74.6	1	41	2.1	105.6	6	213	3.1	189.2	0	3	0.3	17.7	6	54	1.3	46.3
8 3	1	45	0.6	75.2	1	42	1.3	106.9	7	220	3.2	192.4	0	3	0.5	18.2	1	55	2.1	48.4
8 4	0	45	0.4	75.6	2	44	3.1	110.0	14	234	1.9	194.3	0	3	0.1	18.3	0	55	0.3	48.7
8 5	1	46	0	75.6	0	44	1.3	111.3	17	251	0.7	195.0	0	3	0.3	18.6	1	56	0.5	49.2
8 6	1	47	0.1	75.7	7	51	2.0	113.3	7	258	0.6	195.6	0	3	0.1	18.7	0	56	0.9	50.0
9 1	1	48	0	75.7	2	53	1.2	114.5	9	267	0.2	195.8	0	3	0	18.7	0	56	0.5	50.5
9 2	0	48	0.2	75.9	1	54	1.5	116.0	4	271	0.8	196.6	0	3	0.2	18.9	0	56	0.1	50.7
9 3	0	48	0.2	76.1	6	60	2.8	118.8	7	278	1.0	197.6	0	3	0	18.9	2	58	0.6	51.3
9 4	0	48	0	76.1	6	66	0.8	119.6	4	282	0.6	198.2	0	3	0	18.9	0	58	0.4	51.7
9 5	1	49	0.2	76.4	4	70	2.9	122.4	3	285	0.7	198.9	0	3	0	18.9	0	58	0.4	52.0
9 6	0	49	0.2	76.6	1	71	0.3	122.7	2	287	0.5	199.4	0	3	0	18.9	0	58	0.3	52.3
10 1									1	288	0.1	199.5								
10 2									1	289	0.9	200.4								
10 3									1	290	0.6	201.0								
10 4									1	291	0.9	201.9								
10 5									3	294	0.5	202.4								
10 6									6	300	1.0	203.4								

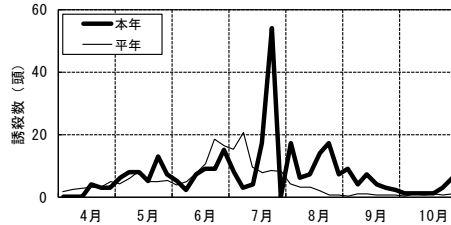
大津市里



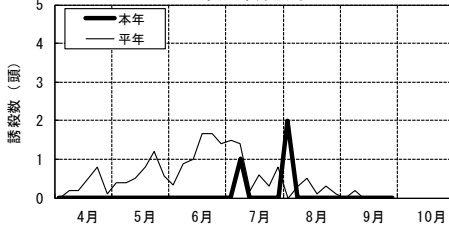
守山市矢島町



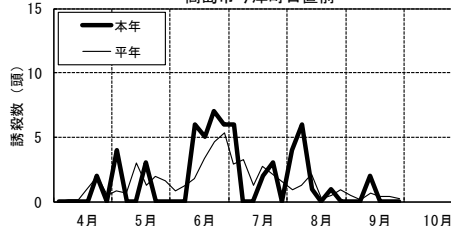
近江八幡市安土町大中



長浜市難波町



高島市今津町日置前



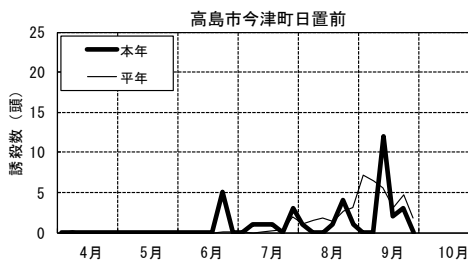
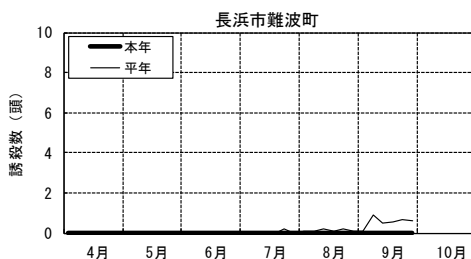
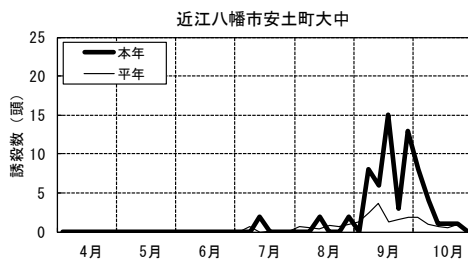
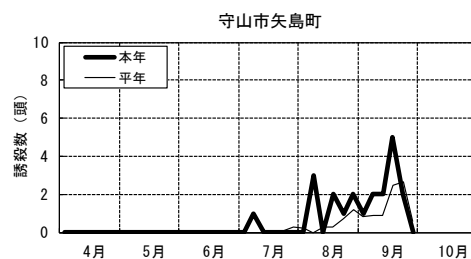
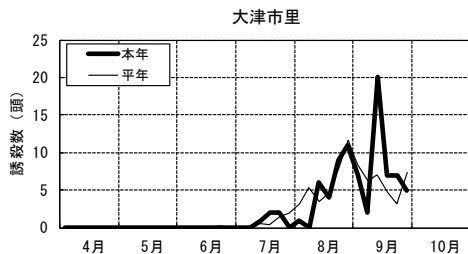
○平年値は基本的に過去10年間（H2～R1）の平均値であるが、高島市の予察灯では、移設により10年分のデータがなく、算出方法については以下のとおりにした。

・高島市今津町日置前の平年値はH24～R1の8年間の平均値

# シロオビノメイガ半旬別誘殺状況

(頭)

月	半旬	大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前				
		本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0.2	
4	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	
4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	
4	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	
4	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	
5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	
5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	
5	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	
5	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	
5	5	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	
5	6	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	
6	1	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	
6	2	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	
6	3	0	0	0.1	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	
6	4	0	0	0.1	0.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	
6	5	0	0	0.2	0.6	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0	5	5	0.1	0.3
6	6	0	0	0	0.6	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.2	0	0	0	0	5	5	0.1	0.4
7	1	0	0	0.1	0.7	0	0	0	0	0	0	0.1	0.3	0	0	0	0	0	5	5	0.1	0.5
7	2	0	0	0	0.7	1	1	0	0	0	0	0.7	1.0	0	0	0	0	1	6	6	0	0.5
7	3	1	1	0.5	1.2	0	1	0	0	2	2	0	1.0	0	0	0	0	1	7	7	0.1	0.7
7	4	2	3	0.4	1.6	0	1	0	0	0	2	0.1	1.1	0	0	0	0	1	8	8	0.3	0.9
7	5	2	5	1.4	3.0	0	1	0.1	0.1	0	2	0	1.1	0	0	0.2	0.2	0	8	8	0.4	1.3
7	6	0	5	2.0	5.0	0	1	0.3	0.4	0	2	0.1	1.2	0	0	0	0.2	3	11	2.0	3.3	
8	1	1	6	3.1	8.1	0	1	0.2	0.6	0	2	0.6	1.8	0	0	0.1	0.3	1	12	1.1	4.4	
8	2	0	6	5.3	13.4	3	4	0	0.6	0	2	0.5	2.3	0	0	0.1	0.4	0	12	1.5	5.9	
8	3	6	12	3.5	16.9	0	4	0.3	0.9	2	4	0.4	2.7	0	0	0.2	0.6	0	12	1.8	7.7	
8	4	4	16	4.5	21.4	2	6	0.3	1.2	0	4	0.8	3.5	0	0	0.1	0.7	1	13	1.4	9.0	
8	5	9	25	7.9	29.3	1	7	0.7	1.9	0	4	0.6	4.1	0	0	0.2	0.9	4	17	2.6	11.7	
8	6	11	36	11.6	40.9	2	9	1.2	3.1	2	6	1.0	5.1	0	0	0.1	1.0	1	18	3.1	14.8	
9	1	7	43	8.4	49.3	1	10	0.8	3.9	0	6	1.2	6.3	0	0	0.1	1.1	0	18	7.1	21.9	
9	2	2	45	6.2	55.5	2	12	0.9	4.8	8	14	2.4	8.7	0	0	0.9	2.0	0	18	6.5	28.4	
9	3	20	65	7.0	62.5	2	14	0.9	5.7	6	20	3.6	12.3	0	0	0.5	2.5	12	30	5.5	33.9	
9	4	7	72	4.8	67.3	5	19	2.4	8.1	15	35	1.3	13.6	0	0	0.6	3.1	2	32	3.1	37.0	
9	5	7	79	3.1	70.4	2	21	2.7	10.8	3	38	1.5	15.1	0	0	0.7	3.7	3	35	4.6	41.7	
9	6	5	84	7.3	77.8	0	21	0.6	11.4	13	51	1.9	17.0	0	0	0.6	4.3	0	35	1.8	43.4	
10	1									8	59	1.8	18.8									
10	2									4	63	1.0	19.8									
10	3									1	64	0.6	20.4									
10	4									1	65	0.5	20.9									
10	5									1	66	0.9	21.8									
10	6									0	66	0	21.8									



○平年値は基本的に過去10年間（H22～R1）の平均値であるが、高島市の予察灯では、移設により10年分のデータがなく、算出方法については以下のとおりにした。  
・高島市今津町日置前の平年値はH24～R1の8年間の平均値

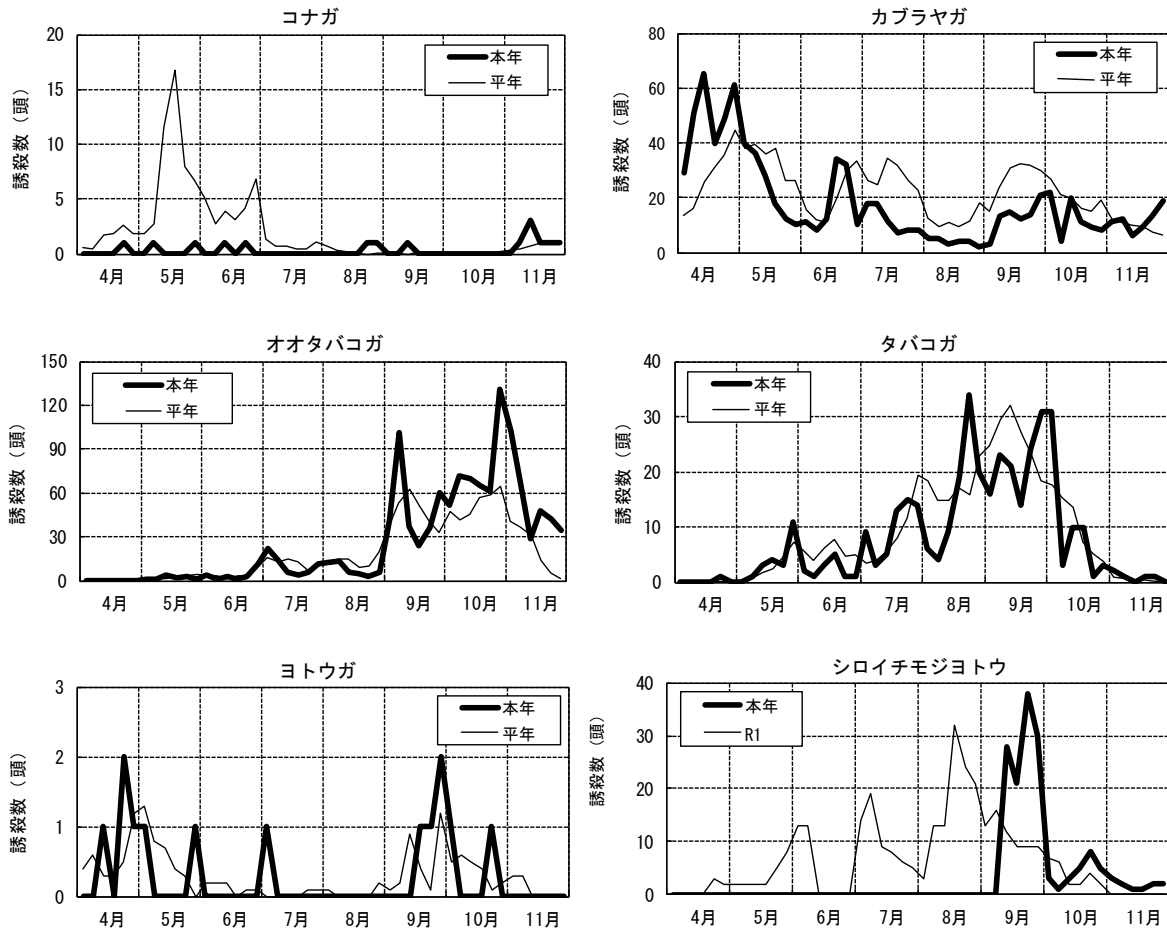
## (イ) フェロモントラップによる調査

## 野菜類主要害虫のフェロモントラップ半旬別誘殺状況（近江八幡市安土町大中）

		(頭)									
月	半旬	コナガ		カブラヤガ		タバコガ		オオタバコガ		ヨトウガ	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4	1	0	0.6	29	13.6	0	0	0	0.2	0	0.4
	2	0	0.5	51	15.9	0	0	0	0.3	0	0.6
	3	0	1.7	65	25.7	0	0.1	0	0.3	1	0.3
	4	0	1.8	40	31.0	0	0.1	0	0.2	0	0.3
	5	1	2.6	49	35.2	1	0.1	0	0.2	2	0.5
	6	0	1.8	61	44.7	0	0.2	0	0.3	1	1.2
5	1	0	1.8	40	38.2	0	0.1	1	1.3	1	1.3
	2	1	2.8	36	39.5	1	0.6	1	1.5	0	0.8
	3	0	11.5	28	36.1	3	1.7	4	1.9	0	0.7
	4	0	16.7	18	37.9	4	2.5	2	2.9	0	0.4
	5	0	8.0	12	26.4	3	4.5	3	3.1	0	0.3
	6	1	6.7	10	26.0	11	7.3	1	4.3	1	0
6	1	0	5.2	11	15.5	2	5.7	4	3.2	0	0.2
	2	0	2.8	8	12.2	1	4.0	1	3.1	0	0.2
	3	1	3.9	12	10.8	3	6.2	3	1.3	0	0.2
	4	0	3.1	34	20.0	5	7.7	1	3.6	0	0
	5	1	4.1	32	29.8	1	4.8	3	3.1	0	0.1
	6	0	6.8	10	33.3	1	5.0	11	9.5	0	0.1
7	1	0	1.4	18	26.3	9	3.3	22	15.5	1	0
	2	0	0.7	18	24.9	3	3.8	14	13.2	0	0
	3	0	0.7	11	34.4	5	5.4	6	14.4	0	0
	4	0	0.4	7	31.9	13	8.1	4	12.7	0	0
	5	0	0.5	8	26.3	15	11.6	6	7.3	0	0.1
	6	0	1.1	8	22.6	14	19.3	11	10.9	0	0.1
8	1	0	0.7	5	12.7	6	18.3	12	12.1	0	0.1
	2	0	0.3	5	9.4	4	14.8	13	14.7	0	0
	3	0	0.2	3	10.8	9	14.8	6	14.9	0	0
	4	0	0.1	4	9.6	19	17.1	5	9.4	0	0
	5	1	0	4	11.6	34	15.7	3	10.0	0	0
	6	1	0.1	2	18.0	20	23.0	6	19.6	0	0.2
9	1	0	0.1	3	15.2	16	24.8	41	36.5	0	0.1
	2	0	0.1	13	23.7	23	29.5	101	52.7	0	0.2
	3	1	0	15	30.6	21	31.9	37	62.9	0	0.9
	4	0	0.2	12	32.2	14	27.0	24	51.1	1	0.4
	5	0	0.2	14	31.6	24	23.2	36	40.5	1	0.1
	6	0	0.2	21	29.8	31	18.3	60	33.3	2	1.2
10	1	0	0.1	22	26.8	31	17.6	52	47.1	1	0.5
	2	0	0.1	4	21.3	3	15.3	72	41.2	0	0.6
	3	0	0.1	20	19.5	10	13.5	70	45.7	0	0.5
	4	0	0.1	11	16.0	10	7.3	65	57.2	0	0.4
	5	0	0	9	15.2	1	5.3	61	58.3	1	0.1
	6	0	0.2	8	19.2	3	3.6	131	64.8	0	0.2
11	1	0	0.3	11	12.1	2	0.8	102	40.8	0	0.3
	2	1	0.5	12	10.8	1	0.6	66	36.6	0	0.3
	3	3	0.7	6	10.1	0	0.4	29	30.7	0	0
	4	1	0.9	9	9.4	1	0.4	48	13.4	0	0
	5	1	1.1	13	7.6	1	0.2	42	5.3	0	0
	6	1	1.2	19	6.2	0	0.2	34	1.7	0	0

・ 平年値はH22～R1の10年間の平均値。

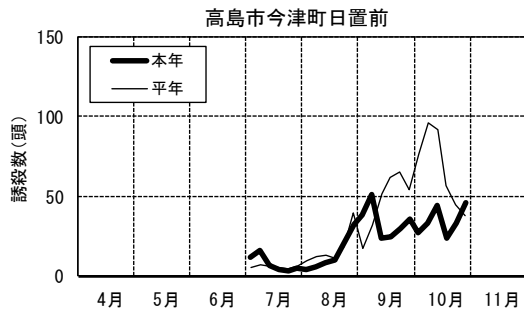
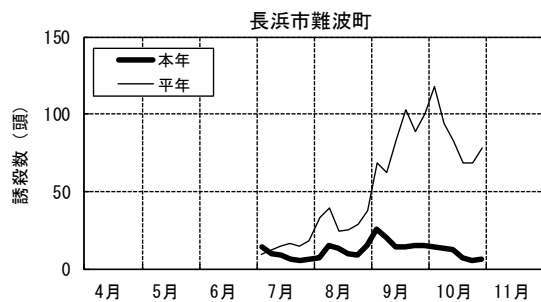
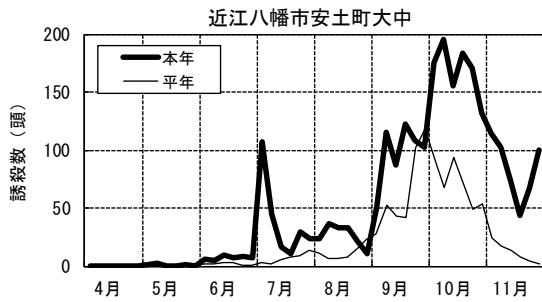
野菜類主要害虫のフェロモントラップ半旬別誘殺状況のグラフ（近江八幡市安土町大中）



平年値は過去10年間（H22～R1）の平均値。ただし、シロイチモジヨトウのフェロモントラップはR1年度から設置したため、本年およびR1年値のみ。  
シロイチモジヨトウの本年値の4月第1半旬～9月第2半旬は欠測値である。

# ハスモンヨトウ半旬別誘殺数 (湿式フェロモントラップ)

月	半旬	近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
		本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4	1	0	0	0.1	0.1								
	2	0	0	0.2	0.3								
	3	0	0	0	0.3								
	4	0	0	0	0.3								
	5	0	0	0.2	0.5								
	6	0	0	0.1	0.6								
5	1	1	1	0.2	0.8								
	2	2	3	0.3	1.1								
	3	0	3	0.5	1.6								
	4	0	3	0.5	2.1								
	5	1	4	0.6	2.7								
	6	0	4	0.6	3.3								
6	1	6	10	1.2	4.5								
	2	5	15	1.8	6.3								
	3	9	24	3.5	9.8								
	4	7	31	3.0	12.8								
	5	8	39	1.0	13.8								
	6	7	46	1.1	14.9								
7	1	107	153	2.9	17.8	14	14	9.5	9.5	12	12	5.4	5.4
	2	45	198	2.1	19.9	10	24	12.3	21.7	16	28	6.9	12.3
	3	16	214	4.8	24.7	9	33	14.7	36.5	7	35	6.6	18.9
	4	11	225	8.0	32.7	6	39	16.2	52.6	4	39	5.3	24.1
	5	29	254	9.1	41.8	5	44	14.2	66.8	3	42	4.3	28.4
	6	23	277	13.8	55.6	6	50	18.4	85.2	5	47	5.9	34.3
8	1	23	300	10.9	66.5	7	57	33.5	118.6	4	51	10.1	44.4
	2	36	336	6.5	73.0	15	72	39.4	158.0	6	57	12.3	56.6
	3	33	369	6.3	79.3	13	85	24.7	182.7	8	65	13.3	69.9
	4	33	402	7.7	87.0	10	95	25.1	207.8	10	75	11.4	81.3
	5	21	423	14.2	101.2	9	104	28.8	236.6	21	96	18.0	99.3
	6	11	434	23.5	124.7	15	119	37.3	273.9	32	128	39.6	138.9
9	1	51	485	28.0	152.7	26	145	68.4	342.3	38	166	18	156.4
	2	115	600	52.4	205.1	20	165	62.0	404.3	51	217	32.0	188.4
	3	87	687	43.6	248.7	14	179	83.8	488.1	24	241	51.4	239.8
	4	123	810	42.0	290.7	14	193	102.9	591.0	25	266	61.9	301.6
	5	109	919	102.1	392.8	15	208	89.2	680.2	30	296	65.3	366.9
	6	103	1022	118.1	510.9	15	223	100.6	780.8	36	332	54.5	421.4
10	1	176	1198	92.3	603.2	14	237	117.8	898.6	27	359	76.1	497.5
	2	196	1394	68.2	671.4	13	250	94.5	993.1	33	392	96.0	593.5
	3	156	1550	93.6	765.0	12	262	82.4	1075.5	44	436	92.0	685.5
	4	184	1734	71.0	836.0	7	269	68.4	1143.9	24	460	56.9	742.4
	5	171	1905	48.7	884.7	5	274	68.6	1212.5	33	493	45.1	787.5
	6	132	2037	53.4	938.1	6	280	78.2	1290.7	46	539	37.5	825.0
11	1	114	2151	24.5	962.6								
	2	102	2253	16.9	979.5								
	3	74	2327	13.8	993.3								
	4	44	2371	7.2	1000.5								
	5	67	2438	3.8	1004.3								
	6	100	2538	2.1	1006.4								

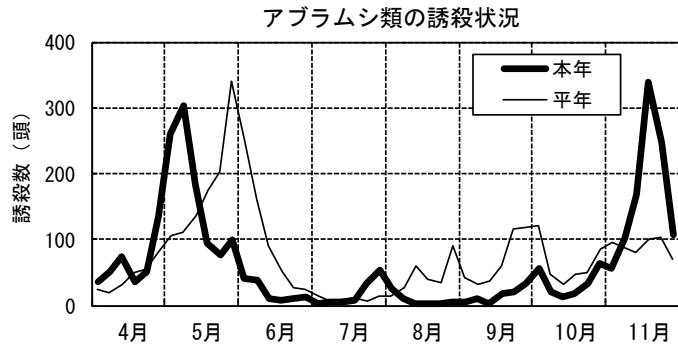


- ・近江八幡市安土町大中、長浜市難波町の平年値はH22～R1の10年間の平均値。
- ・高島市今津町日置前の平年値はH24～R1の8年間の平均値。

(ウ) 黄色水盤による調査

アブラムシ類半旬別誘殺数（近江八幡市安土町大中）

		(頭)			
月	半旬	本年		平年	
		半旬別	累積	半旬別	累積
4	1	35	35	24.2	24.2
	2	50	85	18.3	42.5
	3	75	160	30.8	73.3
	4	36	196	48.7	122.0
	5	52	248	53.6	175.6
	6	135	383	81.6	257.2
5	1	261	644	106.7	363.9
	2	303	947	111.4	475.3
	3	183	1130	136.0	611.3
	4	94	1224	173.4	784.7
	5	77	1301	203.8	988.5
	6	100	1401	340.5	1329.0
6	1	41	1442	248.5	1577.5
	2	37	1479	162.1	1739.6
	3	10	1489	90.7	1830.3
	4	7	1496	51.9	1882.2
	5	10	1506	25.5	1907.7
	6	14	1520	23.3	1931.0
7	1	3	1523	14.7	1945.7
	2	6	1529	6.8	1952.5
	3	6	1535	9.1	1961.6
	4	7	1542	10.8	1972.4
	5	34	1576	7.0	1979.4
	6	53	1629	14.7	1994.1
8	1	26	1655	15.0	2009.1
	2	11	1666	27.7	2036.8
	3	3	1669	58.9	2095.7
	4	3	1672	40.0	2135.7
	5	3	1675	34.8	2170.5
	6	4	1679	89.9	2260.4
9	1	4	1683	42.7	2303.1
	2	10	1693	32.7	2335.8
	3	3	1696	37.7	2373.5
	4	19	1715	59.7	2433.2
	5	20	1735	116.5	2549.7
	6	32	1767	119.0	2668.7
10	1	57	1824	120.5	2789.2
	2	21	1845	47.1	2836.3
	3	13	1858	31.7	2868.0
	4	17	1875	46.4	2914.4
	5	33	1908	49.9	2964.3
	6	63	1971	86.3	3050.6
11	1	56	2027	96.6	3147.2
	2	103	2130	87.5	3234.7
	3	167	2297	81.1	3315.8
	4	338	2635	101.3	3417.1
	5	246	2881	102.0	3519.1
	6	107	2988	69.7	3588.8



・ 平年値はH22～R1の10年間の平均値。

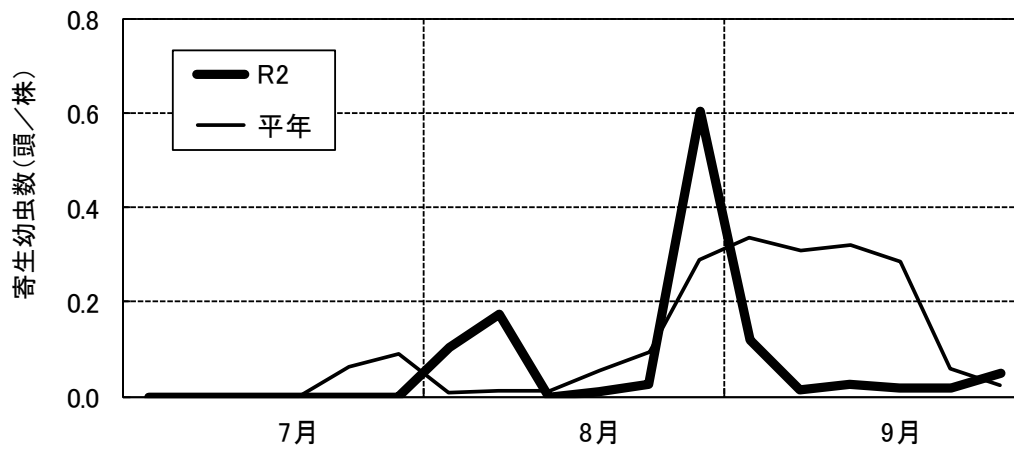


(エ) クレオメによる調査

クレオメ 1 株当たりのハイマダラノメイガ幼虫寄生数 (近江八幡市安土町大中)

(頭)

月	半旬	R2		平年	
		半旬別	累積	半旬別	累積
7	1	0	0	0	0
	2	0	0	0	0
	3	0	0	0	0
	4	0	0	0	0
	5	0	0	0.06	0.06
	6	0	0	0.09	0.15
8	1	0.11	0.11	0.01	0.16
	2	0.18	0.28	0.01	0.17
	3	0	0.28	0.01	0.18
	4	0.01	0.29	0.05	0.24
	5	0.03	0.31	0.10	0.33
	6	0.61	0.92	0.29	0.62
9	1	0.12	1.04	0.34	0.96
	2	0.02	1.05	0.31	1.27
	3	0.03	1.08	0.32	1.59
	4	0.02	1.10	0.29	1.88
	5	0.02	1.12	0.06	1.94
	6	0.05	1.17	0.03	1.96



・平年値は10年間(H22~R1)の平均値

## ウ 発生量調査

### (ア) トマト

調査地点	病害虫名	灰色かび病	疫病	葉かび病
		発病度	発病度	発病度
		6/29～7/1	6/29～7/1	6/29～7/1
草津市	下笠町	0	0	0
野洲市	小南	0	0	0
湖南市	菩提寺	0	0	0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	0	0
彦根市	松原町	0	0	0
甲良町	下之郷	0	0	0
米原市	世継	0	0	0
高島市今津町	深清水	0	0	0

調査地点	病害虫名	アブラムシ類	コナジラミ類	ハスモンヨトウ
		寄生株率 (%)	寄生葉率 (%)	寄生株率 (%)
		7/27～28	7/27～28	7/27～28
草津市	下笠町	0	0	0
野洲市	小南	0	1.0	0
湖南市	菩提寺	0	0	0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	1.0	0
彦根市	松原町	0	0	0
甲良町	下之郷	10.0	0	0
米原市	世継	0	0	0
高島市今津町	深清水	0	0	0

### (イ) ナス

調査地点	病害虫名	うどんこ病	灰色かび病	アブラムシ類	アザミウマ類
		発病度	発病株率 (%)	1葉あたり生息数 (頭/葉)	寄生葉率 (%)
		6/29～7/1	6/29～7/1	7/27～28	7/27～28
草津市	下笠町	0	0	0	3.0
野洲市	小南	0	0	0	0
湖南市	菩提寺	0	0	0	5.0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	0	0.5	20.0
彦根市	松原町	0	0	0	0
甲良町	下之郷	4.5	0	0.5	30.0
米原市	世継	0	0	0	3.0
高島市今津町	深清水	0	0	0.01	30.0

調査地点	病害虫名	ハスモンヨトウ	オオタバコガ	ハダニ類
		被害面積率 (%)	被害果率 (%)	寄生葉率 (%)
		8/17～19	7/27～28	8/17～19
草津市	下笠町	0	0	5.0
野洲市	小南	0	0	2.0
湖南市	菩提寺	0	0	5.0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	0	0
彦根市	松原町	0	0	0
甲良町	下之郷	0	0	3.0
米原市	世継	0	0	0
高島市今津町	深清水	0	0	0

(ウ) キュウリ

調査地点	病害虫名	べと病	うどんこ病	灰色かび病	褐斑病
		発病葉率 (%)	発病葉率 (%)	発病株率 (%)	発病葉率 (%)
調査地点		7/27～28	6/29～7/1	6/29～7/1	6/29～7/1
草津市	下笠町	0	10.0	0	0
野洲市	小南	10.0	0	0	0
湖南市	菩提寺	5.0	10.0	0	0
近江八幡市安土町	上豊浦	5.0	20.0	0	0
彦根市	松原町	5.0	15.0	0	0
甲良町	下之郷	0	10.0	0	0
米原市	世継	0	15.0	0	0
高島市今津町	深清水	0	5.0	0	0

調査地点	病害虫名	アブラムシ類	コナジラミ類	アザミウマ類
		1葉あたり生息数 (頭/葉)	寄生葉率 (%)	1葉あたり寄生頭数 (頭/葉)
調査地点		7/27～28	7/27～28	7/27～28
草津市	下笠町	2.0	0	0.2
野洲市	小南	5.0	0	2.0
湖南市	菩提寺	0	0	1.0
近江八幡市安土町	上豊浦	1.0	5.0	2.0
彦根市	松原町	0	0	0.03
甲良町	下之郷	0.1	0	0.1
米原市	世継	0	0	0.1
高島市今津町	深清水	0	0	0.4

(エ) ダイコン

調査地点	病害虫名	アブラムシ類
		発生程度指数
調査地点		11/2～5
草津市	下笠町	0
野洲市	小南	5.0
湖南市	菩提寺	0
近江八幡市安土町	上豊浦	1.0
彦根市	松原町	5.0
甲良町	下之郷	2.0
米原市	世継	0
高島市今津町	深清水	0

(オ) 春キャベツ

調査地点	病害虫名	ヨトウガ	コナガ
		寄生株率 (%)	10株当たり幼虫・蛹数 (頭/10株)
調査地点		6/2～3	6/2～3
草津市	下笠町	0	0
野洲市	小南	0	2.0
湖南市	菩提寺	0	0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	0
彦根市	松原町	0	0
甲良町	下之郷	0	0
米原市	世継	0	0
高島市今津町	深清水	0	0

(カ) 冬キャベツ

病害虫名		黒腐病	菌核病
		発病度	発病株率 (%)
調査地点		11/2～5	11/2～5
草津市	下笠町	0	0
野洲市	小南	0	0
湖南市	菩提寺	0	0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	0
彦根市	松原町	0	0
甲良町	下之郷	0	0
米原市	世継	0	0
高島市今津町	深清水	0	0

病害虫名		アブラムシ類	ハスモンヨトウ	ヨトウガ	コナガ
		寄生株率 (%)	寄生株率 (%)	寄生株率 (%)	10株当たり幼虫・蛹数 (頭/10株)
調査地点		11/2～5	11/2～5	11/2～5	11/2～5
草津市	下笠町	0	0	0	1.0
野洲市	小南	0	0	0	1.0
湖南市	菩提寺	1.0	0	0	0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	0	0	0
彦根市	松原町	0	0	0	3.0
甲良町	下之郷	0	0	0	3.0
米原市	世継	0	0	0	2.0
高島市今津町	深清水	0	0	0	2.0

(キ) タマネギ

病害虫名		白色疫病	べと病	アザミウマ類
		被害株率 (%)	被害株率 (%)	1株当たり寄生虫数 (頭/株)
調査地点		4/14～15	4/14～15	5/11～12
草津市	下笠町	0	10.0	10.0
野洲市	小南	0	2.0	5.0
湖南市	菩提寺	0	22.0	10.0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	14.0	6.0
彦根市	松原町	0	8.0	50.0
甲良町	下之郷	0	8.0	30.0
米原市	世継	0	0	5.0
高島市今津町	深清水	0	0	30.0

(ク) ネギ

調査地点	病害虫名	黒斑病	べと病	さび病
		被害株率 (%)	被害株率 (%)	被害株率 (%)
		9/23	9/23	9/23
草津市	下笠町	0	0	0
野洲市	小南	0	0	0
湖南市	菩提寺	0	0	0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	0	0
彦根市	松原町	0	0	0
甲良町	下之郷	0	0	0
米原市	世継	0	0	0
高島市今津町	深清水	0	0	0

調査地点	病害虫名	アブラムシ類	アザミウマ類	ハスモンヨトウ	シロイチモジヨトウ
		被害株率 (%)	被害葉率 (%)	被害株率 (%)	被害株率 (%)
		11/2~5	9/23	11/2~5	11/2~5
草津市	下笠町	0	0	0	0
野洲市	小南	0	0	0	0
湖南市	菩提寺	0	2.5	0	0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	0	0	0
彦根市	松原町	0	3.0	0	0
甲良町	下之郷	1.0	5.0	0	0
米原市	世継	0	2.0	0	0
高島市今津町	深清水	0	3.0	0	0

(ケ) サトイモ

調査地点	病害虫名	ハスモンヨトウ
		食害面積率 (%)
		9/23
草津市	下笠町	2.0
野洲市	小南	0
湖南市	菩提寺	1.0
近江八幡市安土町	上豊浦	0
彦根市	松原町	1.0
甲良町	下之郷	0
米原市	世継	0
高島市今津町	深清水	0

## エ 初発見月日と初発見場所

### (ア) ほ場

作物名	病害虫名	初発見月日	初発見場所	作物名	病害虫名	初発見月日	初発見場所
トマト	灰色かび病	-	-	キャベツ	菌核病	-	-
	疫病	-	-		黒腐病	11/2	近江八幡市安土町大中
	葉かび病	-	-		軟腐病	-	-
	モモアカアブラムシ	5/12	野洲市小南		アブラムシ類	7/28	甲良町下之郷
	コナジラミ類	6/29	近江八幡市安土町上豊浦		ハスモンヨトウ	9/23	草津市下笠町
	オオタバコガ	7/3	草津市下笠町		オオタバコガ	11/2	草津市下笠町
ナス	ハスモンヨトウ	-	-	ヨトウガ	-	-	
	うどんこ病	6/17	甲良町下之郷	コナガ	5/12	野洲市小南	
	灰色かび病	-	-	ハイマダラノメイガ	9/23	高島市今津町深清水	
	アブラムシ類	5/12	野洲市小南	カブラヤガ	-	-	
	ハダニ類	6/16	米原市世継	モンシロチョウ	5/12	草津市下笠町	
	ミナミキイロアザミウマ	5/12	草津市下笠町	黒腐病	11/2	近江八幡市安土町上豊浦	
キュウリ	ハスモンヨトウ	-	-	ハスモンヨトウ	10/22	近江八幡市安土町大中	
	オオタバコガ	-	-	ヨトウガ	10/30	近江八幡市安土町大中	
	ニジュウヤホシテントウ	6/16	米原市世継	コナガ	9/23	米原市世継	
	べと病	6/2	高島市今津町深清水	さび病	-	-	
	うどんこ病	6/2	彦根市松原町	べと病	2/25	彦根市松原町	
	灰色かび病	-	-	白色疫病	2/26	湖南市菩提寺	
ダイコン	褐斑病	-	-	ネギアザミウマ	3/9	彦根市松原町	
	アブラムシ類	5/12	野洲市小南	さび病	4/15	甲良町下之郷	
	アザミウマ類	5/12	野洲市小南	黒斑病	-	-	
	コナジラミ類	6/16	彦根市松原町	べと病	-	-	
	ハダニ類	6/29	米原市世継	ネギアブラムシ	2/26	湖南市菩提寺	
	アブラムシ類	11/2	野洲市小南	ネギアザミウマ	2/26	湖南市菩提寺	
ネギ	ハスモンヨトウ	-	-	ハスモンヨトウ	9/23	草津市下笠町	
	ヨトウガ	-	-	シロイチモジヨトウ	-	-	
	コナガ	-	-	ハスモンヨトウ	8/18	野洲市小南	
サトイモ	ハダニ類	6/16	野洲市小南	ハダニ類	6/16	野洲市小南	

巡回調査において、複数種を調査対象としているものや種同定が困難なものは「～類」とした。なお、指定有害動植物は網掛けで示した。

### (イ) 予察灯、フェロモントラップおよび黄色水盤

害虫名	初発見月日	初発見場所
アブラムシ類	4/7	近江八幡市安土町大中 (黄色水盤)
ヨトウガ	4/21	近江八幡市安土町大中 (P T)
ハスモンヨトウ	5/7	近江八幡市安土町大中 (P T)
シロイチモジヨトウ	9/16	近江八幡市安土町大中 (P T)
タバコガ	4/27	近江八幡市安土町大中 (P T)
オオタバコガ	5/7	近江八幡市安土町大中 (P T)
カブラヤガ	4/7	近江八幡市安土町大中 (P T)
シロオビノメイガ	6/21	高島市今津町日置前 (予察灯)
コナガ	4/17	近江八幡市安土町大中 (予察灯)

初発見場所 ( ) 内記号 P T : フェロモントラップ

# オ 程度別発生面積と防除面積

作物名	栽培面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)					発生面積率 (%)	被害面積率 (%)	防除面積 (ha)	
			甚	多	中	少	計			実防除	延防除
トマト	20	灰色かび病	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		疫病	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		葉かび病	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		アブラムシ類	0	0	0	5	5	25.0	0	1	1
		コナジラミ類	0	0	0	3	3	15.0	0	1	1
		ミカンキイロアザミウマ	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ハスモンヨトウ	0	0	0	3	3	15.0	0	1	1
		オオタバコガ	0	0	0	6	6	30.0	0	3	6
ナス	20	うどんこ病	0	0	0	3	3	15.0	0	1	1
		灰色かび病	0	0	0	0	0	0	0	1	2
		アブラムシ類	0	0	0	5	5	25.0	0	6	12
		アザミウマ類	0	0	2	10	12	60.0	10.0	14	28
		マメハモグリバエ	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ニジュウヤホシテントウ類	0	0	0	6	6	30.0	0	6	6
		ハスモンヨトウ	0	0	0	2	2	10.0	0	5	5
		オオタバコガ	0	0	0	7	7	35.0	0	6	14
		ハダニ類	0	0	0	7	7	35.0	0	12	24
キュウリ	8	灰色かび病	0	0	0	0	0	0	0	2	2
		うどんこ病	0	0	0	4	4	50.0	0	3	3
		べと病	0	0	0	3	3	37.5	0	2	2
		褐斑病	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		アブラムシ類	0	0	0	3	3	37.5	0	5	10
		コナジラミ類	0	0	0	1	1	12.5	0	1	1
		ミカンキイロアザミウマ	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0
		アザミウマ類	0	0	2	5	7	87.5	25.0	5	5
		ハダニ類	0	0	0	3	3	37.5	0	2	2
ダイコン	43	アブラムシ類	0	0	0	6	6	14.0	0	15	25
		ハイマダラノメイガ	0	0	2	10	12	27.9	4.7	20	40
春キャベツ	26	アブラムシ類	0	0	0	3	3	11.5	0	10	10
		ヨトウガ	0	0	0	3	3	11.5	0	10	20
		コナガ	0	0	0	3	3	11.5	0	10	20
冬キャベツ	253	黒腐病	0	0	0	0	0	0	0	20	20
		菌核病	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		アブラムシ類	0	0	0	6	6	2.4	0	120	120
		ハスモンヨトウ	0	0	0	60	60	23.7	0	120	240
		ヨトウガ	0	0	0	13	13	5.1	0	120	240
		オオタバコガ	0	0	0	50	50	19.8	0	120	240
ブロッコリー	69	ハスモンヨトウ	0	0	0	30	30	43.5	0	50	100
		コナガ	0	0	0	20	20	29.0	0	50	100
タマネギ	55	白色疫病	0	0	0	1	1	1.8	0	1	1
		べと病	0	0	0	5	5	9.1	0	3	3
		アザミウマ類	0	0	2	35	37	67.3	3.6	30	30
ネギ	49	黒斑病	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		べと病	0	0	0	0	0	0	0	15	15
		さび病	0	0	0	0	0	0	0	25	30
		アブラムシ類	0	0	0	2	2	4.1	0	20	30
		ネギアザミウマ	0	0	3	20	23	46.9	6.1	40	80
		ハスモンヨトウ	0	0	0	10	10	20.4	0	15	15
		シロイチモジヨトウ	0	0	0	1	1	2.0	0	15	15
サトイモ	20	ハスモンヨトウ	0	0	1	10	11	55.0	5.0	5	5

※被害面積率 = (程度別発生面積甚～中の和) / (栽培面積)

## 6 果樹等作物病害虫発生予察事業

ナシなどの主要果樹、チャおよび花き（キク）について、主要病害虫を対象とした重点調査の結果に基づき、病害虫発生予報を9回、発生予察情報として注意報を2回（果樹カメムシ類2回）、防除情報を1回（もち病と新梢枯死症）、特殊報を1回（ヨコバイ科の一種（和名なし））発表した。

### （1）果樹

#### ア 生育概況

##### （ア）ナシ

3月までは暖冬で経過したものの、4月上旬からの低温や強風の影響を受けて、開花期はバラつき、受精や結実が不良になった。また、一部地域では、降雹の被害を受けた。4月中旬は、降水量が多かったため、開花後早い時期から‘幸水’の黒星病の発生が確認され、その後の梅雨時期の長雨および多雨により多発した。‘豊水’については、7月の低温と8月の猛暑等の気象条件により、みつ症（生理障害）が多発した。4月の低温、7月の寡照条件により、早生～中生品種を中心に小玉傾向にあった。収穫時期は平年並であった。

##### （イ）ブドウ

3月まで暖冬で経過したため、発芽は平年より早くなったものの、4月は一転して低温となったことから生育は停滞し、開花期は平年並となった。5月から6月中旬にかけて、平年よりやや高温で推移したことから、生育は順調に進んだ。また、7月は低温となったため、果皮の着色は良好であった。ただ、一部地域においては、7月の長雨の影響を受け、裂果が発生した。梅雨明け以降、降水量は少なく推移したことから、果粒肥大は劣った。収穫時期は平年並であった。

##### （ウ）カキ

3月まで暖冬で経過したため、発芽・展葉は平年より早くなったものの、4月は一転して低温となったことから生育は停滞し、開花期は平年並となった。開花期以降も概ね天候に恵まれ、着果・初期肥大は良好であったが、梅雨明け以降、高温・少雨で推移したことから、日焼け果の発生がみられた。

9月以降高温が続いたことから、‘富有’の着色は遅れ、収穫時期も遅れた。

チャバネアオカメムシ等の果樹カメムシ類の発生が多く、収量は減少した。



## イ 発生状況

### (ア) ナシ

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
黒星病	やや早	やや多	葉での発病は5月中旬頃と、やや早く、発生量は、やや多かった。	冬季の温暖化により、生育は早く進んでいたが、4月の開花時期の天候が不順で、降水量は多かったため、発生時期が、やや早くなった。梅雨期間が長く、降水量は多かったため、発生量は、やや多かった。	開花期から梅雨明けまでの薬剤防除。秋季防除の徹底、落葉、被害果の園外処分。
赤星病	平年並	やや少	生育期間を通して、発生量は、やや少なかった。	5月の降水量は少なかったため、発生量は、やや少なかった。	4～5月の降雨前に、薬剤による黒星病との同時防除。
うどんこ病	平年並	平年並	収穫後半に発病し、発生量は平年並であった。	7月の降水量は多かったため、発病が増え、発生量は平年並となった。	薬剤による黒星病との防除。落葉の処分。
ナシヒメシクイ	平年並	平年並	発生時期は平年並であったが、収穫時に果実への被害が見られた。	フェロモントラップでの誘殺は4月第2半旬と平年並みであったが、その後増えることなく、誘殺数は、やや少なかった。しかし、薬剤防除の適期を逸した園については収穫時に果実への被害が目立った。	発生に応じた薬剤防除。被害果の処分。交信攪乱剤の設置。
モモシクイガ	—	少	生育期間を通して、発生および被害を確認していない。	他害虫との同時防除により発生および被害は確認できなかった。	発生に応じた薬剤防除。被害果の処分。交信攪乱剤の設置。
チャノコカクモンハマキ	やや遅	平年並	発生時期は、やや遅く、収穫後半に葉および果実への食害が見られた。	フェロモントラップでの誘殺は4月第6半旬と、やや遅かった。誘殺数は7月上旬、8月上旬に一時増加し、葉や果実への被害につながった。	薬剤および交信攪乱剤によるシクイムシ類等との同時防除。
チャハマキ	やや早	やや多	発生時期は、やや早く、収穫後半に葉および果実への食害が見られた。	フェロモントラップでの誘殺は4月第1半旬と、やや早かった。フェロモントラップでの誘殺数は7月以降増加し、葉や果実への被害につながった。	薬剤および交信攪乱剤によるシクイムシ類等との同時防除。
チャバネアカカメムシ	やや早	越冬世代多 第一世代多	越冬世代の飛来時期は、やや早く、発生量は多かった。第一世代の発生も多く、ネット被覆がない園を中心に、果実に大きな被害を受けた。	フェロモントラップでの初飛来が4月第4半旬と、やや早かった。冬季の越冬成虫調査では数が多かったことから、越冬世代の発生量が多かった。	ネット被覆および発生に応じた薬剤防除。6月4日、8月7日に注意報を発表した。
ツヤアオカメムシ	やや早	越冬世代多 第一世代平年並	越冬世代の飛来時期は、やや早く、発生量は多く、生育初期に被害を受けた果実は、ネット被覆がない園を中心に大きな被害を受けた。第一世代の発生は平年並であった。	予察灯での初飛来が5月第1半旬と、やや早く、5月下旬以降に増加した。その後の第一世代の誘殺数は平年並であった。	ネット被覆および発生に応じた薬剤防除。6月4日、8月7日に注意報を発表した。
クサガカメムシ	やや早	越冬世代多 第一世代平年並	越冬世代の飛来時期は、やや早く、越冬世代の発生量は、やや多かった。第一世代の発生は平年並であった。	予察灯での初飛来が5月第2半旬と、やや早く、越冬世代の誘殺数も、やや多かった。その後の第一世代の誘殺数は平年並であった。	ネット被覆および発生に応じた薬剤防除。6月4日、8月7日に注意報を発表した。
アブラムシ類	平年並	平年並	初発確認は5月上旬と平年並であり、一時増加したが、その後も多発することはない推移し、発生量は平年並であった。	5月下旬から6月中旬にかけての高温により一時発生量は増加したが、適期防除により抑えられ、梅雨期間が長ったため、発生量は平年並であった。	展葉期、新梢新梢期に発生に応じて薬剤防除。
ハダニ類	やや早	やや多	初発確認は6月上旬と平年より、やや早かったが、その後梅雨時期に入って発生量は落ち着いた。しかし、8月に入って再び発生量は増加し、一部園地において、ナミハダニの発生が収まらない園地があった。	5月下旬から6月中旬にかけての高温により、発生時期は、やや早くなった。8月は高温で、降水量が少なくなったことから、発生量は増加した。防除は実施されているが、薬剤抵抗性を獲得していると思われるナミハダニが発生し、薬剤効果が低くなっている。	発生初期の薬剤防除。薬剤のローテーション散布。

(イ) ブドウ

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
うどんこ病	やや早	やや多	果実の初発確認は6月下旬と、やや早く、その後の発生量も平年より、やや多かった。	5～6月は高温で、乾燥と多湿の繰り返しが多かったため、発生量は、やや多かった。	初発時の薬剤防除。発病果の摘粒。
べと病	平年並	やや多	初発確認は6月下旬と平年並であったが、その後発生量は増加した。	梅雨期間が長く、降水量が多かったため、7月中旬以降の発生量が増加した。8月に入って、高温・乾燥が続いたため、発生量は大きく増加しなかったが、台風等により、風当たりの強い園地では被害は増えた。	雨除け被覆。初発時の薬剤防除。落葉の園外処分。
灰色かび病	—	やや少	花穂における発病は確認されなかった。	5～6月は高温で、降水量は少なく推移したため、発生量は、やや少なかった。	花かす落としの励行。開花前と落花直後の薬剤防除。発病果の摘粒。新梢管理による過繁茂防止。
晩腐病	平年並	やや多	初発確認は8月下旬と平年並であったが、収穫が9月以降の品種でその発生量は増加し、やや多かった。	梅雨時期は降水量が多く、袋かけが遅れた園地においては、発生が増加した。	開花期および幼果期の薬剤防除。粗皮削り。幼果期の薬剤防除。雨よけ被覆。袋かけの実施。発病果の摘粒。
カイガラムシ類	平年並	平年並	初発確認は7月上旬と平年並で、その発生量も平年並であった。	冬季の粗皮削りや防除が遅れた園について、発生が確認された。	薬剤防除。粗皮削り。
チャバネアオカメムシ	やや早	越冬世代多 第一世代多	越冬世代の飛来時期は、やや早く、発生量は多かった。第一世代の発生も多く、果粒を吸収される被害を受けた。	フェロモントラップでの初飛来が4月第4半旬と、やや早かった。冬季の越冬成虫調査では数が多かったことから、越冬世代の発生量が多かった。	発生に応じた薬剤防除。6月4日、8月7日に注意報を発表した。
ツヤアオカメムシ	やや早	越冬世代多 第一世代平年並	越冬世代の飛来時期は、やや早く、発生量は多く、生育初期に被害を受けた果粒は多かった。第一世代の発生は平年並であった。	予察灯での初飛来が5月第1半旬と、やや早く、5月下旬以降に増加した。その後の第一世代の誘殺数は平年並であった。	発生に応じた薬剤防除。6月4日、8月7日に注意報を発表した。
クサガカメムシ	やや早	越冬世代多 第一世代平年並	越冬世代の飛来時期は、やや早く、越冬世代の発生量は、やや多かった。第一世代の発生は平年並であった。	予察灯での初飛来が5月第2半旬と、やや早く、越冬世代の誘殺数も、やや多かった。その後の第一世代の誘殺数は平年並であった。	発生に応じた薬剤防除。6月4日、8月7日に注意報を発表した。
フタテンヒメヨコバイ	—	平年並	葉における被害は確認されなかった。	近年大きな被害を確認することは少ない。	アザミマ類との同時防除。新梢管理による過繁茂の防止。
チャノキイロアザミウマ	—	やや少	果軸および果粒における被害は確認されなかった。	適期防除により、発生量は、やや少なかった。	幼果期の薬剤防除。粗皮削り。袋かけ。園内外の除草。
コガネムシ類	平年並	平年並	初発確認は6月下旬と平年並であった。適期防除により被害は拡大しなかった。	園外からの飛来が主であり、園外の雑草等の管理が怠っている園で発生が確認された。	飛来状況に応じた薬剤防除。園外の雑草等管理。

(ウ) カキ

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
うどんこ病	平年並	やや少	初発確認は6月上旬と平年並であったが、その後の発生量は、やや少なく推移した。	適期防除により、発生量は、やや少なかった。	初発時の防除。落葉病、炭疽病との同時防除。落葉の園外処分。
落葉病	やや早	やや少	初発確認は7月下旬と、やや早かったが、その後の発生量は、やや少なく推移した。	梅雨時期は降水量が多かったため、発生時期が早くなったが、その後高温により発生量は、やや少なくなった。	感染期の薬剤防除。落葉の園外処分。
炭疽病	—	やや少	新梢および果実における発病は確認されなかった。	5～6月は高温で、降水量は少なく推移したため、発生量は、やや少なかった。	新梢の過繁茂防止。発病枝や発病果の除去。薬剤防除。
チャノキイロアザミウマ	—	やや少	果実における発生は確認されなかった。	適期防除により、発生量は、やや少なかった。	開花期および幼果期の薬剤防除。粗皮削り。
カキクダアザミウマ	やや早	平年並	初発確認は6月中旬と、やや早かったが、その後の発生量は平年並であった。	5～6月は高温により発生は、やや早くなったが、その後の適期防除により被害の拡大は見られなかった。	軽微な被害葉が見え始めた頃の薬剤による防除。被害葉の処分。粗皮削り。
カキノヘタムシガ	平年並	やや多	初発確認は6月上旬と平年並であり、第一世代での成虫も確認され、発生量は、やや多かった。果実への被害は確認されなかった。	5～6月は高温により、第一世代の成虫が増え、その発生量は、やや多くなった。	満開10日後および成虫発生盛期の薬剤防除。粗皮削り。
フジコナカイガラムシ	平年並	やや多	初発確認は6月中旬と平年並であり、7月下旬以降、その発生量は増加した。	防除が遅れた園については、発生量が、やや多くなった。	薬剤防除。粗皮削り。
チャバネアオカメムシ	やや早	越冬世多 第一世代多	越冬世代の飛来時期は、やや早く、発生量は多かった。第一世代の発生も多く、果実に大きな被害を受けた。	フェロモントラップでの初飛来が4月第4半旬と、やや早かった。冬季の越冬成虫調査では数が多かったことから、越冬世代の発生量が多かった。	発生に応じた薬剤防除。6月4日、8月7日に注意報を発表した。
ツヤアオカメムシ	やや早	越冬世多 第一世代平年並	越冬世代の飛来時期は、やや早く、発生量は多く、生育初期に被害を受けた果実は多かった。第一世代の発生は平年並であった。	予察灯での初飛来が5月第1半旬と、やや早く、5月下旬以降に増加した。その後の第一世代の誘殺数は平年並であった。	発生に応じた薬剤防除。6月4日、8月7日に注意報を発表した。
クサギカメムシ	やや早	越冬世多 第一世代平年並	越冬世代の飛来時期は、やや早く、越冬世代の発生量は、やや多かった。第一世代の発生は平年並であった。	予察灯での初飛来が5月第2半旬と、やや早く、越冬世代の誘殺数も、やや多かった。その後の第一世代の誘殺数は平年並であった。	発生に応じた薬剤防除。6月4日、8月7日に注意報を発表した。
マイマイガ	—	少	ほ場での発生は見られなかった。	H24に多発生になったが、その後の発生は少ない。	初発時の薬剤防除。
チャノコカクモンハマキ	やや遅	平年並	発生時期は、やや遅く、収穫後半に葉および果実への食害が見られた。	フェロモントラップでの誘殺は4月第6半旬と、やや遅かった。誘殺数は7月上旬、8月上旬に一時増加し、葉や果実への被害につながった。	アザミウマ類、ハネハムシガとの同時防除。
チャハマキ	やや早	やや多	発生時期は、やや早く、収穫後半に葉および果実への食害が見られた。	フェロモントラップでの誘殺は4月第1半旬と、やや早かった。フェロモントラップでの誘殺数は7月以降増加し、葉や果実への被害につながった。	アザミウマ類、ハネハムシガとの同時防除。

## ウ 予察灯、フェロモントラップおよびほ場における調査

### (ア) 予察灯による調査

カメムシ類半旬別誘殺状況 (栗東市荒張、100W高压水銀灯) (頭)

月	半旬	チャバネアオカメムシ				ツヤアオカメムシ				クサギカメムシ			
		本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	1	9	9	2.4	3	18	18	0.2	0	0	0	0	0
	2	19	28	0.3	3	17	35	0.3	1	1	1	0	0
	3	76	104	2.1	5	21	56	1.3	2	0	1	0	0
	4	35	139	49.8	55	18	74	5.4	7	0	1	1.0	1
	5	292	431	2.3	57	146	220	2.8	10	3	4	0	1
	6	42	473	9.8	67	61	281	6.8	17	0	4	1.1	2
6	1	124	597	15.6	83	130	411	15.1	32	7	11	0.6	3
	2	38	635	10.6	93	211	622	26.0	58	8	19	2.1	5
	3	22	657	10.0	103	47	669	27.6	86	0	19	1.0	6
	4	42	699	17.9	121	712	1381	53.7	139	12	31	0.6	7
	5	153	852	25.8	147	385	1766	68.2	207	28	59	1.4	8
	6	253	1105	89.4	236	903	2669	47.9	255	21	80	7.9	16
7	1	1232	2337	55.8	292	538	3207	39.8	295	30	110	6.8	23
	2	641	2978	66.9	359	251	3458	33.0	328	28	138	6.8	29
	3	350	3328	109.0	468	144	3602	46.2	374	5	143	25.3	55
	4	490	3818	144.7	613	242	3844	58.6	433	51	194	32.1	87
	5	221	4039	102.9	715	101	3945	49.3	482	9	203	29.4	116
	6	223	4262	239.5	955	102	4047	50.0	532	35	238	85.4	202
8	1	700	4962	240.3	1195	120	4167	59.5	592	72	310	60.9	262
	2	487	5449	126.8	1322	79	4246	90.3	682	66	376	34.7	297
	3	268	5717	142.9	1465	72	4318	211.2	893	44	420	36.2	333
	4	148	5865	163.6	1629	52	4370	87.2	980	17	437	37.9	371
	5	99	5964	113.7	1742	14	4384	35.9	1016	5	442	28.4	400
	6	106	6070	142.2	1884	32	4416	54.1	1070	11	453	23.3	423
9	1	134	6204	106.0	1990	17	4433	44.9	1115	5	458	7.9	431
	2	156	6360	118.3	2109	16	4449	57.7	1173	0	458	5.4	436
	3	124	6484	73.0	2182	36	4485	71.1	1244	1	459	2.9	439
	4	98	6582	53.3	2235	16	4501	74.0	1318	0	459	1.6	441
	5	10	6592	45.5	2281	24	4525	92.8	1411	0	459	1.4	442
	6	82	6674	181.7	2462	52	4577	315.4	1726	0	459	2.1	444
10	1	23	6697	55.8	2518	29	4606	203.8	1930	0	459	1.5	446
	2	9	6706	22.9	2541	42	4648	104.2	2034	0	459	1.0	447
	3	13	6719	32.3	2573	9	4657	158.7	2193	0	459	0.8	448
	4	13	6732	9.4	2583	10	4667	99.3	2292	0	459	0.5	448
	5	0	6732	3.9	2587	7	4674	35.7	2328	0	459	0.1	448
	6	0	6732	1.1	2588	0	4674	11.3	2339	0	459	0.1	448

※平年値はH22～R1の10年間の平均値

## (イ) フェロモントラップによる調査

フェロモントラップ半旬別誘殺状況 (栗東市荒張)

(頭)

月	半旬	果樹カメムシ類						ナシヒメシンクイ		チャハマキ		チャノコカクモンハマキ	
		チャバナアオカメムシ		ツヤアオカメムシ		クサギカメムシ		本年	平年	本年	平年	本年	平年
		本年	平年	本年	平年	本年	平年						
4	1	0	0.1	0	0	0	0	0	0.4	4	0.2	0	0
	2	0	0.3	0	0	0	0	2	0.4	2	0.2	0	0.2
	3	0	0	0	0	0	0	2	0.9	7	0.0	0	0.3
	4	1	0.5	0	0	0	0	0	1.7	0	0.3	0	0.9
	5	0	3.6	0	0.1	0	0	0	2.0	1	0.9	0	1.4
	6	3	3.2	0	0	0	0.2	0	2.4	0	1.3	2	1.5
5	1	14	29.2	10	0.6	1	0.4	0	0.7	4	1.7	3	2.1
	2	28	16.8	28	0.2	0	0	3	0.4	4	1.6	2	3.8
	3	44	34.2	23	3.4	0	0.3	0	0.1	0	2.1	2	6.5
	4	6	106.9	1	6.2	0	1.4	0	0.1	2	2.5	1	4.1
	5	168	28.4	86	4.8	3	1.0	0	0	0	1.3	3	1.9
	6	348	19.9	167	4.8	9	1.3	0	0	0	1.8	0	1.6
6	1	513	68.3	173	12.4	22	3.1	0	0.1	3	1.2	0	0.2
	2	110	36.1	38	4.3	8	9.0	0	0.2	1	1.1	2	0.2
	3	87	30.1	0	0.7	1	0.7	0	0.3	0	0.8	3	1.1
	4	50	81.5	1	2.4	0	1.2	0	0.5	0	1.2	1	1.1
	5	347	118.5	7	1.1	2	0.7	0	0.5	0	1.7	2	2.0
	6	1117	270.4	11	1.9	3	1.1	0	0.6	0	1.4	2	2.3
7	1	1426	311.7	17	2.1	0	1.1	0	0.4	5	0.6	8	4.8
	2	715	324.3	4	1.7	0	2.3	0	0.5	0	1.5	2	3.8
	3	641	422.2	7	0.6	1	3.0	0	0.2	6	0.8	5	1.3
	4	1025	489.9	2	1.7	2	3.0	0	1.0	4	1.3	1	0.5
	5	532	407.2	4	3.3	0	1.9	0	1.1	0	1.2	1	0.8
	6	425	439.8	0	5.6	1	1.0	0	1.2	0	1.2	0	1.6
8	1	1851	329.1	17	3.4	1	0.7	0	1.0	5	1.8	16	3.5
	2	552	217.8	43	2.6	0	0.4	0	1.3	0	1.6	8	2.4
	3	423	242.7	61	1.9	2	0.6	0	0.8	1	0.0	1	3.6
	4	114	233.6	18	1.9	0	1.0	0	1.2	0	0.6	0	2.8
	5	53	108.3	15	2.7	0	0.2	0	0.9	1	0.6	0	0.9
	6	32	71.7	20	2.1	0	0.2	0	1.0	1	1.4	1	0.9
9	1	84	18.0	29	1.3	0	0	0	1.4	-	-	-	-
	2	27	21.5	36	3.8	0	0	0	1.6	-	-	-	-
	3	5	5.2	8	0.5	0	0	0	0.7	-	-	-	-
	4	1	5.3	9	1.6	0	0	0	0.7	-	-	-	-
	5	63	2.6	53	3.8	0	0.1	0	0.3	-	-	-	-
	6	15	6.5	45	13.2	1	0.2	0	0	-	-	-	-
10	1	10	0.8	94	2.6	2	0	-	-	-	-	-	-
	2	3	8.1	30	36.6	0	0.1	-	-	-	-	-	-
	3	1	20.9	6	52.2	1	0.4	-	-	-	-	-	-
	4	1	7.4	6	48.5	1	0.2	-	-	-	-	-	-
	5	0	2.5	7	32.0	0	0.3	-	-	-	-	-	-
	6	0	1.3	0	8.2	0	0.1	-	-	-	-	-	-

※平年値はH22～R1の10年間の平均値。ナシヒメシンクイの調査期間は4月～9月。チャハマキおよびチャノコカクモンハマキの調査期間は4月～8月。

(ウ) 現地ほ場における発生調査

a ナシ

月	黒星病 (発病果率%)				赤星病 (発病葉率%)				アブラムシ類 (寄生新梢率%)				ハダニ類 (寄生葉率%)			
	東近江市 下中野町		彦根市 石寺町		東近江市 下中野町		彦根市 石寺町		東近江市 下中野町		彦根市 石寺町		東近江市 下中野町		彦根市 石寺町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
5	5.6	0.4	0	0	8.6	0.2	6.2	0.3	8.9	5.8	4.5	6.3	0	0	0	0
6	7.4	0.8	0	0	0	0.5	0	0	0	2.3	1.5	5.6	2.5	2.5	0	0.2
7	6.7	0.9	0	0	-	-	-	-	0	0.1	0	0.4	8.0	2.8	0	1.5
8	44.4	0.5	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	9.3	0.6	2.6	0.7

※平年値：H22～R1の10年間の平均値。

※「-」は調査期間外または未調査。

b ブドウ

月	べと病 (葉の発病度)				灰色かび病 (発病率%)				晩腐病 (発病率%)				チャノキイロアザミウマ (果房の被害度)			
	東近江市 鯉江町		長浜市 今荘町		東近江市 鯉江町		長浜市 今荘町		東近江市 鯉江町		長浜市 今荘町		東近江市 鯉江町		長浜市 今荘町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
5	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	0.1	0.2	0	0.4	0	0.4	0	0.2	-	-	-	-	0	0	0	0
7	4.6	3.1	13.7	4.5	0	1.1	0	0	-	-	-	-	0	0.1	0	0.2
8	4.7	9.0	22.6	8.7	-	-	-	-	0	-	1.7	-	-	-	-	-
9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※平年値：H22～R1の10年間の値。ただし東近江市についてはH26年に曾根町から鯉江町に調査地点を変更。

※本年の「-」は調査期間外または未調査。平年の「-」はデータ数が少ないため未記入とした。

c カキ

月	炭そ病 (発病果率%)				カキクダアザミウマ (被害度)				カキノヘタムシガ (100葉あたり成虫数)				フジコナカイガラムシ (寄生新梢率%)				マイマイガ (寄生葉率%)			
	東近江市 鯉江町		栗東市 荒張		米原市 杉澤		栗東市 荒張		米原市 杉澤		栗東市 荒張		米原市 杉澤		栗東市 荒張		米原市 杉澤		栗東市 荒張	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
5	-	-	-	-	0	0.1	0	0.5	0	0	0	0	-	-	-	-	0	0.6	0	0.2
6	0	0	0	0	0.6	0.2	0	0.4	0.2	0.1	0	0	0	0	0.1	0	0.1	0	0	
7	0	0	0	0	-	-	-	-	0	0.1	0	0	0	1.6	0	0	0	0	0	
8	0	0.5	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0.5	0	0	-	-	-	-
9	1.6	0	0	1.1	-	-	-	-	-	-	-	-	0	2.2	8.3	0.4	-	-	-	-

※平年値：米原市はH22～R1の10年間の値、栗東市はH23～R1の9年間の値。

※ただし、炭そ病についてはH31年に米原市弥高から東近江市鯉江町に変更し、カキノヘタムシガ、フジコナカイガラムシ、マイマイガは米原市弥高から杉澤に調査地点

## エ 発生および被害面積

作物名	栽培面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積(ha)					発生面積 率(%)	被害面積 率(%)	防除面積(ha)	
			甚	多	中	少	計			実防除	延防除
ナシ	47	黒星病	0	1	3	11	15	31.9	8.5	* 38	* 380
		赤星病	0	0	1	8	9	19.1	2.1	* 38	* 76
		うどんこ病	0	0	0	1	1	2.1	0	* 38	* 76
		ナシヒメシンクイ	0	0	3	4	7	14.9	6.4	* 38	* 228
		モモシンクイガ	0	0	0	0	0	0	0	* 38	* 76
		チャノココクモンハマキ	0	0	1	6	7	14.9	2.1	* 38	* 76
		チャハマキ	0	0	2	6	8	17.0	4.3	* 38	* 76
		ナミハダニ	0	1	5	9	15	31.9	12.8	* 38	* 152
		カンザワハダニ	0	1	4	9	14	29.8	10.6	* 38	* 152
		クサギカメムシ	0	0	1	4	5	10.6	2.1	* 38	* 76
		チャバネアオカメムシ	0	1	6	5	12	25.5	14.9	* 38	* 76
		ツヤアオカメムシ	0	0	3	8	11	23.4	6.4	* 38	* 76
アブラムシ類	0	0	4	14	18	38.3	8.5	* 38	* 114		
ブドウ	53	晩腐病	0	0	2	10	12	22.6	3.8	* 46	* 92
		うどんこ病	0	0	0	2	2	3.8	0	* 46	* 115
		べと病	0	3	5	10	18	34.0	15.1	* 46	* 138
		灰色かび病	0	0	0	8	8	15.1	0.0	* 46	* 92
		チャバネアオカメムシ	0	0	4	8	12	22.6	7.5	* 46	* 92
		ツヤアオカメムシ	0	0	3	8	11	20.8	5.7	* 46	* 92
		クサギカメムシ	0	0	1	3	4	7.5	1.9	* 46	* 92
		コガネムシ類	0	0	0	2	2	3.8	0	* 23	* 23
		フタテンヒメヨコバイ	0	0	0	3	3	5.7	0	* 15	* 15
		チャノキイロアザミウマ	0	0	2	7	9	17.0	3.8	* 46	* 92
クワコナカイガラムシ	0	0	1	3	4	7.5	1.9	* 23	* 35		
カキ	153	炭そ病	0	0	3	18	21	13.7	2.0	* 34	* 68
		うどんこ病	0	0	2	8	10	6.5	1.3	* 34	* 68
		落葉病類	0	0	1	22	23	15.0	0.7	* 34	* 102
		カキノヘタムシガ	0	0	2	19	21	13.7	1.3	* 34	* 136
		フジコナカイガラムシ	0	0	1	4	5	3.3	0.7	* 34	* 68
		クサギカメムシ	0	1	7	20	28	18.3	5.2	* 34	* 102
		チャバネアオカメムシ	1	7	10	30	48	31.4	11.8	* 34	* 102
		ツヤアオカメムシ	0	3	10	25	38	24.8	8.5	* 34	* 102
		チャハマキ	0	0	0	3	3	2.2	0	* 34	* 34
		チャノココクモンハマキ	0	0	0	3	3	2.0	0	* 34	* 34
		チャノキイロアザミウマ	0	0	0	3	3	2.0	0	* 34	* 34
マイマイガ	0	0	0	0	0	0	0	* 34	* 34		
カキクダアザミウマ	0	0	1	2	3	2.0	0.7	* 34	* 34		

※防除面積の「\*」は同時防除含む。

※被害面積率=(程度別発生面積甚～中の和)/(栽培面積)

## (2) チャ

### ア 生育状況

3月下旬頃まで平均気温が高く推移したことから、茶業指導所内の作況園での一番茶萌芽期は、前年より11日早く、前5か年平均より5日早い4月2日となった。しかし、4月の低温の影響で、前5か年より7日程度の遅れで生育が進み、摘採日は前5か年平均より4日遅い5月11日となった。収量は、百芽重が小さかったことから、前5か年平均より2割程度減少した。

5月下旬から6月上旬にかけて降水量がかなり少なかったことから、二番茶摘採日は前5か年平均より4日遅い6月29日となった。収量は、芽数が少なく百芽重が少なかったことから、前5か年平均より3割程度少なかった。

二番茶摘採後は、8月に少雨の影響で干ばつの傾向がみられ、三番茶芽の生育が一時的に抑制された。それ以降の降水量については、9月中旬に少なかった以外は平年並～かなり多く推移したことから、三番茶芽および秋芽の生育は順調であった。

### イ 発生状況

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
炭疽病	平年並	やや多	7月上旬までは発生量は平年並であったが、7月中旬～8月中旬に平年よりも、やや多くなった。	感染源となる前年の発生量が平年並であったが、7月上旬・下旬の降水量が多かったことから、7月中旬～8月中旬に発生量が多くなった。8月に降水量が少なかったことから、その後の発生量は平年並となった。	薬剤による防除が適宜行われたほか、二番茶摘採後の浅刈り等による耕種的防除が実施された。
もち病	平年並	多	7月上旬までは発生量は平年並であったが、7月中旬～8月中旬に平年よりも多くなった。	感染源となる前年の発生量が平年並であったが、7月上旬・下旬の降水量が多かったことから、7月中旬～8月中旬に発生量が多くなった。8月に降水量が少なかったことから、その後の発生量は平年並となった。	発生が多かったため、7月21日に防除情報を発表した。常発地では薬剤による防除が適宜行われた。また、二番茶摘採後の浅刈りによる耕種的防除が実施された。
輪斑病	平年並	多	7月上旬までは発生量は平年並であったが、7月中旬～8月中旬に平年よりも多くなった。	感染源となる前年の新梢枯死症の発生量が平年並であったが、二番茶摘採期の6月中旬～下旬にかけて気温が高く推移したことから、7月中旬以降に発生量は多く推移した。	発生が多かったため、7月21日に防除情報を発表した。発生園では、治療剤散布による防除が実施された。
新梢枯死症	やや早	平年並	発生時期は、やや早く、8月中旬に発生が確認されたが、9月以降の発生量は平年並となった。	二番茶の摘採時期が早く、三番茶芽の生育が早まったことから、新梢枯死症の発生時期が、やや早まり、8月中旬頃から発生が見られた。発生量は平年並となった。	輪斑病の発生が多かったため、7月21日に防除情報を発表した。発生園では、治療剤散布による防除が実施された。
チャノコカクモンハマキ	平年並	やや多	発生時期は、越冬世代で、やや早く、第1世代以降は平年並であった。発生量は越冬世代で、やや多かったが、第1世代は平年並で、第2世代以降は、多かった。	前年最終世代の発生量が多かったことから、越冬世代の発生量は、やや多かった。第1・2世代幼虫のふ化最盛期が摘採期と重なり、適期防除が困難であったことから、徐々に発生量が増加した。	薬剤による防除が適宜行われたほか、二番茶摘採後の浅刈りによる耕種的防除が実施された。



病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
チャハマキ	平年並	少	期間を通じて発生量は少なかった。	コカクモンハマキの発生によって防除が適宜行われたことから、発生量は少なく推移した。	チャノコカクモンハマキとの同時防除が実施された。
チャノホソガ	やや遅	平年並	発生量は、第1世代までは平年並で、第2世代で、やや多く、第3世代以降は平年並であった。発生時期は、越冬世代と第1世代で平年並であったが、第2世代以降は、やや遅かった。	一番茶の摘採期が遅く第1世代成虫の羽化が進んだことから、第2世代の発生量が、やや多くなったが、その後は平年並となった。また、7月の気温が低かったことから、第2世代以降の発生時期はやや遅くなった。	二番茶、秋番茶の摘採前を中心に、薬剤による防除が実施された。
チャノミドリヒメヨコバイ	平年並	やや多	発生量は6月中旬～7月中旬に、やや多かった。	5月下旬～6月上旬にかけて降雨が少なかったことから、6月中旬～7月中旬の発生量が、やや多くなった。	発生に応じて適宜防除が実施された。
カンザワハダニ	平年並	やや少	発生量は9月までやや少～平年並で、10月は多かった。	8月～9月にかけて高温少雨の傾向にあったことから、10月の発生量は多くなった。	発生に応じて適宜防除が実施された。
チャノキイロアザミウマ	平年並	やや少	6月までは平年並の発生がみられたが、7月以降の発生量は、やや少なかった。	7月上旬～下旬の降水量が多かったことから、7月以降の発生量は、やや少なくなった。	発生に応じて適宜防除が実施された。
ツマグロアオカスミカメ	やや早	平年並	発生時期は、やや早く、発生量は平年並であった。	一番茶の萌芽期が平年より5日早かったことから、発生時期は、やや早くなった。	一番茶の萌芽期～開葉期に薬剤防除が実施された。
クワシロカイガラムシ	平年並	やや少	発生量は越冬世代で平年並、第1世代以降で、やや少なかった。	前年最終世代の発生量は平年並であったことから、越冬世代の発生量は平年並となった。また、6月中旬、7月上旬～下旬の降水量が多かったことから、第1世代、第2世代の発生量は、やや少なくなった。	発生園では主に第2世代幼虫ふ化期に薬剤防除が実施された。
チャトゲコナジラミ	平年並	やや多	発生時期は越冬世代で、やや遅く、第1世代は、やや早かった。発生量は越冬世代で、やや多かったが、第1世代は多く、第2世代はやや少となった。	4月の気温が低かったことから、越冬世代の幼虫ふ化時期が遅れたが、5月上旬～6月下旬の高温により、第1世代の幼虫ふ化時期が、やや早まった。また、8月中～下旬の高温・干ばつの影響により、第2世代の発生量はやや少なくなった。	発生園では、防除適期である若齢幼虫期に薬剤防除が実施された。また、二番茶摘採後の浅刈りによる耕種の防除が実施された。

## ウ 予察灯・フェロモントラップ・ほ場における調査

### (ア) 予察灯（水盤）・フェロモントラップにおける調査

チャノコカクモンハマキ・チャハマキ・チャノホソガ 半旬別誘殺状況（甲賀市水口町）  
（頭）

月 半旬	チャノコカクモンハマキ						チャハマキ						チャノ困ソガ				
	予察灯			フェロモン トラップ			予察灯			フェロモン トラップ			予察灯		フェロモン トラップ		
	本年			平年	本年	平年	本年			平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
	♀	♂	計				♀	♂	計								
4	1	0	0	0	0	12	6	0	0	0	0	0	0	0	1	4	172
	2	0	0	0	0	9	35	0	0	0	0	1	0	0	1	1	112
	3	0	0	0	0	118	38	0	0	0	0	0	2	0	2	18	102
	4	0	0	0	2	330	145	0	0	0	0	3	7	0	12	94	199
	5	0	16	16	7	332	175	0	0	0	1	2	9	1	4	7	94
	6	32	286	318	39	1195	256	0	0	0	1	1	12	24	3	40	32
5	1	13	179	192	51	840	325	0	1	1	2	1	9	5	3	129	13
	2	2	18	20	65	298	417	0	0	0	1	3	10	1	1	8	11
	3	4	42	46	25	102	371	0	0	0	3	0	10	1	1	5	6
	4	3	4	7	35	34	198	0	1	1	1	3	8	0	0	3	2
	5	0	2	2	13	9	61	0	1	1	1	8	12	0	0	1	40
	6	0	0	0	7	1	26	0	0	0	2	2	14	2	16	10	559
6	1	0	1	1	3	2	7	0	4	4	1	3	10	30	33	1109	970
	2	0	17	17	1	28	16	0	0	0	1	1	5	57	49	1488	2060
	3	12	153	165	55	191	105	0	0	0	0	2	5	23	27	1397	1488
	4	25	128	153	19	208	123	0	1	1	0	2	4	16	6	353	688
	5	36	218	254	27	295	207	0	3	3	0	2	5	3	4	362	282
	6	18	228	246	32	162	251	0	0	0	2	0	7	5	5	77	158
7	1	4	100	104	24	204	180	0	0	0	2	1	6	0	3	24	251
	2	1	141	142	25	41	84	0	0	0	2	2	6	0	9	815	655
	3	0	1	1	12	4	26	0	0	0	4	1	9	2	18	2592	834
	4	0	0	0	3	3	17	0	0	0	1	11	12	3	26	2016	868
	5	0	3	3	4	46	29	0	1	1	2	6	6	0	5	856	471
	6	3	46	49	19	69	34	0	0	0	1	2	7	2	4	760	338
8	1	9	43	52	30	253	48	0	0	0	0	4	2	0	2	472	243
	2	5	28	33	32	104	29	0	0	0	1	1	3	0	9	221	556
	3	27	59	86	20	26	26	0	0	0	0	0	2	1	12	197	631
	4	2	9	11	33	6	18	0	0	0	1	2	3	2	9	591	602
	5	1	9	10	15	7	9	0	0	0	0	1	2	12	4	916	370
	6	1	20	21	3	16	18	0	1	1	0	0	2	5	2	599	327
9	1	0	3	3	3	63	33	0	0	0	0	0	2	0	2	285	257
	2	1	22	23	12	64	44	0	0	0	0	0	3	0	3	123	540
	3	4	41	45	32	252	58	0	0	0	0	0	5	0	3	62	655
	4	9	36	45	44	396	73	0	0	0	1	1	5	0	7	80	902
	5	83	332	415	37	423	96	0	0	0	0	3	5	0	4	176	612
	6	13	165	178	99	274	83	0	0	0	1	0	5	0	3	358	416
10	1	3	15	18	13	72	60	0	0	0	1	1	5	0	1	267	277
	2	0	1	1	16	4	56	0	0	0	2	2	7	0	2	235	253
	3	0	2	2	12	5	29	0	0	0	2	0	8	0	1	62	147
	4	0	0	0	7	6	31	0	0	0	1	7	10	0	1	39	133
	5	0	0	0	2	2	24	0	0	0	1	3	11	0	1	35	99
	6	0	0	0	0	39	5	0	0	0	1	5	13	0	1	13	66
11	1	0	0	0	0	42	4	0	0	0	1	5	4	0	0	10	38
	2	0	0	0	1	31	4	0	0	0	0	4	3	0	0	24	37
	3	0	0	0	0	17	6	0	0	0	0	4	3	0	0	7	28
	4	0	2	2	0	17	5	0	0	0	0	4	1	0	0	18	26
	5	0	0	0	0	7	7	0	0	0	0	0	1	0	0	4	19
	6	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19

※ 平年値は2010～2019年の10年間の平均値。

### チャノココクモンハマキ発生型一覧表（甲賀市水口町）

	越冬世代成虫		第1世代成虫		第2世代成虫		第3世代成虫	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
初飛来日（月日）	3月26日	4月20日	6月1日	6月14日	7月22日	7月25日	9月3日	9月9日
最盛日（月日）	4月29日	5月9日	6月29日	6月25日	8月12日	8月8日	9月24日	9月29日
最盛半旬（月-半旬）	4-6	5-2	6-5	6-5	8-3	8-2	9-5	9-6
50%誘殺日（月日）	4月29日	5月9日	6月24日	6月27日	8月10日	8月8日	9月24日	9月27日
終息日（月日）	5月22日	5月31日	7月15日	7月15日	9月1日	8月25日	11月19日	10月30日
誘殺日数（日）	28	25	32	22	42	22	37	23
誘殺数（頭）	601	245	1083	196	266	158	732	276
性比（♂ / ♀）	10.13	12.55	10.28	9.89	4.54	8.32	5.48	7.09

※ 平年値は2010～2019年の10年間の平均値。

### チャハマキ発生型一覧表（甲賀市水口町）

	越冬世代成虫		第1世代成虫		第2世代成虫		第3世代成虫	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
初飛来日（月日）	5月3日	4月28日	6月19日	6月28日	8月31日	8月11日	—	9月25日
最盛日（月日）	5月25日	5月11日	7月22日	7月11日	8月31日	8月20日	—	10月10日
最盛半旬（月-半旬）	6-1	5-2	6-5	7-1	8-6	8-4	—	10-2
50%誘殺日（月日）	6月2日	5月12日	6月23日	7月12日	8月31日	8月18日	—	10月10日
終息日（月日）	6月3日	6月1日	7月22日	7月18日	8月31日	8月22日	—	10月27日
誘殺日数（日）	5	11	5	8	1	5	—	9
誘殺数（頭）	7	18	5	14	1	6	—	12
性比（♂ / ♀）	—	5.09	—	7.10	—	3.50	—	5.42

※ 平年値は2010～2019年の10年間の平均値。

※ 「—」は誘殺数が0であったことによる。

### チャノホソガ発生型一覧表（甲賀市水口町）

	越冬世代成虫		第1世代成虫		第2世代成虫		第3世代成虫		第4世代成虫		第5世代成虫	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
初飛来日（月日）	3月26日	4月12日	5月29日	5月30日	7月14日	7月2日	8月12日	8月6日	—	9月8日	—	10月9日
最盛日（月日）	4月29日	4月23日	6月10日	6月8日	7月16日	7月12日	8月24日	8月15日	—	9月14日	—	10月17日
最盛半旬（月-半旬）	4-6	4-5	6-2	6-2	7-4	7-2	8-5	8-3	—	9-3	—	10-4
50%誘殺日（月日）	4月29日	4月24日	6月10日	6月8日	7月16日	7月12日	8月24日	8月15日	—	9月11日	—	10月16日
終息日（月日）	5月11日	5月8日	6月29日	6月21日	7月29日	7月26日	8月31日	8月24日	—	9月24日	—	10月30日
誘殺日数（日）	9	11	21	15	3	15	6	10	—	9	—	6
誘殺数（頭）	33	31	136	134	7	69	20	40	—	22	—	9

※ 平年値は2010～2019年の10年間の平均値。ただし、第5世代成虫は発生が認められた2010、2013～2016、2018、2019年の7年間の平均値。

※ 「—」は誘殺数が0であったことによる。

(イ) ほ場における調査

a カンザワハダニ 基準ほ場における発生調査 (甲賀市水口町)

月 旬	本年				寄生葉率 (%)	平年	
	寄生数 (頭/葉)					寄生数 (頭/葉)	寄生葉率 (%)
	成虫	幼虫	卵	合計			
1	0	0	0	0	0	0.02	1.0
2	0.02	0	0	0.02	2.0	0.02	0.6
3	上	0	0	0	0	0.02	1.4
	中	0	0	0	0	0.07	1.8
	下	0	0	0	0	0.44	3.0
4	上	0	0	0	0	0.12	1.4
	中	0	0	0	0	0.17	1.4
	下	0	0	0	0	0.10	1.2
5	上	0	0	0	0	0.37	1.4
	中	0	0	0	0	0.49	1.4
	下	0	0	0	0	0.04	1.0
6	上	0	0	0	0	0.19	2.6
	中	0	0	0	0	0.12	0.6
	下	0	0	0	0	0.01	0.4
7	上	0	0	0	0	0.01	0.2
	中	0	0	0	0	0.03	0.8
	下	0	0	0	0	0.00	0.0
8	上	0	0	0	0	0.04	1.2
	中	0	0	0	0	0.75	5.2
	下	0	0	0	0	0.14	3.6
9	上	0	0	0	0	0.10	3.8
	中	0.04	0	0	0.04	4.0	2.2
	下	0.08	0.32	0.80	1.20	16.0	1.4
10	0.08	0.98	0.36	1.42	10.0	0.15	2.2
11	0	0.06	0	0.06	4.0	0.12	1.2
12	0	0	0	0	0	0.05	1.2

※ 平年値は2010～2019年の10年間の平均値。

※ 寄生葉率は成虫、幼虫、または卵が1頭(卵)以上寄生している葉の割合。

b カンザワハダニ 予察ほにおける発生調査

(a) 甲賀市土山町 市場

月 旬	本年				寄生葉率 (%)	平年	
	寄生数 (頭/葉)					寄生数 (頭/葉)	寄生葉率 (%)
	成虫	幼虫	卵	合計			
1	0	0	0	0	0	0.05	1.0
2	0	0	0	0	0	0.00	0.4
3	上	0	0	0	0	0.03	1.6
	中	0	0	0	0	0.45	1.4
4	上	0	0	0	0	1.78	5.0
	中	0	0	0	0	1.12	2.8
5	上	0	0	0	0	0.18	2.2
	中	0	0	0	0	0.61	5.4
6	上	0	0	0	0	2.01	17.6
	中	0	0.04	0.06	0.10	2.0	2.23
7	上	0.08	0.06	0.06	0.20	8.0	10.8
	中	0	0	0	0	0.04	2.6
8	上	0	0	0	0	0.22	5.4
	中	0	0	0	0	0.56	8.8
9	上	0	0	0	0	1.33	7.6
	中	0	0	0	0	1.63	4.0
10	0	0	0	0	0	0.00	0.0
11	0	0	0	0	0	0.01	0.8
12	0	0	0	0	0	0.00	0.2

※ 平年値は2010～2019年の10年間の平均値。

(b) 甲賀市信楽町 奥山

月 旬	本年				寄生葉率 (%)	平年	
	寄生数 (頭/葉)					寄生数 (頭/葉)	寄生葉率 (%)
	成虫	幼虫	卵	合計			
1	0	0	0	0	0	0.03	0.8
2	0	0	0	0	0	0.00	0.2
3	上	0	0	0	0	0.02	1.2
	中	0	0	0	0	0.02	1.0
4	上	0	0	0	0	0.57	2.6
	中	0.02	0	0	0.02	2.0	1.79
5	上	0	0	0	0	0.63	3.6
	中	0	0	0	0	0.26	2.4
6	上	0	0	0	0	0.52	2.4
	中	0	0	0	0	0.07	1.2
7	上	0.02	0	0	0.02	2.0	0.01
	中	0	0.04	0.02	0.06	2.0	0.02
8	上	0	0	0	0.00	0	0.08
	中	0.02	0	0	0.02	2.0	0.06
9	上	0	0	0	0	0.03	1.2
	中	0.08	0.12	0	0.20	2.0	0.08
10	0	0	0	0	0	0.21	2.2
11	0	0	0	0	0	0.00	0.2
12	0	0	0	0	0	0.12	0.8

※ 平年値は2010～2019年の10年間の平均値。

c カンザワハダニ 現地ほ場における発生調査

(a) 甲賀市土山町 頓宮

月	本年				寄生葉率 (%)
	寄生数 (頭/葉)				
	成虫	幼虫	卵	合計	
1	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0
3	0.04	0	0.58	0.62	4.0
4	0.02	1.20	0.50	1.72	2.0
5	0	0	0	0	0
6	0.20	4.20	1.94	6.34	30.0
7	0	0	0	0	0
8	0	0.08	0	0.08	2.0
9	0	0	0	0	0
10	0	0	0	0	0
11	0	0	0	0	0
12	0	0	0	0	0

(b) 甲賀市土山町 布引

月	本年				寄生葉率 (%)
	寄生数 (頭/葉)				
	成虫	幼虫	卵	合計	
1	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0
3	0.02	0	0	0.02	2.0
4	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	0
7	0	0	0	0	0
8	0	0	0	0	0
9	0.04	0.04	0.42	0.50	4.0
10	0.06	3.36	1.70	5.12	30.0
11	0.06	0.22	0	0.28	10.0
12	0	0	0	0	0

(c) 甲賀市信楽町 向山

月	本年				寄生葉率 (%)
	寄生数 (頭/葉)				
	成虫	幼虫	卵	合計	
1	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0
6	0	0.46	0.02	0.48	2.0
7	0.02	0	0	0.02	2.0
8	0	0	0	0	0
9	0.26	1.58	0.30	2.14	18.0
10	0	0	0	0	0
11	0	0	0	0	0
12	0	0	0	0	0

## (d) 甲賀市信楽町 寺谷

月	本年				寄生葉率 (%)
	寄生数 (頭/葉)				
	成虫	幼虫	卵	合計	
1	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0
4	0.12	0.56	0	0.68	2.0
5	0	0	0	0	0
6	1.60	1.04	0.64	3.28	4.0
7	0	0	0	0	0
8	0	0	0.14	0.14	2.0
9	0	0	0	0	0
10	0.04	0	0	0.04	2.0
11	0	0	0	0	0
12	0	0	0	0	0

## (e) 日野町 北山

月	本年				寄生葉率 (%)
	寄生数 (頭/葉)				
	成虫	幼虫	卵	合計	
1	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0
3	0.10	0	0.62	0.72	6.0
4	0.06	1.38	1.26	2.70	12.0
5	0.02	0.50	0.40	0.92	2.0
6	0	0	0	0	0
7	0	0	0	0	0
8	0	0	0	0	0
9	0.04	0.52	0.20	0.76	8.0
10	0	0	0	0	0
11	0	0	0	0	0
12	0	0	0	0	0

d 炭疽病 基準ほ場および予察ほにおける発生調査

		病葉数 (枚/m <sup>2</sup> )															
月 旬	甲賀市水口町	甲賀市土山町						甲賀市信楽町						日野町			
		市場		頓宮		布引		奥山		向山		寺谷		北山			
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
1	0	5.9	0	1.2	4.8	1.8	17.6	1.4	0	15.9	0	2.4	0	1.0	0	0.0	
2	0	2.8	0	1.2	0	0.0	17.6	0.0	0	0.8	0	0.2	0	1.0	0	0.2	
3	上	0	8.2	0	3.0	-	-	-	0	1.8	-	-	-	-	-	-	
	中	0	5.8	0	0.0	0	0.2	9.6	0.8	0	1.4	0	0.2	0	5.0	0	0.4
	下	3.2	2.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4	上	0	0.6	0	0.2	-	-	-	0	1.6	-	-	-	-	-	-	
	中	0	9.4	0	0.4	0	3.4	0	3.0	0	1.2	0	0.6	0	1.4	0	0.2
	下	0	3.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	上	0	1.8	0	0.8	-	-	-	0	0.8	-	-	-	-	-	-	
	中	0	0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	下	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	上	0	3.2	0	0.0	-	-	-	0	0.0	-	-	-	-	-	-	
	中	0	0	0	0.0	0	0.0	1.6	0.0	0	1.0	0	0.0	0	0.8	0	0.2
	下	0	2.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7	上	0	8.0	0	0.2	-	-	-	0	2.2	-	-	-	-	-	-	
	中	3.2	12.6	0	0.6	0	0.4	1.6	1.6	0	0.4	0	1.0	0	0.4	0	0.0
	下	11.2	12.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8	上	1.6	5.4	0	0.8	-	-	-	0	1.4	-	-	-	-	-	-	
	中	1.6	13.1	0	0.6	0	0.2	0	5.4	0	1.0	0	1.8	0	1.6	0	0.4
	下	12.8	10.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9	上	30.4	14.0	0	3.6	-	-	-	0	3.4	-	-	-	-	-	-	
	中	46.4	30.0	0	2.8	4.8	1.6	73.6	6.2	0	10.6	6.4	6.6	0	8.2	0	0.6
	下	68.8	29.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10	19.2	26.3	0	1.2	1.6	8.2	12.8	3.8	1.6	16.0	6.4	2.2	0	4.4	0	0.8	
11	25.6	20.8	0	1.8	0	2.6	17.6	6.6	0	10.6	4.8	2.0	12.8	3.2	0	0.6	
12	0	13.7	0	3.0	0	0.2	22.4	7.3	1.6	2.1	4.8	0.9	0	2.5	0	0.5	

※ 平年値は2011～2018年の8年間の平均値。  
 ※ 「-」は未調査。

エ 発生および被害面積

作物名	栽培面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)					発生面積率 (%)	被害面積率 (%)	防除面積 (ha)		
			甚	多	中	少	計			実防除	延防除	備考
チャ	614	炭疽病	5	30	80	280	395	64.3	18.7	395	790	*
		もち病	10	20	50	120	200	32.6	13.0	200	400	*
		輪斑病	0	15	40	130	185	30.1	9.0	185	185	*
		新梢枯死症	0	10	70	180	260	42.3	13.0	260	260	
		チャノコカクモンハマキ	20	30	180	250	480	78.2	37.5	480	960	*
		チャハマキ	0	0	20	120	140	22.8	3.3	140	280	*
		チャノホソガ	0	20	130	280	430	70.0	24.4	430	860	
		チャノミドリヒメヨコバイ	10	40	150	250	450	73.3	32.6	450	900	*
		カンザワハダニ	0	15	85	250	350	57.0	16.3	350	700	
		チャノキイロアザミウマ	0	10	120	270	400	65.1	21.2	400	800	*
		ツマグロアオカスミカメ	0	0	20	60	80	13.0	3.3	80	80	
		クワシロカイガラムシ	0	30	95	250	375	61.1	20.4	375	750	
チャトゲコナジラミ	15	60	120	300	495	80.6	31.8	495	990	*		

※防除面積の備考欄「\*」は同時防除を含む  
 ※被害面積率=(程度別発生面積甚～中の和)/(栽培面積)



### (3) 花き (キク)

#### ア 発生状況

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
キク	白さび病	-	-	ほ場での発生は認められなかった。	昨年度発生が少なかったことによる菌密度の低下と、5月以降の高温によって発病が抑制された。	-
	アブラムシ類	遅	平年並	ほ場での初発確認は7月27日で、発生時期は遅く、発生量は平年並であった。	8月の気温が高く推移したことから密度抑制された。	発生初期の薬剤散布。
	アザミウマ類	遅	平年並	ほ場での初発確認は7月28日で、発生時期は遅く、発生量は平年並であった。	発生初期に適切に防除がされたため、発生量は平年並となった。	発生初期の薬剤散布。

#### イ 発生量調査

調査地点		病害虫名		白さび病	アブラムシ類	アザミウマ類
				発病葉率 (%)	1茎あたり寄生虫数 (頭)	被害葉率 (%)
				7/27~28	7/27~28	7/27~28
草津市	下笠町		0	0	0	0
野洲市	小南		0	0	0	0
湖南市	菩提寺		0	4	0	0
近江八幡市安土町	上豊浦		0	2	0	0
彦根市	松原町		0	0.01	0	0
甲良町	下之郷		0	0.40	0.02	0.02
米原市	世継		0	0	0	0
高島市今津町	深清水		0	0.02	0	0

#### ウ 発生状況一覧表

病害虫名	初発見月日	初発見場所
白さび病	-	-
アブラムシ類	7月27日	米原市世継
アザミウマ類	7月28日	甲良町下之郷

#### エ 発生および被害面積

対象作物名	栽培面積 (ha)	対象病害虫	程度別発生面積 (ha)					発生面積率 (%)	被害面積率 (%)	防除面積 (ha)	
			甚	多	中	少	計			実防除	延防除
キク	18	白さび病	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		アブラムシ類	0	0	0	3	3	16.7	0	10	20
		アザミウマ類	0	0	0	1	1	5.6	0	10	10

被害面積率=(程度別発生面積甚～中の和) / (栽培面積)

## 7 病虫害防除推進員

県内における病虫害発生予察精度の確保を図るため、平成31年4月に「病虫害防除推進員」を新たに設置した。

令和2年度は、16の農業協同組合より59名が選出され、地域における病虫害発生状況の把握に努めるとともに、病虫害防除および農薬安全使用の指導等を行っている。

### (1) 病虫害防除推進員研修会

#### ア 第1回

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から集合研修を取りやめ、5月下旬に病虫害防除推進員へ関連資料を送付し、研修会に代えた。

- (送付資料) ①滋賀県病虫害防除推進員設置要領  
 ②病虫害調査報告様式  
 ③病虫害防除推進員の業務について  
 ④水稲・ダイズ主要病虫害の発生要因・生態と調査のポイント  
 ⑤水稲・ダイズ主要病虫害判定シート(カラー画像入り)

#### イ 第2回

日時 令和3年3月10日(水) 13時15分～15時30分

場所 滋賀県庁新館7階 大会議室

- 研修内容 ①リモート講演「山口県における水稲害虫の生態と防除  
 ～2020年のトビイロウンカとイネカメムシを主体に～」  
 山口県農林総合技術センター 農業技術部 資源循環研究室  
 病虫害管理グループ総括 本田 善之 氏  
 ②報告「滋賀県におけるトビイロウンカおよび坪枯れ症状の発生について」  
 滋賀県病虫害防除所 近藤 博次  
 ③その他(各機関からの情報提供)

### (2) 病虫害防除推進員による病虫害発生量調査結果

今年度は、イネの葉いもちと、斑点米カメムシ類の定期調査を実施した。

作物名	病虫害名	調査基準日	発生量(%) (注1)(注2)					
			多	やや多	平年並	やや少	少	無
イネ	葉いもち	6/25	0	0	14.2	0	3.0	82.8
		7/10	0	2.6	8.6	0.9	9.5	78.4
	斑点米カメムシ類	8/1	6.6	18.9	36.8	10.4	9.4	17.9

(注1) 発生量の数値は、報告数に占める発生程度の比率。

(注2) 構成割合は四捨五入をしているため、その合計が100にならない場合がある。

## 8 滋賀県病害虫防除所ホームページ

予察情報等を広く早く伝達し、画像によるわかりやすい情報を提供するため、平成15年度より開始したインターネットによる情報提供サービスである。

令和2年1月から12月の利用実績は以下のとおりであった。令和元年と比較すると、発生予察情報（発生予報、警報・注意報・特殊報、防除情報）の閲覧数が大幅に減少しており、総閲覧数はおおよそ半数に減少した。

表 提供情報別閲覧数（回）

ページ名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
表紙	208	296	418	411	481	1,784	1,422	1,163	1,038	830	469	381	8,901
病害虫判定シート	41	57	86	241	376	748	1,284	1,578	946	350	174	162	6,043
警報・注意報・特殊報	30	30	72	34	39	856	297	277	407	187	71	220	2,520
発生予報	18	18	79	174	189	428	344	337	257	197	124	18	2,183
防除情報		101	291	5	14	71	692	366	137	85	17	120	1,899
発生量データ		10	15	44	79	116	154	162	145	85	57	9	876
BLASTAM	10	2				95	356	62	7	4			536
IPM	5	8	40	32	11	28	44	70	50	15	18	16	337
植物防疫事業年報		5	8	18			11	74					116
診断結果	21	11	10	27		8						16	93
農薬扱い		16			22				12	6			56
注目の病害虫												32	32
防除所の概要	10	2		7					8				27
研修会等開催報告											11	10	21
田んぼの生きもの							8	7					15
総計	343	556	1,019	993	1,211	4,134	4,612	4,096	3,007	1,759	941	984	23,655

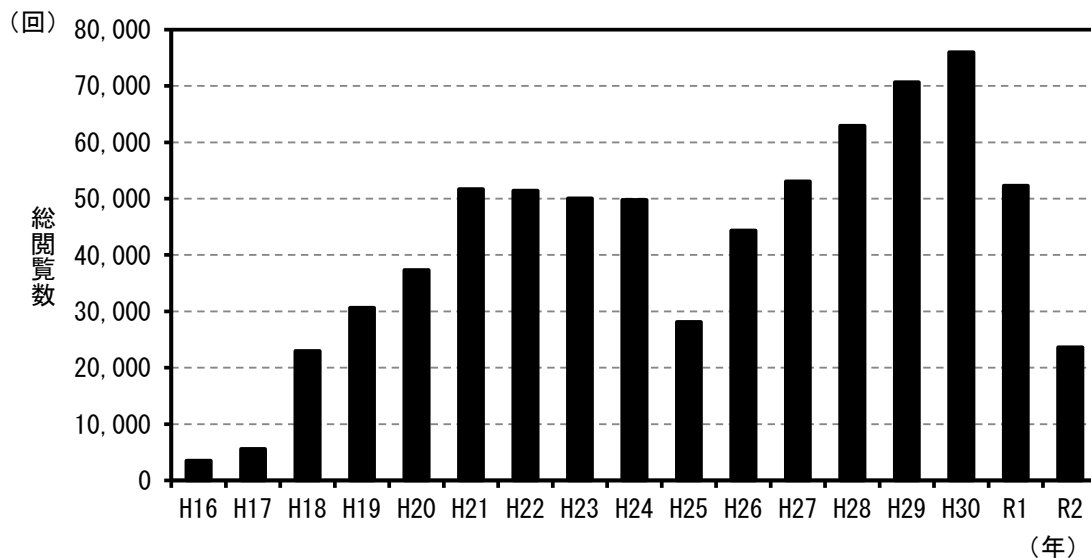


図 滋賀県病害虫防除所ホームページ 総閲覧数の年次推移

## 9 本年新たに発生が確認された病害虫

病害虫名および発生経過は以下のとおりである。

### (1) ツマジロクサヨトウ *Spodoptera frugiperda* (J.E.Smith)

令和2年6月2日、近江八幡市に設置したツマジロクサヨトウ用フェロモントラップにおいて、本種と疑われる成虫が捕獲された。農林水産省神戸植物防疫所に同定依頼した結果、本県では未発生のツマジロクサヨトウであることが確認された。7月31日には、近江八幡市内の飼料用ソルガムで幼虫の寄生が初めて確認され、その後、飼料用トウモロコシでも発生が確認された。詳細については第3 重要病害虫の特別防除等推進事業に記載。



葉上の幼虫



幼虫の頭部には「逆Y字」紋が見られる

詳細については、令和2年度病害虫発生予察特殊報第1号 (p. 94) を参照。

### (2) ヒサカキワタフキコナジラミ *Pealius euryae* (Takahashi)

令和2年6月10日に、県農業技術振興センター茶業指導所（甲賀市水口町）の茶園において、茶株内の低い位置の枝の葉裏に、白い綿状物質に覆われた種不明なコナジラミ類幼虫の発生が確認された。久留米大学の宮健吉博士に同定を依頼したところ、本県では未発生のヒサカキワタフキコナジラミと同定された。なお、本種のチャ生産における被害は報告されておらず、現在のところ本種を対象とした防除の必要性は低いと考えられる。しかし、チャにおける発生生態に関しては十分な知見がないため、ほ場での発生状況には十分注意する。



成虫



葉裏に寄生する幼虫

詳細については、令和2年度病害虫発生予察特殊報第2号 (p. 95) を参照。

(3) アリガタツコムシ *Isopsera sulcate* (Bey-Bienko)

令和2年7月8日、大津市において本種が発見された、との報道がされた（「月刊むし」2020年2月号にも掲載）。国内では未発生種であり、本種の属するキリギリス科は農水省が定める重要病害虫にあたるため、重要病害虫発生時対応基本指針に基づき侵入警戒調査を実施した。同日午後、発生が報告された林地にて、ギシギシを摂食する本種を確認した。その後、県域での発生状況を調査し（7月9日～17日）、県内の野菜類で本種の発生がないことを確認した。なお、本種は、主にギシギシやヨモギを摂食することから、農業被害が発生する可能性は低いと考えられる。



本種の生息する林地



本種の幼虫

(4) ヨコバイ科の一種（和名なし） *Singapora shinshana* (Matsumura)

令和2年11月、大津市内の民家に植栽されたモッコウバラの葉を加害するヒメヨコバイ類が確認された。採取した成虫を農林水産省神戸植物防疫所に同定依頼した結果、本県では未発生のヨコバイ科の一種 *Singapora shinshana* (Matsumura) と同定された。



成虫



モッコウバラの被害葉（大津市内の民家）

詳細については、令和2年度病害虫発生予察特殊報第3号（p. 95）を参照。

## 10 病害虫の診断および生態調査

### (1) 薬剤耐性検定 (病害)

県内ほ場で採集したイネいもち病菌についてQoI剤の耐性菌検定を実施した。詳細については、第6 各種試験成績の項を参照。

### (2) 薬剤耐性検定 (虫害)

#### 1) ネギアザミウマ

ネギアザミウマについて薬剤感受性検定を実施した。詳細については、第6 各種試験成績の項を参照。

#### 2) ナミハダニ

##### ア 目的

ナシ栽培において、ハダニ類は、薬剤抵抗性が発達しやすいことから、難防除害虫となっており、殺ダニ剤に対する感受性の把握が必要である。そこで、彦根市石寺町のナシ園において採集したナミハダニ（黄緑型）について、殺ダニ剤および殺卵剤に対する感受性を検定し、有用な殺ダニ剤を明らかにすることで、生産現場の防除指導に資する。

##### イ 方法

###### (ア) 供試虫の採集と飼育

令和2年7月30日に彦根市石寺町のナシ園に発生しているナミハダニ黄緑型を採集し、インゲンマメ（品種：長鶉菜豆）葉片を食餌として飼育した。室内飼育（25℃、16L8D長日条件）した次世代以降の雌成虫を薬剤感受性試験に供試した。

###### (イ) 感受性検定

ハダニ類の薬剤感受性検定マニュアルに基づき、殺ダニ剤の検定には2cm四方に切り抜いたインゲンマメ葉片上に供試虫10頭前後を接種し、蒸留水で湿らせた脱脂綿上に置いた。シャーレ内に既定濃度の薬液を2～3mg/cm<sup>2</sup>（100～200 $\mu$ l/10a）散布後、25℃、16L8D条件に静置し、2日後に生・死虫数を計数した。一方、殺卵剤の検定には、インゲン葉片上にナミハダニ雌成虫5頭を放飼し、2日後に産卵された卵のうち30卵を残して破碎した。その後、同様に薬液を散布し、7日後に孵化した若虫を計数した。薬剤散布には、エアブラシ（TAMIYA社製、SPRAY-WORK HG-T）とコンプレッサー（同、SPRAY-WORK HG AIR COMPRESSOR REVOII）を組み合わせで作製した散布装置を用いた（國本・今村，2016）。

###### (ウ) 供試薬剤

殺ダニ剤にはシエノピラフェンフロアブル剤、ミルベメクチン水和剤、フェンピロキシメート水和剤の計3剤を実用濃度で供試した。また、殺卵剤にはヘキシチアゾクス水和剤を供試した。

##### ウ 結果の概要

表に各薬剤の補正死虫率を示した。供試した殺ダニ剤3剤のうち、ミルベメクチン水和剤のみ91.8%と高い補正死虫率となり、他2剤は効果が劣った（表1）。一方、殺卵剤であるヘキシチアゾクス水和剤の補正死亡率は92.0%と効果が高かった（表2）。

表1 各薬剤に対する補正死亡率

有効成分	シエノピラフェン	ミルベメクテン	フェンピロキシメート
希釈倍数	×2000	×2000	×1000
補正死亡率* (%)	65.2	91.8	46.4

\* 補正死亡率 (%) = [(無処理区の生存率 - 処理区の生存率) / 無処理区の生存率] × 100

表2 各薬剤に対する補正死亡率

有効成分	ヘキシチアゾクス
希釈倍数	×2000
補正死亡率* (%)	92.0

\* 補正死亡率 (%) = [(無処理区の孵化率 - 処理区の孵化率) / 無処理区の孵化率] × 100

### (3) 病害虫診断業務実績

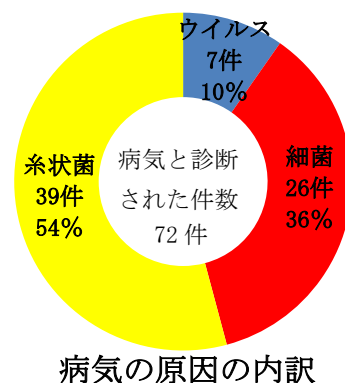
令和2年1月から12月までに実施した病害虫の診断の合計件数は132件で、その内訳は普通作物が18件、野菜が96件、果樹が10件、花き（花木）が7件、茶が1件であった。

診断結果の原因は、病害72件、虫害8件、原因不明3件およびその他49件であった。

作物別の診断件数および結果

作物	作目	診断件数				計
		病害	虫害	不明	その他	
普通作物	イネ	6	1		5	12
	コムギ	2			2	4
	ダイズ	2				2
	小計	10	1	0	7	18(14%)
野菜	アスパラガス	1				1
	イチゴ	6		1	11	18
	エダマメ				1	1
	キャベツ	1			1	2
	キュウリ	3	1		2	6
	コマツナ	2				2
	サトイモ				1	1
	シュンギク		1			1
	ショウガ	1				1
	タマネギ	5				5
	タラノキ			1		1
	トマト	20			10	30
	ニンジン	1			1	2
	ネギ	5			6	11
	ハクサイ	2				2
	パプリカ	1			1	2
	ブロッコリー				1	1
	ミニトマト	1			2	3
	ミズナ		1			1
	メロン	1	1			2
レタス	1			1	2	
レンコン		1			1	
小計	51	5	2	38	96(73%)	
果樹	イチジク	1			1	2
	カキ	1				1
	スモモ	1				1
	ナシ	3				3
	ブドウ	1	1			2
	リンゴ	1				1
	小計	8	1	0	1	10(7%)
花き	キク	2			1	3
	キクザキイチゲ			1		1
	ハボタン				1	1
	バラ	1				1
	リンドウ				1	1
小計	3	0	1	3	7(5%)	
茶	チャ		1			1
	小計		1			1(1%)
合計		72 (51%)	8 (4%)	3 (7%)	49 (38%)	132 (100%)

※ ( )内は合計診断件数に対する割合を示す。



#### (4) 平成 21 年～令和 2 年のトマト黄化葉巻 (TYLCV) 診断状況

トマト黄化葉巻病 (TYLCV) は、平成 21 (2009) 年 10 月に守山市内の施設栽培のトマトにおいて県内で初めて確認され、特殊報を発表した (平成 21 年度病害虫発生予察特殊報第 2 号)。以降、これまでの持込み診断により、平成 22 年に 3 件、同 23 年に 6 件、同 24 年に 12 件、同 25 年に 8 件、同 26 年に 2 件、同 27 年に 7 件、同 28 年に 9 件、同 29 年に 1 件、同 30 年 6 件、令和元年に 12 件および同 2 年に 7 件の計 74 件を確認している (下図)。

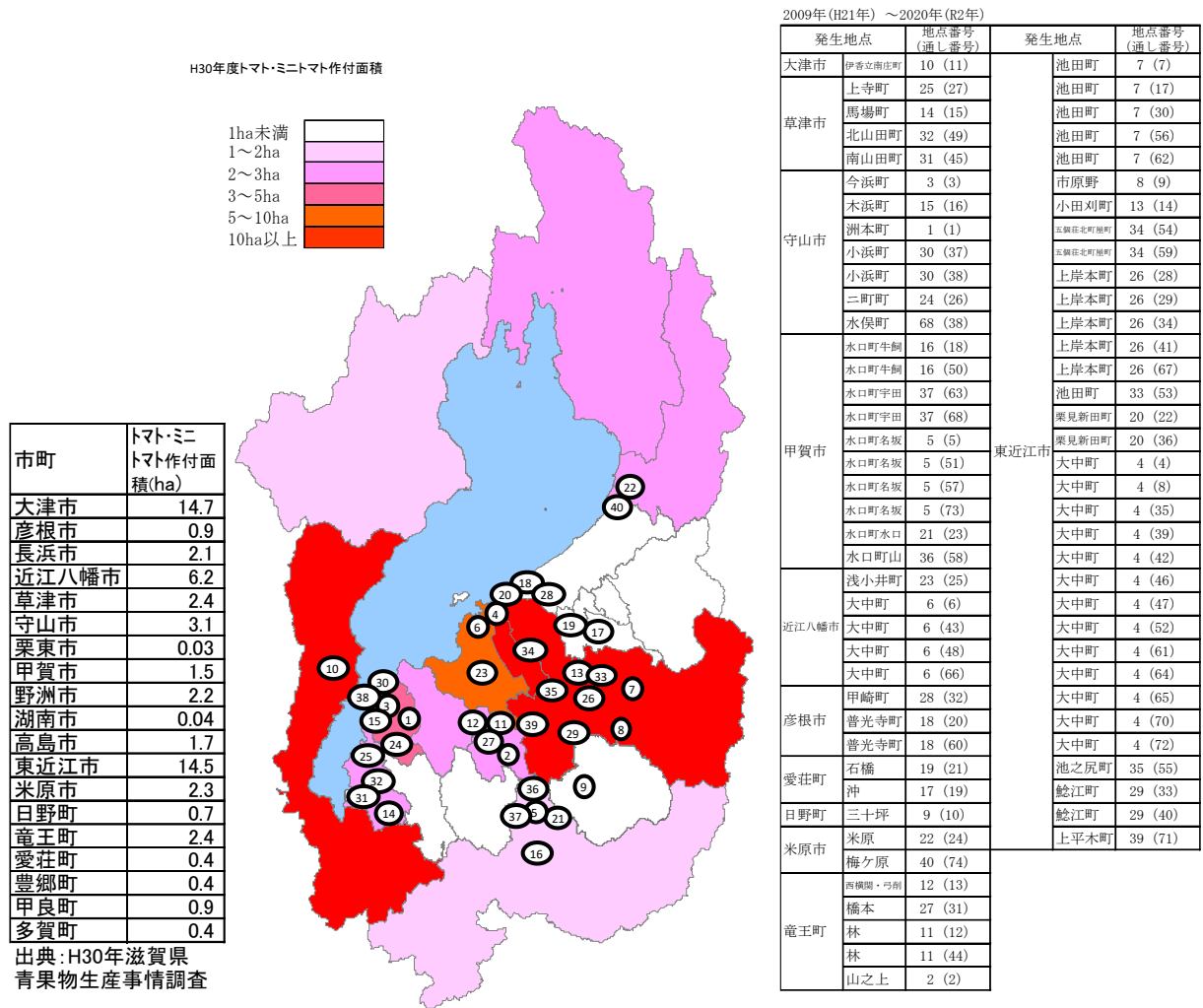


図 H21～R2 のトマト黄化葉巻 (TYLCV) 発生地点



## (5) 発生の目立った病害虫について

### 1) 水稻いもち病について

#### 1. はじめに

令和2年12月9日に発表された令和2年産水稻の作況指数は滋賀県で「98」となった。その主要因としてあげられているのが、7月の低温と日照不足の影響による全籾数の低下であるが、一部のほ場では、いもち病が多発生した事例が見られた。

そのため、本県での令和2年度のいもち病発生状況を振り返り、発生の要因と対策について考察する。

#### 2. 発生状況

##### 1) 葉いもち（発生時期：平年並 発生量：平年並）

葉いもちの初発時期は6月24日と平年並であった。感染好適日は6月第3半旬に県内全域で確認され、7月の気象が低温・寡照・多雨に経過したことから、7月第2～3半旬を中心に感染好適日が断続的に確認された。一方、育苗箱施薬剤の普及（約42%）により、葉いもちの発生は7月中旬の調査で発生ほ場率23%と平年並にとどまったが（図2）、一部のほ場では感染が拡大した。

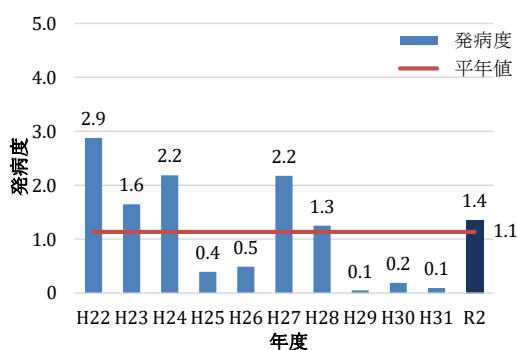


図1 葉いもちの年次別発病度（7月20日基準）

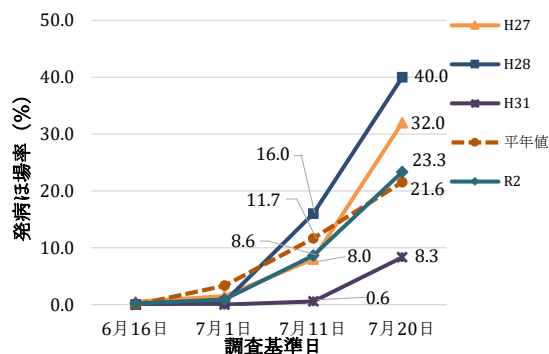


図2 葉いもち発生ほ場率の推移

##### 2) 穂いもち（発生時期：平年並 発生量：平年並）

水稻の出穂期は7月の低温・寡照の影響から「みずかがみ」で平年より2日、「コシヒカリ」で3日遅くなったが、穂いもちの初発確認は8月3日で、発生時期は平年並であった。

7月末まで梅雨が続く、早生品種の出穂期と重なったため、発生ほ場率はやや高く（図3）、県内全域で発生が確認された。特に、葉いもちが多発生した一部のほ場においては、穂いもちの多発生に繋がった。8月は平年と比較して降水量が少なく、気温は高くなり、いもち病の感染に好適でなくなったため、発病穂率は平年並となった（図4）。

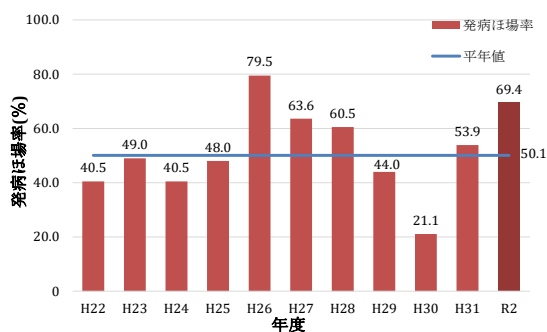


図3 穂いもちの年次別発生ほ場率（9月11日基準）

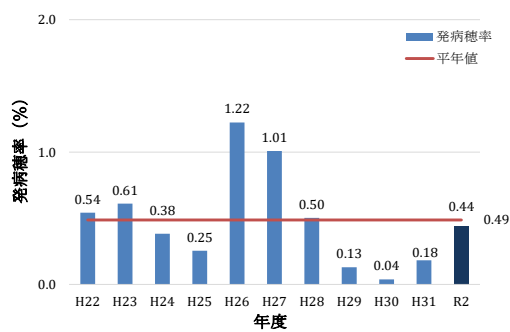


図4 穂いもちの年次別発病穂率（9月11日基準）

### 3. いもち病発生要因

#### 1) 気象条件

##### ①気温

平均気温は、移植後5月中～下旬は概ね平年並、6月、8月、9月は平年より高く、7月は平年より低かった。特に6月第1～第3半旬および8月第3半旬～9月第2半旬は高温で経過し、7月全期間(平年差 $-0.9^{\circ}\text{C}$ )は低温に経過した。

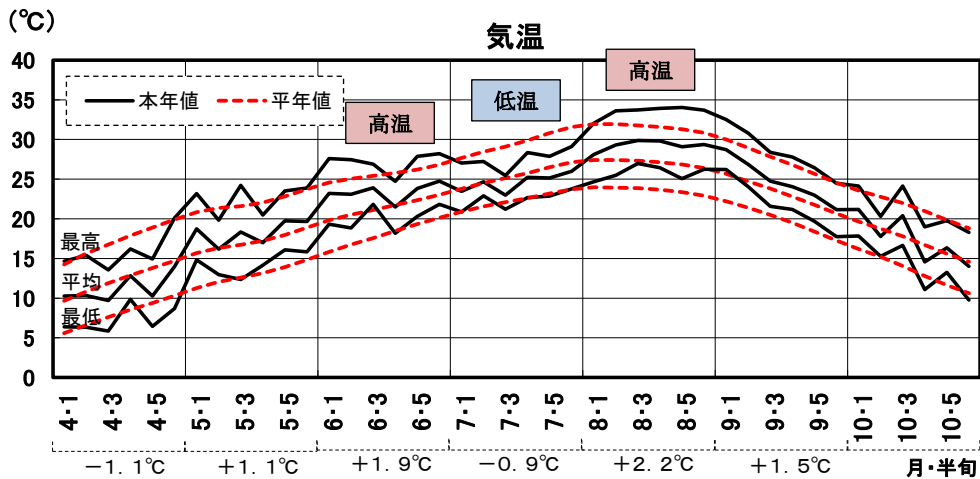


図5 令和2年度水稲作期間の気温推移  
彦根アメダスのデータより算出。平年値は1981-2010年の平均値。

##### ②日照時間

月合計日照時間は8月を除いて平年より少なかった。移植後の5月第4～第5半旬、6月第3半旬、7月は特に寡照で、8月第3～第6半旬は多照であった。

##### ③降水量

6月10日の梅雨入り以降は曇りや雨の日が多く、7月は停滞した前線の影響によりおよそ1か月雨天が続いた(令和2年7月豪雨)。梅雨明けは8月1日で平年より11日遅く、6月第3半旬～7月第6半旬までの降水量は、平年を大きく上回った。8月、9月は晴天が続き、少雨であった。また、本年は成熟期までに大きな台風の接近は無かった。

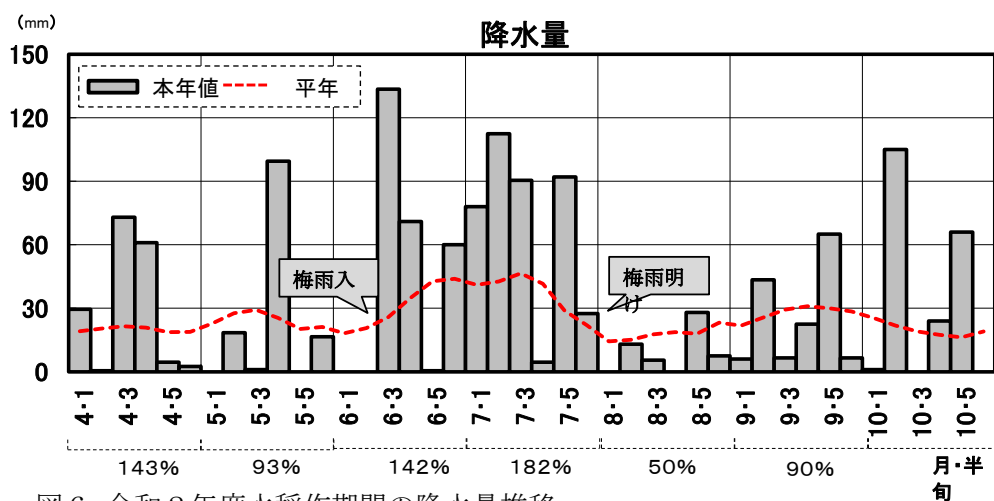


図6 令和2年度水稲作期間の降水量推移  
彦根アメダスのデータより算出。平年値は1981-2010年の平均値。

2) 感染好適条件の出現状況

イネに対するいもち病の感染好適条件とは、①葉面湿潤時間が8時間以上、②葉面湿潤時間中の平均気温が15℃～25℃、③前5日間の平均気温が20℃～25℃であり、この3つの条件が揃うといもち病菌が感染する（感染好適日）。感染好適日の出現状況については、アメダス地点ごとに、いもち病発生予測システム（以下BLASTAMとする）でシミュレート可能である。

今年度は、6月第3半旬に県内全域で確認され、7月第2～第3半旬を中心に感染好適日が断続的に出現していたことから（図7）、県内全域でいもち病の発病が確認された。

令和2年(2020年) BLASTAM 結果										
		今津	長浜	米原	南小松	彦根	東近江	大津	信楽	土山
6月10日	水	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月11日	木	●	-	-	-	-	-	-	-	-
6月12日	金	●	●	●	●	●	-	-	●	-
6月13日	土	-	●	-	-	-	●	●	●	●
6月14日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月15日	月	-	-	-	●	-	-	-	●	●
6月16日	火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月17日	水	-	?	-	-	-	-	●	-	-
6月18日	木	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月19日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月20日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	●
6月21日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月22日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月23日	火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月24日	水	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月25日	木	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月26日	金	●	●	-	-	-	-	-	-	-
6月27日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月28日	日	-	-	-	-	-	○2	○2	●	-
6月29日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月30日	火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月1日	水	●	●	-	-	-	-	-	●	●
7月2日	木	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月3日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月4日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月5日	日	-	●	-	-	-	●	-	●	●
7月6日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月7日	火	●	-	-	-	-	-	-	-	-
7月8日	水	-	-	-	-	-	-	●	●	●
7月9日	木	-	●	-	●	-	-	●	●	●
7月10日	金	●	-	-	●	●	-	●	●	●
7月11日	土	●	-	-	-	●	●	●	●	-
7月12日	日	-	-	-	●	-	●	-	●	●
7月13日	月	-	-	-	●	-	-	-	-	-
7月14日	火	-	-	-	-	-	●	●	●	-
7月15日	水	-	●	○4	-	-	-	-	-	-
7月16日	木	-	-	●	-	-	-	-	-	-
7月17日	金	-	-	-	-	-	●	-	●	●
7月18日	土	●	●	-	●	●	●	●	●	-
7月19日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月20日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月21日	火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月22日	水	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月23日	木	○2	-	○2	-	-	-	-	-	-
7月24日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月25日	土	-	-	-	-	○2	-	-	-	-
7月26日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月27日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月28日	火	●	-	●	●	●	●	-	-	-
7月29日	水	●	●	●	○3	-	-	-	-	●
7月30日	木	-	-	-	-	-	○3	○2	-	-
7月31日	金	-	-	-	-	-	-	○3	-	●

**[JPP-NET版BLASTAMの判定結果の指標]**  
 ●: 好適条件(湿潤時間中の平均気温が15～25℃であり、湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間を満たし、当日を含めてその日以前5日間の日平均気温の平均値が20～25℃の範囲にある。)  
 ○1: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が20℃未満)  
 ○2: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が25℃以上)  
 ○3: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤時間中の平均気温が15℃～25℃以外)  
 ○4: 準好適条件(湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間数より短い)  
 ? : 判定不能  
 - : 好適条件なし

図7 令和2年度BLASTAMによる感染好適日の出現状況

### 3) いもち病に対しての高温抑制

本年度の梅雨明けは8月1日と平年より11日程度遅くなったが、梅雨明け以降、高温・少雨・多照となり、いもち病の発生が抑制されたと考えられた。

### 4) 防除の状況

移植時の育苗箱施薬が普及している。6月下旬の発生ほ場率は、やや高く、その後の天候による感染拡大が見込まれたため、7月7日に防除情報を発表した(表1)。葉いもちが発生したほ場においては追加防除が実施されている。

出穂期前後に、地上一斉防除や無人ヘリなどによる防除が実施されている。ドリフト対策として、粒剤による防除が普及している。早生品種の出穂期に感染に好適な気象条件が見込まれたため、7月17日に防除情報を発表した(表1)。その後、適切な防除が実施された。

表1 いもち病関連の予察情報の発表について

情報発表	発表日	送り先	発表タイトル
防除情報	7/7	各関係機関の長 病害虫防除推進員	葉いもちの早期発見に努めましょう！
防除情報	7/17	各関係機関の長 病害虫防除推進員	穂いもちに要注意！

以上の点から、令和2年度のいもち病については、穂いもちの発生ほ場率は、やや高いものの、発生量は平年並となった。

## 4. 今後の対策について

令和2年度のいもち病は概ね平年並であったものの、発生ほ場率が、やや高く、特に多発生したほ場や地域については、翌年のいもち病の発生が多くなる恐れがあることから、収穫後から次作開始までに十分に対策を検討する必要がある。

### ○対策1：品種の選定

作期分散による作業効率の向上と適地適作を基本に、品種のいもち病に対する抵抗性を十分に理解したうえで栽培に取り組む。

### ○対策2：伝染源の菌密度低下

- ・ 稲わらやもみ殻はできるだけ早くすき込む。
- ・ 種子伝染を防ぐため、薬剤による種子消毒を徹底するとともに、塩水選の励行、消毒後の風乾など、種子消毒を基本通り行い、苗いもちの発生を防ぐ。
- ・ 病原菌は乾燥した稲わらやもみ殻に付着して越冬し、適当な温度と水分があれば胞子を形成し、伝染源となるので、不必要な稲わらやもみ殻はできるだけ早く処分する。
- ・ 播種時の覆土は播種粒が隠れるまで十分に行う。
- ・ 田植時には苗をかき分けてよく調べ、株元などに苗いもちの発生がないか十分に確認する。
- ・ 補植用余剰苗は病原菌の温床となり、葉いもちの伝染源となりやすいので、不必要になればできるだけ早く処分する。畦畔や農道への放置は枯れずに残り葉いもちの伝染源となるので避ける。
- ・ 畦畔の雑草を刈り取り、風通しを良くする。

### ○対策3：薬剤防除

- ・ 例年、発生が多いほ場では育苗箱施薬や側条施肥田植機で移植同時防除を行う。
- ・ ほ場をよく見回り、葉いもちの発生を認めたら、できるだけ早く防除する。
- ・ 本田では、いもち病の早期発見、適期防除につとめ、穂ばらみ期～出穂期に穂いもち防除を徹底する。

- ・過去に多発生したほ場、発生しやすいほ場では、粒剤等により予防防除する。ただし、一部の粒剤は発病初期でも散布可能である。
- ・多発生時の防除体制などを集落単位で予め決めておく。

## 2) トビイロウンカについて

### 1. はじめに

トビイロウンカは梅雨時期に海外から飛来してくる害虫である。今年、西日本を中心にトビイロウンカが多発し11府県で警報、13府県で注意報が発表された(表1)。本県においても、9月以降、広域的に坪枯れ症状が発生し、平成10年以來の県域での発生となった。そこで、予察方法について再検討する。

表1 トビイロウンカ関連の予察情報等の発表について

情報発表	発表日	送り先	発表タイトル
防除情報	8/7	各関係機関の長 病害虫防除推進員	トビイロウンカの発生に注意して下さい
事務連絡	9/7	防除所兼務職員	発生状況について
通知	9/16	各関係機関の長 病害虫防除推進員	県内での坪枯れ症状の発生状況について

### 2. 発生概況

予察灯への初飛来は7月26日で、平年(8月11日)に比べて早かった。7月11日基準(7月8~9日実施)のすくい取り調査では確認できず、8月3~5日のすくい取り調査では、発生地点率は11.1%、8月17~26日のすくい取り調査および払い落とし調査では、すくい取り調査でのみ1筆のほ場で確認され、発生地点率は2.8%となった。

表2 各地域での坪枯れ症状の発生ほ場面積

地域	発生ほ場面積 (ha)
大津南部	1.9
甲賀	2.3
東近江	3.1
湖東	62.8
湖北	60.1
高島	2.7
合計	132.9

坪枯れ症状は、9月7日に大津市南比良の一部ほ場(品種「日本晴」)で初確認され、その後、県北部を中心に発生が拡大した。各地域農産普及課への聞き取り調査の結果、8月に収穫を迎えるほ場では認められなかったが、9月下旬から10月にかけて収穫を迎えるほ場で確認された。なお、坪枯れ症状の発生ほ場面積は約132.9haであった。

### 3. 発生要因

日本植物防疫協会提供の気象再解析データによる本種成虫の飛来解析によれば、今年は飛来に適した気象条件が6月~8月にかけて計18回出現している(表3)。また、近隣県の予察灯への飛来状況を見ると、平年より飛来時期が早く、飛来量も平年を大きく上回っている。そのため、今年は本種の飛来時期が早く、飛来量も多かったことが主たる発生要因である。さらに、出穂期の斑点米カメムシ類との同時防除では、液剤や粉剤では本種の生息する株元まで薬剤が到達しにくく、被害を抑えられなかったと考えられる。

表3 JPP-Net気象再解析に基づくトビイロウンカの飛来日の推定

月	日
6月	11日、12日、13日、14日、15日、26日、30日
7月	1日、4日、5日、6日、7日、8日、9日、11日、12日、14日
8月	15日

### 4. 対策

第一に、トビイロウンカの飛来時期と飛来量を早く、的確に把握することが重要である。坪枯れ症状は、第2世代成虫と第3世代幼虫による吸汁加害によって発生する。本県で坪枯れ症状の初発が確認された9月7日を第3世代幼虫の羽化日と設定し、JPP-Net有効積算温度計算シミュレーションに基づき本種の飛来時期と羽化日を計算したところ、7月6日に本県に飛来していると推定された(表4)。

表4 有効積算温度に基づくトビイロウンカの世代別羽化予測日

飛来世代	第1世代	第2世代	第3世代
	飛来日	羽化日	羽化日
予測日	7/6	7/29	8/18

トビイロウンカの成育パラメータには野田(1989)を引用し、気温には大津アメダスを利用した。

第二に、中生・晩生品種での坪枯れ発生を予測するための基準日の設定が必要と考えられる。近年、大規模経営体を中心に水稻作付品種の多様化が進み、多収性品種、飼料用米、酒米などの作付も拡大しており、収穫期が10月頃になる品種では、トビイロウンカの被害が発生する危険性が高まっている。これまで、当所では本種の飛来日と有効積算温度に基づき、県内の予察灯で7月10日までに本種の飛来が確認されれば、早生品種での坪枯れが発生する危険性が高くなることから、7月10日を早生品種の基準日としてきた。しかし、本県での作付け状況を加味し、10月以降に収穫される水稻を対象とした基準日を設ける必要がある。また、本種に効果のある殺虫剤には、収穫前日数が14日前のものもあり、注意報等の情報発表後から対応できる基準日が望まれる。例えば10月収穫の水稻では、予察灯への初飛来日7月28日で、坪枯れは10月1日頃と推測される(表5)。

表5 9月中旬以降に収穫される水稻を対象としたトビイロウンカ予察基準日

飛来世代	第1世代	第2世代	第3世代	坪枯れ発生日
	飛来日	羽化日	羽化日	
予測日	7/28	8/15	9/3	10/1

トビイロウンカの成育パラメータには野田(1989)を引用し、気温には大津アメダスを利用した。

第三に、出穂期の斑点米カメムシ類との同時防除では、本種は株元に生息するため、粉剤や液剤では、薬剤が株元に十分届くように散布する必要がある。坪枯れ症状を早期に発見し、被害を抑制するには、ほ場全体を見渡して、坪枯れの前兆となる黄化が認められた場合、その部分の寄生の有無を確認して、寄生が認められれば薬剤を散布する。本種に対する出穂期防除剤の感受性を検定した結果、供試した4薬剤では補正死虫率90%以上と高い効果を示した(表6)。ただし、収穫前で薬剤防除が出来ないほ場では、収穫適期の範囲内で早めに収穫することが重要である。

表6 各薬剤に対する補正死虫率

有効成分 (商品名)	ジノテフラン スタークル液剤10	エトフェンプロックス トレボン乳剤	スルホキサフロル エクシードフロアブル	シラフルオフェン MR.ジョーカーEW
希釈倍数	×1000	×1000	×2000	×2000
補正死虫率* (%)	96.9	94.3	100	93.1

\* 補正死虫率(%) = (無処理区の生存率 - 処理区の生存率) / 無処理区の生存率 × 100  
試験には、2020年10月27日に野洲市須原で採集した個体を用い、検定は虫体噴霧法で実施した。

## 2) 斑点米カメムシ類について

### 1. はじめに

斑点米カメムシ類の多発について、記録的な暖冬の影響で越冬に好適な条件であったことから平年より越冬量は多かったと考えられる。そのため、7月以降、畦畔の出穂したイネ科雑草のすくい取り調査の結果、ホソハリカメムシやクモヘリカメムシなど大型カメムシの発生が目立った。また、8月上旬のほ場でのすくい取り調査(8月3日～5日)では、両種は山間部のみならず平坦部でも多発が確認され、その状況は8月中～下旬の調査においても同様であった。また、ミナミアオカメムシの発生も早いうちから見られ(初発確認日:平年8月10日;今年5月2日)、県内で越冬したと考えられる。

### 2. 発生概況

7月1日基準(調査日6月29日～7月1日)の畦畔における斑点米カメムシ類の発生量は、調査を開始した平成25年以来2番目に多く、ホソハリカメムシ等の大型カメムシの発生が目立った。また、畦畔には斑点米カメムシ類の好む出穂したイネ科雑草も目立ち、草刈りの徹底を呼び掛けるため、7月7日に防除情報を発表した。

表1 防除情報、注意報等の発表について

情報発表	発表日	発表タイトル
防除情報第2号	7/7	斑点米カメムシ類の発生源となる畦畔の草刈りを徹底しましょう
防除情報第4号	7/21	斑点米カメムシ類を適期に防除しましょう
注意報第3号	8/7	斑点米カメムシ類による被害多発のおそれ
事務連絡	9/7	発生状況について

7月11日基準(調査日7月8日～9日)の畦畔におけるカメムシ発生量は、山間部など一部地

域でクモヘリカメムシ、ホソハリカメムシなど大型カメムシの発生量が多く、特に、クモヘリカメムシの発生量は過去10年で最多となった。また、ミナミアオカメムシの発生も県南部では早いうちから確認された（表2）ことから、大型カメムシによる斑点米被害の多発が予想されたため、7月21日に防除情報を発表した。

表2 予察灯でのミナミアオカメムシの初誘殺日

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	本年
大津市	9/6	-	8/11	-	-	8/13	7/19	7/22	8/27	5/29
守山市	-	-	-	-	-	-	-	7/12	8/28	5/2
近江八幡市	-	-	-	-	-	-	-	8/2	9/9	9/8

表中の「-」は、予察灯への誘殺がなかったことを示す。

8月3～5日に、県内31地点の水稲ほ場ですくい取り調査を実施したところ、斑点米カメムシ類の発生量は調査を開始した平成24年以降、最多となり、ホソハリカメムシやクモヘリカメムシなど大型カメムシの発生が目立った。両種は山間部のみならず県域において多発しており、8月7日に中生・晩生品種を対象に注意報を発表した。

8月17～26日に実施した県内36地点での水稲ほ場すくい取り調査の結果、一部ほ場では依然として大型カメムシの発生が平年より多い状況にあった。好適な気象条件となり、引き続き斑点米カメムシ類の発生や活動に好適になると考えられることから、斑点米カメムシ類の発生が多い場合、追加防除を行うよう9月7日に各地域農産普及課に事務連絡を発出した。

### 3. 発生要因

暖冬の影響で越冬世代の発生量が多く、長梅雨のため、畦畔のイネ科雑草が繁茂し、斑点米カメムシ類の増殖に好適であったと考えられる。

### 4. その他斑点米カメムシ類について

かつて本県の斑点米カメムシ類の主要種であったイネカメムシ（写真1）は、昭和50年頃から発生が激減し、平成10年頃まで、水田での生息は、ほぼ確認されていなかった（図1）。しかし、平成10年以降、県内で毎年発生が確認されており、発生地点率は低いながらも増加傾向にある。今年、本種の発生地点率は11.1%と、再び発生が確認されるようになった平成10年以降、最も高くなった。本種の発生は局所的ではあるが、特に山間地に近いほ場では、発生が目立ち始めている。本種は籾の基部を吸汁加害し、斑点米を生じさせるだけでなく、不稔を引き起こし、減収させるため、今後の発生状況を注視する必要がある。



写真1 イネカメムシ

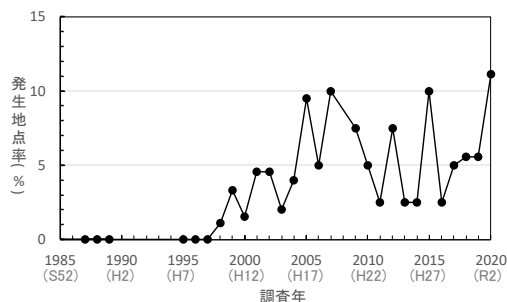


図1 イネカメムシの発生地点率の推移

### 3) コブノメイガについて

梅雨前線の停滞に伴い、飛来期間が長期化した。本県では、7月8～9日の見取り調査での発生ほ場率は過去10年で最も高かった。7月27～28日の調査においても発生ほ場率は80%と依然として高く、8月4日に防除情報を発表した。「日本晴」等の中生品種や、飼料用米等晩生品種では、防除を実施したほ場も見られた。防除が実施されたほ場では、本種の発生は収まった。なお、コブノメイガ以外にも、これまで本県の水稲ではほとんど見られなかったアワヨトウの発生も確認されている。

## 第3 重要病害虫の特別防除等推進事業

### 1 チチュウカイミバエの侵入警戒調査

1981～1982年は輸入果実を取り扱う地方卸売市場で実施し、1983～2001年は農業試験場本・分場および果菜類主産地で、2002年以降は農業試験場本場（2005年からは農業技術振興センター本場）において、スタイナー型誘殺トラップを設置し調査を行っている。誘引剤はトリメドルア剤を用い、毎月1回交換している。

本年は4月1日～11月30日まで毎月6回程度調査を行ったが、チチュウカイミバエの誘殺は認めなかった（日最高気温の月別平年値が14℃以上の月に調査）。

参考

表 彦根地方気象台の観測における日最高気温（℃）の平年値

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平年値(℃)	6.8	7.3	11.0	17.3	22.1	25.7	29.7	31.9	27.3	21.3	15.3	9.8

・平年値は1981年～2010年の30年間の観測値の平均値である。

### 2 ウメ輪紋ウイルスの発生状況調査

我が国では2009年4月に東京都青梅市で最初に確認され、滋賀県では2010年6月に長浜市内で栽培される青梅市由来の観賞用ウメ育成木で初めて確認された（2010年度病害虫発生予察特殊報第1号、2010年6月16日発表）が、2018年度に根絶が確認された。

本年度は、県内の主要なウメ、モモ、オウトウの生産園（6ほ場）において調査を実施し、その結果、感染は認められなかった。

### 3 キウイフルーツかいよう病（Psa3系統）の発生状況調査

我が国でPsa3系統は2014年4月に愛媛県で最初に確認された。これまで、近県では静岡県や和歌山県において確認されているが、本県では発生は認められていない。

県内のキウイフルーツ生産園（3ほ場）において調査を実施し、その結果、感染は認められなかった。

### 4 その他病害虫の侵入警戒調査

2019年度の侵入警戒調査対象病害虫の追加に伴い、下記病害虫について調査を行った。調査方法は、「ミバエ類等侵入警戒調査実務参考資料」に基づき実施した。なお、対象病害虫の発生は認められなかった。

表 その他病害虫の侵入警戒調査

対象病害虫	対象品目	調査圃場数	調査日	調査方法	発生
チチュウカイミバエ	カキ、ナシ、ブドウ	6地点	5/13, 6/17, 7/1, 8/18, 9/23	目視	-
ミカンコミバエ種群	カキ、ナシ、ブドウ	6地点	5/13, 6/17, 7/1, 8/18, 9/23	目視	-
コドリンガ	ナシ	2地点	5/13, 6/17, 7/1, 8/18, 9/23	目視	-
火傷病	ナシ	2地点	4/14, 5/13, 6/17, 7/1	目視	-
スイカ果実汚斑細菌病	スイカ	8地点	7/1, 8/1	目視	-

「-」は未確認を示す。



## 5 ツマジロクサヨトウの発生状況調査

北米・南米原産のツマジロクサヨトウが平成28年にアフリカに侵入し、その後、アジア各国にも急速に分布を拡大し、中国では平成31年1月に本種の侵入が確認された。我が国では、同年7月に鹿児島県南九州市の飼料用とうもろこし生産ほ場において、本種の幼虫が初確認された。本虫の早期発見のため、令和元年に飼料用とうもろこし、飼料用ソルガム、スイートコーン等生産ほ場で侵入警戒調査を実施したところ、本種の発生は認められなかった。

今年度は、県内13ほ場における見取り調査（計60回）に加え、5地点にフェロモントラップを設置した。

ほ場における調査の結果、甲賀市、近江八幡市、東近江市の計4ほ場において本種の幼虫の発生が確認された。近江八幡市において7月31日に初めて発生が確認され、被害株率は0.1～6％であった。

フェロモントラップによる調査の結果、栗東市および近江八幡市に設置したトラップにおいて、本種の成虫の誘殺が確認された。近江八幡市において6月2日に初めて誘殺が確認されたことから、6月11日に特殊報を発表した。誘殺数は9～10月にかけて多く推移した。

### (1) 発生状況一覧表

#### ア ほ場における調査

地点 月	甲賀市			近江八幡市						東近江市			
	ほ場1	ほ場2	ほ場3	ほ場1	ほ場2	ほ場3	ほ場4	ほ場5	ほ場6	ほ場1	ほ場2	ほ場3	ほ場4
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-
6	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	-	-
7	0	0	0	0	0	-	0.1	-	-	0	0	0	0
8	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-
9	0	0	0	0	0	-	0	-	-	6	0	0	0
10	0	0	0.1	0	0	0	0	-	-	0	0	-	1

表中の“-”は未調査を示す。

#### イ フェロモントラップによる調査

地点 月	栗東市		甲賀市		近江八幡市 (頭)					
					地点1		地点2		地点3	
	誘殺数	累積	誘殺数	累積	誘殺数	累積	誘殺数	累積	誘殺数	累積
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	0	0	4	4	0	0
7	0	0	0	0	1	1	1	5	4	4
8	1	1	0	0	1	2	6	11	6	10
9	1	2	0	0	3	5	29	40	34	44
10	0	2	0	0	0	5	23	63	4	48
11	0	2	0	0	0	5	0	63	0	48

## 第4 農薬安全使用等総合推進事業

農薬取締法に基づく農薬販売者の届出受理事務を行った。また、農薬取扱者（農薬販売者および農薬使用者）への巡回点検・指導を実施した。さらに、農薬取扱者、農業者および農業団体等に対し、研修会等を通じて農薬の安全使用について周知徹底を図った。これらのことで農薬の販売および使用の適正化と農薬による危被害防止の啓発に努めた。

### 1 農薬安全使用対策

農薬の安全使用は、農薬取扱者が農薬の特性を十分理解し、適正に使用することが重要である。

このため、病虫害防除推進員、県、市町、農業協同組合などの関係職員や農薬取扱者を対象とした植物防疫研修会および農薬アドバイザー講習会等において、農薬の適正使用等について指導した。また、発生予察情報発信時に啓発資料を添付した。

### 2 農薬販売者の届出状況

(1) 令和2年度の届出件数は下表のとおりであった。

表 届出件数（令和2年4月1日～令和3年3月31日）

区分	新規届出数	変更届出数	廃止届出数	計
農薬販売者（営業所）	17	21	9	47

(2) 届出者(営業所)数

令和3年3月31日現在の届出者数は700件で、前年度より7件増であった。

### 3 農薬取扱者への巡回点検・指導の結果

農薬取扱者への巡回点検・指導を実施し、結果は下表のとおりであった。

農薬取扱者のうち、農薬販売者の違反内容は、届出や帳簿に関する事項であった。農薬使用者については、農薬使用基準違反の可能性のある情報に基づく点検を実施し、規定の希釈倍率の最低限度を下回る希釈倍数での農薬散布事例が2件、当該農作物等に適用登録のない農薬使用事例が2件発生したため指導を行い、違反者からは改善を誓約する書面の提出を受けた。

巡回点検・指導の結果（令和2年4月1日～令和3年3月31日）

対象 農薬 取扱 者数	違反の内容								
	農薬販売者					農薬使用者			
	届出 の不備	無登 録農 薬の 販売	虚偽 の 宣伝	帳簿 の 不備	点検 拒否	無登 録農 薬の 使用	農薬 使用 基準 違反	点検 拒否	ゴルフ 場変更 届の不 備
105	4	0	0	5	0	0	4	0	0

農薬取扱者数＝農薬販売者96件＋ゴルフ場5件＋農家4戸＝105件  
 農薬使用基準違反＝4件(麦類、水稻、ナス、小豆:それぞれ指導済)

## 第5 病虫害発生予察情報発表内容

### 1 予報

作物名	病虫害名	発表月日	予報内容		予報の根拠
			発生時期	発生量	
イネ	いもち病	5月19日 (葉いもち)	平年並	平年並	(1) 余剰苗での発生を認めていない。 (2) 育苗箱施薬による防除が普及している。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。
		6月9日 (葉いもち)	平年並	平年並	(1) 余剰苗での発生を認めた。 (2) 本田での発生を認めていない。 (3) 育苗箱施薬による防除が普及している。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。
		6月23日 (葉いもち)	平年並	平年並	(1) 余剰苗での発病を認めた。 (2) 本田での発病を認めていない。 (3) 育苗箱施薬による防除が普及している。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または少なく、日照時間は平年並または多い見込み。
		7月7日 (葉いもち)	平年並	やや多	(1) ほ場での発生時期は平年並。 (2) ほ場での発生量は、やや多い。 (3) 育苗箱施薬による防除が普及している。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。
		7月7日 (穂いもち、 極早生・早 生品種)	平年並	平年並	(1) 葉いもちの発生時期は平年並。 (2) 現在の葉いもちの発生量は、やや多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。
		7月21日 (穂いもち)	平年並	やや多	(1) 葉いもちの発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並または多く、日照時間は県南部で平年並または少なく、県北部で少ない見込み。
		8月4日 (穂いもち、 中生・晩生 品種)	平年並	平年並	(1) 出穂期は平年並の見込み。 (2) 穂いもちの発生を認めた。 (3) 葉いもちの発生量は平年並。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または少なく、日照時間は平年並の見込み。
紋枯病	紋枯病	6月23日	平年並	平年並	(1) ほ場での発生を認めた。 (2) 前年の発生量は平年並。 (3) 水稻の茎数は平年並。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または少ない見込み。
		7月7日	平年並	平年並	(1) ほ場での発生時期は平年並。 (2) 前年の発生量は平年並。 (3) 水稻の茎数は、やや少ない。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。
		7月21日	平年並	平年並	(1) ほ場での発生時期は平年並。 (2) 水稻の茎数は、やや少ない。 (3) ほ場での発生量は、やや少ない。 (4) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並または多く、日照時間は県南部で平年並または少なく、県北部で少ない見込み。
		8月4日 (中生・晩生 品種)	平年並	平年並	(1) 中生品種の茎数は平年並。 (2) ほ場での発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または少ない見込み。
白葉枯病	白葉枯病	7月7日	平年並	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 前年の発生量は少ない。 (3) 育苗箱施薬による防除が普及している。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。
		7月21日	平年並	やや少	(1) 前年の発生量は少なかった。 (2) ほ場での発生を認めていない。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並または多く、日照時間は県南部で平年並または少なく、県北部で少ない見込み。
		8月4日	—	やや少	(1) 前年の発生量は少なかった。 (2) ほ場での発生は認めていない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または少ない見込み。
黄萎病(ツマ グロヨコバ イ)	黄萎病(ツマ グロヨコバ イ)	4月21日	—	やや少	(1) 前年の刈株再生芽の発病は少なかった。 (2) ツマグロヨコバの越冬量は、やや少ない。 (3) 育苗箱施薬による防除が普及している。

作物名	病害虫名	発表月日	予報内容		予報の根拠
			発生時期	発生量	
イネ	イネドロオイムシ(イネクビホソハムシ)	4月21日	平年並	平年並	(1) 前年の発生量は平年並であった。 (2) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。
		5月19日	平年並	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 前年の発生量は平年並。 (3) 育苗箱施薬による防除が普及している。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。
		6月9日	平年並	平年並	(1) ほ場での発生時期は平年並。 (2) 前年の発生量は平年並。 (3) 育苗箱施薬による防除が普及している。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。
イネミズゾウムシ		4月21日	平年並	やや少	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 前年の発生量は、やや少なかった。 (3) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並の見込み。
		5月19日	平年並	平年並	(1) 本田への飛び込み時期は平年並。 (2) 前年の発生量は、やや少ない。 (3) 育苗箱施薬による防除が普及している。
ニカメイガ		5月19日 (第1世代)	平年並	やや少	(1) フェロモントラップでの誘殺時期は平年並。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は、やや少ない。 (3) 育苗箱施薬による防除が普及している。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		6月9日 (第1世代)	平年並	やや少	(1) フェロモントラップでの誘殺時期は平年並。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は少ない。 (3) 育苗箱施薬による防除が普及している。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		7月7日 (第2世代)	やや早	やや少	(1) 第1世代幼虫による被害の発生時期は、やや早い。 (2) 第1世代成虫発ガ最盛期は、やや早いと推定される。 (3) ほ場での発生量は、やや少ない。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		7月21日 (第2世代)	やや早	やや少	(1) 第1世代幼虫による被害の発生時期は、やや早い。 (2) ほ場での発生量は、やや少ない。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並または多い見込み。
トビイロウンカ		7月7日	—	—	(1) 本県では、予察灯への飛来およびほ場での発生は認めていない。 (2) 7月6日現在、奈良県、和歌山県、山口県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、宮崎県および鹿児島県の予察灯またはネットトラップで飛来が報告されている。
		7月21日	—	—	(1) 本県では7月10日頃までに飛来が認められた場合は多発する危険性が高いが、7月12日現在、各予察灯への飛来および本田での発生を認めていない。 (2) 西日本の各県で予察灯への飛来、または本田での発生が確認されている。
		8月4日	—	やや多	(1) 7月下旬に、守山市の予察灯への飛来を初確認した。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または少ない見込み。
		8月25日	—	やや多	(1) 予察灯への飛来および本田での発生を認めた。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または多い見込み。
セジロウンカ		7月7日	やや早	平年並	(1) 予察灯への飛来時期は、やや早い。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		7月21日	やや早	平年並	(1) 予察灯への飛来時期は、やや早い。 (2) ほ場での発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並または多い見込み。
ヒメトビウンカ		7月7日	早	平年並	(1) 予察灯への飛来時期は早い。 (2) 前年の発生量と越冬量は、やや少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		7月21日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並または多い見込み。

作物名	病害虫名	発表月日	予報内容		予報の根拠
			発生時期	発生量	
イネ	ツマグロヨコバイ	7月7日	平年並	平年並	(1) 予察灯への飛来時期は平年並。 (2) 前年の発生量と越冬量は、やや少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		7月21日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並または多い見込み。
		8月4日	—	平年並	(1) 予察灯への飛来量は平年並。 (2) ほ場での発生量は、やや少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または少ない見込み。
	斑点米カメムシ類	7月7日	平年並	やや多	(1) 畦畔での発生時期は平年並。 (2) 前年の発生量は平年並。 (3) 畦畔での発生量は、やや多い。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		7月21日	平年並	やや多	(1) 畦畔での発生時期は平年並。 (2) 畦畔での発生量は、カスミカメムシ類で平年並、一部地域においてホソハリカメムシでやや多く、クモヘリカメムシが多い。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並または多い見込み。
		8月4日	—	やや多	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または少ない見込み。
	コブノメイガ	7月21日	早	多	(1) ほ場での発生時期は早い。 (2) ほ場での発生量は多い。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並または多い見込み。
		8月4日	—	多	(1) ほ場での発生量は多い。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または少ない見込み。
		8月25日	—	多	(1) ほ場での発生量は多い。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または多い見込み。
イチモンジセセリ(イネツトムシ)	7月7日	遅	やや少	(1) 第1世代幼虫の発生時期は遅い。 (2) ほ場での発生量は、やや少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。	
	コバネイナゴ	6月9日	遅	平年並	(1) 幼虫の発生時期は遅い。 (2) 前年の発生量は平年並。
		6月23日	遅	平年並	(1) 幼虫の発生時期は早い。 (2) 前年の発生量は平年並。 (3) ほ場での発生量は平年並。
	フタオビコヤガ(イネアオムシ)	7月7日	早	平年並	(1) 予察灯への飛来時期は早い。 (2) ほ場での発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
	ムギ	赤かび病	3月17日	早	平年並
4月20日			やや早	平年並	(1) オオムギ、コムギの出穂期は早い。 (2) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。
ダイズ	べと病	8月4日	—	やや少	(1) ほ場での発生を認めた。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または少ない見込み。
		8月25日	—	やや少	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または多い見込み。
	葉焼病	8月25日	—	やや少	(1) ほ場での発生量は少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または多い見込み。
	アブラムシ類	7月21日	—	やや少	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 黄色水盤での誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並または多い見込み。
		8月4日	—	やや少	(1) 黄色水盤での誘殺数は平年並。 (2) ほ場での発生は少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または少ない見込み。
		8月27日	—	やや少	(1) ほ場での発生量は少ない。 (2) 黄色水盤での誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または多い見込み。

作物名	病害虫名	発表月日	予報内容		予報の根拠
			発生時期	発生量	
ダイズ	吸実性カメムシ類	8月4日	—	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または少ない見込み。
		8月25日	—	やや少	(1) ほ場での発生量は少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または多い見込み。
	ハスモンヨトウ	8月4日	やや遅	やや多	(1) フェロモントラップでの誘殺数は、やや多い。 (2) ほ場での発生を認めていない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または少ない見込み。
		8月25日	—	やや多	(1) ほ場での発生量は、やや多い。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または多い見込み。
	フタスジヒメハムシ	8月4日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または少ない見込み。
		8月27日	—	やや少	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または多い見込み。
	ハダニ類	7月21日	—	やや少	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並または多い見込み。
		8月4日	—	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または少ない見込み。
		8月25日	—	やや少	(1) ほ場での発生を認めた。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または多い見込み。
	野菜全般	うどんこ病	5月19日	平年並	平年並
6月9日			平年並	平年並	(1) ほ場での発生を認めた。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。
6月23日			—	やや多	(1) ほ場での発生量は、やや多い。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または少なく、日照時間は平年並または多い見込み。
7月7日			—	やや多	(1) ほ場での発生量は、やや多い。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。
灰色かび病		6月9日	やや遅	やや少	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。
		6月23日	—	やや少	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または少なく、日照時間は平年並または多い見込み。
アブラムシ類		4月21日	—	やや多	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 黄色水盤での誘殺数は多い。 (3) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並の見込み。
		5月19日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 黄色水盤での誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		6月9日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 黄色水盤での誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		6月23日	—	少	(1) ほ場での発生量は少ない。 (2) 黄色水盤での誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または少ない見込み。
	7月7日	—	やや少	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 黄色水盤での誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。	
	8月4日	—	平年並	(1) 黄色水盤での誘殺数は平年並。 (2) ほ場での発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または少ない見込み。	
	8月25日	—	やや少	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 黄色水盤での誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または多い見込み。	
	9月29日	—	やや少	(1) ほ場での発生量は少ない。 (2) 黄色水盤での誘殺数は、やや少ない。 (3) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は平年並または少ない見込み。	

作物名	病害虫名	発表月日	予報内容		予報の根拠
			発生時期	発生量	
野菜全般	ハダニ類	5月19日	—	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		6月9日	—	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		6月23日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または少ない見込み。
		7月7日	—	やや少	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		8月4日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または少ない見込み。
	アザミウマ類	5月19日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		6月9日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		6月23日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または少ない見込み。
		7月7日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
	ヨトウガ (ヨトウムシ)	5月19日	やや遅	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない並。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
	ハスモンヨトウ	8月4日	やや遅	やや多	(1) フェロモントラップでの誘殺数は、やや多い。 (2) ほ場での発生を認めていない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または少ない見込み。
		8月25日	—	やや多	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または多い見込み。
		9月28日	—	多	(1) ほ場での発生量は、やや多い。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は多い。 (3) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は平年並または少ない見込み。
	タバコガ類	7月7日	—	平年並	(1) フェロモントラップでの誘殺数は、タバコガ、オオタバコガともに平年並。 (2) ほ場での発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		8月4日	—	平年並	(1) フェロモントラップでの誘殺数は平年並。 (2) ほ場での発生量は少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または少ない見込み。
		8月25日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は、オオタバコガでは平年並、タバコガでは、やや少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または多い見込み。
9月28日		—	平年並	(1) ほ場での発生量は少ない。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は、オオタバコガでは平年並、タバコガでは、やや少ない。 (3) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は平年並または少ない見込み。	
ネキリムシ類 (カブラヤガ)	8月25日	—	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は、やや少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または多い見込み。	
キュウリ	べと病	5月19日	平年並	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。
		6月9日	平年並	平年並	(1) ほ場での発生を認めた。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。
		6月23日	—	平年並	(1) ほ場での発生を認めた。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または少なく、日照時間は平年並または多い見込み。
		7月7日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。
タマネギ	べと病	3月17日	—	やや多	(1) ほ場での発生量は、やや多い。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。

作物名	病害虫名	発表月日	予報内容		予報の根拠
			発生時期	発生量	
ナス科野菜	疫病	5月19日	平年並	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。
		6月9日	やや遅	やや少	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。
		6月23日	—	やや少	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または少なく、日照時間は平年並または多い見込み。
		7月7日	—	やや少	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。
	ニジュウヤホシテントウ類	5月19日	平年並	平年並	(1) ほ場での発生時期は平年並。 (2) ほ場での発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		6月9日	平年並	やや少	(1) ほ場での発生時期は平年並。 (2) ほ場での発生量は、やや少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
アブラナ科野菜	軟腐病	9月28日	—	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は平年並または少ない見込み。
	黒腐病	9月28日	—	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は平年並または少ない見込み。
	菌核病	9月28日	—	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は平年並または少ない見込み。
アブラナ科野菜	モンシロチョウ(アオムシ)	5月19日	平年並	平年並	(1) ほ場での発生時期は平年並。 (2) ほ場での発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		8月25日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または多い見込み。
		9月28日	—	やや少	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は平年並または少ない見込み。
	コナガ	5月19日	平年並	やや少	(1) ほ場での発生時期は平年並。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は、やや少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		8月4日	—	平年並	(1) 予察灯への誘殺数は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または少ない見込み。
		8月25日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は少ない。 (2) 予察灯への飛来量は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または多い見込み。
		9月28日	—	やや少	(1) ほ場での発生量は少ない。 (2) 予察灯での誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は平年並または少ない見込み。
	ヨトウガ(ヨトウムシ)	8月4日	—	平年並	(1) フェロモントラップでの誘殺数は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または少ない見込み。
		8月25日	—	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または多い見込み。
		9月25日	—	やや少	(1) ほ場での発生を認めた。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は平年並または少ない見込み。
	ハイマダラノメイガ	8月4日	平年並	平年並	(1) 指標植物であるクレオメでの発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または少ない見込み。
		8月25日	—	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 指標植物であるクレオメでの発生を認めた。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または多い見込み。
9月28日		—	やや少	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 指標植物であるクレオメへの寄生数は平年並。 (3) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は平年並または少ない見込み。	
カブラヤガ(ネキリムシ)	5月19日	やや早	やや多	(1) フェロモントラップでの誘殺時期は、やや早い。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は、やや多い。 (3) 前年秋期の発生量は平年並。	



作物名	病害虫名	発表月日	予報内容		予報の根拠
			発生時期	発生量	
果樹全般	カメムシ類	4月21日	やや早	やや多	(1) チャバネアオカメムシ成虫の越冬虫数は多い。 (2) フェロモントラップでの誘殺時期は、やや早い。 (3) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並の見込み。
		5月19日	—	やや多	(1) チャバネアオカメムシ成虫の越冬虫数は多い。 (2) フェロモントラップ、予察灯での誘殺数は、やや多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		6月9日	—	多	(1) チャバネアオカメムシ成虫の越冬虫数は多い。 (2) フェロモントラップ、予察灯での誘殺数は多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		6月23日	—	多	(1) チャバネアオカメムシ成虫の越冬虫数は多い。 (2) フェロモントラップ、予察灯での誘殺数は多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並
		7月7日	—	多	(1) チャバネアオカメムシ成虫の越冬虫数は多い。 (2) フェロモントラップ、予察灯での誘殺数は多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		7月21日	—	多	(1) チャバネアオカメムシ成虫の越冬虫数は多い。 (2) フェロモントラップ、予察灯での誘殺数は多い。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並または多い見込み。
		8月4日	—	多	(1) フェロモントラップ、予察灯での累積誘殺数は多い。 (2) ほ場での被害果数は多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または少ない見込み。
		8月25日	—	多	(1) フェロモントラップ、予察灯での累積誘殺数は多い。 (2) ほ場での被害果数は多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または多い見込み。
	ハダニ類	6月23日	やや早	やや多	(1) ほ場での発生時期は、やや早い。 (2) ほ場での発生量は、やや多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または少ない見込み。
		7月7日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
	ハマキムシ類	5月19日	やや早	やや多	(1) フェロモントラップでのチャハマキの誘殺時期は、やや早く、誘殺数は、やや多い。 (2) フェロモントラップでのチャノコカクモンハマキの誘殺時期は、やや遅く、誘殺数は、やや少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		6月23日	—	やや多	(1) フェロモントラップでのチャハマキの誘殺数は、やや多い。 (2) フェロモントラップでのチャノコカクモンハマキの誘殺数は、6月第2半句以降、増加している。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または少ない見込み。
		7月21日	—	平年並	(1) チャハマキのフェロモントラップでの誘殺数は、やや多い。 (2) チャノコカクモンハマキのフェロモントラップでの誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並または多い見込み
	アブラムシ類	4月21日	やや早	平年並	(1) ナシの生育は、やや早い。 (2) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並の見込み。
5月19日		—	やや多	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。	
ナシ	黒星病	3月17日	早	平年並	(1) ナシの生育は早い。 (2) 前年の発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		4月21日	やや早	平年並	(1) ナシの生育は、やや早い。 (2) 前年の発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並の見込み。
		5月19日	—	やや多	(1) ほ場での発生量は、やや多い。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		6月9日	—	やや多	(1) ほ場での発生量は、やや多い。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		7月7日	—	やや多	(1) ほ場での発生量は、やや多い。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		9月28日	—	やや多	(1) ほ場での発生量は、やや多い。 (2) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は平年並または少ない見込み。
	赤星病	4月21日	やや早	平年並	(1) ナシの生育は、やや早い。 (2) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並の見込み。
		5月19日	—	やや多	(1) ほ場での発生量は、やや多い。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。

作物名	病害虫名	発表月日	予報内容		予報の根拠
			発生時期	発生量	
ナシ	ナシヒメシンクイ	5月19日	やや早	平年並	(1) フェロモントラップでの誘殺時期は、やや早い。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		6月9日	—	平年並	(1) フェロモントラップでの誘殺数は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		7月7日	—	やや少	(1) フェロモントラップでの誘殺数は、やや少ない。 (2) ほ場での被害果を認めていない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		8月4日	—	やや少	(1) フェロモントラップでの誘殺数は少ない。 (2) ほ場での被害果数は、やや少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または少ない見込み。
ブドウ	うどんこ病	5月19日	平年並	平年並	(1) ブドウの生育は平年並。 (2) 前年の発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		6月23日	—	やや多	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または少ない見込み。
	べと病	6月23日	平年並	やや少	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 前年の発生量は、やや少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または少ない見込み。
		7月21日	—	やや多	(1) ほ場での発生量は、やや多い。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並または多い見込み。
		8月25日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または多い見込み。
	灰色かび病	5月19日	平年並	平年並	(1) ブドウの生育は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		6月23日	—	やや少	(1) 開花時期の5月の降水量は少なく、ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または少ない見込み。
	クワコナカイガラムシ	5月19日	平年並	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) ブドウの生育は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
	フタテンヒメヨコバイ	5月19日	平年並	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) ブドウの生育は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
	コガネムシ類	7月7日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
	チャノキイロアザミウマ	6月23日	—	平年並	(1) ほ場での発生は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または少ない見込み。
	カキ	炭疽病	6月23日	—	やや少
7月21日			—	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並または多い見込み。
8月4日			—	やや少	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または少ない見込み。
8月25日			—	やや少	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または多い見込み。
円星落葉病		6月23日	—	やや少	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 前年の発生量は、やや少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または少ない見込み。
角斑落葉病		6月23日	—	やや少	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 前年の発生量は、やや少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または少ない見込み。
うどんこ病		6月23日	—	やや少	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 前年の発生量は、やや少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または少ない見込み。
		7月21日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並または多い見込み。

作物名	病害虫名	発表月日	予報内容		予報の根拠
			発生時期	発生量	
カキ	カキノヘタムシガ	5月19日	やや早	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) カキの生育は、やや早い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		7月21日	—	平年並	(1) 第一世代成虫のほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並または多い見込み。
	カキクダアザミウマ	5月19日	やや早	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) カキの生育は、やや早い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
	チャノキイロアザミウマ	5月19日	平年並	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) カキの生育は、やや早い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		8月4日	—	平年並	(1) ほ場での被害果数は、やや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または少ない見込み。
	マイマイガ	5月19日	—	やや少	(1) ほ場での発生を認めていない。
	カイガラムシ類	8月4日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または少ない見込み。
カメムシ類	9月28日	—	やや多	(1) フェロモントラップ、予察灯での累積誘殺数は多い。 (2) ほ場での被害果数は多い。 (3) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は平年並または少ない見込み。	
チャ	炭疽病	6月9日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 前年の発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		7月21日	—	やや多	(1) ほ場での発生量は、やや多い。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並または多い見込み。
		8月4日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は、やや多い。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少ない見込み。
		8月25日	—	やや少	(1) ほ場での発生量は多い。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
	もち病	6月9日	—	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 前年の発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		7月21日	—	多	(1) ほ場での発生量は多い。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並または多い見込み。
		8月4日	—	やや多	(1) ほ場での発生量は、やや多い。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少ない見込み。
	新梢枯死症	7月21日	—	多	(1) 感染源となる輪斑病葉の発生量は多い。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並または多い見込み。
		8月4日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 感染源となる輪斑病葉の発生量は、やや少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少ない見込み。
	輪斑病	7月7日	—	平年並	(1) 前年の三番茶芽における新梢枯死症の発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
	チャノココクモンハマキ	4月21日 (第1世代幼虫)	やや早	やや多	(1) 越冬世代成虫のフェロモントラップへの初飛来日は早い。 (2) 前年の最終世代の発生量は、やや多い。 (3) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並の見込み。
		6月23日 (第2世代幼虫)	やや早	やや多	(1) 第1世代成虫のフェロモントラップへの初飛来日は、やや早い。 (2) 越冬世代成虫の誘殺数は、予察灯でやや多く、フェロモントラップでやや多い。 (3) ほ場での発生量は平年並。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または少ない見込み。
		8月4日 (第3世代幼虫)	平年並	やや多	(1) 第2世代成虫の初飛来日は平年並。 (2) 第2世代成虫の予察灯での誘殺数は、やや多い。 (3) ほ場での発生量は、やや多い。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少ない見込み。
	チャハマキ	4月21日 (第1世代幼虫)	やや早	平年並	(1) 越冬世代成虫のフェロモントラップへの初飛来日は早い。 (2) 前年の最終世代の発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並の見込み。
6月23日 (第2世代幼虫)		平年並	平年並	(1) 越冬世代成虫のフェロモントラップでの誘殺時期は平年並。 (2) 越冬世代成虫の誘殺数は、予察灯で平年並、フェロモントラップで少ない。 (3) ほ場での発生量は平年並。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または少ない見込み。	

作物名	病害虫名	発表月日	予報内容		予報の根拠
			発生時期	発生量	
チャ	カンザワハダニ	3月17日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		4月21日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並の見込み。
		5月19日	—	やや少	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		6月9日	—	やや少	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		6月23日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または少ない見込み。
		7月7日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		7月21日	—	やや少	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並または多い見込み。
		8月4日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少ない見込み。
		8月25日	—	やや少	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
		9月28日	—	やや多	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は平年並または少ない見込み。
	ツマグロアオカスミカメ	4月21日	やや遅	平年並	(1) 一番茶の生育は、やや遅い。 (2) 前年の発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並の見込み。
クワシロカイガラムシ		5月19日 (第1世代幼虫)	平年並	やや少	(1) 幼虫ふ化最盛期の有効積算温度(287日度、起算日1月1日、発育零点10.5℃)による予測日は平年並。 (2) 越冬世代成虫の寄生株率は、やや少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		6月9日 (年2回発生地域・第1世代幼虫)	平年並	平年並	(1) 調査茶園における寄生株率は平年並。 (2) 甲賀市水口町水口(茶業指導所)におけるふ化最盛期(50%ふ化卵塊が過半数に達した時期)は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		7月21日 (年3回発生地域・第2世代幼虫)	やや早	やや少	(1) 第1世代成虫の発生時期は平年並。 (2) 第2世代幼虫ふ化最盛期の有効積算温度(688日度、起算日第1世代ふ化最盛期、発育零点10.8℃)による予測日は、やや早い。 (3) 第1世代成虫(雄繭)の寄生株率は、やや少ない。 (4) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並または多い見込み。
		8月4日 (年2回発生地域・第2世代幼虫)	やや早	やや少	(1) 第1世代成虫の発生時期は平年並。 (2) 第2世代幼虫ふ化最盛期の有効積算温度(688日度、起算日第1世代ふ化最盛期、発育零点10.8℃、高温補正30℃)による予測日は、やや早い。 (3) 第1世代成虫の寄生株率(雄繭)は、やや少ない。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少ない見込み。
		8月25日 (年3回発生地域・第3世代幼虫)	やや早	やや少	(1) 第2世代幼虫の発生時期は、やや早い。 (2) 第2世代成虫(雄繭)の寄生株率は、やや少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
チャトゲコナジラミ		5月19日 (第1世代幼虫)	平年並	やや多	(1) 越冬世代成虫の発生時期は平年並。 (2) 越冬世代成虫の黄色粘着板での誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		6月9日 (第1世代幼虫)	平年並	やや多	(1) 越冬世代成虫の発生時期は平年並。 (2) 越冬世代成虫の黄色粘着板での誘殺数は、やや多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		7月21日 (第2世代幼虫)	やや早	やや多	(1) 第1世代成虫の黄色粘着板での誘殺時期は、やや早い。 (2) 第1世代成虫の黄色粘着板での誘殺数は多い。 (3) 調査茶園における幼虫の発生量は、やや少ない。 (4) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並または多い見込み。
		8月4日 (第2世代幼虫)	やや早	やや多	(1) 第1世代成虫の発生ピークは、やや早い。 (2) 第1世代成虫の黄色粘着板での誘殺数は、やや多い。 (3) 調査茶園における幼虫の発生量は平年並。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少ない見込み。
		9月28日 (第3世代幼虫)	平年並	やや多	(1) 第2世代成虫の発生時期は平年並。 (2) 第2世代成虫の黄色粘着板での誘殺数は平年並。 (3) 調査茶園における幼虫の発生量は、やや少ない。 (4) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は平年並または少ない見込み。
キク	アブラムシ類	7月7日	—	やや少	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 黄色水盤での誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		8月4日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 黄色水盤での誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または少ない見込み。

## 2 注意報および警報

本年度、注意報は4回発表した。なお、警報の発表はなかった。

### 令和2年度病害虫発生予察注意報第1号 果樹カメムシ類による被害多発のおそれ

令和2年(2020年)6月4日  
滋 賀 県

1. 病害虫名：果樹カメムシ類（主にチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ）
2. 対象作物：果樹（モモ、ナシ、ブドウ、カキ等）
3. 発生地域：県内全域
4. 発生程度：多
5. 注意報発表の根拠
  - (1) チャバネアオカメムシとツヤアオカメムシのフェロモントラップにおける誘殺数は5月第5半旬から増加している（図1）。予察灯における誘殺数も5月第5半旬に急増し、5月第6半旬までの累積誘殺数は過去10年間で最も多い（図2）。
  - (2) チャバネアオカメムシの越冬量は、過去10年間で最も多く（令和元年度防除情報第10号参照）、県内各地の果樹園において、果樹カメムシ類の飛来が確認されている。
  - (3) 気温の上昇とともに、果樹カメムシ類の活動がさらに活発になり、果樹園への飛来が増加するため、被害の発生が懸念される。
6. 防除対策
  - (1) 気温が高く、風の弱い夜に飛来する習性がある。園内で発生を確認したら早朝か夕方に防除を行う。
  - (2) 防虫ネット（6mm以下）を備える果樹園では、早急にネットを設置する。
  - (3) 必要以上の薬剤散布は、天敵を減少させ、ハダニ類やカイガラムシ類の増加につながるため注意する。
  - (4) 局地的に飛来し、集中的に加害する傾向があるため、各園地で見回りを行う。
  - (5) 山林隣接園や過去に被害を受けた園では特に注意する。

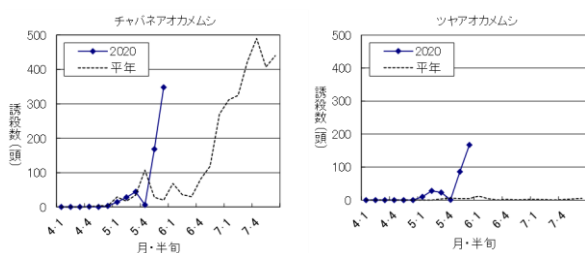


図1 フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシとツヤアオカメムシの誘殺数の推移（栗東市荒張）

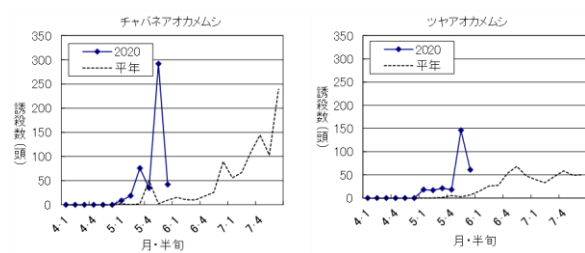


図2 予察灯におけるチャバネアオカメムシとツヤアオカメムシの誘殺数の推移（栗東市荒張）



写真 チャバネアオカメムシ（左）とツヤアオカメムシ（右）

令和2年(2020年)8月7日

滋 賀 県

1. 病害虫名：果樹カメムシ類（主にチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ）
2. 対象作物：果樹（カキ、ナシ、ブドウ等）
3. 発生地域：県内全域
4. 発生程度：多
5. 注意報発表の根拠
  - (1) 果樹カメムシ類のフェロモントラップにおける誘殺数は梅雨明け後の8月第1半旬に再び急増し、累積誘殺数は平年の約2.8倍となっている（図1左）。また、予察灯での累積誘殺数も平年の約4.6倍となっており、過去10年間で最も多い（図1右）。
  - (2) チャバネアオカメムシの越冬量は、過去10年間で最も多く、県内各地の果樹園で、既に果樹カメムシ類の飛来や被害が確認されている（注意報1号参照）。
  - (3) 大阪管区気象台の気象予報では、向こう1か月の気温は高いと予想されており、果樹カメムシ類の活動がさらに活発になり、果樹園への飛来が増加するため、被害の発生が懸念される。
6. 防除対策
  - (1) 気温が高く、風の弱い夜に飛来する習性がある。園内で発生を確認したら早朝か夕方に防除を行うが、必要以上の薬剤散布は、天敵を減少させ、ハダニ類やカイガラムシ類の増加につながるので注意する。
  - (2) 防虫ネット（6mm以下）を備える果樹園では、ネットの裾をペグや土嚢等で固定するとともに、ネットの破損がないか点検する。
  - (3) 局地的に飛来し、集中的に加害する傾向があるため、各園地で見回りをを行う。
  - (4) 山林隣接園や過去に被害を受けた園では特に注意する。



写真 チャバネアオカメムシ（左）とツヤアオカメムシ（右）

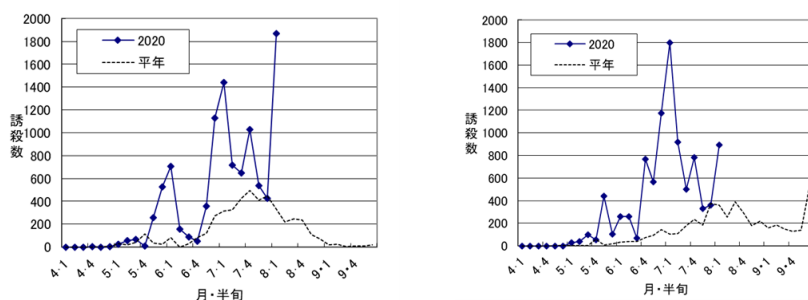
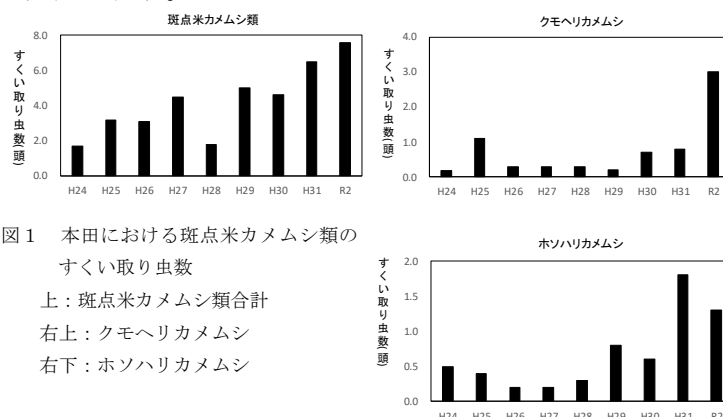


図1 果樹カメムシ類のフェロモントラップ（左）および予察灯（右）での誘殺数の推移（栗東市荒張）

令和2年度病虫害発生予察注意報第3号  
 斑点米カメムシ類による被害多発のおそれ

令和2年(2020年)8月7日  
 滋 賀 県

1. 病虫害名：斑点米カメムシ類（主にクモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ）
2. 発生地域：県内全域
3. 対象作物：水稲（中生・晩生品種）
4. 発生時期：8月中旬以降（加害時期）
5. 発生程度： 多
6. 注意報発表の根拠
  - (1) 8月3日～5日に、県内31地点の水稲ほ場ですくい取り調査を実施したところ、本田における斑点米カメムシ類のすくい取り虫数は7.6頭（平成3.8頭）で、過去8年間と比較して最も多かった（図1）。特に、クモヘリカメムシ（図2）の県域でのすくい取り虫数は3.0頭で、平成（0.5頭）の6倍、ホソハリカメムシ（図3）では1.3頭と平成（0.6頭）の2倍以上と多かった。
  - (2) クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシの発生は、山間地域に限らず県内全域で多い。今後出穂期を迎える中生・晩生品種への加害が懸念される。また、特にイネを好む斑点米カメムシ類のイネカメムシ（図4）の発生しているほ場も確認されている。
  - (3) 大阪管区気象台発表の1か月予報では、向こう1か月の気温が高く、晴れの日が多いと予想されており、斑点米カメムシ類の発生や活動に好適である。
7. 防除対策
  - (1) 水田内にヒエなどのイネ科雑草が繁茂していると、斑点米カメムシ類が集まるので、早急に除去する。
  - (2) 雑草管理が不十分でイネ科雑草の出穂が多く認められる畦畔・雑草地の除草は、斑点米カメムシ類を水田内に追い込むこととなり、被害が拡大する恐れがある。やむなく除草を行う場合は、本田への薬剤防除前日に実施する。
  - (3) 穂揃期に斑点米カメムシ類が確認できるほ場では、糊熟期頃（出穂16日後を中心に出穂10～20日後）に防除する。
  - (4) ほ場周辺の畦畔や雑草地に、ホソハリカメムシやクモヘリカメムシ以外に、アカスジカスミカメが多い場合は、乳熟期頃（出穂7～10日後）にも防除する。
  - (5) 粒剤を施用する場合、田面を露出させない程度に湛水状態とする。散布時期は乳熟期（出穂7～10日後）とするが、キラップ粒剤は、出穂10日前～出穂期に散布する。
  - (6) 早生品種を含め、農薬散布後も水田内に斑点米カメムシ類の発生が多い場合は、収穫前日数、使用回数に注意の上、追加防除を行う。



令和2年度病害虫発生予察注意報第4号  
ハスモンヨトウによる被害多発のおそれ

令和2年(2020年)9月15日  
滋 賀 県

1. 病害虫名：ハスモンヨトウ
2. 発生地域：県内全域
3. 対象作物：ダイズ、野菜、花き
4. 発生時期：9月中旬以降
5. 発生程度：多
6. 注意報発表の根拠
  - (1) フェロモントラップでの誘殺数は、7月第1半旬に急増して以降、平年より多い状態が続いている(図1)。9月第2半旬にも誘殺数が急増し、同時期までの累積誘殺数は600頭(平年205頭)と、過去10年間で最も多い。
  - (2) 8月17~19日にかけて県内全域のダイズほ場で調査を行ったところ、発生ほ場率が48.1%と、平年(30.4%)と比較して、やや高かった。9月以降、ダイズほ場において被害葉(写真1と2)が増加傾向にあり、サトイモ等の野菜でも幼虫による加害が多数確認されている(写真3)。
  - (3) 大阪管区気象台の発表では、向こう1か月の気温は高いと予想されており、今後も発生に好適な状況が続くため、被害の増加が懸念される。
7. 防除対策
  - (1) 早期発見に努め、若齢幼虫が葉裏に群せいしているうちに捕殺する。
  - (2) 幼虫が中齢~老齢になると薬剤の効果が低下するので、若齢期に薬剤を散布する。
  - (3) 成虫は次々に飛来して産卵するので、薬剤散布後も発生状況に十分注意する。

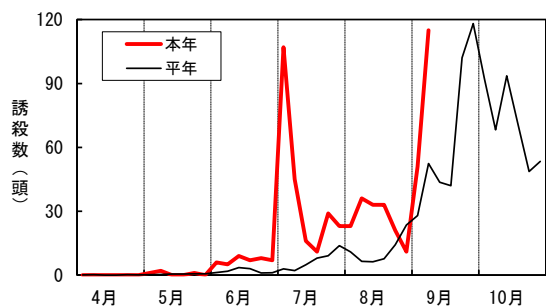


図1 フェロモントラップでの誘殺数の推移  
(於：近江八幡市安土町大中)



写真1 ダイズ白変葉  
(若齢幼虫による食害)



写真2 葉裏に群がるハスモンヨトウ  
若齢幼虫

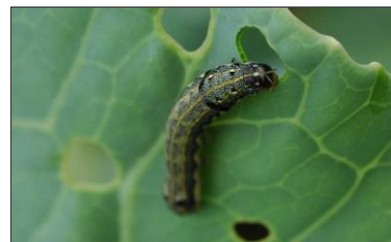


写真3 キャベツを加害するハスモン  
ヨトウ老齢幼虫



### 3 特殊報

本年度は、3回発表した。

---

#### 令和2年度病害虫発生予察特殊報第1号

令和2年(2020年)6月11日  
滋賀県

1. 病害虫名 ツマジロクサヨトウ *Spodoptera frugiperda* (J.E. Smith)
2. 対象作物 飼料用トウモロコシ、ソルガム、スイートコーンなど
3. 発生地域 近江八幡市
4. 発生経過
  - (1) 近江八幡市に設置したツマジロクサヨトウ用フェロモントラップにおいて、令和2年6月2日、本種と疑われる成虫が捕獲された(写真1)。農林水産省神戸植物防疫所に同定依頼した結果、本県では未発生のツマジロクサヨトウであることが確認された。なお、県内では現在、農作物における本種幼虫の発生および被害は確認されていない。
  - (2) 本種は、令和元年7月3日に鹿児島県の飼料用トウモロコシほ場において国内で初めて確認され、その後、西日本を中心に21府県で現地ほ場での発生が確認されている。このほか、7府県でもフェロモントラップにおいて雄成虫が誘殺され、特殊報が発表されている。
5. 形態および生態
  - (1) 成虫は開張約37mm、雌雄で外観が大きく異なり、雄のみが前翅に淡色斑と白斑を持つ(写真2)。終齢幼虫は体長約40mmで、頭部の複眼と前額の境界にみられる逆Y字状の模様(写真3)および尾部の斑点が特徴である。卵は寄主植物に塊状に産み付けられ、雌の体毛で覆われる。
  - (2) 本種は南北アメリカ大陸の熱帯～亜熱帯原産で、暖地に適応した種である。南北アメリカでは毎年夏季に成虫が移動・分散するが、暖地を除く地域では越冬することはできない。本種の分布地域は、北米～南米、アフリカ(エジプト、サハラ以南)、アジア(インド、中国、台湾、韓国、タイ、ミャンマーなど)である。
  - (3) これまでのところ、国内で発生が確認された農作物はイネ科作物(飼料用トウモロコシ、スイートコーン、ソルガム、サトウキビ等)である。文献では、イネ科作物の他、アブラナ科(カブ等)、ウリ科(キュウリ等)、キク科(キク等)、ナス科(トマト、ナス等)、ナデシコ科(カーネーション)、ヒルガオ科(サツマイモ等)、マメ科(ダイズ等)などの広範囲な作物を加害するとされている。
  - (4) 幼虫が植物の葉、茎、花および果実を食害する。若齢幼虫は葉を裏側から集団で加害し、成長すると加害しながら分散する。
6. 防除対策
  - (1) 生育初期に幼虫の食害を受けた場合、被害が大きくなると考えられるため、ほ場巡回を行い早期発見に努める。本虫と疑われる幼虫を発見した場合には、速やかに病害虫防除所に連絡する。
  - (2) 県は、本虫の発生が確認された場合、植物防疫法第29条第1項に基づく措置を行うこととし、国との協議により、加害が確認された作物ごとに選定した薬剤による散布の指導を行う。

(農林水産省「ツマジロクサヨトウの薬剤防除に使用できる農薬一覧」)

[https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k\\_kokunai/tumajiro.html](https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/tumajiro.html)

- (3) 発生が確認されたほ場では、本虫の分散を防ぐため、収穫後は速やかに耕起し、残渣をすき込む。



写真1 フェロモントラップに捕獲された雄成虫 (於：近江八幡市)



写真2 成虫 (左：雄，右：雌 開長：約37mm) 農林水産省 HPより



写真3 終齢幼虫 (体長：約40mm) 農林水産省 HPより

## 令和2年度病害虫発生予察特殊報第2号

令和2年(2020年)7月8日  
滋賀県

1. 病害虫名 ヒサカキワタフキコナジラミ *Pealius euryae* (Takahashi)

2. 対象作物 チャ

3. 発生地域 甲賀市

### 4. 発生経過

- (1) 令和2年6月10日に、県農業技術振興センター茶業指導所(甲賀市水口町)の茶園において、茶株内の低い位置の枝の葉裏に、白い綿状物質に覆われた種不明なコナジラミ類幼虫の発生が確認された。久留米大学の上官健吉博士に同定を依頼したところ、本県では未発生のヒサカキワタフキコナジラミと同定された。
- (2) チャでの発生は、平成27年10月に埼玉県で初めて確認され、平成29年7月に静岡県、10月に愛知県、平成30年10月に三重県、令和2年3月に京都府、7月に長野県においても確認が報告された。

### 5. 形態および生態

- (1) 成虫の体長は約1.0mm、体色は白色である(写真1)。幼虫は小判状で淡黄色をしており、周囲に長い糸状の白色綿状物質をもつ(写真2と3)。
- (2) 本種は、直射日光が当たらない新芽及び新葉の葉裏に好んで寄生する(写真4)。成虫は新芽や新葉に集合して吸汁加害する。
- (3) 幼虫は葉裏に生息して吸汁加害し、分泌される甘露によって下位葉に灰色のすす病が発生する。また、白い綿状の分泌物を出し、葉裏全体を覆うようになる。

### 6. 防除対策

- (1) 本種のチャ生産における被害は報告されておらず、現在のところ本種を対象とした防除対策の必要性は低いと考えられる。しかし、チャにおける発生生態に関しては十分な知見がないため、ほ場での発生状況には十分注意する。
- (2) 覆い下栽培などの遮光を伴う栽培では、直射日光が当たらず、本種の生息に好適な環境となるため、特に注意して観察する。
- (3) 令和2年7月1日現在、チャにおいて本種に適用のある農薬はない。



写真1 成虫



写真2 葉裏に寄生する幼虫



写真3 葉裏に寄生する幼虫



写真4 生息部位

令和2年度病害虫発生予察特殊報第3号

令和2年(2020年)12月8日  
滋 賀 県

1. 病害虫名 ヨコバイ科の一種(和名なし) *Singapora shinshana* (Matsumura)
2. 対象作物 ウメ、モモ等
3. 発生地域 大津市の一部
4. 発生経過
  - (1) 令和2年11月、大津市内の民家に植栽されたモッコウバラの葉を加害するヒメヨコバイ類が確認された。採取した成虫を農林水産省神戸植物防疫所に同定依頼した結果、本県では未発生のヨコバイ科の一種 *Singapora shinshana* (Matsumura) と同定された。
  - (2) 本種の発生は、国内では、沖縄県、和歌山県、徳島県、埼玉県、京都府、大阪府、岡山県および群馬県で確認されている。海外では、中国、台湾、韓国および北朝鮮で確認されている。
5. 形態および生態
  - (1) 本種の成虫の体色は黄緑色で(写真1と2)、体長は3.0~3.5mm。複眼は黒色で、頭頂部に黒点がある(写真3)。
  - (2) 本種は、ウメ、モモ、ナシ、リンゴ等のバラ科果樹の他、サンザシ、ポポー、ポプラ等を加害することが報告されている。
  - (3) 本種は、幼虫および成虫が葉を吸汁加害し、葉の表面が白化する(写真4)。激しく加害された葉は落葉する。被害葉の裏側には幼虫の脱皮殻が付着していることが多い。
6. 防除対策
  - (1) 令和2年12月3日現在、本種に対して適用のある農薬はない。
  - (2) 発生および被害の早期発見に努め、発生を確認した場合は寄生している葉ごと速やかに除去し、適切に処分する。



写真1 葉上の成虫



写真2 葉裏の成虫(大津市内の民家)



写真3 頭頂部の黒点



写真4 モッコウバラの被害葉(大津市内の民家)

## 4 防除情報

本年度は、10回発表した。

---

### 令和2年度防除情報第1号

令和2年(2020年)7月7日  
滋賀県病虫害防除所

#### 葉いもちの早期発見に努めましょう！

対象作物：イネ  
病虫害名：葉いもち

6月29日～7月1日に実施した巡回調査の結果によると、葉いもちの発生ほ場率は3.3%と、平年(平年値0.9%)と比べて、やや多くなりました。

今後の天候によっては、穂いもちの発生につながります。葉いもちが発生しやすいほ場(育苗箱施薬剤を施用していないほ場、日当たりや風通しの悪いほ場等)を中心に見て回り、必要に応じて防除しましょう。なお、薬剤の使用にあたっては、県農作物病虫害雑草防除基準を参照し、収穫前日数に十分注意してください。

---

### 令和2年度防除情報第2号

令和2年(2020年)7月7日  
滋賀県病虫害防除所

#### 斑点米カメムシ類の発生源となる畦畔の草刈りを徹底しましょう

対象作物：イネ  
病虫害名：斑点米カメムシ類

6月29日から7月1日に実施した、畦畔における斑点米カメムシ類のすくい取り調査において、発生量は平成25年以来2番目に多くなりました。ホソハリカメムシ等の大型カメムシや、より小型であるアカスジカスミカメの発生量が多くなっています。

また、畦畔で出穂したイネ科雑草が確認されたほ場の割合は72%と、平年(66%)を上回る状況となっており、適期に除草をしない場合、本田に侵入する斑点米カメムシ類の発生源となります。

水稻の出穂2～3週間前と出穂期に、畦畔の草刈りを実施し、水田への斑点米カメムシ類の侵入を防ぎましょう。なお、5月10日移植の場合、「みずかがみ」では7月22日頃、「コシヒカリ」では7月27日頃が過去7か年の平均の出穂期となります。

---

### 令和2年度防除情報第3号

令和2年(2020年)7月17日  
滋賀県病虫害防除所

#### 穂いもちに要注意！

対象作物：イネ  
病虫害名：穂いもち

水稻早生品種(「コシヒカリ」、「みずかがみ」、「キヌヒカリ」等)は、まもなく出穂期を迎えますが、向こう1か月の気象予報では、気温は平年並、降水量は平年並または多く、日照時間は県北部では少なく、県南部では平年並または少ない見込みで、穂いもちに感染しやすい気象条件が予想されるため、注意が必要です。

7月13～14日の巡回調査結果では、葉いもちの発生量は平年並ですが、一部地域では

発病が目立つほ場が認められました。葉いもちや、穂いもちの伝染源となるため、葉いもちの発生状況をほ場で確認するとともに、必要に応じて下記の注意事項に基づき、防除を実施してください。

#### 防除上注意すべき事項

- (1) 「コシヒカリ」「キヌヒカリ」「秋の詩」「滋賀羽二重糯」は、発病しやすいので特に注意する。
- (2) ほ場の状況をよく確認し、適期に防除する。
  - ・ 粉剤、液剤で防除する場合は、防除適期を逃すと著しく効果が低下するので、必ず穂ばらみ期～出穂期に防除する。
  - ・ 粒剤は種類により施用時期が異なるので、ラベルをよく読んで適期に散布する。
- (3) 薬剤の使用にあたっては、県農作物病害虫雑草防除基準を参照し、収穫前日数に十分注意する。
- (4) 薬剤耐性菌を生じやすいので、同一グループ薬剤の連用を避ける。

---

#### 令和2年度防除情報第4号

令和2年(2020年)7月21日  
滋賀県病害虫防除所

#### 斑点米カメムシ類を適期に防除しましょう

対象作物：イネ

病害虫名：斑点米カメムシ類（クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシなど）

7月8日～9日に実施した、畦畔での斑点米カメムシ類のすくい取り調査において、山間部など一部地域でクモヘリカメムシ、ホソハリカメムシなど大型カメムシの発生量が多くなりました。特に、クモヘリカメムシの平均生息数は6.7頭（平年1.4頭）と、過去10年で最多となりました。

また、他の斑点米カメムシに比べ体が大きく、吸汁能力の高いミナミアオカメムシを、例年より早い時期から予察灯への飛来で確認しています。

今後、イネが出穂すると畦畔や雑草地から水田内に侵入し、加害するおそれがあります。適期に防除を実施し、被害を未然に防ぎましょう。

斑点米カメムシ類に対する、イネの出穂期以降の薬剤防除適期は以下のとおりです。

- ① ほ場周辺の畦畔や雑草地にカスミカメムシ類（アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ）が多い場合は、乳熟期頃（出穂7～10日後）に防除を実施する。
- ② イネの穂揃期に大型の斑点米カメムシ類（クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ）が確認できるほ場では、糊熟期頃（出穂16日後を中心に10～20日後）にも防除を実施する。

なお、雑草管理が不十分な畦畔（イネ科雑草が出穂）をイネの出穂後に除草すると、かえって本田内に斑点米カメムシ類を追い込むことになります。やむなく除草する場合は、薬剤防除の前日に実施してください。

---

#### 令和2年度防除情報第5号

令和2年(2020年)7月21日  
滋賀県病害虫防除所

#### 茶園におけるもち病と輪斑病に伴う新梢枯死症の多発に注意！

対象作物名 チャ  
対象病害虫 もち病と輪斑病（新梢枯死症）

7月第1半旬から降水日数が多く推移しており、既に一部の茶園ではもち病と輪斑病の発生が確認されており、発生量は過去10年で最も多くなっています。新梢枯死症の原

因となる病原菌は輪斑病菌であり、輪斑病が多発した茶園では新梢枯死症が発生しやすくなります。

もち病では感染から約 10 日、新梢枯死症では輪斑病菌感染から約 40 日で発症することから、発症が認められない茶園でも既に感染している可能性が高く、今後多発が予想されます。下記の注意事項に基づき、必要に応じて防除を実施してください。

#### 防除上の注意事項

- (1) もち病は新芽に感染するため、新芽がまだ硬化しておらず、7 月第 1 半旬以降に防除を実施していない園では直ちに防除を実施してください。
- (2) 新梢枯死症は輪斑病菌が葉や茎の傷口から侵入して感染するため、7 月第 1 半旬以降に防除を実施していない輪斑病多発園では直ちに防除を実施してください。
- (3) オンリーワンフロアブル等の E B I 剤は、もち病と新梢枯死症に対して治療効果が認められています。ただし、発生した病斑は治療できないので注意してください。
- (4) ダコニール 1000、フロンサイド S C 等の予防剤の予防効果は 7～10 日程度であることから、散布から 10 日以上経過している園では追加防除を検討してください。
- (5) 耐性菌発現の恐れがあるため、同一グループ薬 剤の連用は避けてください。

---

#### 令和 2 年度防除情報第 6 号

令和 2 年(2020 年) 8 月 4 日  
滋賀県病害虫防除所

#### コブノメイガの発生に注意しましょう

対象作物：イネ

病害虫名：コブノメイガ

本年は、例年より早い時期からコブノメイガが飛来し、各地のほ場で幼虫の食害が見られます。7 月 27 日～28 日に調査したところ、発生ほ場率は 80.0%（平年 13.5%）で、過去 10 年で最も高くなりました。

中生・晩生品種や遅植えの早生品種では、被害が多発するとイネの登熟に影響が出るおそれがあります。8 月に入ってから被害が多くなってきたほ場では、下記を参考に 8 月末から 9 月上旬に薬剤を散布して、被害を未然に防ぎましょう。

#### 防除上注意すべき事項

- (1) 9 月上旬までに収穫する極早生・早生品種では、防除の必要性は低い。
- (2) 防除の目安は、8 月上旬の被害株率が 20%以上、または 8 月中旬にイネの上位 2 葉の被害葉率が 20%以上のほ場とする。

---

#### 令和 2 年度防除情報第 7 号

令和 2 年(2020 年) 8 月 7 日  
滋賀県病害虫防除所

#### トビイロウンカの発生に注意して下さい

対象作物：イネ（中生および晩生品種）

病害虫名：トビイロウンカ（坪枯れ症状）

守山市に設置した予察灯において、7 月 26 日および 27 日にトビイロウンカ 1 頭ずつの誘殺を確認しました。予察灯への誘殺時期は、坪枯れ症状の発生が確認された昨年（初飛来：8 月 16 日）と比較して早く、本田でのすくい取り調査（実施日：8 月 3 日～5 日）においても本虫の発生が確認されており、中生および晩生品種では坪枯れ症状の発生が懸念されます。

大阪管区气象台発表の気象予報では、向こう 1 か月の気温は高く推移するとされており、今後も本虫の増殖に好適な条件が続くと考えられます。ほ場に入って株元をよく観

察し、今後の発生に注意して下さい。

防除上注意すべき事項

- (1) トビイロウンカは通常1ヶ月弱で世代を繰り返すため、急激に増殖し、坪枯れを生じさせることがあります。今後、収穫期を迎える中生および晩生品種では、発生状況に注意してください。
- (2) トビイロウンカは局所的に発生する傾向があるため、ほ場全体をよく観察し、発生に十分注意してください。特に株元に多いので、株元を注意して観察してください。防除の目安は本虫の寄生数が1株あたり1頭以上です。
- (3) 粉剤や液剤で防除する場合は、薬剤が株元に十分届くように散布してください。なお、収穫期が近い場合の薬剤散布は、農薬登録内容の収穫前日数をよく確認して実施してください。



図1 株元に群がるトビイロウンカ



図2 トビイロウンカによる坪枯れ症状  
(令和元年大津市内のほ場にて)

令和2年度防除情報第8号

令和2年(2020年)12月11日  
滋賀県病害虫防除所

冬期にスクミリンゴガイの越冬量を減らし、翌春以降の被害軽減に努めましょう！

対象作物：イネ

病害虫名：スクミリンゴガイ（通称：ジャンボタニシ）

対象地域：県域

近年、暖冬の影響によりスクミリンゴガイの越冬量が多く、県内の一部地域においてイネの被害が目立っています。

スクミリンゴガイは収穫後の水田や用排水路の土中に潜って越冬します。翌春の発生を抑えるため、冬期に耕うんを行い、貝殻を物理的に破壊することで越冬量を減らしましょう。本貝の冬期間の主な防除法は、表を参考にしてください。

本貝の発生が確認されていない地域では、ほ場に持ち込まないことが重要となります。耕うん後は、トラクターをよく洗浄し、未発生ほ場への持ち込みを防止しましょう。

表 冬期間の防除対策

防除法	防除のポイント
	土壌水分が少なく田面が硬いときに耕うんすると効果的に破壊できる。
冬期の耕うん	耕うんピッチを小さくし(6mm程度)、低速(0.2~0.6km/h程度)で土壌を細かく砕くようにすることで殻を破壊する効果が高められる。 (トラクターの走行速度を遅く、PTO回転を速くする)
	多くの貝は深さ6cm以内の土中で越冬するため、耕うんの深度は10cm程度を目標とする。
	厳冬期に実施することで、土中にいる貝を掘り起こし、寒風にさらすことで貝の致死率を高められる。

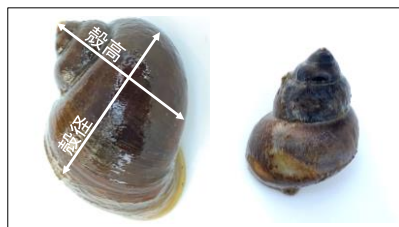


写真 スクミリンゴガイ(左)と在来タニシ(右)  
在来タニシの細長い殻と比較して、スクミリンゴガイは殻径と殻高の長さがほぼ同じなのが特徴です(写真は実物大)。

水路の泥上げ 水路内に堆積した泥の中に潜って越冬するため、泥上げを行うことで寒風にさらされ、致死率を高められる。

農林水産省発行「スクミリンゴガイ防除対策マニュアル(移植水稲)」に基づき作成。

**令和3年度産水稻におけるいもち病とトビイロウンカの対策を心がけましょう！**

対象作物：水稻  
対象病害虫名：いもち病とトビイロウンカ  
対象地域：県域

1. いもち病について

昨年の穂いもちの発生ほ場率は、平年と比較してやや多く、県内全域で発生が認められました。そのため、種もみは例年以上にいもち病菌を保菌していると考えられます。穂いもちが多発した翌年は、苗いもちの発生が多い傾向にあります。種子消毒を例年以上に丁寧に行い、苗いもちの発生を防ぎましょう。

また、乾燥した稲わらやもみ殻には、いもち病菌が付着しており、いもち病の伝染源となります。これらを育苗ハウス周辺に置いたり、ハウス内に持ち込まないように注意しましょう。

2. トビイロウンカについて

昨年は、梅雨前線が日本付近に長期にわたり停滞したことから、海外からのトビイロウンカの飛来時期が早く、飛来量も多くなりました。また、8月以降、本種の増殖に好適な高温少雨の条件が続き、多発生となったため、県域の中生・晩生品種栽培ほ場において、坪枯れ症状の発生が確認されました。

トビイロウンカは熱帯地域に生息しており、国内では越冬できず、毎年、梅雨時期の下層ジェット気流に乗って日本に飛来します。本虫の発生量や発生地域は、その年の飛来状況次第です。そのため、当所から発表する発生予察情報等により、飛来状況や県内の発生状況を把握するとともに、地域差やほ場間およびほ場内での発生量の差が大きい害虫のため、ほ場での発生状況をよく観察し、防除要否を判断することが大切です。また、本田防除にあたっては、本種の生息する株元に薬剤がかかるよう散布することが重要です。

**タマネギべと病の発生に注意**

対象作物：タマネギ  
対象病害虫名：タマネギべと病  
対象地域：県域

3月15日～17日に県内全域のタマネギ栽培ほ場（11ほ場）でタマネギべと病（写真1、2）の調査を行ったところ、発生ほ場率は45.5%、発病株率は1.7%と、複数のほ場で発病株が認められました。

大阪管区气象台発表の気象予報（3月18日発表）によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並であり、本病の発生を助長する気象条件が続くと予想されます。下記を参考に、防除対策を徹底して、被害の拡大を防止しましょう。





写真1 越年り病株



写真2 二次感染病斑

#### 防除上の注意事項

- (1) 前年発生があったほ場や、例年発生が認められるほ場では、特にほ場をよく観察し、発生状況を確認する。
- (2) 越年り病株や、症状が激しい二次感染株の発生を認めた場合、発病株を抜き取り、ほ場からの持ち出しを徹底する。
- (3) 発病株の抜き取り後は、治療効果のある薬剤で早急に防除を実施する。
- (4) 胞子飛散による感染を防ぐため、本病の発生が認められない場合でも、感染前の予防散布を徹底する。
- (5) ほ場に水が溜まると、発病を助長するため、排水対策を徹底する。

## 5 事務連絡

本年度は、2回発表した。

### 斑点米カメムシ類とトビイロウンカの発生状況について

令和2年(2020年)9月3日  
滋賀県病害虫防除所

今年の水田内に斑点米カメムシ類の発生が多く、また、西日本の各地においてトビイロウンカによる坪枯れ症状の発生も確認されています。今後、成熟期を迎える水稻もあることから、当所で8月17～26日に実施したすくい取り調査の結果を送付致します。各農産普及課において普及指導の参考にして頂けましたら幸いです。

#### 1. 斑点米カメムシ類

8月17～26日に実施した県内36地点での本田すくい取り調査の結果、斑点米カメムシ類の発生量は平年並でしたが、一部ほ場ではホソハリカメムシやクモヘリカメムシの発生が平年より多い状況にあります。今後1か月の気温は高いと予想されており、引き続き斑点米カメムシ類の発生や活動に好適になると考えられることから、農薬散布後も水田内に斑点米カメムシ類の発生が多い場合は、収穫前日数、使用回数に注意の上、追加防除を行うようご指導ください。

#### 2. トビイロウンカ

8月17～26日に実施した県内36地点での払い落とし調査およびすくい取り調査の結果、トビイロウンカは払い落とし調査では確認されませんでした。すくい取り調査において東近江管内(東近江市鯉江町)のほ場で1頭確認されました。今後も本虫の増殖に好適な条件が続くと考えられるので、今後、収穫期を迎える晩生品種では、発生状況に注意してください。

### 県内での坪枯れ症状の発生状況について

令和2年(2020年)9月16日  
滋賀県病害虫防除所

対象作物：水稻(晩生)

対象病害虫名：トビイロウンカ(坪枯れ症状)

#### 1. 発生状況

西日本を中心にトビイロウンカが多発し、近隣府県においても警報や注意報が発表されています(表1)。本県においても8月7日に防除情報第7号を発表し、中生および晩生品種を対象に注意を呼び掛けてきましたが、9月7日に、大津市南比良の一部ほ場で坪枯れ症状が確認されました。

当所で9月14日に県域での巡回調査を実施した結果、県南部、北部および西部で坪枯れ症状が確認され(表2)、一部では、ほ場の半分の面積で坪枯れ症状が発生していました。

大阪管区気象台の発表では、向こう1か月の気温は高いと予想されており、本虫の増殖に好適な条件が続くと考えられるので、今後、収穫期を迎える晩生品種では、引き続き発生状況に注意してください。

表1 近隣府県での情報発表について

警報	京都府(9/10)
注意報	和歌山県(9/11)、大阪府(9/3)、 兵庫県(8/27)、京都府(8/26)、 奈良県(7/31)
防除情報	滋賀県(8/7)

9月15日時点

表2 坪枯れ症状の発生地点

市	地点名	発生程度
大津市	伊香立南庄町	少
	木戸	少
	八屋戸	少
	大物	少
	南比良	少
草津市	北山田町	少
	志那中町	少
守山市	赤野井町	少
	新庄町	中
野洲市	八夫	少
米原市	甲賀	中
	吉槻	多

調査日：9月14日。

## 2. 防除の指導上、注意すべき事項

- (1) トビイロウンカは通常1ヶ月弱で世代を繰り返すため、急激に増殖し、坪枯れを生じさせることがあります。今後、収穫期を迎える晩生品種では、発生状況に注意してください。
- (2) トビイロウンカは局所的に発生する傾向があるため、ほ場全体をよく観察し、発生に十分注意してください。特に株元に多いので、株元を注意して観察してください。
- (3) 粉剤や液剤で防除する場合は、薬剤が株元に十分届くように散布してください。なお、収穫期が近い場合の薬剤散布は、農薬登録内容の収穫前日数をよく確認して実施してください。
- (4) 収穫期が迫り、薬剤防除が出来ないほ場は、収穫適期の範囲内で早めに収穫してください。



図1 株元に群がるトビイロウンカ

図2 トビイロウンカによる坪枯れ

## ○本県の病虫害防除所業務の発表・広報・研修会等

- ・農薬アドバイザー講習会 農薬取締法の概要について  
開催場所：滋賀県庁東館大会議室  
令和2年9月7日(月) . . . . . 金子誠  
11月5日(木) . . . . . 金子誠
- ・専門養成研修会 農薬の適正使用と危被害防止、植物病虫害について  
開催場所：農業技術振興センター  
令和2年9月18日(金) . . . . . 金子誠、塚本敬之
- ・「琵琶湖とつながる生きもの田んぼ物語推進協議会」研究会  
開催場所：東近江市能登川水土里ネット滋賀  
令和2年10月29日(木) . . . . . 塚本敬之
- ・令和2年度スクミリンゴガイ防除対策研修会  
開催場所：野洲市さざなみホール  
令和2年12月16日(水) . . . . . 塚本敬之他
- ・令和2年度植物防疫・農薬安全使用対策協議会  
開催場所：農業技術振興センター  
令和2年12月23日(水) . . . . . 全員
- ・令和2年度営農指導技術ステップアップ講座（植物防疫編）  
開催場所：農業技術振興センター  
令和3年1月26日(火) . . . . . 金子誠
- ・令和2年度病虫害の効率的防除体制の再編委託事業成績検討会  
開催場所：Web 会議  
令和3年2月4日(木) . . . . . 塚本敬之他
- ・令和2年度植物防疫研修会病虫害防除推進員研修会  
開催場所：滋賀県庁新館大会議室  
令和3年3月10日(水) . . . . . 近藤博次

## 第6 試験成績

### (1) IPMの環境保全効果の評価

#### 1) QoI 剤耐性イネいもち病の県内分布調査

##### ア 目的

2012年に西日本の数県において、QoI 剤耐性イネいもち病菌の発生が認められた。また、2014年には、県内95ほ場のうち9ほ場において、QoI 剤耐性イネいもち病菌の発生を認めた。耐性菌の発生を受け、2015年以降の滋賀県病害虫雑草防除基準より、QoI 剤（水稻）を削除している。一方で、2015年以降、耐性菌検定は行っておらず、現在の耐性菌発生の有無は不明である。そこで、QoI 剤耐性イネいもち病菌の県内分布調査を実施する。

##### イ 方法

県内全域の水稻ほ場からいもち病罹病サンプルを採取し、1ほ場につき1～3菌株のいもち病菌を抗生物質添加PDA培地で分離した後に、100ppmのアゾキシトピロン添加培地で検定した。

##### ウ 結果の概要

県内36地点よりいもち病菌95菌株を分離した(図1)。各菌株を100ppmのアゾキシトピロン添加培地で培養したところ、菌の増殖は認めらず、全て感受性菌であった(図2)。2014年の耐性菌発生地域(大津市関津、甲賀市信楽町黄瀬、湖南市岩根、東近江市川合町、長浜市余呉町坂口)においても、耐性菌は検出されなかった。

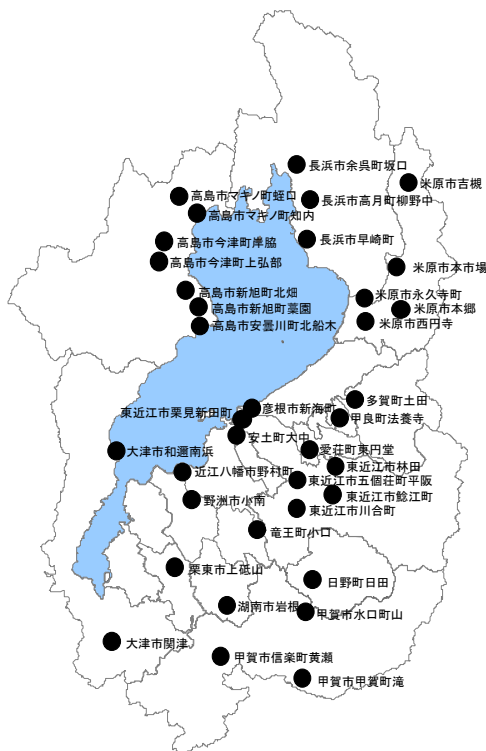


図1 いもち病菌サンプル採取地点(36地点)

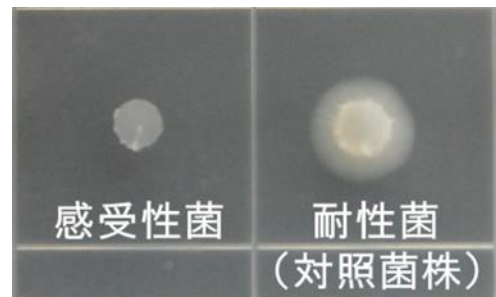


図2 100ppmアゾキシトピロン培地上での感受性検定  
採取したいもち病菌をPDA培地(100ppmアゾキシトピロン添加)で25℃、3日間培養した。  
感受性菌はQoI 剤(アゾキシトピロン)により生育が抑制されるが、耐性菌は抑制されず伸長する。  
対照菌株として、2014年センター保存耐性菌を使用した。

## 2) 紋枯病発生予察新規手法の検討

### ア 目的

イネ紋枯病菌 (*Thanatephorus cucumeris* (A. B. Frank) Donk) は越冬した菌核が翌年の第一次伝染源となる。春の入水後、田面水中に浮遊する紋枯病菌DNAを定量評価できれば、その後の発病程度を予測できる可能性がある。そこで、田面水中の紋枯病菌密度の定量結果とほ場における発病程度との相関関係を把握する。

### イ 方法

#### (ア) 採水ほ場・時期・方法

農業技術振興センター内ほ場 (品種: みずかがみ) 330 号田、140 号田、210 号田および 211 号田から下記に示す日程で田面水の採水を行った。各ほ場の四隅から田面水を 250 ml ずつ採水し、混合して計 1L をサンプルとして供試した。

ほ場	代かき日	移植日	採水日				
			1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
330	4月26日	4月27日	4月27日	6月4日	7月2日	7月22日	8月11日
140	5月14日	5月15日	5月15日	6月11日	7月2日	7月29日	8月19日
210	5月21日	5月22日	5月22日	6月11日	7月10日	7月29日	8月19日
211	5月21日	5月22日	5月22日	6月11日	7月10日	7月29日	8月19日

#### (イ) DNA 抽出

各サンプル 1L をガラス繊維濾紙フィルター (Whatman: 0.7 μm 孔径) で減圧濾過し、濾紙より DNeasy PowerWater Kit (QIAGEN) を用いて 100 μl の DNA 溶液を抽出した。

#### (ウ) qPCR による定量解析

抽出した DNA を鋳型に qPCR を実施し、紋枯病菌量を定量した。PCR 酵素は THUNDERBIRD Probe qPCR Mix (TOYOBO) を使用し、下記に示すプライマーおよびプローブを用いて qPCR を実施した。

	配列	増幅産物	qPCR反応条件
Primer F	GCCTTTTCTACCTTAATTTGGCAG	140bp	95℃ 10分
Primer R	GTGTGTAAATTAGTAGACAGCAAATG		95℃ 10秒
Probe	ACCCCTGTGCACTTGTGAGACAGC		60℃ 1分
			40cycles

#### (エ) 紋枯病の調査時期・方法

調査時期: 330; 8月19日、140; 8月21日、211; 8月26日、210; 8月31日

調査項目: 発病株率、病斑高率、被害度 (羽柴式被害度の調査法)

調査方法: 100 株×3 か所の調査を実施

### ウ 結果の概要

(ア) qPCR の結果、330 号田より採水した田面水から 7/2、7/22、8/11 にそれぞれ検出された (表 1、図 1)。成熟期前の 8/11 には 7/2 と比較して約 4 倍量の DNA が定量された。140 号田からは 7月29日に定量できたが、210、211 号田からは定量できなかった。

(イ) 各ほ場の成熟期の調査結果から、330 号田は発病株率が 54.7% であり、140、210、211 号田では 10% 程度であった (表 2)。また、330 号田における紋枯病の初発生確認日は 6月23日であった (データ省略)。

以上より、紋枯病の防除が必要な多発生ほ場では、菌密度と発病程度との関連が確認された。多発生ほ場では、紋枯病の本田防除適期に検出が可能であったため、防除要否の参考にできると考えられる。

表1 qPCR結果

ほ場	採水日	4月27日	6月4日	7月2日	7月22日	8月11日
	330	未検出	未検出	1	0.84	4.07
ほ場	採水日	5月15日	6月11日	7月2日	7月29日	8月19日
	140	未検出	未検出	未検出	0.99	未検出

※330号田の7月2日の定量結果を1として各定量結果を補正した。210、211号田ではいずれの採水日においても検出されなかった。

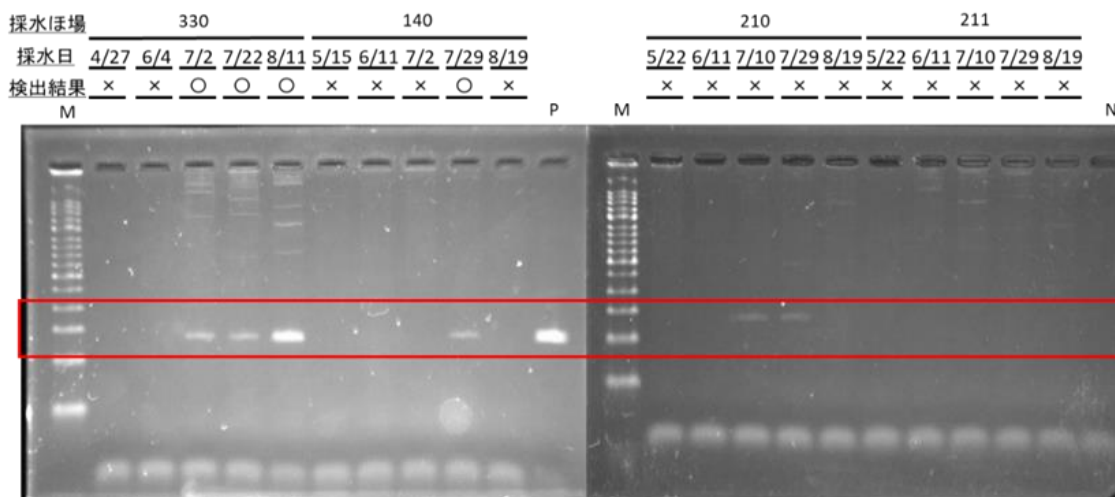


図1 qPCR産物の電気泳動結果

PCR産物5 μlを3%アガロースゲルで電気泳動し、Gel Redで染色後検出した。Mは分子量マーカー。Pは紋枯病菌より抽出したDNAを鋳型としたPCR産物。

表2 紋枯病発病度調査結果

試験ほ場	調査地点	調査株数	発病株率 (%)	病斑高率 (%)	発病株被害度	全体の被害度
330	I	100	48.0	46.0	42.1	20.2
	II	100	32.0	39.4	31.4	10.0
	III	100	84.0	50.4	49.3	41.4
	平均		54.7	45.3	40.9	23.9
140	I	100	17.0	37.6	28.5	4.9
	II	100	15.0	41.3	34.5	5.2
	III	100	6.0	29.0	14.6	0.9
	平均		12.7	36.0	25.9	3.6
210	I	100	20.0	41.5	34.9	7.0
	II	100	7.0	45.5	41.3	2.9
	III	100	5.0	41.7	35.2	1.8
	平均		10.7	42.9	37.1	3.9
211	I	100	19.0	38.0	29.2	5.5
	II	100	8.0	35.4	25.0	2.0
	III	100	6.0	45.5	41.3	2.5
	平均		11.0	39.6	31.8	3.3

### 3) ヒメトビウンカのイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率調査

#### ア 目的

県内でのイネ縞葉枯病の発生は、昭和 60 年代以降、ほとんど見られなかったが、平成 21 年の発生予察調査において、立毛中に本病の発生が確認され、平成 23 年には再び立毛中に一部地域で、刈株再生芽（ひこばえ）で県全域で本病が確認された。また、平成 28 年の刈株再生芽での発病調査において、本病の発病株率の急激な上昇を確認した。本病の発生は、RSV を保毒したヒメトビウンカに大きく影響されることから、ヒメトビウンカの RSV 保毒虫率を把握するため、平成 23 年以降、調査を継続実施している。

#### イ 方法

(ア) RSV 保毒虫検定に供試したヒメトビウンカ

##### ①越冬個体群（越冬世代）

4 月 6 日～7 日に、前年の刈株再生芽が残る水田ほ場および前年に耕起された水田ほ場において、すくい取りにより採集した。

(イ) 検定方法

判定にはマイクロプレートリーダー（バイオラッド・ラボラトリーズ(株)製）を用い、簡易 ELISA 法（柴ら，2013）により検定した。

#### ウ 結果の概要

(ア) 越冬個体群の採集個体数は、調査を実施した 36 地点のうち 14 地点で採集され、すくい取り虫数（供試虫数）は県全域で 36 頭と少なく、保毒虫も 2 頭のみ確認され、県全域での RSV 保毒虫率は 5.6%となった（表 1）。

表1 各地域におけるヒメトビウンカ越冬個体群のRSV保毒虫率の推移

地域	平成30年 (同:4/3~4)			平成31年 (同:4/2~4)			令和2年 (同:4/2~4)		
	供試虫数 (頭)	保毒虫数 (頭)	保毒虫率 (%)	供試虫数 (頭)	保毒虫数 (頭)	保毒虫率 (%)	供試虫数 (頭)	保毒虫数 (頭)	保毒虫率 (%)
大津・南部	10	0	0	20	0	0	5	0	0
甲賀	4	0	0	6	0	0	4	0	0
東近江	6	0	0	42	2	4.8	7	0	0
湖東	2	0	0	143	3	2.1	16	1	6.3
湖北	4	0	0	50	0	0	2	1	50.0
高島	1	0	0	4	0	0	2	0	0
県全域	27	0	0	265	5	1.9	36	2	5.6

## 4) スクミリンゴガイの総合防除体系の検討

### ア 目的

近年、暖冬等の異常気象の影響で、スクミリンゴガイの越冬量が増加し、移植後の被害増加や、これまで発生が見られなかった地域において被害が確認されるなど被害範囲の拡大が見られる（本県での発生推移は右表を参照）。本試験では、スクミリンゴガイによる被害が目立つ地域において、生産者等からの聞き取りを踏まえ、冬期耕うんなどを組み合わせた地域の実情に応じた総合防除体系を設計し、その防除効果を検証する。

(参考) 本県でのスクミリンゴガイの発生および被害面積\*

調査年度	発生面積(基)	発生面積(多)	発生面積(中)	発生面積(小)	発生面積	被害面積
H27	0	0	0	10	10	1
H28	0	0	0	10	10	1
H29	0	10	0	6	16	10
H30	0	0	1	14	15	1
R01	0	0	3	27	30	3
R02	0	10	10	15	35	20

\*植物防疫事業年報に基づき作成

### イ 方法

(ア) 地域の実情に応じたスクミリンゴガイ防除体系の設計

スクミリンゴガイによる大きな被害を受けている地域・ほ場で、生産者や生産者団体から防除対策の実施状況や地域が抱える課題等を聴取した。課題等の整理や被害発生要因の分析等により、地域の抱える課題に応じた防除対策を検討し、農薬や耕種的な手法等を用いた実行可能な総合防除体系を設計した。

(イ) 防除体系モデルの検証

表1に示した地域・圃場においてア)で設計した防除体系を実施し、本種に対する防除効果や被害抑制効果等を調査し、モデルの有効性・効率性を検証した。実証結果を踏まえ、地域の課題に応じた防除体系を検討した。

冬期の耕うんによる越冬貝の防除効果を検証するため、着色した死貝をほ場に埋設し、耕うん後の貝殻の破壊率を調査した。貝殻(殻高25mm程度)は、油性の塗料で白く着色し、深さ5cmに10個ずつ埋設した。耕うん速度を3処理に設定し(表2)、貝殻の破壊率を調査した。

表1 各調査地区での実証内容

地区	実証地域	ほ場数	面積	実証内容
野洲市①	安治	5筆	122.2a	R02年 冬季耕耘(耕うん速度の違いによる差(0.2km/hと0.6km/h))
				R03年 農薬散布(散布回数の違いによる差(1.2回))
野洲市②	入町	5筆	120.8a	R02年 冬季耕耘(耕うん速度の違いによる差(0.2km/hと0.6km/h))
				R03年 農薬散布(散布回数の違いによる差(1.2回))
野洲市③	須原	6筆	126.3a	R02年 冬季耕耘(耕うん速度の違いによる差(0.2km/hと0.6km/h))
				R03年 農薬散布(散布回数の違いによる差(1.2回)) 浅水管理(ほ場の均平化と自動給水栓の設置)
野洲市④	堤	4筆	115.0a	R02年 冬季耕耘(0.6km/h) R03年 農薬散布(1回)
野洲市⑤	野田	3筆	122.0a	R02年 冬季耕耘(0.6km/h) R03年 農薬散布(1回)

表2 冬期の耕うんによる防除の処理区

	耕うん速度	PTO回転**
慣行区	1.2km/h	1~2速
低速区	0.6km/h	1~2速
超低速区	0.2km/h	1~3速

\*\*PTO回転は、土壌の状況により、農家で適切な回転を判断した。なお、耕深は10cmを目安とした。

(ウ) 研修会等の開催

生産者等を対象とし、実証ほどで取り組む防除技術や、本種の生態に基づく効果的な防除法を周知するために、研修会等を開催した。

## ウ 結果の概要

(ア) 地域の実情に応じたスクミリンゴガイ防除体系の設計

調査地域では、秋期に耕うんを実施している農家がほとんどであった。耕うん開始時期は水稻収穫後の10月~11月頃で、耕うん機は速度は1.2~1.8 km/h程度で実施されていることが明らかとなった。農薬の散布状況について、多くの農家が本貝による水稻への被害が生じてから農薬を散布していることも明らかとなった。さらに、「魚のゆりかご水田」に取り組むほ場では、魚がほ場に遡上する春期には深水管理する必要があり、防除対策として有効な浅水管理を実施できな



いことも明らかとなった。上記の聞き取り結果に基づき、地域において実施可能な冬期耕うん、農薬散布および浅水管理を組み合わせた防除体系を設計した。

### (イ) 防除体系モデルの検証

今年度は冬期の耕うんによる貝の物理的な破壊効果について検証した。埋設された貝殻の破壊率は、慣行区では6.7%であったのに対し、低速区では71.7%、超低速区では91.2%となった(表3、写真)。なお、試験実施時の土壌水分率および土壌硬度は表3のとおりであった。

表3 耕うんの処理による貝殻の破壊効果

処理区	試験数	含水率 <sup>※1</sup> (%)	土壌硬度 <sup>※2</sup> (kg/cm)	貝殻の破壊率 <sup>※3</sup> (%)
慣行区	3	16.5 ( 12.2 ~ 22.7 )	1.13 ( 0.6 ~ 1.2 )	6.7 ( 0 ~ 10.0 )
低速区	6	16.7 ( 12.2 ~ 22.7 )	1.04 ( 0.4 ~ 1.9 )	71.7 ( 66.7 ~ 80.0 )
超低速区	5	17.4 ( 12.4 ~ 24.9 )	0.96 ( 0.6 ~ 1.6 )	91.2 ( 80.0 ~ 100 )

※1 土壌コア(100ml)を用いて採取し、105°Cで48時間乾燥した。水の重量/土と水の重量\*100で求めた。

※2 山中式土壌硬度計(株式会社 藤原製作所)を用いて、土壌表面の硬度を計測した。

※3 破壊された貝数/(供試貝数-紛失貝数)\*100で求めた。

なお、表中の( )内の数値は最大値、最小値を示す。

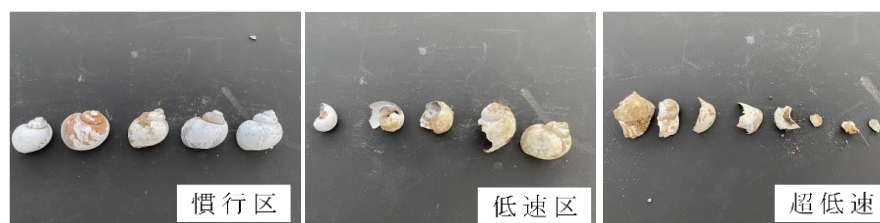


写真 耕うんの処理による貝殻の破壊状況

(耕うん機およびPTO回転は同一で、耕うん機の速度のみ変化させて破壊状況を比較)

### (ウ) 研修会等の開催

スクミリングガイ防除対策について説明会および研修会を2回実施した(表4)。説明会では、生産者から被害の状況を聞き取るとともに、今後の被害軽減に向けて、地域で効果的な防除技術について協議した。また、研修会では、近年の暖冬の影響で本種による水稻への被害が目立つことや、効果的な防除法について講演された。さらに、本貝の越冬する現地ほ場において、生産者の協力のもと効果的な冬期の耕うん法が実演され、耕うん速度の違いによって貝の破壊率が異なることも確認された。

表4 研修会の開催について

開催日	タイトル	場所	参加者	広報等
10月6日	スクミリングガイ 実証ほ場設置説明会	JAおうみ富士 中主営農センター	生産者、関係機関(県、市、 JA)	-
12月16日	令和2年度スクミリングガイ 防除対策研修会	・さざなみホール ・現地ほ場	生産者、大学等、関係機関 (県、市、JA、土地改良)など (60名程度)	・報道機関等3社からの取材 ・Facebookでの公表

## エ まとめ

農家への聞き取り調査の結果、現状では冬期の耕うん、適切な時期の農薬散布、浅水管理の実施などの防除対策が十分実施されておらず、今後は、防除体系モデルに基づき、防除を意識した適期に適切な対策が必要と考えられた。

貝殻の破壊効果の検証では、慣行と比較して、耕うん速度を遅くして走行するだけで、貝殻の破壊効果が高まった。今後、作業性等を考慮しながら、現場のニーズに沿って、地域で実施可能な耕うん法を組み合わせた総合的防除技術を検討する。

※ 本調査は、農林水産省の委託事業「令和2年度病害虫の効率的防除体制の再編委託事業」に基づき実施された。

## 5) ネギアザミウマに対する薬剤殺虫効果

### ア 目的

ネギアザミウマはネギやタマネギなどネギ属を始めとし、さまざまな野菜類を加害する重要害虫であり、近年、国内各地でネオニコチノイド系剤や有機リン系剤など多種の殺虫剤に対する感受性の低下が報告されている（武田, 2014）。そこで、県内のネギおよびタマネギから採集した個体群に対する主要薬剤の殺虫効果を調査した。

### イ 方法

2020年6月1日に、農業技術振興センター内で栽培したネギまたはタマネギから成虫を採集し、インゲン初生葉を検定植物とする葉片浸漬法（柴尾, 2013）で薬剤感受性検定を実施した。用いた殺虫剤はネギまたはタマネギに登録のある薬剤のうち、表1の4剤とした。採集した成虫を1つの容器に10~15頭投入し、各薬剤について3反復で処理後、検定容器を25°C16L8Dの人工気象器内に置いた。処理2日後に生死を判定し、死虫率を算出した。

表1. 薬剤感受性検定に用いた薬剤と供試個体数

成分系統	薬剤名	希釈倍率	供試個体数
有機リン系	プロチオホス乳剤	1000	36
スピノシン系	スピネトラム水和剤	2500	41
Qi阻害剤	フロメトキン水和剤	1000	40
イソオキサゾリン系	フルキサメタミド乳剤	2000	41
-	水(対照)	-	44

それぞれに展着剤（マイリノー、10000倍）を加用した。

### ウ 結果の概要

供試4剤を検定した結果、すべての試験区において死虫率は100%であり、高い殺虫効果を示した（表2）。京都府など近隣府県で感受性の低下が報告されている（武田, 2014）有機リン系薬剤について、本試験で用いた個体群では感受性の低下は認められなかった。

表2. 4種の薬剤に対するネギアザミウマの死虫率

成分系統	薬剤名	死虫率 (%)
有機リン系	プロチオホス乳剤	100
スピノシン系	スピネトラム水和剤	100
Qi阻害剤	フロメトキン水和剤	100
イソオキサゾリン系	フルキサメタミド乳剤	100

## 6) リビングマルチによる生物多様性への影響とキャベツ害虫抑制効果の検証

### ア 目的

2015年から消費・安全対策交付金事業（病虫害の防除の推進）において、IPMの環境保全効果の検証を行ってきた。生物多様性保全効果は、2012年に農林水産省より刊行された「農業に有用な生物多様性の指標生物調査・評価マニュアル（以下マニュアル）」に従い、指標生物の種・個体数を調査し、スコア化することで評価することができる。

今年度は、露地キャベツ栽培におけるIPM技術として有望なリビングマルチ（以下、LM）による生物多様性への影響を評価するとともに、害虫抑制効果を検証することを目的とした。

### イ 方法

#### ア) 試験区の構成

農業技術振興センター内の水田転換畑にキャベツを作付け、LMを定植時もしくは定植2週間後に播種した区および無播種区を設定した。LMについては、キャベツの草丈を超えた場合、適宜刈り込みを実施した。各試験区は、畝幅1.5m、長さ8mの12m<sup>2</sup>とし、キャベツは株間40cmの2条千鳥植えの各区40株として、それぞれ2反復設けた。耕種概要は表1に示した。

表1 試験に用いたキャベツの耕種概要

品種	初秋
播種	8月25日
定植	9月16日
リビングマルチ	オオムギ（品種：てまいらず）100g/区を両畝端に条播き

#### イ) 指標生物の調査方法

マニュアルに従い、指標生物3種類（表2）につき、ピットフォールトラップと見取り法で10月20日、10月28日、11月4日、11月11日の計4回調査を行った。ピットフォールトラップは10月13日に設置した。

表2 指標生物と調査方法

指標生物	調査時期	調査方法
ゴミムシ類	10月中旬～11月中旬	ピットフォールトラップ：4週間（7日×4回）の合計数/トラップ
キクヅキコモリグモ	10月中旬～11月中旬	ピットフォールトラップ：4週間（7日×4回）の合計数/トラップ
植物体上のクモ類	10月中旬～11月中旬	各区10株を見取り調査：1株あたりの個体数

※「農業に有用な生物多様性の指標生物調査・評価マニュアル」に基づく。

#### ウ) 害虫類の調査方法

チョウ目幼虫（モンシロチョウ、コナガ、ウワバ類、オオタバコガ）、卵（モンシロチョウ）、アブラムシ類について各区10株の生息数を指標生物と同時に見取り調査した。

#### エ) 球重調査

各区の30株について12月9日に球重を測定した。

## ウ 結果の概要

### ア) 指標生物の個体数に基づく生物多様性評価

各試験区における各指標生物の個体数を表3に示した。LM 無播種区と比較して、LM 定植時区およびLM 定植2週間後区では、ゴミムシ類とキクヅキコモリグモのスコアが高くなった。総合評価は、LM 定植時区とLM 定植2週間後区で「S」、LM 無播種区で「A」となった。

表3 指標生物の個体数および生物多様性の評価<sup>1)</sup>

区名		ゴミムシ類	キクヅキ コモリグモ	植物体上 のクモ類	総スコア	総合評価 <sup>2)</sup>
LM 定植時	個体数	6	3	0.2	5	S
	スコア	2	2	1		
LM 定植2週間後	個体数	2	5	0.2	5	S
	スコア	2	2	1		
LM 無播種	個体数	1	2	0.2	3	A
	スコア	1	1	1		

1) 「農業に有用な生物多様性の指標生物調査・評価マニュアル」に基づき、各生物ごとに定められた換算表により、個体数をスコア化した。

2) 総合評価については以下のとおり。( ) 内の数値は総スコアを示す。S(5~6)：生物多様性が高い。取り組みを継続するのが望ましい。A(3~4)：生物多様性が高い。取り組みを継続するのが望ましい。B(1~2)：生物多様性がやや低い。取り組みの改善が必要。C(0) 生物多様性が低い。取り組みの改善が必要。

### イ) 害虫類の調査結果

LMを播種した区では、モンシロチョウの幼虫と産卵数が低く推移した。また、チョウ目害虫全体の虫数およびアブラムシ類の虫数も調査期間を通して低く推移した。

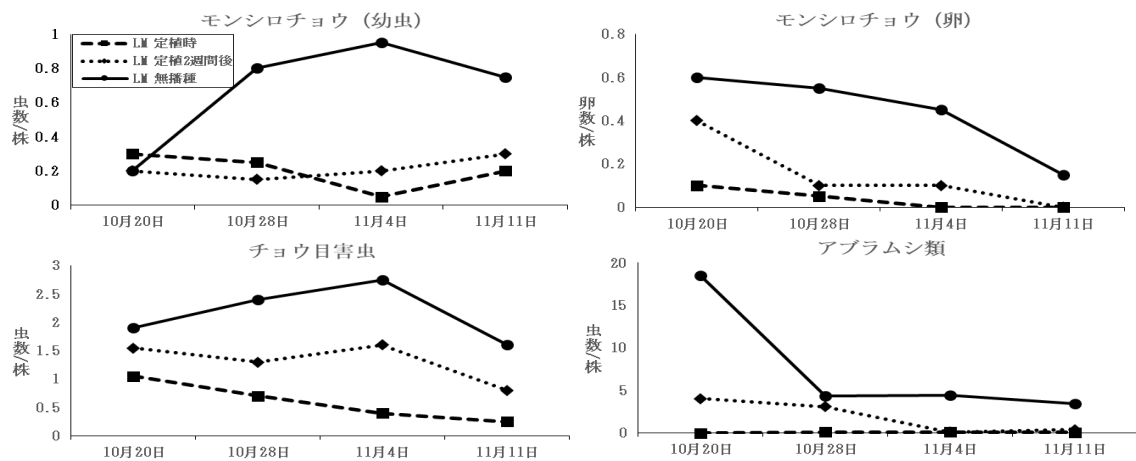


図1 キャベツ害虫数の推移

各区10株ずつ見取り調査を行い、株あたり虫数を算出した

### ウ) 球重調査の結果

LMを播種した区においては、LM 無播種区と比較して、球重が有意に低下した。これは、近接したLMによってキャベツの生育が抑制されたと考えられる。実用化のためには、通路部分に播種するなどの対応が必要と考えられる。

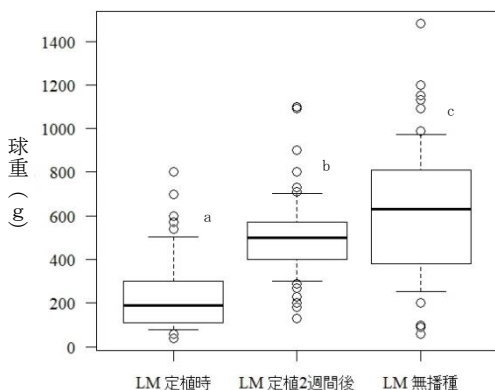


図2 収穫期のキャベツ球重の調査結果

各区30株の球重を測定した。異なるアルファベット間はTukey-KramerのHSD検定で有意差あり(P<0.05)。

令和2年度植物防疫事業年報  
発行 令和3年(2021年)3月  
滋賀県病害虫防除所

〒521-1301 近江八幡市安土町大中516  
TEL : 0748-46-4926、6160  
FAX : 0748-46-5559  
Email : gc70@pref.shiga.lg.jp  
<http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/>